

特 14  
19



明治壬申五月

イ、カ、ブ、ル、ン、を、リ、著  
從五位加藤弘之譯

# 國法汎論

文  
部  
省



國法汎論小引

# 國法汎論

國法汎論小引

## 國法汎論小引

一 維新以來、廟議專ヲ開化ノ進歩ヲ急務ト爲シ、制度文物ノ大ヨリ百工技藝ノ廣ニ至リ、一ニ歐風ニ即倣ス、實ニ盛世ノ洪舉ニシ、億兆ノ大幸ナリ。是ニ於テ洋書ノ繙譯梓ニ上ル者、陸續トシ間斷ナシ、上ハ廟謨ノ萬一ヲ裨補シ、下ハ斯民ノ新化ヲ作振ス、亦盛事ト謂ハサル可ンヤ。就中制度律令ノ事ニ係ル者、亦尠カラス、然ルニ其書タル多シハ、唯各國列邦ニ於テ、現ニ適用スル所ノ制度律令ヲ説ケル者ニシテ、汎シク文明世界ノ法典ヲ擧ケ、之ヲ通論スル者ニ非ス、而シテ能ク之ヲ通論スル者ハ、僅ニ泰西國法論一書(荷蘭人ヒッセルングノ著述ニシテ、中判事津田眞道ガ所譯ナリ)アルノミ是故ニ余通論ノ書ヲ譯セント欲スル久シ、然ルニ王事鞅掌、未タ業ヲ起スニ暇アラズ、客歲測ラズ、叨リニ歐洲ノ國法論ヲ進講スヘキ、寵命ヲ辱ウス、天恩隆澤、感竦、至リニ耐ヘス、宿志モ亦是ニ因テ果スヲ得ル、歡喜ノ窮リナキ、豈啻ナランヤ、是ニ從テ、瑞上人(スウェーデン人)ノ著述ニシテ、氏述ル所ノアルゲマイチス、スターツレト(國法汎論ノ義)ヲ取り、直ニ譯業ヲ起シ、欸譯成ル毎ニ、輒チ進テ之ヲ待講ス、抑汎論ノ書タル博採約說、詳細遺スナシ、故ニ意味文義ノ間、微分細剖、ヨリ其旨ヲ窮ルニ非レシ、其邊ニ造ル難シ、是ヲ以テ史志ニ深キ者ト雖モ、汎論ノ復シ、玩味スルニ非レハ、其意ノ通スル、恐ハ易事ニ非ス、讀者先ツ泰西國法論ニ就テ、國法ヲ大綱ヲ窺ヒ、更ニ此編ニ參シ、其要領ヲ審ニシ、而シテ後各國ノ法典ヲ涉獵セハ、規矩頼ル所アリ、取拾宜シ、得テ感ハサルコ庶幾ラン、凡ソ江湖讀書ノ徒、譯書ノ拙文ヲ尤ムル者少カラス、蓋シ譯業ノ難キヲ察セサルニ由ルナリ、夫レ殊方異域ノ言語文章、我ト其脈理ヲ同ウセサル、恐シハ漢梵ノ比ニアラサルヘシ、況ヤ其說ノ處、概略學科術藝ニ係ルヲ以テ、紀事史乘トハ、其難易亦自ラ異ルヲヤ、且ツ學科術藝ノ旨ナル、絶テ皇漢人ノ言ハサル所ニシテ、歐人獨リ發明論說スル者居多ナリ、故ニ縱令ニ能文ノ士、刻苦勉勵シテ之ヲ從事スト雖モ、自未タ曾テ見ス意未タ會テ思ハサル所チ、漢字ヲ以テ國文ニ屬ス、抑亦難ヒ哉、而シテ讀者大約小説野乘ト同日ノ看ヲ爲シ、唯其解シ易キヲ欲ス、故ニ一讀解シ得サルニ遇ヘハ、罪ヲ譯者ノ文章ニ歸シ、拙文讀ムニ堪ヘシト爲ス、思ハサルノ甚シキ者、蓋シ讀者從來ノ癖ナリ、今者天下



小引



方ニ文明ニ向ヒ、學文知識漢梵ノ陋習ヲ一洗スルノ際、學問思辨ノ功ヲ收ル、洋書ヲ讀ニ非レハ、譯書ヲ捨テ何レモカ求ム、今ヨリ以往世ノ摺書者、宜シク舊弊ヲ革メ、亦野史ノ看ヲ爲サ、ルヘシ、既ニ刊布スルノ譯書、文章議論、深且密ナル者乏シキニ非ラス、然リト雖モ此國法汎論ノ如キ、世未タ多ク其比ヲ見ス、此書ハ列邦現立ノ法典ヲ取テ講論スル者ニアラス、實ニ文明世界共遵スル所ノ通論公理ニ依テ、汎ク國法ヲ論述ス、故ニ文義最モ高雅、論說最モ深奧ナリ、讀者能ク意ヲ用ヒテ、反覆熟讀セサレハ、恐ラクハ其要領ヲ得ル難シ、唯恥ツラクハ余カ淺學努材殊ニ漢字ニ嫻ハス、故ニ以テ行文暗澁ナルノミナラス、著述者ノ隱微ヲ闡揚シ、苦心ヲ發露シテ、以テ讀者ニ告ル能ハス、尙且謬語モ亦勘カラサルヘシ、庶幾クハ大方君子讀テ解セス、思フテ得サル者アラハ、幸ニ忠告セヨ、余教示ヲ得テ、尋繹再思、訂正ヲ加フルハ、深ク諸君ニ望ム所ナリ、

一此書ノ著述者ハ、氏ヲブルンチユリ、名ヲヨハン、カスバルト云フ、文化五年(千八百零八年)瑞十國

ノチニリフ邦ニ生ル、夙ニ獨乙ノ諸學校ニ遊ヒ、法學ヲ研究シ、天保七年(千八百三十六年)チユリフ邦大學校ノ法學博士ニ擧ラレ、其十年(千八百三十九年)同邦ノレギールンクス、ラート(按)政府ノ高官)ニ任シ、尋テゴローセル、ラート(按)立法官ナリ)ノ統領ニ轉シ、以テ數年ノ間、嘗テ研究スル所ノ國家學ヲ實際ニ施セリ、弘化四年(千八百四十七年)此官ヲ去リ、ミンヘン(獨乙ハイエル)國ノ首府)ノ大學校博士ヲ拜セリ、而シテ未ダ其後ノ履歷ヲ詳ニセズ、著ハス所ノ書數部アリ、就中國法國政治沿革史(ゲシフテ、デス、アルゲマイチス、ヌターツレフト、ウンド、ボリチツク)獨乙私法論(ドイツェス、プリアートレフト)國家學約府(ヌターツ、エルテルブフ)及ヒ此書ノ如キ最モ著ル、今譯スル處ノ原書ハ其第三板ニシテ、即萬延元年(千八百六十三年)ノ刊行ニ係ル、凡ソ法學ハ太古希臘國ノ碩學亞立斯度德爾、普拉士及ヒ羅馬國ノ西塞羅等ニ淵源シ、中古新世ノ際、明君賢相及ヒ碩學輩、互ニ世ニ出テ、研究練磨シテ以テ、遂ニ今日ノ開明ヲ致セリ、然ルニ此學タル元形而上ニ屬スルヲ以テ、其進步モ亦物理學ノ如ク速ナラス、物理學ニ於テハ、今既ニ定論アリテ、學者中

互ニ大異アルヲ見ス、然ルニ法理ノ論ニ至リテハ、未ダ全ク一定ノ論アラズ、學者各其所見ヲ主張シ、專ラ天理ニ偏シテ論スル者アリ、又古今ノ事迹ニ泥テ說ク者アリ、或ハ舊ヲ墨守シ、又ハ新ヲ偏取シ、其當ヲ得ル者少ナシ、獨リブルンチユリ氏ハ此諸弊ヲ襲ハス、能ク天理事迹ト新舊トヲ酌量シ、折シテ其衷ヲ執ル、蓋シ方今歐洲碩學中、實ニ屈指ノ大家ナリ、  
一余 清明ノ今ニ仕官シ、此時ニ於テ此書ヲ譯シ、若シ開化ノ一端ニ補アラハ、幸甚ト云フヘシ、然ルニ卷帙浩澣ナルヲ以テ、譯業頓ニ畢ル能ハス、故ニ稿本冊ヲ成スニ隨テ、文部省ニ於テ上梓ス、全編ノ卒業ハ、夫レ二三年ノ後ニ在リ歟、

明治五年四月

從五位加藤弘之識



凡例

一書中太古ト記ス者ハ、開闢ヨリ紀元四百七十六年雄略天皇二十年ニ至ル世代ヲ云ヒ、中古ト記ス者ハ、四百七十六年ヨリ一千四百九十二年明應元年ニ至ルヲ云ヒ、新世ト記ス者ハ、一千四百九十二年ヨリ一千七百八十九年寛政元年ニ至ルヲ云ヒ、又最新世ト記ス者ハ、一千七百八十九年ヨリ今時ニ至ルヲ云フ、

一幾世期ト記ス者ハ、世代ヲ著ス稱ニシテ、凡一百年ヲ一世期ト稱ス、故ニ紀元初年ヨリ一百年ニ至ル世代ヲ第一世期ト云ヒ、二百年ヨリ二百年ニ至ル世代ヲ第二世期ト云フ、他ハ之ニ倣フ、

一原註ノ短文ナル者ハ、夾註トナシ、長文ハ(一)(二)等ノ符號ヲ用ヒ、毎條ノ末ニ附記ス、但シ讀者ノ解シ易カラサル註、及ヒ必要ナラサル者ハ、省畧ニ從フ、又譯者ノ註解ハ、必ス〔按〕字ヲ冠シ、原註ト區別ス、

一原語ノ旁側ニ單雙柱ヲ標シ、物名ヲ識別ス、  
單 右ニ在ル者ハ、名氏、左ニ在ル者ハ、物名、及ヒ一切ノ名稱ナリ、又  
雙 右ニ在ル者ハ、地名、左ニ在ル者ハ、官職爵位、及ヒ官司ノ名稱亦之ニ屬ス、  
 即チバシメント英ノ立コンヘント佛ノ議會ノ名、類是ナリ、

弘之又識



目録  
國法汎論首卷  
緒論目録

- 第一款 國法及國政
- 第二款 國法私法ノ所ニ以相殊
- 第三款 前款舉ル所ノ外仍ニ國法ノ關涉
- 第四款 國法汎論及國法各論
- 第五款 國法ノ淵源 甲 憲法
- 第六款 同上 乙 國約
- 第七款 同上 丙 慣用
- 第八款 同上 丁 論究
- 第九款 國法及國家假法
- 第十款 研究ノ方法

首ノ卷



古蹟ノ繪ハ本館館中特設ノ...



右畫之處ハ本書論說中引證スル有名ナル人物ノ繪像ナリ



國法汎論首卷

緒論

第一款 國法スターツ及ヒ國政ポリチキ

往古希臘國ニテハ政治上ニ關係スル諸學ハ總テ之ヲ國政學ポリチキト稱シタリシカ、近今ハ國法學スターツレフトト國政學トナシテ、各殊ノ學科トナス、

國法ト國政ハ、現ニ實際上ニ於テハ、混同シテ相離ル可カラサル者ナルヲ、唯學科上ニ於テノミ、之ヲ區分スルハ、甚タ異シム可キニ似タレド、此事已ムヲ得サルニ出ルモノニテ、其理趣ハ、下文ニ於テ明瞭ナリ、○國法國政ハ、素ト各殊ノ事ニシテ、其關涉スル所、亦相同シカラス、故ニ國家治平ヲ得ル所以ノ理ヲ精究センニハ、先ツ其學ヲ二科ニ分チ、一ハ國家存在ノ理ヲ論シ、一ハ其元氣活動ノ方ヲ論ス、

先ツ各科ニ就テ、其理ヲ精究セザレバ、全體ノ理、得テ精究ス可ラザレハ也、○學科上教ル所ノ方、法、其宜シキヲ得レバ、實際上施設ノ事、都テ其當ヲ得ルハ、論ヲ須ス、故ニ國法國政ヲ分チ、二科ノ學ト爲シ、以テ各個ニ講習スルニ至リシヨリ、國法ノ條規始テ明瞭ト也、且ツ其範圍ノ増進セシテ、昔日、數

倍シ、國政モ亦此混同ヲ免カレシヨリ、其範圍自ラ判然タルヲ得テ、進歩亦頗ル廓大ナルニ至リタリ、國法學ハ、單ニ今日國家ノ斯ク存在シ、且ツ規律ノ現存シテ、之ヲ保續スル所ノ景狀、及ヒ國家ノ

元氣、活動ヲ生スル所以ノ本源ヲ論スルモノニシテ、必竟其歸ヲ要スレバ、國家現ニ存在スル所ノ體勢ヲ講スル學ナリ、國政學ハ、特ニ國家ノ元氣旺盛シテ、活動スル所以ヲ論スル者ニシテ、今日政

ヲ施ス所以ノ目的、及ヒ此目的ヲ達シ得可キ措置方法、且ツ今日ノ景狀ニ隨テ、彼此憲法ノ當否利害

ニ、其憲法ノ弊害ヲ除去改正スルノ術ハ如何スヘキ等ヲ説ク、之ヲ要スルニ、國家ノ發運活動ス

首  
ル方ヲ講スル學ナリ、

瑞士

イ、カ、ブルンチヨリ 著  
加藤弘之 譯



昔是故ニ法ト政トハ、動靜行止ノ差違アリ、之ヲ生物ニ譬フレハ、法ハ猶體軀ノ靜止スルカコトク、政ハ猶精神ノ發動スルカコトシ、

國家ハ、道義ヲ具有スル一物ナリ、故ニ國法國政共ニ必ス道義ノ務アリ、去レモ法政ニ科、獨リ道義ノミチ以テ論ス可カラズ、亦徒ニ此ニ科ヲ以テ、道義學ノ一端ト爲ス可カラズ、此ニ科ノ資ル所恒ニ國家ニ在リ、其論スル處亦恒ニ國家ニ在リ、故ニ之ヲ國家學ト云ヘシ、  
法政ノ二科ヲ以テ、全ク關係セサルモノトシ、嚴ニ之ヲ區分スルハ、甚タ不可トス、國家ハ生活物ナリ、國家苟クモ生活セント欲セハ、其體軀タル法、精神タル政、兩ツナカラ能ク親和混同セヌハ有ル可ラサルコト固ヨリ論ヲ須タス、○其體タル法ト雖モ、終始靜止シテ、絶エテ變動ナキモノニアラス、又精神タル政モ終始變動シテ、絶エテ休止スルコト無キモノニアラス、既ニ古今憲法ノ沿革アリシハ、即チ法ニ變動アリシ證ナリ、又憲法ヲ制立スルハ政ナレモ、既ニ制立シテハ、此政全ク止マルハ、即チ政ニ休止アルノ證ナリ、○是故ニ法制共ニ或ハ靜止アリ、或ハ變動アリテ、其偏倚セサルコト、諸生活物ノ動靜ヲ兼備スルト、全ク相異ナラス、○以上論スル所ニ據レハ、絶エテ法制ノ別無キカ如クシト雖モ、之ヲ熟思スレハ、却テ其別ノ判然タルヲ覺フヘシ、且ツ先ツ國法沿革史ト、國制沿革史ト、相殊ナル所以ヲ視ルヘシ、國法沿革史トハ、何ソノ國家目今ノ存在ヲ得シ所以、且ツ現ニ行ル、制度憲法ノ由テ立チシ所以、及ヒ其變通改革アリシ跡等ニ限リテ、其他ニ論及セズ、又國政沿革史トハ、歷世人君宰輔ノ賢愚明暗、及ヒ施政ノ得失當否、或ハ其得失當否ノ爲メニ、臣民上一般ニ係ル所ノ禍福利害ノ轉變等、都テ國家古今ノ事蹟ニ就テ論說スルコト云フ、○國法ヲ整理シテ、之ヲ最モ確明ニナスモノハ、即チ憲法(ゲセツツ)(國憲(ヘルハッスング))ト云フヘシ、又國政ニ氣力ヲ與ヘテ之ヲ著明ニナスモノハ、國家實際ノ統御術(政令(レギーリシグ))ト云フヘシ、故ニ政ハ專ラ術ニ屬シテ、學ニ屬セズ、○法ハ政ノ基本ニシテ、政治活動ノ規律ヲ定ムルモノナリト雖モ、又孤立シテ國家ノ用ヲ濟スモノニ非ラサルヤ必セリ、<sup>シカニミナラズ</sup>加レ之時勢ノ變遷ニ從テ、法ニ弊害ノ生スルヲ預防シ、以テ其時勢ニ適應スル良法ヲ立ツルハ、政ノ力ニアラザレハ能ハズ、故ニ法ハ政ヨリ其呼吸ヲ資取スルモノト云フヘシ、政若シ此呼吸ヲ與

フルコ能ハサレハ、法ハ恰モ死體ニ殊ナラス、○政亦然リ、政ハ時勢ノ變遷ニ隨テ、其適宜ノ治ヲ爲スモノナリト雖モ、若シ法ノ以テ之カ限制ヲ爲スニ非レハ、其弊ヤ苛酷暴虐ニ陷テ、遂ニ國家ノ敗亡ヲ醸スル必然ナリ、

### 第二款 國法私法(アリハートレフト)ノ所以相殊

國法ハ、其根據ヲ國家ニ資ルモノニシテ、即チ公權ヲ定ムル規律ナリ、私法ハ、其基礎ヲ民人ニ藉ルモノニシ、民人ノ私權ヲ定ムル規律ナリ、○但シ又其素性ハ、國法ニ屬スヘキカ如クシテ、却テ私法ニ屬スルモノアリ、又私法ニ屬スヘキカ如クシテ、却テ國法ニ屬スルモノアリ、譬ヘハ國家所有物(ヒスグス)ノ法ノ如キ、元來國法ニ屬スヘキカ如クシテ、反テ私法ニ屬スルハ何ソヤ、縱令ヒ國家ト雖モ、土地物件等ヲ有スルノ理ニ於テハ、決シテ民人ノ土地物件ヲ有スルノ理ト殊ナラス、故ニ之ヲ國家ノ私有ト稱シテ、國家シ一ノ私人ト視做スナリ、又乞願ノ權利(ペチチオシス、レフト)按「民人政府ニ願フ可キコトアルモノハ、其事ヲ爲シ得ヘキ權利」刻書自由ノ權利(アレスフライハイト)按「政府ノ檢閲ヲ乞フコトナク、著書ヲ自由ニ出版シテ、世ニ公ク爲シ得ルノ權利」等ノ如キ、民人ノ公權ハ、素ト私法ニ屬ス可キカ如クシテ、却テ國法ニ屬スルハ何ソ、是等ノ權利ハ、元來民人ノ國家ニ對シテ行フ可キ權利ニシテ、專ラ國法ニ關スル者ナレハナリ、

是故ニ國法ハ、基礎ヲ國家ニ資リ、定立スル所ニシテ、素ト國家全體ノ爲メニ設ルモノナル故、民人決シテ毫モ恣マ、ニ取捨スル能ハサルモノナリ、○私法ハ、之ニ反シテ、其基礎ヲ民人ノ稟性情體、或ハ其意思ニ資リテ定立スル所ニシテ、素ト民人ノ爲メニ設ルモノナル故、民人相讓シテ、雙方一致スルキハ、其權利ヲ取捨變革スルコト得ヘシ、○去レモ私權中ニモ、其行廢國家ノ利害ニ關係アルモノ、如キコ至リテハ、民人又決シテ恣マ、ニ取捨變革スル能ハサルコト、固ヨリ論ヲ須タス、

### 三首

國法ニ於テ定ムル所ノ權利ハ、皆ニ公權利タルノミナラス、又兼テ公義務タリ、故ニ都テ其公權利ヲ有シテ、之ヲ行フノ權アル者ハ、亦必ス之ヲ行フノ公義務アリ、云フヘシ、譬ヘハ國君ハ、皆ニ其臣民ヲ統御スルノ權利アルノミナラス、亦共ニ之ヲ統御スルノ義務アリ、法官ハ、皆ニ獄訟ノ事ヲ掌ルノ



四 首 權利アルノミナラス、亦共ニ此事ヲ掌ルノ義務アルカ如ク、但シ私法ニ於テ定ムル所ノ權利ニ至テハ然ラス、此權利ヲ行フト、否トノ如キハ、之ヲ有スル者ノ意ニ任シテ行ナリ、本來此二權利ノ規律、此ノ如ク相異ナル所以ハ、殊ニ之ヲ定ムルノ意相反スルヲ以テナリ、私權利ハ、唯民人ノ爲ニ立ル所ニシテ、民人ニ屬シ、公權利ハ、國家全體ノ爲メニ立ル所ニシテ、專ラ國家全體ニ屬ス、是即相異ノ因テ生スル所以ナリ、○縱令ニ公權利ト雖モ、國家若シ之ヲ止ント欲セハ、能ク之ヲ廢棄スルノ權アリ、唯其各部局、(按)各院各局等)或ハ其職官等ノ權ヲ以テ、之ヲ廢棄セント欲スルモ、決シテ能ハサルナリ、以上説ク所ニ反シテ、常理ヲ以テ論ス可カラサル者、又許多アリ、今左ニ三例ヲ擧グ、

(第一)乞願ノ權利、或ハ公事ノ集會ニ加ハ、ル可キ權利等ハ、民人ノ公權利ナリト雖モ、之ヲ行フト否トニ至リテハ、其意ニ任セテ妨ケナシ、其故ハ、此公權利ヲ立ルノ本意、殊ニ民人ニ自由ヲ與フルカ爲メニ設ル者ニシテ、專ラ國家全體ノ公利ノ爲メニ、建ツルニ非サルヲ以テナリ、

(第二)代議士ヲ選擇スルノ公權利ハ、其選擇者タル者、故ナク恣マ、之ヲ廢棄スルヲ得サルコト、固ヨリ論無シ、去レモ其居民大概選擇ノ權利ヲ得ル所ノ國、或ハ之ニ選擇ノ權利ヲ與フルノ意、素ト專ラ國家ノ爲メニ已ムテ得サルニ出デスシテ、殊ニ人民利益ノ爲メニスル所ノ國々ニ於テハ、民人此權利ヲ行フト否トハ、其意ニ任セテ可ナリ、但シ然ラサルモ、通常強ヒテ此權利ヲ行ハシムルコト、當然ナリトス、

(第三)後見ノ權利ハ、私權ナレモ、素ト後見人ナリタルカ爲メニ與フル權利ニアラス、專ラ後見ヲ受ル者ノ爲ニ許ス權利ナル故、當ニ後見人ノ權利タルノミナラズ、亦兼テ其義務ト稱ス可キ者ニシテ、決シテ隨意ニ棄ルコト能ハサルナリ、(按)上ノ二例ハ、公權ト雖モ棄テ得ヘキノ例、下ノ一例ハ、私權ト雖モ棄ル能ハサルノ例ナリ、

以上論スルカ如ク、公權利ハ當ニ權利タルノミナラス、亦兼テ公義務タリ、故ニ公權利ヲ有スル者ハ、一人ニシテ必ス權利義務ノ二事ヲ兼スル者ナリ、去レモ此二事ヲ兼スルヲ以テ、決シテ公權利ヲ私權利ニ及ハサル者ト爲スヘカラス、是ニ因テ却テ公權利ノ私權利ニ優ル所ヲ知ルヘシ、何者公權利ノ

當ニ權利タルノミナラス、亦兼テ公義務タル所、自ラ其中ニ道義ノ存スルモノアリテ、私有權利ノ獨リ之ヲ有スル者ノ、利トナルカ如キニ非サレハナリ、○公權利ノ品階愈高ケレハ、之ヲ行フノ公義務亦愈之レト密合シテ、決シテ相離レズ、國君ノ權利ヲ以テ、其私有ナリトシテ、其行廢(國君ノ隨意ニアリト思フハ、大ニ國法ヲ汚辱スルモノト云フヘシ、國君ノ權利ハ、決シテ自己ノ權利ニアラス、國家ニ對シテ必然行フヘキ義務タルコト、苟モ忘ルヘカラス、

以上説ク所ヲ以テ、國法私法ノ別ヲ視ルヘシ、但シ又茲ニ一種此二法ノ中間ニ位スルカ如キモノアリ、例ヘハ、邑法及ヒ大會社法等ノ如シ、去レモ是等ノ法、實ニ此中間ニ位シテ、獨立スルモノニアラス、會社法ト總稱スル者ノ如キハ、或ハ私法ニ屬スルアリ、或ハ國法ニ屬スルアリ、又ハ此二法相混合スル者アリテ、一様ナラス、

### 第三款 前款擧ル所ノ外、仍ニ國法ノ關涉、

(第一)列國法(ヘルケルレフト、又萬國公法ト譯ス)ハ、列國相關係スル所ノ、規律ヲ定ムルモノニシ、其干涉スル所、僅ニ一國ニ止マラス、○列國ノ相關係スルハ、猶國內各民ノ相關係スルト、其理同一ナルカ如シ、去レモ其際ニ行ハル、所ノ法ハ、決シテ國內ノ私法ヲ推廣シテ、直チニ列國ノ際ニ及ホシタル者ニハアラス、抑此法タルヤ、宇内ノ人類ヲ一體ト視做シテ、萬國ノ全體ニ及ホス可キモノナルカ故ニ、其理ニ至テハ、當ニ國法ノ國家全體ニ關涉スルカ如キノミナラス、更ニ大ナル公權ヲ定ムルモノト謂フヘシ、○設令宇内萬國ヲ統一スル所ノ大政府アリテ、萬國ニ於テ普ク遵奉スヘキ憲法律令ヲ制定セハ、列國法ナル者ハ、乃チ變シテ宇内國法(エルトスターツレフト)ト爲ルヘシ、去レモ未嘗テ此ノ如キ大政府大憲法アラス、故ニ列國法未ダ實ニ十全完備ノ地位ニ至ラサルナリ、是故ニ今世ニ在リテハ、國法ハ、既ニ十全完備ノモノト稱ス可ク、列國法ハ、未ダ十全完備セサルモノトシテ、其別ヲ立テ、以テ國法學ニ於テハ、國家ヲ一個ノ公體ト視做シテ、其法ヲ論シ、而テ列國相關係スル所ノ法ノ如キハ、姑ク之ヲ列國法ノ學ニ讓ラサルヲ得ス、

### 五 首 係スル所ノ法ノ如キハ、姑ク之ヲ列國法ノ學ニ讓ラサルヲ得ス、



六首 第二之ニ次テ、國法ト相分カル者ハ、神法(キルヘンレフト)〔按〕神教宗徒ノ憲法ナリ、ナリ國事ト神事ノ相分ル、其端ハ、既ニ往古ニ胚胎セシト雖也、實ニ全ク相分レシハ、甚タ晩シ、昔者羅馬國ニ

テモ仍カ神法(ユス、サクルム)ヲ以テ國法(ユス、プブリクム)ノ一部分ト爲シタリ、  
基督敎世ニ行ハル、ニ及ヒ、國事ト神事ト始テ相分レテ、各個ノ者ト成ルニ至レリ、抑基督ノ神敎タルヤ、其基ヒテ國家ニ資ラス、自ラ相離レテ存在スルモノナルカ故ニ、其法モ亦近今、國法ト全ク相分別ス、○去レテ神事ノ法、全ク國家ニ關係セサルヲ能ハス、且ツ神事國事相關涉スル所ノ規律ハ、素ト其基ヒテ國家ニ資リテ定ムルカ故ニ、神法亦必ス國法ノ部屬クテサルヲ得ス、

(第三)治罪法(ストラフプロヴェス)及ヒ刑法(ストラフレフト)ハ、實ニ全ク國法ニ屬シ、訴訟法(シヒールプロヴェス)モ亦大概之ニ屬ス、○治罪訴訟ノ二法ハ、國家其臣民ヲ保護シテ、之レカ爲メニ其權利ノ侵害セラル、ヲ防クニ在リ、又刑法ニ至テハ、其刑ヲ施スノ本旨タルヤ、獨リ權利ノ侵害ヲ受ケタル民人ヲ保護シテ、之ヲ防ク爲メノミナラス、素ト其罪科ヲ以テ、國家全體ノ安寧ヲ害シ、秩序ヲ紊ルカ故ニ、全ク之ヲ防クニ在リ、是レ蓋シ近世刑法ノ大ニ開明進歩シタル所以ナリ、

去レテ訴訟法及ヒ刑法ハ、國法中ヨリ分派シテ、之ヲ別種獨立ノモノト爲サ、ルヲ得ス、蓋シ然ラサルヲ得サル所以ニ理アリ、其一ハ、此二法素ト私法ト關係密合スルモノニシテ、殊ニ訴訟法ハ、實ニ唯私法ヲ保護シテ、私權利ノ侵害ヲ防遮スル所以ノモノ、且ツ刑法モ亦大概然ル所以ノ者ナルニ由リ、又其一ハ、此二法關涉スル所ノ範圍、頗ル廣大ナルノミナラス、其主掌スル所ノ事理、亦切要ニシテ、偏ニ特立尊殊ヲ要スレハナリ、

第四款 國法汎論(アルゲマイチス、スターツレフト)及ヒ國法各論、(ベソソデレス、スターツレフト)

各殊ノ國ニ就テ、其國法ヲ論スルモノヲ、國法各論ト云フ、例ヘハ羅馬民主國ノ國法論、英國ノ國法論、

七首 或ハ獨乙列國ノ國法論ト云フカ如シ、又各殊ノ國法ニ考意セズ、唯汎ク國家タルヘキ者ノ法ヲ論ス

ルヲ國法汎論ト云フ、是故ニ國法各論ハ、單ニ其國ノ制度風俗ニ基キ、國法汎論ハ、專ラ一般ノ人性及ヒ世界ノ公理ニ基イテ論スルモノナリ、  
嘗テ國法ヲ汎論スル所ノ學士ヲ視ルニ、動モスレハ、單ニ性理ヲ以テ國法ヲ説ク、蓋シ其意謂ヘラク、唯理是レ窮ムレハ、國法ノ學茲ニ成ルヘシト、是ニ於テ所謂探理國法論、(ヒロソヒセス、スターツレフト)即チ天理國法論(ナチューレールヘス、スターツレフト)等ヲ、學派起レリ、而シテ此學派現立國法論(ハボシチーヘス、スターツレフト)〔按〕各國現ニ定立セル國法ヲ講スル派)及ヒ探理國法論(ヒストリセス、スターツレフト)〔按〕專ラ古今沿革ノ蹟ヲ探討シテ、講スル派)ト相表裏ス、  
余ヲ以テ之ヲ觀レバ、是等諸派ノ所見ハ、皆共ニ偏倚シテ、其當ヲ得ス、凡ソ國家ノ事ハ、單ニ性理ヲ以テ論スヘカラス、又單ニ古今ノ沿革事蹟ヲ以テ論スヘカラス、常ニ性理ト沿革事蹟トノ二事上ニ注目著意シ、之ニ基イテ論述スレバ、甚タ可ナリ、故ニ汎論各論共ニ、決シテ此二事ノ一ヲ缺クヘカラス、  
宇内一般ノ民衆通俗ハ、必ス各國各種ノ民性風俗ニ先スルヲ、理ノ當然ナルカ如ク、國法汎論ハ、必ス國法各論ニ先スルヲ、亦理ノ當然タリ、○國法汎論ノ本旨トスル所ハ、專ラ各國ニテ撰定スヘキ、國法ノ根據トナルヘキ、本理ヲ查定スルニ在リ、此本理既ニ明カナレバ、時處ノ宜シキニ應ジテ、千狀萬態、皆其用ヲ爲スヘシ、○汎論ニ於テ著眼スヘキ、古今ノ沿革事蹟ハ、歴々數國ノ沿革事蹟ニ止マラス、  
宇内萬國古今大沿革ノ事蹟ナレバ、學者タル者能ク之ニ注意スルハ、理ノ宜シク取用スヘキモノト、宜シク取用スヘカラル者トヲ辨識シ、且ツ現ニ實際ニ用フヘキ器材ノ、自ラ此事蹟中ニ充滿スルヲ領解シ得可シ、然レニ單ニ性理ヲ論スルノ徒ハ、決シテ之レヲ領解スルヲ能ハス、○古今萬國ノ事蹟ニ著眼注意シテ、之ヲ探討スルハ、凡ソ開闢源流ノ大古ヨリ、漸ク變遷沿革シテ、以テ今日ノ文明開化ヲ致セシ所以、及ヒ其際ニ當リ、時論屢變化シ、國體制度亦屢變革セシ所以ヲ通知シ、且ツ各國列邦今日ノ開明ヲ裨補セシト、否トチ知ルコト、甚タ難キコアラズ、  
去レテ吾輩國家學ヲ論究スルノ本旨タルヤ、專ラ古今萬國ノ變遷沿革ヲ示サントニハアラス、唯汎



六 昔々今時ニ適應スル所ノ國法ヲ論究スルニ在リ、故ニ古今歷世ノ國體法制ヲ論究スルハ、唯專ラ今日ノ參考ニ備ヘ、以テ古今ノ沿革ヲ視テ、目今ノ進歩ヲ示サンコトヲ欲スルニ在ルノミ、○古時隆盛ノ諸大國大ニ今日ノ開化文明ヲ促シ、以テ國法ノ沿革進歩ヲ裨ケシモノ少カラス、且ツ其中ニ就テ、自ラ淺深ノ差等アリ、例ヘハ往古アリヤ人種(又インド、セルマーチント稱ス、按高加索人種ノ一ニシテ、今ノ亞細亞土耳其、或ハ亞刺比亞邊ニ住セシ者ナリ、)ノ古今變遷沿革、專ラ神教進歩ノ裨益トナリシカコトニ、サレバアリヤ人種ノ實ニ太古ノ野鄙陋劣ナル國體ヲ一洗シ、漸ク文明優隆ノ國體ト爲セシハ、此人種始テ歐羅巴ニ蔓延セシ、以後ノコナリ、○此人種中ニ就テ、太古ニ在テハ希臘羅馬ノ二國、中古(按紀元四百七十六年ヨリ、千四百九十二年ニ至ルヲ云、即我雄略天皇二十年ヨリ明應元年ニ至ル、其間千零十六年、)ニ在テハ日耳曼國(獨乙國ノ舊名、但シ英語ニテハ今仍獨乙國ヲ日耳曼ト云、)ノ文明彬々タル、殊ニ他邦ニ卓絶シタリ、故ニ今時歐洲各國文明優隆ノ國體ヲ備ヘシハ、全ク此三國ノ開明ヲ集成セシモノト云フヘシ、就中英國ノ如キハ、庶民ニ至ル迄、此三國ノ開明ヲ得テ、知識益ノ闢ケ、大ニ國事ノ進歩ヲ裨補シ、之ニ次テ佛國亦頗ル文明ヲ極メテ、國事ノ進歩ヲ増セシ、甚少カラス、○亞米利加洲國事ノ開明ハ、基テ歐洲ニ資ルト雖モ、殊ニ北亞米利加ノ如キハ、亦能ク自ラ進歩セシ者ト云フヘシ、

是故ニ吾輩論究スル所ノ國法汎論ノ學ハ、元來今時文明世界ノ通論公理ヲ示シ、以テ時處ノ宜キニ隨テ、千狀萬態、能ク其用ヲ爲スヘキ基本ヲ開ク者ナレハ、徒ニ紙上ノ空談ト視做スヘカラス、現ニ今日ノ實際上ニ施シテ、其効ヲ奏スルコト、頗ル少シトセズ、唯各國民性習俗ノ各異ナルカ爲メニ、其奏効ノ形狀、亦自ラ差異アルノミ、

〔附論〕亞立斯度德爾(按希臘ノ碩學、紀元前三百八十四年ニ生レ、三百廿二年ニ死ス)カ其著書中ニ、通法各法ノ別ヲ立テテ、雖吾輩論スル所ノ國法汎論國法各論トハ、全ク其歸ヲ異ニセリ、其通法ト稱スル者ハ、絶エテ國家ニ著意セズ、唯天理自然ニ生スル所ノ公法ヲ云ヒ、又各法ト稱スルモノハ、法書ニ記錄スルト、セサルトニ論ナク、各國其宜キニ隨テ、制立スル所ノ國法ヲ云フ、

第五款 國法ノ淵源(クエルレン、デス、スターツレラツ)、

甲 憲法(ダス、ゲセツ)、

國法ヲ認知シ易カラシメンカ爲メニ、詳明ニ記載シテ、之ニ至壯至大ノ形狀ヲ與ヘシ者ヲ稱シテ、憲法ト云フ、是故ニ國法ニシテ、其形狀ヲ得テ、憲法トナルニ及ヒ、始テ確平著明ナルヲ得ルナリ、○國家ハ憲法アリテ、始メテ其全體ノ規制定ルヲ得、以テ能ク其權利ヲ保存スルヲ得ルナリ、故ニ能ク其權利ヲ確明ニスルモノハ、獨リ憲法ノミ、

是故ニ眞ノ憲法タル者ハ、必ス國家ノ外、能ク之ヲ示令スル者アルナシ、但シ又其部局等各、自局ノ爲メニ制立シ、自己ノ權ヲ以テ、示令スル規律ノ如キモ、亦同シク憲法ト稱スルヲ得可シ、例ヘハ、王室ノ戚族憲法(ハミリーングセツツ、デル、ザナスチー)或ハ一家憲法(ハウスケセツツ、デル、ザナスチー)及ヒ各府各邑ノ法度(スタット)規則(オルドマング)等ノ如シ、○又國家ヨリ示ス所ノ布令(ヘルオルトマング)ノ如キモ、是等諸法ト、其等位ヲ異ニセズ、○

九 首 國家其國法ヲ制定スルノ權ヲ以テ、私法ヲ制定スルノ權ト、全ク同視スヘカラス、國家其國法ヲ制定スルハ、即チ自己ノ事ナシ、事ヲナスモノニシ、其處分ノ自在ナル、私法ヲ制定スルト自ラ異ナリ、蓋シ國家ノ私法ヲ制定スルハ、自己ノ事ヲナスコト非ス、私人ノ爲メニ施設スル者也、私人ノ交際ニ至リテハ、事端濫際ナシ、而ノ每事必スシモ國家ノ管スル所ニアラス、是故ニ其規律ヲ定ムルモ、亦全ク自



在ナルヲ得サル也。○私人ハ元來國家ノ力ヲ借リテ始メテ私人トナルニ非ズ、私人ハ素ヨリ私人ナリ故ニ其權利ニ至テモ亦國家ノ力ヲ借リテ始メテ立ツコト非ラス、本來固有スル所ノ權利ナリ、唯此固有スル所ノ權利、國家ノ力ヲ借リテ始メテ立ツコト非ラス、本來固有スル所ノ權利ナリ、唯此故ニ私法上、國家ノ殊ニ務ムヘキハ、民人天然有スル所ノ權利、及ヒ時世ノ沿革ヨリテ得シ所ノ權利ヲ辨識シテ、之ヲ調理スルコトアリテ、決シテ恣ニ之ヲ制定スルニ在ラス、○此理ニ戻ルカ爲メ、生スル所ノ利害ハ、末篇ニ於テ詳論スヘシ、

第六款 同上

乙 國約(ノスタットリヘル、ヘルダラグ)

現ニ行ハル、所ノ國法ヲ、互相約束ヲ以テ認識シ、或ハ編成シ、又ハ改革スル等ノ事、屢之アリ、之ヲ稱ノ國約ト云フ、○列國、此約束ヲ履行スレハ、眞ノ國約ト稱スヘクシテ、即列國法ノ一種ヲ生ス、又一國內ニ於テモ、國事ニ預ルヘキ權利ヲ有スル所ノ各黨、互ヒニ此ノ如キ約束ヲ爲スコトアリ、例ヘハ羅馬ノパトリシール(按)古時羅馬ノ貴族ト、プロベス(按)同上ノ平民ト、相結ヒシ約束、或ハ又中古ニ在リテハ、國君其下諸等ノ臣民ト、互ニ爲セシ約束ノ如シ、國約ノ憲法ト相類似スル所以ハ、其條規ノ制ニ至テモ、亦憲法條規ノ如ク、之ヲ明記シ、且、必ス各權者アリテ、之ヲ示令スルニ在リ、但シ又憲法ト大ニ相異ナル所アリ、元來憲法ヲ制定スレハ、國家ノ各部局、眞ニ同心一體トナリテ、之ヲ爲スト、雖モ、國約ニ至リテハ、然ラス、凡ソ國事ニ預ル所ノ各部局、皆均シク獨立ノ全權アリテ、各其言ハント欲スル所ヲ闡述シ、然後ニ其論ヲ合シテ之ヲ一決ス、○是故ニ憲法ノ體裁ト、國約ノ體裁ヲ比較シテ、國家ノ爲メニ其可否ヲ考ルルハ、憲法體裁ノ大ニ、國家ニ益アルコト明カナリ、何者、既ニ論スルカ如ク、憲法ノ體裁タル、必ス國家全ク一體トナリテ、其欲スル所ヲ述ルモノニシテ、各部局相際離スル所ナク、レハナリ、○唯列國相約シテ立ツル所ノ規律ニ至リテハ、素共ニ合立スル所ノ立法院ナキヲ以テ、必ス國約ノ體裁ヲ用ヒサルヲ得サルナリ、

英國ニ於テ、國王ト、上院下院相共ニ協力同心シテ、憲法ヲ制定スルカ如ク、眞ニ公正ノ國憲アリテ、憲法制定ノコト、決シテ一君或ハ一議局等ノ意ニ出テス、必ス立法諸部局ノ協力同心ニ由ル所ノ各國ニ於テハ、絶テ國約ノ意アルコトナシ、然ルニ動モスレハ、協力同心ヲ誤認シテ、合論一決ト混スル者アリ、別チ知ラスト云フヘシ、○巴力門(按)一ニ立法院、或ハ議事院ト云フ、定制スル所ノ憲法ノ如キハ、國事ニ預ルヘキ、獨立全權ノ諸黨、互ニ其欲スル所ヲ述ヘテ、之ヲ決定スル所ノ國約ト、相距ル霄壤ナリ、抑、巴力門ノ各部ハ、決シテ獨立シテ制法ノ權ヲ有スル者ニアラス、君主兩院相合シ、協力同心共ニ一體トナリテ、始メテ此權ヲ得ル者ナリ、故ニ憲法ナル者ハ、絶、テ一體ノ意ヲ離ル、コトナシ、○是故ニ國內ニ於テ、國法ヲ立ルニ就テ、國約ノ體裁ヲ用フ可ラサル所以ハ、殊ニ此體裁、國家ノ勢力ヲ分離シテ、其一體タルヲ損シ、國家全體ノ法ヲ學テ、其各部ノ欲スル所ニ任スニ在リ、之ヲ要スルニ、各部ヲ先キニシ、全體ヲ後ニシテ、大ニ前後輕重ノ權ヲ誤ルニ在リ、○古時日耳曼各國ノ國法タル、大

約國約ノ體裁ヲ用ヒテ、國家ノ一體タル所以ニ失ヒ、是ニ由テ大ニ國家ノ活動力ヲ減損シ、且ツ國家全體ノ公利公安ヲ害セシコト、亦少カラザリシカ、國家ノ開明漸ク増進スルニ隨テ、次第ニ國約ノ體裁ヲ廢シテ、憲法ノ體裁ヲ用ヒ、或ハ全ク廢棄スル能ハサルモ、大ニ之ヲ變革シテ、殆ン、憲法ノ體裁ニ類似スル者トナセシ事ハ、其史ニ載テ瞭然タリ、

○(按)此條ノ意解シ難キニ似タリト雖モ、先ツ國約ヲ立ルノ專志ト、憲法ヲ立ルノ專志ト、其異ナル所以ヲ知レハ、隨テ憲法國約ノ異ナル所以モ亦自ラ明亮ナリ、蓋シ國約ヲ立ルニ於テハ、各部局必ス先ツ自局ノ利害ヲ謀リテ、而後ニ全局ノ利害ニ及ホスト雖モ、憲法ヲ立ルニ至リテハ、論謀常ニ全局ノ利害ヲ主トシテ、敢テ專ラ各部局ノ利害ヲ顧ルコトナシ、是レ即チ合論一決ト、協力同心ノ別アル所以ナリ、

(附論)國約ハ、永世不變ノ者ナリト論スル者アリ、甚ダ誤ルト謂フヘシ、凡ソ人世ノ事、古今時代ノ轉變アルハ、論ヲ俟タズシテ、人ノ能ク知ル所ナリ、國家ノ事ト雖モ、亦決シテ此理ヲ免ル、コト能



ハス、古來未ダ嘗テ不變不壞ノ國約アラサリシコ、猶不變不壞ノ憲法アラサリシカ如シ、法律若シ  
眞ニ天理ノ當然ノミニ出レハ、全ク不變不壞ノ者タルヘケレハ、素ト古今萬國、轉遷變化スル所ノ  
人事ヲ定斷スル規律ナレハ、亦宜シク時ニ隨テ、轉遷變化スヘキコ、固ヨリ論ナクシテ、即是レ天理  
ノ當然ナリ、唯憲法ノ體裁ヲ用フルト、國約ノ體裁ヲ用フルトノ差ヒニ由テ、此理ノ異ナルコ、絶ヘ  
テアラサルナリ、

第七款 同上

丙 慣用(ヘルコムメン、又ゲチーンノハイト)  
正シク憲法ニ明記スル者ノ外、尙官民共ニ、諸公事ニ於テ、其心中、事理當然トシテ、現ニ安シ行フ所  
ノ法少カラス、此法タルヤ、元來民心ノ默許ヲ經ル既ニ久シク、遂ニ慣用ノ法トナリテ、公然之ヲ行フ  
ニ至リシヨリ、全ク當然ノ法タルヲ得テ、乃チナチオナーレス、レフト(按)第二卷第三款ニ此法トナ  
リシ者はナリ、

羅馬ノ國法中、殊ニ緊要トスヘキ條規ハ、大概憲法、或ハ國約ヲ以テ、確定明記セシ者ニアラス、從來  
其國民ノ間、理ノ當然ナル所ニ適應スル良好ノ習慣ヨリ出テ、自ラ法トナリタルモノ多シ、且ツ中  
古各國ノ國法ニ至リテモ、又大抵慣用ニ出ルモノ多ク、現今英國ノ國法モ、亦憲法上ニ確定明記セス  
シテ、唯慣用ヨリ自ラ法トナリシモノ居多ナリ、其他各國共ニ、多少ノ慣用法アラサルハナシ、  
故ニ慣用法ハ、眞ニ國法ノ一淵源ニシテ、決シテ輕忽ニ考フヘカラサルハ、固ヨリ論ナシ、但シ此法ヲ  
以テ、憲法ニ比較シテ、其得失如何ヲ考フルキハ、憲法ノ確實明亮ナルニハ如カス、蓋シ慣用法ハ、預  
メ理非得失ヲ論シテ、定メタル者ニアラスシテ、唯自然ニ出ル者多シト雖モ、憲法ハ然ラス、必ス理ノ  
當然ニ由テ、論定セシ者ナレハナリ、去レモ又慣用法ノ憲法ニ優ル所ナキニアラス、慣用法ハ、素、勢  
ノ自然ニ出ルカ故ニ、勢轉變スレハ、法モ亦隨テ轉變シテ、自ラ時ノ宜シキニ適應スルコ、憲法ヲ改革  
シテ、時宜ニ適セシムルノ、難キカ如クナラス、

所謂勢ナルモノハ、自然實際上ニ生スルモノニシテ、且ツ人性賦稟スル所秉彜ノ心、亦隨テ之ヲ認許  
スル者ナリ、故ニ民心ニ於テモ、遂ニ默許シテ、之ヲ法トスルナリ、  
法ナル者ハ、元來他方ヨリ來ル者ニアラス、又他方ニ移スヘキ者ニモアラス、唯現存スル所ノ景況、及  
ヒ方向、即チ是ナリ、故ニ國家現存ノ景況、及ヒ方向、即チ是レ國法ナリ、

第八款 同上

丁 論究(ヂー、キッセンシヤフト)

國法論究ノ本旨タルヤ、專ラ新法ヲ生殖スルニ在ラス、唯專ラ現存ノ法ヲ辨知スルニ在リ、是故ニ、論  
究ハ實ニ法ノ淵源ト稱スルニ足ラス、通常唯法ノ淵源ヲ探討スルノミ、  
去レモ論究ナル者、唯法ノ淵源ヲ探討スルノミニ止マラス、時アリテ亦之ヲ產殖スルコアリ、故ニ亦  
法ノ淵源トナルコアリ、而シテ其淵源タルニ二様アリ、

〔其一〕論究ハ、以上三淵源(按)憲法、國約、及ヒ慣用法ノ三ツヲ云、ノ如ク、唯法トナルヘキ器材ヲ、  
湊合スルノミニアラス、亦此器材ヲ精鍊シテ、之ニ其善美ヲ與ヘ、以テ大ニ現存ノ法ヲ増大スルコ、儘  
コレアリ、譬ヘハ、立法者、法ヲ制立スル始、ニ方リ、或ハ之ヨリ他日將サニ全法上ニ關係スル、利害得  
失ノ生セントスルヲ、窮盡スル能ハサルコアリ、却テ論究者ハ、其論究ニ由テ之ヲ探求スルコ、多次  
之アルカ如シ、其他又慣用法ヲ論究シテ、其理ヲ明亮ニナシ、且ツ之ニ由テ、遂ニ慣用法ヲ確定明記  
シテ、憲法トナスノ基、ヲ開クコアリ、是レ皆論究ノ功ナリ、

〔其二〕第二、更ニ緊要ナル者ニシテ、即チ法理ノ論究ナリ、法理ノ論究ナル者ハ、敢テ現存ノ法ヲ講ス  
ルニアラス、故ニ直ニ現存ノ法ニ關係スルコナク、專ラ理ノ當サニ然ルヘキト、否トニ就テ、講論研究  
スルヲ云フ、○此ノ如キ法理、次第ニ民心ニ浸漸シ、自ラ其認許ヲ得、遂ニ國家ノ採用ヲ以テ、其保護  
ヲ受ルニ至ラサレハ、未ダ嘗テ眞法トナルコ能ハス、○憲法ノ制立ニヨラス、唯此ノ如キ法理ノ論究  
ニヨリテ、現存ノ國法ヲ増大セシコ、多次コレアリキ、是レ即チ論究ナル者、國法ノ一淵源トナリテ、他



三淵源ト並列スルヲ得ル所以ナリ、  
 讀者、論究ノ字ヲ誤解シテ、單ニ講學ノト爲スヘカラス、又其籍上ノ研究ノト爲スヘカラス、凡當  
 路者、今日國家政治上ノ論議ニ方リテ、其說ヲ演述ノ之ヲ示シ、以テ衆心ヲシテ之ニ敬服セシメ、將軍  
 ノ戰傷ニ於テ、日々兵士ト共ニ遵守スヘキ規律ヲ示シ、以テ兵卒ノ疑ヲ解テ、其一定ノ方向ヲ與ヘ、法  
 官ノ獄訟ヲ掌リ、能ク理非曲直ヲ明カコソ、其事ヲ裁決シ、以テ衆人ヲシテ惑フ所ナカラシメ、又新聞  
 著者ノ、己カ論說ヲ噴述シテ、遂ニ能ク輿論ノ方向ヲ一ニシ、且、未タ會テ衆人ノ辨知スル能ハサル  
 理義ヲ明晰ニシ、遂ニ國家ヲシテ、其理義ヲ採リテ、以テ國法ノ條規ヲ改増セシムル等、其他此ノ如キ  
 ノ類、皆能ク其論究ヲ以テ、現存ノ國法ヲ増大スルニ功業ニ因ルナリ、(但シ此ノ如キ論究ヲ以テ、眞ニ國法  
 増大ノ裨益ヲナスハ、殊ニ常路者ニ在リトス、古今王侯輔弼、賢明ノ譽ヲ得ル所以ノモノハ、決シテ  
 威權ヲ擴張シ、或ハ憲法ヲ制立シテ、國法ヲ増大セシ功業ニ因ルニアラス、唯其論究ノ力ニ因テ、遂  
 ニ能ク臣民ヲ甘服セシメ、以テ其國法ヲ増大スルノ功業ニ因ルナリ、  
 論究ニヨリテ起立スル所ノ法ハ、能ク慣用法ニ類似スル所アリ、即チ論究法ノ條規ハ、彼ノ憲法、或ハ  
 國約ノ條規ノ如ク明記シテ、實ニ政府ヨリ示令セシ者ニアラス、唯全ク輿論ノ認許ニヨリテ、始メ  
 テ能ク行ハル、者ニシテ、猶慣用法ノ明記スルコトナク、唯一般ノ慣用ニ由テ行ハル、カ如シ、故ニ論  
 究法ハ、眞ニ確定スルモノニ非スシテ、自ラ轉變變化ヲ免ル、一能ハス、去レモ又時勢ニ隨テ、活用ス  
 ルノ大利アリ、○但シ又其慣用法ト相異ナル所以アリ、即チ慣用法ノ起立ハ、専ラ從來ノ習慣ヨリ出  
 テ、一般ノ民情、識ヲス知ラス、之ヲ法トナスニアリト雖モ、論究法ニ至テハ、専ラ一般ノ知識開進ス  
 ルニ隨テ、其理義ノ協否ヲ辨別シテ、然後ニ始メテ認許スルヨリ起立スルモノナリ、故ニ論究法ノ慣  
 用法ト相異ナル所以ハ、宛カモ慣用法ト憲法ト相異ナルノ理ニ同シ、  
 所謂性法、ナツトル、即チ良知法、ヘルムフットレフト、(按)現ニ定立セル法ニハアラス、自然ノ可否得  
 失ニ就テハ、古來議論紛然トノ一定セザレモ、以上ノ論ニ由テ之ヲ考フルキハ、其理自ラ明瞭ナルベ

シ、此法タル、譬ヘハ、普拉士、(按)希臘有名ノ學者ニシテ、紀元前四百  
 エフテ、(按)普拉士現ニ定立セル法ニ關セズ、專ラ天理ニ因テ自ラ民  
 ニ在テ、未タ一般ノ識得ニヨリテ、國家ノ法トナラサル間ハ、決シテ眞法トナスコト足ラス、  
 元來天賦ノ人性ニ出ル法論ハ、基、チ天理ニ資ルカ故、都テ今日ニ施シテ、大ニ宜シキ所以ヲ説ク  
 者アレモ、未タ此理ヲ以テ、實ニ法タルコト足ルト、爲スヘカラス、都テ論究ノミニ由テ、法ノ生スル者  
 ニハアラサルナリ、○性法學ニ於テ論究スル所ノ法、一般ノ識得ニ由テ、遂ニ認許ヲ得ルニ至レバ、始  
 メテ眞法タルヲ得可シ、故ニ始メテ法ヲ產出スル者ハ、論究ニシテ、嗣後能ク之ニ眞實ヲ與フレモノ  
 ハ、一般ノ識得トトリト云フヘシ、  
 既ニ羅馬ノ私法ノ如キモ、過半ハ論究ヨリ生セシ者ニシテ、一ニ緊要ノ規律スル、尙性法ヨリ取リテ設  
 ケタル者ナリ、譬ヘハ過誤罪(ハートルラッシツカイト、羅句語ニテグロバ、ト云)ノ法ノ如キ、素ト人  
 ノ通性ヲ論究シ、之ニ基ツキ、設立セシ者ナリ、○民人ノ識得、道ニ於テ緊要ナル事ヲ認メテ、法ニ於テ  
 モ亦緊要トナシ、國家亦此識得ニヨリテ、生シタル法ヲ取リテ、之ヲ國法トナスニ至レバ、道ト法ト相  
 離レサルカ故、眞ニ貴重スヘキ國法、始メテ立ツト云フヘシ、是ヲ以テ實ニ治平ノ道ニ長シタル當  
 路者ハ、勢ニヨリテ、障礙セザル、コト有ラザレバ、必ス勉メテ性法ニ基キ、其國法ヲ立ルチ本旨ノナス  
 (附論第一)性法ノコト就テ、パウルス、(按)紀元十年ノ頃ニ、小亞細亞シリシオンニ、  
 生レ、六十七年ニ羅馬ニテ死刑ニ行ハレタリ、ノ論アリ、曰  
 シ、「天神ハイデ、(按)未タ眞神ヲ知ラサル、國民ノ義ニシテ、ノ精神ニモ、尙必法ヲ銘ス、故ニ其知識  
 即猶太基督等ノ教ヲ奉セサル者ヲ云フ、  
 ニ因リテ、自ラ之ヲ悟リ得ルナリ、」ト、○メラシント、(按)獨乙人、一千四百九十七年、  
 中ニ「現立法ハ、性法ヲ精密ニ確定スルモノナリ、故ニ天性國法、(按)即性法中ニ國法、私法等ノ別  
 ナリ、天性國法トハ、即チ精密ニ確定スルモノハ、即チ憲法、國約、慣用法、及論究法ナリ、」ト、説ケリ、  
 性法中ノ國法ナリ、」ト、



〔同上第二〕始テ法ノ生産セシ時ヲ索メ、且ツ其生産ヲ助ケシ諸原因ヲ探討スルハ、儘能クシ難キ  
イアリテ、總テ天造物ノ始メテ生産セシ時ヲ測ルニ異ナラス、去レテ此法實ニ國家ノ認許ヲ得、始  
メテ眞法トナリテ、明瞭確實ナルコト及ヒテハ、之ヲ知ルコト難キニアラス、

第九款 國法及ヒ國家假法(スタートリヘル、ベシツツ)

私法ニ於テ所有、アイゲンツツム)ト假所有(ベシツツ)ト別アルカ如ク、國法ニ於テモ亦、眞ノ國法  
ト國家假法トノ別アリ、何チカ假法ト云、即未タ法ノ名ヲ得ス、唯勢ニ因テ自カラ國家今日ノ實際上  
ニ生スル規律アリ之ヲ名ケテ假法ト云ヒ、以テ眞ノ國法ト分ツナリ、  
假法モ亦國法學ニ於テ敬重スヘキ者ナリ、然ル所以ニ二理アリ、第一ニハ、假法ハ現ニ實際上ニ生ス  
ルガ故ニ、必ス能ク之ヲ保護シテ、其妨害ヲ預防セサル可ラス、第二ニハ、假法ハ自ラ一眞法ノ萌芽ニ  
シテ、國法期年(按)下文ニ詳ナリ)ヲ經レハ、遂ニ眞法トナル者ナレハナリ、○假法ノ國法ニ於ケル  
ヤ、假所有ノ私法ニ於ルヨリモ、其關係スル所更ニ大ナリ、何者、假法ノ遂ニ轉シテ眞法トナルハ、假  
所有ノ遂ニ轉シ眞所有トナルヨリモ猶容易ク、且、其眞法トナルノ氣勢モ亦驥々トシテ更ニ大ナ  
レハナリ、○若シ私法ヲ犯シ、妄ニ人ノ所有ヲ妨害スル者アルニ方リテハ、國家ノ法院能ク妨害セラ  
ル、者ヲ保護スルヲ以テ、其害ヲ防止スル難ラス、雖モ若シ國法許サ、ル所ノ處置ヲ以テ、公權ヲ  
犯ス者アルハ、國家ノ威力ト雖モ、或ハ容易ク之ヲ防制スル能ハサルコトアリ、斯難易ノ差異アルカ  
爲、ニ假所有ノ眞所有ニ轉スルト、假法ノ眞法ニ轉スルトノ、難易遲速モ亦自ラ差異ナキ能ハス、去  
レテ此難易遲速ノ差異、決シテ唯此ノ如キ勢ニ由ルニアラス、殊ニ國法私法ノ本性、自ラ相異ナル  
ニ由ルナリ、  
茲ニ人アリ、自ラ許シ、此事即チ法ナリトシテ之ヲ行フト雖モ、他人敢テ之ヲ認許セサルハ、理ノ當然  
ニシテ、管ニ私法ニ於テ然ルノミナラス、國法ニ於ケルモ亦然リ、故ニ假法ノ轉シテ眞法トナルニハ、  
其事必ス先リ理義ノ二源ニ基カサルヘカラス、○今其本性ノ相異ナル所以ヲ論センニ、曾テ我ニ屬セ

サル物ヲ取リテ、之ヲ我有ト爲サントスルニ方リテ、此物本來所有主ナケレハ、論ナシ、若シ他人曾テ  
此物ヲ有スルハ、即チ我レト同等ナル人ノ權利ヲ犯スノ利アリ、然ルニ假法ノ轉シテ眞法トナルハ、  
之ニ異ナリ、抑國家ノ事體タル時ノ流行ニ隨テ、漸ク轉變ヲ生シ、此勢中假法自ラ生シ、國家ノ一體内  
ニ於テ、現ニ今日ノ實際上ニ行ハル、カ故ニ、之ヲ防遮セント欲スル者自ラ少ク、遂ニ國家自ラ之ヲ  
認許シテ、以テ法トナスニ至ル、是レ即チ假法假所有ノ轉シテ、眞法眞所有トナルニ、難易遲速ノ差異  
アル所以ナリ、

○〔按〕此章ハ、假法假所有ノ轉シテ、眞法眞所有トナルニ、難易遲速ノ差異アルハ、唯勢ノ然ラシ  
ムルノミニアラス、亦專ラ國法私法ノ本性相異ナルニ因ル所以ヲ論スル者ニシテ、頗ル解シ難  
キニ似タリ、去レテ熱讀玩味シテ、其本性ノ異ナル所以ヲ極ムレハ、亦解シ難キニ非ス、畢竟私法ハ、  
民人相對スル所ノ法ナレバ、國法ハ、全ク國法一體内ノ法ナルカ故ニ、此二法ノ本性相異ナレリ  
ト云フナリ、

右論スル所ヲ以テ、左ニ舉ル所ノ二派ノ僻論ト參考スルハ、上ニ論スル所更ニ明瞭ヲ得、兼テ其中  
正ヲ得ル所以ヲモ知ルコト足ル、

〔第一派〕成功事業ノ學派(テオリ、デル、ソ、ゲナンテン、ハイツアッコムプリス)ナル者アリ、此學  
派ハ特ニ實際ノ轉變變化ニ因ルチ、本旨トスル者ニシテ、總テ事業上ニ顯ハル、權力ヲ以テ、法ノ出  
ル所ト爲ス、故ニ現ニ權力ニ因テ成功シタル事業ハ、即チ直ニ法トナシテ、此他決シテ法ト稱スヘキ  
者アラスト、又現ニ權力足ラスシテ、成功スルコト能ハサル事業ハ、即チ直ニ不法ト爲シテ、此外決  
シテ不法ト稱スヘキ者アラスト、是故ニ覆法ノ事業モ、遂ニ其効ヲ奏スレハ、直ニ取リテ當理ノ事  
トナシ、若シ其効ヲ奏スル能ハサレハ、直ニ斥シテ非理ノ事トナス、總テ此ノ如ク、唯今日事業ノ成敗  
ノミヲ以テ、理非善惡ヲ定メ、以テ法不法ノ因テ起ル根源トナス、斯法トナシ、或ハ不法トナシ、取捨  
スル所、專ラ今日ノ形勢時態ニ因ルカ故ニ、形勢時態忽チ轉變スレハ、其取捨亦之ニ應シテ變化スル



モノニシテ、絶テ道ノ正邪、理ノ當否ニ依リテ、法ヲ論ズルコトナシ、此學派、佛國顛覆(按)一千七百八十九年ニ顛覆起リ、王室倒レテ民主政體トナリタリ、以來、歐羅巴大地(按)英國ヲ除キ、全歐ノ陸地ヲ云、ニ於テ、再三實際ニ用ヒラレ、嘗テ此論ニ反セシ徒ヌラ、遂ニ之ヲ信用シ、普ク國法ノ理ヲ誤ルニ至リシハ、眞ニ歐洲ノ不幸ト云フヘシ

○(按)佛國ノ顛覆歐洲各國ニ波及シ、一千七百年ノ末ヨリ、八百年初ニ至リ、各國民人肆マ、

○王室ヲ倒シ、以テ民主政體ヲ立ント企テシテ云フ、全ク此災害ヲ免レシハ、獨リ英國ノミ、此學派者流時勢ノ變化ニ因テ、法モ亦變化スル所以ヲ論スルハ、大ニ見ルヘシト雖モ、絶テ理義ニ著眼シテ、法ノ善惡可否ヲ論スルコトナシ、唯今日事業ノ成敗ノミヲ以テ、法ヲ論スルハ、甚ダ僻論ニシテ、其害最モ甚カラス、假法ノ轉シテ眞法トナルヤ、國家民人之ヲ當然ノ事トシ、認許スルニ因ルノミ、但シ國家民人實ニ之ヲ認許セシト否トハ、儘定斷シ難キコトナキコトナラス、サレドモ之ヲ認許スルノ機會、全ク無シト云フハ、甚ダ不可ナリ、即チ左ニ舉ル所ノ數條ハ、此機會ノ至ルト否ノ分界ニシテ、又之ニ由リテ國法期年ノ至ルト否トナリ、知リ得ヘシ、

(甲)國內ニ於テ、二黨(按)一ハ、新黨ニシテ舊政府ヲ倒シ、舊法制ヲ毀テ、以テ國家ヲ一新セントスル者ナリ、間、變化ノ爲、ニ起リタル、争闘未ダ止マズシテ、國家民人未ダ嘗テ一般ニ新黨ヲ認許スルニ至ラサレハ、變化一新ヲ遂ケント欲スル所ノ黨與(按)即新黨ナリ)ノ勢力、縱令ヒ大ニ舊黨ニ超フトイヘド、未ダ國家民人之ヲ認許セシ機會ト云フヘカラス、故ニ國法期年モ、亦未ダ至ルト云フヘカラス、

(乙)新黨遂ニ舊黨ヲ壓倒シテ、一時全勝ヲ獲タリトイフモ、勢未ダ全ク一新セス、民心亦全ク服從セズ、動モスレハ舊黨再ヒ起ラントスル機アルトハ、假法未ダ全ク眞法トナリタリト云フ可カラス、新黨ノ法制、未ダ實ニ眞ノ法制ト稱スルニ足ラサルヲ云、

(丙)國家ノ法制秩序ヲ保護ス可キ權利義務ヲ執ル所ノ國家職官等、新法制、新秩序ヲ默許、或ハ明許セサレハ、眞ニ假法ノ轉シテ眞法トナリシト云フヘカラス、但シ國家ノ權柄ヲ握レル諸府、(按)立法府、司法府等、又ハ國民之ヲ默許、若クハ明許スルハ、更ニ要ナリトス、

(丁)各國政府ハ、互ヒニ各國ノ和親平安ヲ保護スヘキ者ナルカ故ニ、外國政府、亦之ヲ認許スルヲ要ス、○右ノ諸件悉ク備リテ、一モ遺ス所ナクシテ、是ニ於テ假法始テ眞ニ眞法トナリト云フヘシ、初、覆法ノ所業、目セシモノモ、遂ニ轉シテ管理ノ事トナルヘシ、

(第二派)守法ノ學派(レギチミスチセ、テオリ)ナル者アリ、此學派ハ、殊ニ法ノ理義ニ出ルチ貴ヒ、恒ニ之ヲ變革セサルヲ以テ本旨トナス、故ニ唯今日事業ノ成敗ニ因テ、法ヲ論スル所ノ成功事業派ト全ク相表裏ス、是ヲ以テ此學派ハ、大ニ取ルヘキ所アルカ如シト雖モ、亦甚ダ偏倚スル所アルヲ以テ、遂ニ取ル可カラサルニ歸ス、

素、守法(レギチミテ)ト云ヘル語ハ、法制ヲ遵守スルノ義ナレハ、此學派者流實ニ今日ノ形勢事情ニ適應スル法ヲ守ルヲ以テ本旨トスレハ、眞ニ是レ間然スヘキ所無シト雖モ、其本旨トスル所、反テ此ノ如クナラス、更ニ時勢ノ變遷轉化ニ著眼スルコトナク、徒ニ舊法古制ニ拘泥スルカ故ニ、實ニ今日ノ形勢ニ適應セサル、死法ヲ墨守スルモノニシテ、眞ニ有名無實ト云フヘキノミ、是レ即此學派ノ大ニ偏倚スル所ニシテ、敢テ取ル可カラサル所以ナリ、故ニ此學派ハ、元來法ノ理義ニ出ルチ、以テ本旨トスレド、其守ル所ハ却テ理義ニ出テス、猶死體ヲ抱テ以テ生力盛ナル人ト爲ルカ如シ、其陋愚モ亦甚シト云フヘシ、○總テ此學派ヲ唱フル徒ハ、絶テ今日時勢ノ變遷變化、及ヒ人知ノ開明進歩スル所以ノ理ヲ、知ラサルカ故ニ、常ニ舊法古制ノ區域ヲ出ルコト能ハス、然レド古今萬國ノ沿革ヲ歷視スルコト、時勢ハ實ニ此徒ノ見ルカ如クナラスシテ、流行變遷日々止ルナシ、基督ノ語ニ之レアリ、曰ク、死人ヲ埋葬スルハ、死人ニ任シテ可ナリト、

○(按)約書ニ載スル所ノ語ニシテ、或人將ニ基督ニ服從セントスルコト方リ、先ツ死人ヲ埋葬シ



然後ニ服從セント云ヒシ時、基督之ニ答テ曰ク、「死人ヲ埋葬スルノ事ハ、死人ニ任セテ可ナリ、汝敢テ勞スルヲ要セス、直ニ余ニ服從スヘシト、今茲ニ此語ヲ以テ比論、ナスハ、蓋シ守法ノ學派ヲ唱フル徒ハ、決シテ今日ノ用ヲ爲サ、シテ、猶死人ノコトシ、故ニ此ノ如キ死人ハ、死法ヲ守ルヘシ、仍シ生力盛ナル徒ハ、敢テ此ノ如キ死法ヲ守ルヘカラスト云フノ意ナリ、

古今邦國甚多シト雖、此學派ノ如ク、絶ヘテ時勢ノ變遷轉化ヲ知ラス、徒ニ舊法古制ヲ墨守シ、仍ホ存召スルヲ得シ者ハ、未タ曾テ有ラサルナリ、然ルニ近今尙此論ヲ主張シテ、遂ニ國家ノ災害ヲ釀セシ者少カラズ、眞ニ慨歎スヘキナリ、

〔附論第一〕ニイブ、(按、連國人、一千七百七十六年ニ生レ、其八百三十一年ニ死ス)ノ顛覆史ニ云、覆法ノ業モ、遂ニ期年ヲ經テ、當理ノ事トナレハ、國法ニ於テ之ヲ許スノ理、宛カモ私法ニ於テ、假所有ノ期年ヲ經レハ、眞所有トナルヲ許スノ理ニ同シ、

〔附論第二〕教王ツツカリアス、及ヒフランケン、(按、中古歐羅巴、大國、國民第八世期)〔按、紀元七百年代期ト云フモノ、〕於テ、此ノ如キ守法論ノ、敢テ取ル可カラサル所以ヲ、證明シタリ、何者、教王ツツ皆之ニ倣之、

ツカリアスハ、守法論ノ取ルニ足ラサル所以ヲ論シ、眞ニ君主ノ職ヲ盡シ、且ツ自ラ能ク其權力ヲ施行スル所ノ者、實ニ君主ノ稱ヲ得ルヲ當然ナリト云ヒ、又佛朗哥國民ハ、既ニ久シク君職ヲ汚シテ、徒ニ有名無實ノ位ヲ保ルルメロインゲル氏ノ王位ヲ奪テ、現ニ政柄ヲ執レルハ、ルツツ、(按、僞公ト譯ス、カロリンゲル氏ヲ、遂ニ王位ニ進メタレハナリ)〇

〔按、紀元七百五十二年(天平勝寶四年)カロリンゲル氏ビビン、デル、カライイチル、メロキンゲル氏ヲ倒シテ、自ラ佛朗哥國ノ王位ニ登リ、タリシカ、是レ皆教王ツツツカリアス及ヒ佛朗哥國民ノ助ケシ所ナリ、彼有名ナルカル、デル、ゴローセ(甲利大帝)ハ、此ビビン、デル、カライイチルノ

子ニシテ、大ニ其版圖ヲ増大シ、遂ニ羅馬國ヲ復興シテ、羅馬帝トナリタリ、

〔同上第三〕填地利帝ヨリセフ第二世、(按、一千七百四十二年ニ生レ、九十年ニ歿ス、嘗テ普魯士王非の利第二世、又非の利大王ト稱ス、一千七百十二年ニ生レ、八十六ニ歿年ス)ニ書テ贈リテ、守法ノ意ヲ述ヘタリ、但其意ハ却テ成功事業ノ論ニ近シ、其書ニ云、「陛下、則チ君主ナリ、陛下果シテ君主ナラハ、必君主ノ權利ヲ知リ、タマハサルノ道理アル可カラス、余カ土耳其國ヲ攻ント欲スルヤ、唯嘗テ彼ニ奪掠セラレシ州郡ヲ復スルノ外、決シテ他意アルニアラス、是即チ舊法ヲ守ラント欲スルナリ、嘗テ失ヒシ土地ヲ復セント謀ルハ、豈唯土耳其人ノミニ止マランヤ、」〇

〔按、一千七百十八年(享保三年)ニ於テ、填地利先帝カル第六世土耳其ノ地ヲ略セシニ、其後一千八百三十八年(天保九年)ニ於テ、土耳其ノ爲メニ再ヒ奪ヒ返サル、故ニヨリセフ第二世此ノ如キ論ヲ發セシナリ、去レテ條理全ク整ハス、取ルニ足ラサルナリ、

〔同上第四〕一千八百十四年、文化十、佛國恢復、(按、一千七百年代ノ末ヨリ、那破倫第一世帝位ニ登リ、帝位ヲ奪ハレシカハ、政柄再ヒ舊王室ニ復シタリ、故ニ之ヲ恢復ト云、)時ニアタリテ、ヒュルスタルレーランドナル者、(按、佛人一千八百五十四年ニ生レ、一千八百三十八年ニ死ス、)舊王室ノ寶祚ヲ得ルヲ當然ナリトシ、守法ノ論ヲ主張シ、以テ覆法顛覆ノ論ヲ擯斥セシカレ、其論甚レ稀少、且ツ教法ノ意、及ヒ國家ヲ以テ君主私有トスルノ意ヲ間ユルカ故ニ、全ク中古ノ世ニ適スヘシシテ、決シテ方今文明ノ世ニハ適セス、

第十款

研究ノ方法(メトード、デン、デル、ベハンデルング)

十二首 國法學ヲ研究フル方法數種アリ、就中正方ニ類アリ、變方亦ニ類アリ、其正方ニ類ト云フハ、即探理國法論(ヒロソヒセ、メトード)及ヒ探蹟國法論(ヒストリセ、メトード)、(按、其ニ本卷第四款ニ出ツ)



首是ナリ、又變方二類トハ、即正方二類ノ大ニ偏倚セル者ニシテ、一チ偏理國法論アブストラクト、イデト云ヒ、二チ偏蹟國法論アインザイナグ、エムピリセ、メトードト云フ、即チ第一ハ探理國法論ヨリ變生シ、第二ハ探蹟國法論ヨリ變生シタル者ナリ、

此ノ如ク探理、探蹟ノ二方相生セシハ、素法ニ理職ニ出ル者ト、事蹟ニ出ル者トノ二類ナルト、且ツ國法ヲ研究スル徒ノ、氣質各相異ナルトニ由ルナリ、

法ハ素性理ヲ以テ其精神トナス、故ニ必理義ヲ含有セサル可カラス、去レモ今日ノ實際ニ用フルニ至リテハ、又今日ニ適スル形體有ラサル可ラス、然ルニ偏理法論ノ如キハ、全ク其今日ニ適スル形體ノ要ナル所以ヲ知ラスシテ、經ニテ之ニ注意セズ、故ニ國法ヲ論スルニ、唯理ノ當否是求メテ、決シテ國家ノ實際ニ適スルト否トニ、著眼スルコトナシ、○普拉士スラ尙其レブプリッキ(按)本卷第八款ニ出ツ、ノ法ヲ論スルニ方リテ、此ノ如キ弊ニ陥ルヲ知ラス、大ニ人ノ性情ニ戻レル制度ヲ立テタリ、去レモ普拉士ハ知識頗ル廣博ニシテ、且好テ制度ノ態勢ヲ精美ニセシカハ、其論中絶ヘテ枯瘦缺乏ノ弊アルヲ見ス、然ルニ近今ノ學者ニ至テハ、其論中動スレハ枯瘦缺乏シテ、全備セサル者多シ、○國家ハ道義ヲ含メル有機體(按)有機體トハ、各部ノ機關アル體ト云ヘルコトニシテ、即活物ヲ云、國家ノトシ故ニ國家ヲ以テナルカ故ニ、決シテ獨リ性理ヨリ生セシ者ニアラス、活體ニ比スルナリ、其法亦決シテ性理論ヲ集録セシ者ニアラス、

是故ニ偏理法論ハ、學科上ノ研究ニ於テハ、遂ニ無用ノ長物ニ屬シ、又之ヲ實際上ニ施ス時ハ、實ニ恐ルヘキ災害ヲ生シ、遂ニ現立法ヲ破碎顛覆スルニ至ルヘシ、國家將サニ傾覆セントスル時ニ方リテハ、民心暴ニ發動シ、此ノ如キ法論ニ依據シテ、現立憲法ノ限界ヲ破壞セント欲スルノ情愈盛ナルヲ以テ、此論方ニ盛強ノ威力ヲ得、其勢宛カモ惡鬼ノ如ク、遂ニ萬類ヲ傾倒スルニ至ル、○佛國ノ顛覆ハ、民心暴ニ發動シ、此偏理論ヲ實際ニ施セシ者ナリ、以テ此論說ノ誤ラサルヲ明證スルニ足ル、(那)

破倫(按)第一世也ノ語ニ「性理者流遂ニ佛國ヲ傾倒シタリ」ト云ヒシハ、確言ト云フヘシ、(按)佛論ノ鼻祖ハ、ルウソウニシテ、爾來其說ヲ信奉スル者益多ク、遂ニ佛國ニテハ性理家、盛ニ自由(フ之ヲ實際ニ用ヒ、今ニ至リテ其餘毒猶消セス、眞ニ歎息スヘシ、○佛國ニテハ性理家、盛ニ自由(フライハイト)及ヒ同等グライフハイト、(按)萬民絶エテ貴賤尊卑等ノ別ナク、全ク同等ナリト云義、ノ權利ヲ主張シテ、佛國ヲ瓦解セシメ、

遂ニ流血ヲ以テ之ヲ濯キ、獨乙國ニテハ學者、君主政體ノ理ヲ主張スルヲ甚シキニ過キテ、公事自由ノ權利ポリチーセ、フライト、(按)民人會合ノ權利、結社ノ權利、乞願ノ權利等、其他民人ノ國事ニ關スル自由權利ヲ云フ、(按)遮欄限制シ又歐洲列國、各其國論ヲ主張スルヲ甚シク過盛ニシテ、遂ニ歐洲一般ノ平和ヲ妨害シタリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、縱令ヒ大ニ確

實ノ論ニシテ、實ニ國家ニ益アルモノトイヘモ、單ニ理ニ據テ之ヲ講究シ、加フルニ褊少狹窄ノ見ヲ以テ、之ヲ實際ニ施サント欲スルキハ、其害學テ云フヘカラス、  
之ト相反スル氷炭ノ如シト雖モ、亦甚偏倚セルモノハ、即偏蹟法論ナリ、此論ハ專ラ現立ノ法、或ハ從來ノ實迹ニノミ拘泥スルカ故ニ、其研究スル所、絶エテ理ノ當否ヲ考索セズ、徒ニ古今ノ事蹟ヨリ、法

ノ成材ヲ湊合スルノミ、此法論古今實際ニ用ヒラレシコト多ク、殊ニ威權ヲ專擅セント欲スル奸臣等ノ、尤モ好テ取ル所也、○此法論ハ、偏理論ノ如ク、直ニ國家ヲ覆滅スルニ至ラスト雖モ、小害自カラ積重ノ遂ニ大害ニ至リ、以テ全國ノ安寧ヲ破リ、其道義力、ヲ鎖シ、其元氣ヲ傷ク、譬ヘハ光輝アル劍ニ漸ク鏽鏽ヲ生シテ曼衍シ、遂ニ光輝ヲ全蝕スルカ如シ、是時ニ至リ、之ヲ既倒ニ救テ、恢復ヲ謀ラント欲スルモ、亦挽回スル能ハス、甚キニ至リテハ、遂ニ滅亡ニ歸スルノミ、亦如何モスヘカラス、○偏理論ノ國家ヲ害スル、其迅速ナル、譬ヘハ急性熱ノ迅劇ニシテ、立トコロニ死生ヲ決スルカ如ク、又偏蹟論ノ國家ヲ傷スル、其遲緩ナル、譬ヘハ慢性病ノ緩慢ニシテ、容易ニ死生ヲ決セスト雖モ、遂ニ痼疾トナルカ如シ、  
探蹟法論ト偏蹟法論(按)探蹟論ハ正方ニシテ、偏蹟論ハ其變方ナリトチ擧ケ、比シテ其異ナル所ヲ以論セン、探蹟論ハ、偏蹟論ノ如ク、徒ニ現存ノ法、或ハ從來ノ實迹ニノミ拘泥シ、漫ニ之ヲ尙重ス







首終始此目的ニ到著スルヲ以テ本旨トスルニ在リ、故ニ其効驗ニ至テハ、殊ニ人性天理ニ出ルモノナリ、但シ常ニ理ノ極ニ到著スルヲ本旨トシテ、之ニ全力ヲ竭スヲ以テ、一理中又自ラ敷理ノ存スルヲ悟ラス、且古今實際ノ千差萬別ナルニ暗ク、及ヒ古今萬方、風俗人情ノ差異アルヲ詳ニセス、一概理ニヨリテ萬事ヲ裁定セント欲スルカ故ニ、遂ニ時ト處トニ適應セル法ヲ立ルヲ能ハス、徒ニ有名無實ノ空理ヲ主張シ、尙且天然生育ノ理ヲ知ラサルヲ以テ、譬ヘハ未熟ノ菓實ヲ摘テ、以テ之ヲ美味トシ、無根ノ樹木ヲ植テ、以テ、成長スヘシト思フニ均シク、常ニ理ヲ索メテ遂ニ空理ニ流ル、是レ即探理論ノ害ト云フヘシ、古今許多ノ理學者流、能ク此弊ヲ踏サル者ハ、殆ント罕ナリ、

緒論 終

國法汎論首卷 終

大井潤一 校

國法汎論卷之六 上 目錄

予、スウエローチテート、及ヒ國家ノ元首、

第一款 スウエローチテートノ義、

第二款 スターツ、スウエローチテート、及ヒレゲンテン、スウエローチテート、

第三款 第一スターツ、スウエローチテートノ大意、

第四款 第二ヒュルステン、スウエローチテート、

六 目錄

本書譯成上梓ヲ謀ル、其序次將ニ首卷ニ次キ、逐卷續譯上梓スヘシ、然ルニ本卷以下論說スル所却テ今日ノ政務ニ切要ナルヲ以テ、前數卷ヲ關キ、先ツ本卷ヲ譯シ、以テ進講シ且ツ上梓ス、上帙數卷ノ如キハ、將ニ餘力ヲ以テ補譯上梓セントス、讀者之ヲ諒セヨ、

壬申五月

譯者識



國法汎論卷之六上

瑞士

イ、カ、ブルンナユリ 著  
加藤 弘 之 譯

「ハ本文ニ就及ヒ國家ノ元首、スタートツ、ホーハイト、」  
「ハ本文ニ就及ヒ國家ノ元首、スタートツ、ホーハイト、」  
テ看ルヘシ、及ヒ國家ノ元首、スタートツ、ホーハイト、  
第一欸 スウエネーテテート、スタートツ、ホウハイト、ノ義、

スウエネーテテート〔中古ノ羅術語ニテスプレミタスト云フ〕ノ名稱及ヒ辭義ハ、其根元羅馬ニ出

ツル者ニシテ、即チ國家ノ最上權、オーベルステ、ス、  
ト云フ義ナリ、而シテ此權ヲ特有スル者ヲスウエーレント云、  
ホゲン〔按〕緒論第十 始メテスウエネーテテートノ語ヲ以テ、佛國國法ノ基礎トナシ、且ツ學科上ニ

於テ、其義ヲ論究シタリシ以來、此語國家學、及ヒ治平ノ實際上ニ於テ、大ニ關係アル者トナレリ、  
近今ノ法學者ハ、大畧スウエネーテテートノ義ヲ解テ、十分不羈無限ノ國權トナス者多ク、且ツ佛王

路易第十四〔按〕一千六百二十三年ニ生レ、四 及ヒ其國ニテ一千七百九十三年 寛政五年、本文二年ハ  
十二年即位シ、七百十五年ニ殂ス、  
ニ立チシコンヘント〔按〕佛國顛覆ノ時ニ於

家ハ十分不羈無限ノ全權ヲ握ルモノナリト、謂ヘリ、去レテ全ク條理ヲ失ヒシ言ト云ヘシ、○然  
ルニ方今代國府ヲ設置セル國（レブレセンク）ニ於テハ、決シ無限ノ政權アルコトナ  
ニ加シ十分不羈ノ權ナル者ハ、萬國共ニ決シテ之ヲ有スル者アルナシ、若シ之ヲ有スル者アルキハ、



六下民決シテ公事自由ノ權利(ポリチーセ、フライハイト)ヲ保ツ能ハス、國家ノ諸部局亦其權利ヲ保ツ能ハサルコ必然ナリ、古今萬國此ノ如キ全權ヲ取ラント欲シテ、永ク其志ヲ得シ者ハ、未ダ曾テ之ヲアラス、但シ國家ハ國ノ全體ナルカ故ニ、國家自ラ此全權ヲ握リ得ルハ、當然ナルカ如シト雖モ、決シテ亦此全權ヲ握ルコ能ハス、何者、外ニハ列國各其自己ノ權利ヲ有スル者アリテ、之ヲ限制シ、内ニハ國家固有ノ性アリテ、自ラ之ヲ限制シ、且ツ其諸部局及ヒ各民、皆相應ノ權利ヲ有スル者アリテ、亦皆之ヲ限制スレハナリ、<sup>(三)</sup>

○佛人、一千七百九十七年ニ生ル、佛國領覆史ニヤコビテ、(按)暴論ヲ以テ、自由ノ權利ヲ主張セシ黨)ノ論ヲ擧ク、曰ク「ナチオン(按)兆民ヲ合稱スル語)ハ、常ニ萬事ヲ爲シ、萬事ヲ爲シ得ル

ノ權利ヲ掌握ス、是即十分不羈無限ナル全權ノ因テ起ル所以ニシテ、此全權ハ、敢テ他ニ授托スヘキ者ニアラス、○是故ニナチオン敢テ路易第十四ニ恭順スルコ能ハス、<sup>(按)蓋シヤコビテ、</sup>

ナチオンノ握ルヘキ者ニシテ、敢テ他ニ授托スヘキ者ニアラス、是故ニ路易第十四カ「吾ハ即國家ナリ」ト云ヒシカモ、此ノ如キ暴言ニハ、恭順スル能ハスト云フナリ、

○(按)填地利人、一千七百八十一年ノ著書ニ一千八百十四年(文化十一年)ニ於テハン

ホルマエルニ生レ、八百四十八年ニ死ス、

ノ一ヘル國ノ論ヲ擧ク、曰ク「スウエーテテイトノ權ハ、決シテ專横ノ權ニアラス、英國王此權ヲ

掌握スルノ理、絶ヘテ他各國ノ王ト異ナラス、英民自由ノ權利ヲ有スト雖モ、決シテ王權ヲ犯スコトナ

ク、却テ之ヲ翼ケテ、益堅固ナラシム、」<sup>(按)スウエーテテイトノ權ハ、決シテ專横ノ權ニアラス、</sup>

ル所以ヲ示スナリ、蓋シ王權ノ盛ナラサルコト、英國ノ如キ

ハナシ、然モ誰カ敢テ英國王ヲ以テ、スウエーテテイトノ權ヲ握ラサル者トセン、又臣民自由ノ

權利有スルコト、英國ノ如キハナシ、然モ誰カ敢テ英民ヲ以テ王權ヲ犯ス者トセン、蓋シスウエー

テテイトノ權ト、自由ノ權利ハ、全ク並ヒ行ハレテ、相反ラサル者ナリ、

スウエーテテイトノ語ヲ翻シ、獨乙語ニ譯セント欲スルモ、穩當ノ語ヲ得ス、或ハオーメルゲワルト

(按)「權ノ義」ト云ヒ、又古時「瑞士國」ニテヘーフステ、ゲワルト、(按)至高權ノ義、或ハグレーステ、

ゲワルト、(按)最大權ノ義、ノ語ヲ用ヒタルモ、世諸語ハ、皆國內臣民ニ對シテ稱スルコト適當ナレ

モ、外國ニ對シテ、自國獨立ノ權ヲ著ハスニハ、概シテ適當セサルナリ、○スターツホーハイト(按)

未ダ穩當ノ譯字ヲ得ス、但シ其意ヲ解スレハ、凡ソ「國家ノ高尊ナル事」ト云フカ如シ、ノ語ヲ用フ

レハ、内外ニ對シ、共ニ適當スヘシト雖モ、然レモ此語ハ、專ラ國家ノ尊貴顯榮ヲ示スニ適シテ、權威ヲ

示スニ宜シカラス、去レモ、此語ヲ以テスウエーテテイトニ代フルモ、恐ラクハ十分不羈無限ノ全

權ト解スルカ如キ謬誤、自ラ少ナカルヘシ、

スウエーテテイト即「スターツホーハイト」ハ、國權ノ不羈ナルコト、<sup>(按)前文コハ十分不羈ト云ヒ、</sup>

茲ニハ單ニ不羈ト云フ、宜シク

注意ス、威力ノ充滿スルコト、國家諸權柄ノ上ニ位スルコト、及ヒ唯一ナルコトヲ云フ、故ニ左ニ擧ル所ハ、即

真ニスウエーテテイトノ要件ナリ、

〔第一〕國權ノ不羈ナルコト、十分不羈ナルト云フニハアラス、決シテ外國ノ權柄、若シハ國內各部局

ノ權柄等ニ、從屬セサルコト云フナリ、但シ外ハ列國法、合同法(ブンヂスレフト)ノ爲メニ、限制セラレ、

内ハ政府諸部局、或ハ代政府ノ議論ノ爲メニ、限制セラル、ハ、固ヨリ當然ナルコトニシテ、決メ之ニ由

テスウエーテテイトノ義ヲ害スルコトナシ、<sup>(按)蓋シ論スル所、即チ國權ノ</sup>

十分不羈ナラサル明證ナリ、

〔第二〕國家ノ尊嚴威力充滿スルコト、昔時最モ高等ノ法院ヲ稱シテ、スウエーテテイト、ゲリフツホフ

(按)スウエーテテイトノ權アル法院ノ義)ト云ヒシカモ、素ト此法院タル、實ニスウエーテテ

イトノ權ヲ有スルコトアラス、唯此權ノ一端ヲ有スルニ類似スルノミ、然ルニ唯此一端アルヲ視テ

實ニ此權ヲ有セリトスルハ、甚シ誤レル者ニシテ、亦論スルニ足ラス、若シ總テ最高等ノ職官ヲ以



テ、各、スウエローチテ、トノ權ヲ有スルトセハ、即、國家ニ若干ノスウエローチテ、トアリト云フ

ヘシ、斯ノ如キ者ハ、決シテ眞ノスウエローチテ、トニハ非サルナリ、

〔第三〕スウエローチテ、トノ權ハ、固ヨリ國家最上ノ權タルヘキヲ、是故ニ國家諸權柄中、一モス

ウエローチテ、トノ權ニ軼ノ位スヘカラス、中古佛國ノセノエール（按）封地ヲ受ケシ侯伯ノ類

ノ如キハ、佛王ニ屬シテ、獨立權、尊嚴ノ威ヲ、視ハレシ以來、全クウエローチテ、トノ權ヲ握

ル者、タルノ位ヲ失フタリ、然ルニ獨乙ノク、ルヒルスト（按）中古獨乙帝ヲ選立スル權ヲ有セシ

テ、ト選（按）一千三以來、自國ノ政權ハ、全ク其手中ニアリシヲ以テ、實ニスウエロー

チテ、トノ權ヲ有セシト云フヘシ、

〔第四〕國家ハ、有機體（按）詳ニ緒論第十ナルヲ以テ、スウエローチテ、トノ權、唯一ナラサレハ、其安寧

ヲ保ツ能ハサルヲ、若シスウエローチテ、トノ權、分裂スルキハ、國家必然癩癩崩解スルニ至ルナ

リ、故ニスウエローチテ、トノ權タル、恒ニ唯一ナラサレハ、國家長ク健全ナルヲ能ハス、

○イマン、ヘルム、ヒフテ（按）獨乙人、一千七百九カ政學論ノ附録ニ、政令ノ唯一ナルヲ、即スウエ

ローチテ、トナリト説キシハ、過論ト云ヘシ、スウエローチテ、トニ於テ眞ニ要トスル所ハ、其威力

ト尊嚴ナリ、

〔附論〕ルウソウ（按）緒論第十ノ論ハ、佛國顛覆ノ際ニ於テ、盛ニ採用セラレ、實際ニ施サレタリ、其

論ニ據レハ、スウエローチテ、トノ權ハ、天下一般ノ意思（按）即億兆共ニ思フ所ノ意思、即チ是

ナリトス、是即ソプレマポテタス（按）即至高權ノ義ヲ棄テ、之ニ代フルコソプレマ、ホルン

タス（按）至高ノ意思ト云フ義ヲ以テセル者ニシテ、甚タ誤レリト云フヘシ、（按）ルウソウハ天

下一般ノ意思ヲ以

テ、至高ノ意思トシ、之ヲ以テ國家ノ

大權ト爲ス、故ニ此ノ如ク云シナリ、其著尊億兆合約論（按）億兆各、其意思

ヲ論シ、

權力ハ奪フ可シト雖モ、意思ハ、敢テ奪フ可ラサル者ナレハ、天下一般ノ意思ナルスウエ

ローチテ、トノ權ハ、終始億兆自ラ掌握スヘク、決シテ他ニ授與ス可ラサル旨ヲ説ケリ、去レモ、此

論全ク古今萬國ノ專蹟ニ反スル者ナレハ、敢テ採用スヘカラス、○此論ニ從ヘハ、億兆ノ共ニ欲ス

ル所ハ法トナリ、共ニ欲セサル所ハ、法トナラサル者ニシテ、唯一般ノ意思ノ嚮フ所ヲ以テ、總テ法

ノ根源トシテ、決シテ此意思ノ善惡可否ヲ論スルコトナク、又之ヲ限制スルコトナク、豈誤ルノ甚タシ

キコ非ラヌヤ、ルウソウ始、テ此論ヲ唱ヘシヨリ、漸ク之ヲ信スル者多クシテ、益補益シ、遂ニ大ニ

世ヲ惑ハスニ至レリ、元來意思ナル者ハ、精神才智ノ發顯セシ者ナリ、故ニ決シテスウエローチテ

トノ如ク、國家ノ法制ニハアラス、意思ハ、只能ク法ニ活潑ノ氣勢ヲ與ヘ、且ツ能ク法ヲ修正スル

者ナリ、去レモ意思直ニ法トナルコトハアラス、是故ニ先ツスウエローチテ、トノ權アリテ、然後ニ

スウエローチテ、トノ權ヲ握ル者ナリ、（按）前ニ出ツ、即スウエローチテ、トノ權アリテ、然後ニ

テ、然後ニスウエローチテ、トノ權アルニハアラサルナリ、

〔同上第二〕スウエローチテ、トノ權ハ、國家及ヒ法制ノ淵源ナルヲ以テ、其主者ナルスウエローチ

トノ權ハ、國家ノ上ニ位スル者ナリト云フ論アレモ、甚タ理ニ反レリ、夫レ國家アリテ、而シテ後其權アリ、

決シテ權先ツ立テ、然後ニ國家アルニハアラス、故ニスウエローチテ、トノ權ハ、國法ヨリ出ル權

ナリ、決シテ國法ノ上ニ位スヘキ權ニアラス、

第二款 スターツ、スウエローチテ、トノ權（按）國家握ル所ノスウ

エローチテ、トノ權（按）國家ノ元首握ル所ノスウ

エローチテ、トノ權（按）國家ノ元首握ル所ノスウ

エローチテ、トノ權（按）國家ノ元首握ル所ノスウ

エローチテ、トノ權（按）國家ノ元首握ル所ノスウ

茲ニ一問アリ、曰ク、「誰カスウエローチテ、トノ權ヲ握ルヤ」ト然ルニ此事ニ就テ、諸學者ノ所見



六各異ナルカ故ニ、其答ル所亦未タ當テ一定スルヲ見ス、故ニ講論研究ニ由テ、偏見臆説ノ宿習ヲ去リ、遂ニ眞理ヲ悟リテ、確答ヲナスヲ要ス。

六(第一)ルウソウノ説及ヒ佛國顛覆以來、漸シ藝術セシ論ヲ信スル徒ハ、之ニ答ヘテ曰ク、「ホルク」(按)下文ニ於テ詳ナリ、ナル者スウエローテテートノ權ヲ握ル」ト即通常謂フ所ノホルク、スウエローテテート即是ナリ、

但シ此ノ如ク答ル徒ニ向テ猶一問アリ、曰ク、「所謂ホルクトハ、何者ヲ指スヤ」ト然ルニ此ノ如キ徒中ニ仍ホ二論アリ、其一論ハ、譬ヘハ、數千萬ノ原素ノ散亂スルカ如ク、制度モナク、亦序次モナク、徒ニ換散セル民ヲ指目シテホルクト爲シ而シテ此ホルクヲ以テ國家ノ大權ヲ掌握スル者ト爲ス、是即實ニ國家ヲ根底ヨリ傾覆スルノ暴論ト云フヘシ、若シ此暴論實際ニ行ハルレハ、國家決シテ存在スル能ハス、國家果シテ存在スル能ハサレハ、之ヨリ生スル所ノスウエローテテートノ權、豈能ク獨リ存在スルテ得ンヤ、其誤レル論ヲ俟タズン明ナリ、○是故ニ此ノ如キ暴論ハ如何ナル政體ニ於テモ、決シテ適合セサルナリ、然ルニ尙此ノ如キ暴論家ハ、之ヲ以テ民人專權政體カデナリ、(按)國家ヲ以テ全クホルクノ專ラニスヘキ者トナシ、ホルクノヲ立テント欲スレハ、此ノ如キ暴論ニハ、此政體ハ、決シテ限制セサルヲ以テ、本旨トスル政體ナリ、ヲ立テント欲スレハ、此ノ如キ暴論ニハ、此政體ニテ尙合セサルナリ、何者、縱令民人專權政體ノ國タリト雖モ、徒ニ數千萬ノ原素ノ散亂セルカ如ク、制度序次ナキ衆庶民人ノ、其國權ヲ執ルニハアラス、必ス制度序次ノ具備セル國會(ホルクス、サムルンク)アリテ、國權ヲ施行スレハナリ、又一論ハ、同等ノ權利ヲ以テ相結ヒ、其共欲スル所ヲ施行スル國國ノ民人ヲ指目シテ、ホルクト爲シ而シ此ホルクヲ以テ、國權ヲ握ル者トナス、是レ即チ民人國權ヲ執ル所ノ民人政體(デモカラナリ、(按)説下文ニ見ユ)ノ論ナリ、故ニ此論ハ、唯民人政體ニ於テノミ取ルヘシ、既ニ代國府ヲ設置セル、民人政體、レブレセンテナリ、デモカラナリ、(按)立憲民主政體ヲ云、ニ於テハ國國ノ民人相合シ、直ニ國權ヲ施行スルニ非ス、必此民人ニ代ハルヘキ代國府アリテ、之ヲ施行スルカ故ニ、殆ント此ノ如

キ論ニハ合セサルナリ、此類ノ論説ハ、總テ國家ノ元首ヲモ、賤民ト同等ノ如ク視做シ、且ツ少數ノ治者(按)政府官員)ヲ以テ、多數ノ被治者(按)國國臣民)ニ從屬スルカ如ク視做ス者コシテ、譬ヘハ首ヲ以テ足トナシ、足ヲ以テ首トナスカ如クナレハ、決シテ他ノ諸政體ニ合セサル、固ヨリ論ナシ、是故ニ第一論ハ、以テ政府ヲ傾倒シテ、遂ニ民人ヲ統御スル者有ラシムルニ足リ、第二論ハ、天下ノ民人ヲ合シテ、之ヲ以テ國權ヲ握ル者ト爲シ、以テ擅ニ其欲スル所ヲ爲サシムルコ足ルト云フヘシ、但シ儘又此二論相合シテ、殆ト分レサルコアリ、而シ總テ此ノ如キ論説ヲ唱フル徒ハ、常ニ此論ヲ偏用シテ、大ニ可ナル所以ニ主張スト雖モ、此論ト合スヘキ者ハ、僅ニ萬民直預政體(ウンミツテル、ハ一レ、デモカラナリ、(按)萬民直ニ國政ニ預ル政體ナリ、上ニ民人政體ト云ヒシハ、即是ナリ)ノミニシテ、其他ノ諸政體ニハ、決シテ適合セズ、故ニ此論ハ、全ク諸政體ヲ壞破シテ、遂ニ萬民直預政體ヲ起ス所ノ者コシテ、國家ノ爲ニ大害アリ、又一派全ク之ト相反セル論ヲ主張スル徒、現存ノ政府及ヒ其法制ヲ惡ミ、之ヲ傾覆センコト企ルコ方リ、此ノ如キ論説ヲ假リテ、其志ヲ遂ケント欲スレコアリ、○又佛國顛覆ノ時コ方リ、此ノ如キ論説、最モ恐怖スヘキ兵器ノ如ク、大ニ壞破ノ効ヲ奏シタリ、既ニ一千七百九十二年(寛政四年)第四月二十日ニ於テ、佛國ナチオナル、ヘルカムルンク(按)佛國顛覆ノ際、一千七百八十九年、ホルク自ラ立ル所ニシテ、全國家ニ代ル議會ノ義ナリ、此議會ニ二類アリ、即八十九年ニ立テ九十年ニ閉チシ者ヲ、コンスタトインデ、ナチオナル、ヘルカムルンクト云ヒ、九十年ニ立テ九十二年ニ閉チシ者ヲ、ゲセツゲーベシデ、ナチオナル、ヘルカムルンク、戰官ヲ壞地利ニ宣ヘシ時、(按)佛國顛覆ヲ起スコ方リテ、壞地利國帝之ヲ仿遮セントセシ故ト云フ、佛ノ議會遂ニ之ニ兵端ヲ開シ、決シテ、其意ヲ宣ヘタリ、ルウソウノ論ヲ取テ之ヲ公布シタリ、其言ニ云、「佛國スウエローテテートノ權ハ、獨リ佛國ホルクノ手中ニ在リ、此故ニホルクノ意思ハ、最モ尊キ者コシテ、之ヲ施行スルノ權ハ、敢テ他ニ授托スヘキニアラス、獨リ後世億兆ノ權利ノミ、能ク之ヲ限制スルヲ得可シ、(按)將來億兆ノ意思變スルキハ、



八上六

能ク從來ノ法制ヲ變更シ得可シト云フ意、政府總令ニ憲法、慣用法、條約、或ハ布令等ヲ用フル也、決シテ億兆ヲ服從セシムルヲ能ハス、獨リナチオン、(按)ホルンニ同シ、ノミ自ラ能ク憲法ヲ制定シ、或ハ之ヲ革正スル特權アリ、他人敢テ之ヲ專ラニスル能ハス、ト、(按)大意謂ラク「スウエーリチテートノ權ハ、終始ホルンノ手中ニ止マル者ナリ、故ニ法制ヲ立テ、或ハ之ヲ改ムル等ノ事、獨リホルンノ專ラニスル所ニシテ、政府敢テ此權ヲ握ル能ハス」ト、茲ニ他人ト云フハ、即億兆中ノ一人、若クハ數人ヲ指スナリ、○ナチオナールヘル、サムルンク、ニ代リ、ナチオナール、コンヘント、(按)一千七百九十二年ニ立テシ議會、立ツニ至リ、更ニ此論ヲ擴張シテ、終ニ王位ヲ傾倒シタリ、(按)此議會遂ニ國君路易第十六ヲ死刑ニ處シタリ、

傳教總裁(エトスイテン、ゲテラール)ライチツ、(按)西班牙人、一千五百十二年ニ生レ、五百六十五年ニ死ス、傳教士ベルラルミン、(按)以太利人、一千五百四十二年ニ生レ、六百二十一年ニ死ス、及ヒマリアナ、(按)西班牙人、一千五百三十六年ニ生レ、六百二十三年ニ死ス、等ノ如キ諸人ハ、神教ノ威力ヲ以テ、國事ヲ制御センヲ欲シ、教皇(パプスト)ハ、天神ヨリ威權ヲ授カリシ者ナレバ、則チ國君ノホルンヨリ、威權ヲ授カリシ者ト、同日ノ論ニアラサル旨ヲ以テ、教皇ヲシテ恣ニ國君ヲ制御セシメンヲ謀レリ、蓋シ其意通常ホルンク、スウエーリチテートヲ唱フル徒ノ論ト、全ク相反スト雖也、教皇ノ威權ヲ擴張センカ爲メ、姑ク此論ヲ假ラタルナリ、○但シ輒近ニ至リ、ルウソウノ論最モ盛ニシテ、人心ヲ煽動スルモ更ニ甚シカリキ、ルウソウノ論ニ據レバ、「各民相合シテホルントナリ、以テスウエーリチテートノ權ヲ掌握ス、故ニ各民相合シテ、共ニスウエーリチン」(按)注上ニ見ユ)トナリ、又分レテスウエーリチンノ臣民トナル、元來スウエーリチテートノ權ナル者ハ、即一般ノ意思ニシテ、一般ノ意思ハ、決シテ他ニ授トスヘキ者ニ非サルカ故ニ、ホルン多數ノ意思相合スレバ、政府ト雖也遂ニ之ニ恭順セシメ、或ハ政府ヲ傾倒シ、又ハ國憲ヲ變更スル

等、皆其欲スル處ニ任シ、ホルンクハ敢テ法ノ爲メニ、束縛限制セラル、者ニアラス、ホルンノ欲スル所ハ即法トナリ、其欲セサル所ハ即不法トナルト、是即ルウソウノ論大略ナリ、故ニ此論ニ據レバ天下ノ各民ハ、悉ク國權ニ預ルヘキ者ニシテ、彼ノナチオナール、ヘルサムルンク、(按)全國家ニ代ハル所ノ議會ノ義、ヲ置テ、ホルンクノ代議者ト爲スカ如キモ、全ク用フ可ラサルナリ、去レテ若シ此論ヲ以テ、實際ニ施サントスレバ、國家ノ法制秩序モ、決テ保存スル能ハス、加之此ノ如キ自由ノ權利、決シテ永續スル能ハサル事、論ヲ俟スシテ明カナリ、

六上九

一千八百四十八年(嘉永元年)第二月、佛人復々顛覆ヲ起シ、巴里斯ノ府廳ニ於テ同上ノ論ヲ公告シテ之ヲ實際ニ施シ、遂ニ立憲君主政體ヲ廢シテ、民主政體トナシ、一旦假政府ヲ置テ、之ニ全權ヲ委託シタリキ、(按)一千八百四十八年第二月佛人顛覆ヲ起シ、オルレンアン氏、(按)一千七百九十年ニ生ル、此顛覆ノ時、假政府主長ノ一ノ公布書ニ云「佛國ノ民、丁年ニ至レル者ハ、皆スターツ、ビ人ニシテ、外務ニコステルヲ兼テタリ、一ノ公布書ニ云「佛國ノ民、丁年ニ至レル者ハ、皆スターツ、ビニルゲル、(按)本義ハ、國家ノ臣民ト云フコトナレ、國民ヲ悉クスターツ、ビエルゲルト云フコトアラズ、ス及ヒ貧救ニシテ國家ノ教育ヲ受ル者等ハ、各國共ニ之ヲスターツ、但シ婦女、少年、刑人、皆選擇者、(按)立法院ノ議員ヲ選擇スル者、)タリ、選擇タル者ハ、皆スウエーリチンタリ、是ヲ以テ各民ノ權利ハ皆同ウ、且、毫、限制スル所ナシ、故ニ各民互ニ「汝カ權ハ吾權ヨリ強大ナリ」ト云フコトヲ得ス、各民皆自己ノ威力ヲ知リテ之ヲ施行シ、且ツ自修ノ權利ヲ守リ、敢テ自ラ輕スルコト勿レ、ト、(第二)以上論スル所、ホルンク、スウエーリチテートノ說ハ、素ト國權ヲ確定セント欲シテ、却テ國家ヲ破壞スルニ至リ、或ハ萬國ノ政體ヲ變メ、悉ク民主國ト爲サントスル者ナリ、故ニ佛國二三ノスタ、(按)經世ニ巧ナル徒、或ハ現ニ政柄ニ預レル徒ノ義ニシテ、君臣共ニ通ノ用フ、穩當ノ譯字ヲ得サルヲ以テ、今原語ヲ記ス、ハ此論ノ甚ク國家ニ害アルヲ



以テ之ヲ排斥シ、而シテ其知或ハ、正理ヲ以テ、スウエネーテテトノ權ノ由テ出ル所ト爲シ、以テホルクス、スウエネーテテトノ權ヲ主張セシ徒ノ過誤ヲ規サントシ、大ニ刻苦セリ、其志ハ實ニ嘉ミスヘシト雖也、曾テ、其功ヲ遂クルコト能ハサリキ、

○權ナル者ハ、素トハニ關屬スル者ナリ、故ニ國權モ亦實ニスグロトリヘ、ベルセンリフカイ、

〔按〕國家人ト云フカ如キ義、蓋シ國家ハ、有機體ノ如シ、故ニ國家ヲ以テ一個ノ巨ト爲ス、關屬ス、唯國家此權ヲ施行スルニ方リテハ、必其知及ヒ、正理ニ則ラサルヲ得ス、然ルニ論者全ク此理ヲ知ラスシテ、國權ヲ以テ其知及ヒ、正理ヨリ出ル者ト爲セシハ、大ニ誤ルト云ヘシ、此論ハ彼ホルクス、スウエネーテテトノ權ヲ主張スル徒ノ、萬國ヲ以テ民人專權政體ト爲サント欲スル説ト、其威ハ全ク相表裏スレ也、大ニ誤ル所以ハ皆同一ナレハ、共ニ取ル可ラサルニ歸ス、蓋シ權素トハニ關屬スレ也、唯之ヲ施行スルニ方リテハ、必其知正理ニ則ルヲ要スト云フノ論、最モ確實ニシテ、上ノ二論ニ優ルコト甚大ナリ、

○ロエール、コラルド

〔按〕佛人、一千七百六十二年ニ生レ、八百四十五年ニ死ス、一千八百二十年(文政三年)三月廿七日ノ

演述〔按〕議院ニ於テ、其論ニ云、民ノ相合セル者ニハ、必二個ノ原質アリ、即チ體ト神ト是ナリ、而シテ體トハ、各民ノ身及ヒ其氣力、並ニ其意思ヲ云、各民ノ身及ヒ其氣力、意思ヲ以テ體ト爲ス、殆ト解民ヲ主トスル者ニシテ、其誤リ亦以テ彼ノルウソウノ論ニ異ナラサルニ非ラスヤ、〔按〕即著者演述ヲ難スルノ文ナリ、又神トハ、當理ノ事ヨリ生スル所ノ法ナリ、○專ラ體ヲ以テ主トスルキハ、スウエネーテテトノ權ハ、即各人相合スル者ノ多數ト、及其意思多數ノ專ラニスル所ニシテ、即チホルクス、スウエネーテテトノ權ト是レナリ、但シ多數ノ意思ナル者、此暴權〔按〕ホルクス、スウエネーテテトノ權ヲ以テ、一人若シハ數員ニ委託スル歟、或ハ一人若シハ數人、多數ノ意思ニ背テ、此暴權ヲ奪フキハ、特ニ此暴權ノ質ヲ變セサルモ、自ラ和柔ノ權ト

ナル可シ、然リト雖也、未ダ全ク粗魯ノ權タルヲ免ル、コト能ハス、故ニ遂ニ無限權及ヒ特權ノ根本トナルヘシ、〔按〕演述者、專ラ體ヲ以テ主トスル徒ノ誤ヲ舉ルナリ、○然ルニ專ラ神ヲ以テ主トシ、法ヲ貴フキハ、スウエネーテテトノ權ヲ掌握スル者ハ、即正理ナリ、何者、法ナル者ハ、必理ニ出テサル可ラサルヲ以テナリ、○自由ヲ貴フ國憲ハ、必粗魯ノ權ヲ去リ、正理ヲ以テ權ト爲スチ本旨ト爲ス、ト、〔按〕以上即演述ノ文ナリ、

〔第二〕又一派別ニホルクス、スウエネーテテトノ權ヲ唱フル者アリ、此派ニテホルクト稱スル者ハ、第一條ニ云フ所ノ數千萬ノ原素ノ散亂セルカ如ク、制度序次ナク、渙散セル民ヲ指テ云フコアラズ、必ヤ相ヒ合同シテ、風俗言語嗜欲ヲ共ニシ、且ツ其中自ラ尊卑、貧富、大小等ノ差等ソツテ、相合セル一團人衆ヲ云フ、是レ即チチオン、〔按〕チオン、ノ説卷之二第二款ニ見ユ、ナリ、而シテ此チオンヲ以テ、即國家ノ法制ヲ變革スル權ヲ掌握スル者ト爲ス、但シ此チオンナル者ハ、法制序次ヲ得ルニ宜シト雖也、未ダ全ク法制序次ノ整ヒタル者ニハアラサルナリ、

是故ニチオンナル者ハ、其法制序次、全ク整フキハ、則始テ國家トナルナリ、〔卷之二第二款ヲ參看スヘシ〕故ニチオンナル者全クスターツ、ホーハイトノ權〔按〕スウエネーテテトノ權ト、同シ、チ生スヘキ根本コアラズトハ云フ可ラスト雖也、チオン決シテ直ニ此權ヲ生スル者コアラズ、チオン先ッ國家ヲ成シ、國家成テ然後ニスターツ、ホーハイトノ權始テ生ス、故ニチオンハ、スターツ、ホーハイトノ根本ニ似タレ也、直ニ之ヲ以テ真ノ根本ト爲スハ不可ナリ、

此派ニ於テ論スル所ノホルクス、スウエネーテテトノ權ハ獨乙ニテ穩當ノ語ヲ以テ譯スレハ、チオンナルヲ以テ、決シテ國權ト稱スルニハ足ラサルナリ、

第四)以上諸派ノ論說皆非ナリ、實ニホルクト稱スル者ハ、即國家(スタート)ト云フニ同ウシテ、之



六チ譬フレハ猶人身ニ頭首四肢ノ序次アルカ如ク、必序次法制ノ具備シテ、相合スル所ノ人衆ヲ指  
 言スルナリ、而シテホルクノ頭首四肢ナル者ハ、實ニスターツ、ベルセソリフカイト（按）木款（第一）  
 二ノ條ニ出ツ）ニ於テ最モ緊要ナル者ナリ、  
 國家ハ一人身ナルヲ以テ、必不羈ヲラサル可ラス、十分ノ威力ヲ備ヘサル可ラス、至高ノ位ヲ占メ  
 サル可ラス、及、唯一ナラサル可ラス、之ヲ要スルニ、國家ハ必スウエレノテテイトノ權ヲ握ラサル  
 可ラサルナリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、一人身ナル國家ハ、即スウエレノ（按）スウエレノテテイト  
 イトノ權ヲ掌握スル者）ナリ、故ニ此スウエレノテテイトヲ稱シテスターツ、ウエレノテテイト  
 ト云フ、

是故ニスウエレノテテイトノ權ハ、國家未ダ立ガザル時先ツツテ生スル者ニアラス、又國家ノ外ニ在  
 ル者ニアラス、尙日國家ノ上ニアル者ニアラス、實ニ是國家ノ權力及尊嚴ナル者即是レスウエレノ  
 テテイト也故ニ此權ハ、全國家ノ權ト云フ可シ、全國家ノ權ハ、其各部ノ權ヨリ更ニ強大ナルヲ以テ、  
 全國家ノスウエレノテテイトハ、其一部ノスウエレノテテイト  
 ノ上ニ位スルコト固ヨリ論ナキノミ、  
 上ニ論スルカ如ク、ホルクト稱スル者ハ、決シテ渙散セル人衆ヲ云フニアラス、必、制度序次ノ其間  
 ニ整然タル者アリテ、相統合セル人衆ナレハ、其中必頭長アリテ、最高ノ地位ヲ占メ、最大ノ職務ヲ執  
 リ、其他ノ部分ニ於テモ、亦各相應スル所ノ地位職務アリ、故ニ此意ヲ以テホルクス、スウエレノテテ  
 イトヲ説ケハ、實ニ此語ノ本義ニ協フト云フヘシ、然ルニホルクス、スウエレノテテイトヲ説ク所  
 ノ徒、從來此本義ヲ失フカ故ニ、今此語ヲ用フルハ、學者ヲシテ大ニ迷ハシムルノ恐アリ、故ニ此  
 語ヲ捨テ、之ニ代フルコトスターツ、スウエレノテテイトノ語ヲ以テス、佛國 國法學者ハ、スウエレノ  
 テテイト、デ、ナシオンノ語ヲ用フルト雖、獨乙ニテハ此語甚ダ穩當ナラス、佛ニテハ世語獨乙ノス  
 一ツ、スウエレノテテイトト全ク同義ナリ、  
 ○スチエ（按）佛人、一千七百九十八年ニ生ル）ガ一千八百四十八年（嘉永元年）或人ニ與ル書  
 ニ云、「スウエレノテテイトノ權ハ、ホルクノ黨握スル所ナリト云フノ論甚可ナリ、去レ其ホル  
 クト云フ語ヲ用フル意ノ差ニ從テ、取捨セザル可ラス、若シ國憲法制ヲ以テ相合セル人衆ヲ指シ  
 テ、ホルクト總稱シ、而シテ君民（按）即國憲法制ヲ以テ相合セル人衆ナリ）共ニスウエレノテテ  
 イトヲ同握スル者トスレハ、實ニ善美ト稱スヘシ、去レ若シ此ノ如ク相合セル人衆ノ中ニ於テ、只  
 其一部分ヲ拔キ、或ハ君主ノミヲ以テホルクトナシ、（彼）余即國家ナリト云ヒシハ此意也、（按）  
 路易第十四ノ語ナリ、）或ハ君主ヲ除キ、單ニ巴力門ノミヲ以テホルクトナシ、又ハ制度序次ナク、  
 渙散セル人衆ヲ舉テ、ホルクト總稱スルカ如キハ、俱ニ甚ダ誤レル者ニシテ、遂ニ國家ヲ害スルノ  
 論ナリ、敢テ採用スヘカラス、ト、○シスモンヤ（按）瑞士人、一千七百七十二年ニ  
 レノテテイト、ザエ、ペーアルナル語ト、スウエレノテテイト、ザエ、ラ、ナシオンナル語ノ相異ナル所  
 以テ明カニシ、甲ヲ捨テ、乙ヲ取ルヘキヲ論シタリ、（按）此論亦スチエノ論ニ同シ、）  
 スターツ、スウエレノテテイトノ權ハ、能ク國家ノ内外ニ發耀ス、即、外ハ諸外國ニ對シテ獨立不羈  
 ノ權トナリ、且、神教ニ對シテ、現世國ノ權トナリ、内ハ即チ臣民ニ對シテ全國家ノ制法權トナリ、以  
 テ對耀スルナリ、

是故ニ英國人ハ、巴力門ヲ以テスウエレノテイトノ權ヲ掌握スル者ト爲ス、何者、巴力門ナル者ハ  
 即全國家ニ代ハル者ニシテ、國君其首座ヲ占ムルヲ以テナリ、○但シ此ノ如キ事、決シテ英國ニ止  
 マルニアラス、其他方今代國府（按）立法府ナリ）ヲ設置セル國ニ於テモ、亦獨リ君主ヲ以テ全ク國  
 家ノ上ニ位スル者トセス、必亦國家中ノ一人トシテ、唯其首領タル者ト爲スノミ、此故ニ君主一人決



六シテスウエローチテートノ權ヲ施行スルヲ能ハス、亦必全國家ニ代ハル所ノ代國府ト共ニシテ、甫  
メテ能ク之ヲ施行スルヲ得ルナリ、○パトリモニアール、スクート（按）國家ヲ以テ君主ノ私有ト  
四爲ス國ノ制度ヲ貴デ、國家ヲ以テ君主ノ私有ト爲シ、且ツスウエローチテートノ權ヲ以テ、獨、一君  
主ノ手中ニ在リトスル學派、及ヒアブソルチスチセル、スタート（按）君權無限ノ國ノ制度ヲ貴テ、  
獨リ一君主ヲ以テ國家ト爲シ、以テスターツ、スウエローチテートヲ捨テ、ヒュルステン、スウエロー  
チテート（按）君主國權ヲ握ルチ云、）ヲ取ル所ノ學派ニ於テハ、君主ノ威權ナル者ハ、元、全國家ノ  
權力ヲ集合統一セル者ナルヲ知ラス、故ニ縱令ヒ君主及ヒ王室漸滅スト雖也、國家ハ獨、依然トシテ  
變動セサル理ニ於テモ亦知リ得サルナリ、○

○英國王顯理第八世（按）一千五百零九年、生レ、四十七年ニ歿ス、カ力門會議ノ時ニ於テ、議員ニ演述セマ旨趣アリ其  
言ニ云、余法官ノ説ク所ヲ聽クニ、吾カカ力門タヤ、吾カ王位ヲ以テ頭首ト爲シ、汝群臣ヲ以テ四  
肢、爲シテ、全然相離レサル者ナリ、故ニ縱令ヒ微賤ナル一議員ニ係レル利害得失ト雖也、敢テ之  
ヲ小事トセス、必吾身及ヒ國院ニ係ル所ノ利害得失ト爲スヘシ、吾カ王位ノ實ニ尊貴ナルハ、唯國院  
會集スル時ニ在ルノミト云ヘリト、

○ツミッセル（按）獨乙人、一千八百零七年ニ生ル、ハ其著書中ニ此ノ如キスターツ、スウエローチテートハ獨乙國ニ  
適セサル旨ヲ論セシノミニ非ス、總テ君主國ニ於テハ、唯ヒュルステン、スウエローチテートヲ以  
テ當然ノコト爲シ、民主國ニテハ、唯ホルクス、スウエローチテートヲ以テ當然ノコト爲シテ、其旨  
ヲ論セシトハ雖也、古時羅馬ノ民主政体トナリシ時、及ヒ帝國トナリシ後モ、共ニマエスタス、ポプ  
リ、ロマン（按）羅馬國民、スウエローチテートノ權ヲ掌握スル義、）ノ制度ヲ立テ、而シテ羅馬國民ノ

意思ヲ以テ國法ト定メ爲シ、且民主政体ノ時ニ於テハ、政柄ヲ以テコンスルニ委任シ、又最高ノ  
政務及賦稅ノ事務ヲ以テ、悉ク之ヲセナートニ委任シタリ、（是亦スウエローチテートノ一分ト云  
ハサル可ラス、）又方今英國ニテ、巴里門ノスウエローチテート（即全國家ノスウエローチテートナ  
リ）ヲ以テ國君ノスウエローチテートト全ク相併合スルカ如キハ、全クツミッセルノ論ト相表裏ス  
ト謂フヘシ、獨乙國トイヘ他ノ列國ニ對シテハ其スウエローチテートハ、全ク全國家ノ權タル  
ヲ論チ俟マスシテ明亮ナリ、○他ノ列國ニ對シテ、スウエローチテートノ權ヲ掌握シ得ル國家タ  
ル者ニシテ、國家内ノ各民、及ヒ國家ノ君主ニ對シテ、スウエローチテートノ權ヲ掌握スル能ハサ  
ルノ理、決シテ有ル可ラス、獨乙國ニテモ他ノ各國ノ如ク、其憲法ハ即國家ノ憲法ニシテ、決シテ君  
主ノ憲法ニアラス、其負債ハ即國家ノ負債ニシテ、君主ノ負債ト全ク相異ナリ、故ニ獨乙國ニ於テ、  
君主國家ヲ私有セシ、古昔ノ陋習未タ全ク滅セシニハアラサレ也、其國法タル、方今文明世界一般  
ノ公理ニ背キ、獨リホルクヲ以テ、君主ノ僕妾ト爲シ、國家ノ威權ヲ以テ、君主ノ威權ニ吞併セラル  
、者ノ如クスルノ理ハ、絶テテアラサルナリ、○ツミッセル斯クヒュルステン、スウエローチテート  
ノ權ヲ主張スレ也國權ヲ以テ無限ノ全權トセサルハ、甚ダ善ニスヘシ、去レ也獨乙各國及ヒ羅馬人  
種ノ各國（按）歐洲南西ノ各國ニシテ、殊ニ以太利、葡萄牙、西班牙、佛蘭西等ヲ云フ、）ノ事蹟ヲ見  
ルニ、共ニ輒近ニ至リ、君主威權ヲ擅ニシテ、大コホルクノ權利ヲ枉害セシハ、蓋シ專ラヒュルステ  
ン、スウエローチテート、チ主張スル徒ノ論ニ依據セシナリ、

六上（第五）但シ既ニ論スル所ノ全國家掌握スルスウエローチテートノ外、尙又國內ニ於テ、別ニ國家頭  
首ノスウエローチテートト稱スル者アリ、之ヲ稱シテレゲンテン、スウエローチテートト云フ、但シ  
五上 君主國ニ於テハ、此權最モ著顯ナルヲ以テ、又之ヲヒュルステン、スウエローチテート（按）前條ニ云



フ、ヒュルステン、スウエローチテートト語同シウシテ、其義ハ即チ相異ナリ、ト稱ス、○國家ノ元首タル者ハ、其各部局及其各民ニ對シ、最大ノ威權ヲ執リ、至高ノ地位ヲ占ム、故ニ英ノ國法ニテハ、國君ヲスウエローン(前ニ註ス、ト稱シ、且ツ其他ノ君主國ニ於テモ、亦君主ニ此スウエローチテートノ權ヲ歸ス、

前章ニ論スル所ノスターツ、スウエローチテートト、此章ニ云フ所ノヒュルステン、スウエローチテートトハ、實際上ニ於テ、決シテ相矛盾スル者ニアラス、故コアラヌ故コスウエローチテートトニ此二類アリト雖モ、是ニ由テ、此權相分レ、ホルクト君主ト各其一半ヲ掌握シテ、相抗拒スルノ憂ヒ決シテアルコトナク、且ツ二權各唯一ニシテ又盛大ナリ、去レモ之ヲ分テハ、則判然二類トナル、一ハ即全國家ノ有スル權ニシテ、君主ハ唯其首座ニ位スルノミナルカ故ニ、敢テ君主ノ專ラニスル所コアラヌ、二ハ即君主自己ノ有スル權ニシテ、敢テ他人ノ關スル所コアラヌ、此第一權ハ、全國家ノ有スル者ナルヲ以テ、君主獨リ掌握スル所ノ第二權ノ上ニ位スルコト固ヨリ論ヲ俟タス、國家ノ憲法ヲ制定スルハ、獨リ國家全体ノ權力ニ在ルノミ、去レモ君主タル者、此憲法ノ區域内ニ於テ、自己手中ニ在ル所ノ大權ヲ施行スルニ於テハ、決シテ他人ニ限制セラル、コトナシ、○是故ニスターツ、スウエローチテートトハ專ラ憲法制定ノ權ト云フヘシ、又ヒュルステン、スウエローチテートトハ專ラ政令ノ權ト云フ可シ、第一權休止スレハ、則第二權行動ス、故ニ此二權ハ、實際上ニ於テ、容易ニ相抗拒スル者コアラヌ、又理ニ於テハ、決シテ相抗拒セサル者ナリ、蓋シ此二權若シ相抗拒スレハ、君主ノ一身ニシテ相抗拒スルナリ、何者第一權ハ、君主國家ノ各部局ト共ニ之ヲ掌握シ、又第二權ハ、君主獨リ之ヲ掌握シ、二權共ニ君主ノ預所ナレハナリ、  
故ニデモカラチーセ、ホルクス、スウエローチテートト  
フ義ニシテ、即前ニ云フ所ノ、ホルクス、スウエローチテートトヒュルステン、スウエローチテートトナル二權ハ、彼此相抗拒シテ、俱存共立不可ラス

ト雖モ、スターツ、スウエローチテートトヒュルステン、スウエローチテートトノ二權ハ、人身ノ全體ト頭首トノ如ク、相合同シテ、決シテ分隔スルコトナシ、

〔附論〕又ホルクス、スウエローチテートト唱フル一別派アリ、但シ此派ニテハ、其立論ホルクノ多數國家ノ大權ヲ掌握スルト云フコアラヌ、政體制度ハ、素トホルクノ爲ニ建設スル者ナルヲ以テ、必ホルク多數ノ安寧ニ害アル政體制度アル可ラストノ意ヲ以テ、ホルクス、スウエローチテートトヲ説クナリ、此論ハ決シテ不可ト云フ可キニ非ラヌ、去レモ此意ヲ以テホルクス、スウエローチテートト稱スルハ甚タ誤レリ、○又國權悉クホルク多數ノ意思ニ出ルヲ以テ至當トナシ、此理ニ據テホルクス、スウエローチテートト唱フル學派アリ、〔按〕此學派ニテホルク自ラスウエローチテートトノ權ヲ掌握スルヲ至當トスルコアラヌ、唯此權素トホルク多數ノ意思ニ出ル、實ニ萬民政治國ノ國憲ノミナラス、或ハ又君主政治國ノ國憲トイヘモ亦以テホルク多數ノ意思ニ出ル所ト爲セル者アルハ、此學派ノ論ノ如シ、譬、ハ羅馬帝國、及ヒ佛蘭西帝國ノ國憲ノ如キモ、羅國佛國ノ國法學ニ據テ之ヲ考レハ、其ホルク多數ノ意思ニ出ルトス、又瑞士各邦ノ邦憲ニ於テモ、ホルクナル者、即スウエローチテートトハ記サ、レモ、スウエローチテートトノ權ハホルクニ出テ、ゴロトセル、テートト(〔按〕立法府ナリ)之ヲ施行スト記載ス、譬ヘハ一千八百三十一年(天保二年)ニ於テ議定セルチニリフ(〔按〕瑞士合邦ノ一)ノ邦憲第一條ニ記ス所モ亦此ノ如シ、去レモ此ノ如キ論ニ至テハ、決シテ世界萬國ニ通スル者ニアラス、且ツスウエローチテートトノ理ハ、永世不變ノ者ナルニ、僅カニ此ノ如キ事蹟ニ據テ、此權ノ理ヲ論スルハ甚不可ナリ、○又一種強暴ナル人衆態ニ政府ヲ傾倒シ、且ツ國憲ヲ壞破スルノ權ヲ以テ、ホルクス、スウエローチテートト爲スノ論アリ、此論ハ既ニ實際ニ施行セシコト多クナリト雖モ、最モ害アル者ニシテ、縱令萬民政治ノ國法トイヘモ、決シテ此論ヲ用フルコト能ハズ、



第三款

第一 スターツ、スウエローチテートノ大意(インハルト)

〔第一〕制度序次ノ具備セルホルクハ、是レ即國家ニシテ、此國家ナル者ハ、先自己ノ顯榮尊嚴ヲ敬重スヘキノ權利ヲ保有ス、古時羅馬ニテハ、國家ノ顯榮尊嚴ヲ稱シテ、マエステートト云ヘリ、故ニ羅馬國ノ體面威權、及其制度序次ヲ大ニ毀損スル者アレハ、則之ヲマエステートヲ毀損スル罪科シ、レセ、マエスト爲シタリ、

〔第二〕國家諸外國ト、獨立不羈ノ威力ヲ對峙シ得ルハ、其スウエローチテートノ一要件ナリ、若シ國家獨立ノ權ヲ失フテ、外國ノ制馭ヲ仰グニ至ルキハ、則自己ノスウエローチテートヲ失フテ、外國ノスウエローチテートニ服従スト云フヘシ、

但シ國家總令ト外國ニ服従スト雖モ、或ハ其スウエローチテートヲ全喪スルニ至ラサルコアリ、蓋シ其制馭ヲ受ル、未タ十分無限ニ至ラスシテ、獨立ノ權仍存スル所アル者はナリ、乃チ盟邦合邦等ノ如キ、相聯合セル國ニ於テハ、其各邦皆全國ニ從屬シテ、其制ヲ受ルト雖モ、必スウエローチテートノ若干部分存スル有テ、尙其邦内ニ行ハル、何者、實ニ外面ノ權ヲ失フト雖モ、未タ決シテ内面ノ權ヲ失フニ至ラサルハナリ、○是故ニ瑞士國ニテハ、合邦ノ事務ヲ統掌スル全權ヲ稱シテ、ブンテス、スウエローチテート(按)合邦ノスウエローチテートト云義)ト云フト雖モ、又各邦ノ事務ヲ統掌スル權ヲ稱シテカントナール、スウエローチテート(按)各邦ノスウエローチテートト云フ義)ト云フ、又北亞米利加合邦及ヒ獨乙盟邦ノ如キモ、其全國ノスウエローチテートト、其各邦ノスウエローチテートトヲ分別スルコト、瑞士ニ異ナラス、

各邦ノ全國ニ於ケルヤ、僅ニ其一部分ナリト雖モ、然レモ其内部ニ於テハ、亦尙國家ノ制度序次アリテ、立法府、政府、其他諸部局等、都テ國家緊要ノ機關ヲ備ヘ、以テ自ラ其政務ヲ專行ス、是故ニ此ノ如キ各邦ト雖モ、仍スウエローチテートノ若干部分ヲ有スト云フヘシ、去レモ各邦若シ實ニ全國ニ合併セラレ、其州縣トナルニ及テハ、既ニスウエローチテートノ權ヲ全喪スト云フヘシ、但シ此ノ如キ邦實ニ大國ノ一小屬國トナリテ、仍スウエローチテートノ若干部分ヲ有スルト、唯其州縣トナリテ、全ク此權ヲ失フトノ分界ニ至リテハ、殆ト判然ナラサルコアリ、猶千緒萬端ノ世事ニ於テ、區別分界ノ判然ナラサルコト多キカ如シ、

方今外國ニ對シテハ、通常君主ナル者、國家ニ代リテ、スターツ、スウエローチテートノ權ヲ施行シ、立法府ハ、絶テ之ニ關係スルコトナシ、但シ此事決シテ理ノ當然ニ出ルニアラス、只事ノ便宜ニ由ルノミ、

〔第二〕國內ニ於テスウエローチテートノ權ノ先ツ發動スル所ハ、國家自ラ其存在ヲ保チ得ル所ノ規律ヲ確定スルト、及ヒ已ムチ得サルコ方リテハ、之ヲ變革スルトニ於テス、之ヲ稱シテ、ホルクノ國憲ヲ制立スル權柄(コンスタイトイレンデ、ゲワルト)ト云フ、○此權柄ハ決シテ制度序次ナキ、ホルク多數ノ手中ニ在ル可ラス、必制度序次ヲ備ヘタル、國家全體ノ手中ニ在ルヘキハ、固ヨリ當然ナリ、而シテ國家タル者、其統一合同、及ヒ制度序次ヲ保存セント欲セハ、必臣民ヲ服従セシメテ、其公權利ヲ制御セサル可ラス、故ニ各民決シテ國家ノ命令ヲ抗拒スルヲ許サス、縱令其公權利、國家ノ爲ニ枉害セラレ、コアリト雖モ、亦以テ然リトス、

○華盛頓(按)亞米利加合衆國第一世統領、一千七百三十二年ニ生レ、九十九年ニ死ス)ノ論ニ云、

〔吾國法ノ大基本ト云フヘキハ、ホルク(按)即全國家ナリ)自ラ國憲ヲ制立シ、且ツ革正スルノ權ヲ掌握スルニ在リ、故ニ公議ノ定斷ニ由テ、從前ノ國憲ヲ改革スルニ至ル迄ハ、凡ソ臣民タル者、必



此法ヲ遵奉敬重シテ、決シテ之ニ違反スルヲ許サズ、夫レ國憲ヲ制立スルノ權ハ、乃チ獨リホルクノ權利ト、及ヒ威力トニ在ルノ理ニ依テ推考スレハ、臣民タル者、必、此國憲ニ服從セサル可ラサルヲ固ヨリ論テ俟ス、故ニホルク憲法ヲ施行スルニ方リテ、之ニ抗拒シ、或ハ他人ノ之ヲ遵奉スルヲ妨礙シ、又ハ政府ノ事務ヲ施行スルヲ妨礙スルカ如キ所業ハ、實ニ吾國法ノ大基本ニ背クト云フヘシト、

國法ヲ變革スルニ、其方法ニアリ、一チ改正ト云ヒ、二チ顛覆ト云フ、而シテ此二方法ノ旨タル、理義上ニ於テ迥クニ相異ナリ、凡ソ改革ナル者ハ、第一ニハ、國憲ヲ制立變革スヘキ權利ヲ固有セル、職官ノ掌ル所ナルヲ以テ、立憲國ニテハ、必、全國家ニ代ハル所ノ立法府、當然ノ權利ヲ以テ之ヲ掌リ、第二ニハ、改革ヲ爲スニ就テハ、先ツ法ノ精神ニ著眼シ、實ニ時勢ニ後レ、人情ニ適セサル法ハ、之ヲ廢シ、而シテ實ニ時勢人情ニ協合スル所ノ新法ヲ制立シテ、之ニ代フ、故ニ廢立共ニ必己ムヲ得サルノ理ニ出ツ、是レ即改革ナリ、

然ルニ國法ヲ變革スルニ方リテ、國憲載スル所ノ規律ニ背戾シ、或ハ全ク正理ヲ毀壞スルカ如キハ、決シテ改革ト云可ラス、實ニ顛覆ト云フヘキノミ、

國法ヲ改革スルノ權利ハ、方ニ國家活動力ノ發スル所ニシテ、眞ニ緊要ノ權利ナリ、故ニ之ヲ非トスル者ハ、ホルクノ開明進歩ヲ妨礙スル者ニシテ、却テ顛覆ヲ招クニ足ル、

但シラヂガカレ、スグアツレ、〔按〕現存ノ法ヲ根底ヨリ傾倒シテ、國家ヲ一新スルノ論ヲ唱フル徒ハ、ホルクノ顛覆ヲ謀ルヲ以テ、當然ノ權利ト爲ス、去レテ、顛覆ナル者ハ、或ハ暴ニ國憲ヲ殘敗シ、或ハ暴ニ正理ヲ毀壞スル者ナルカ故ニ、決シテ法ニ合スル者ニアラス、縱令ヒ勢ノ趨ク處、民情徧ク之ヲ是トシ、暴ニ公權ヲ變革スル時ト雖モ、亦然リトス、民心久ク抑壓ヲ受ケシ所、一旦羈縛ヲ脱シ大ニ強猛ノ威力ヲ得、勢ヒ噴火ノ暴發スルカ如ク、以テ顛覆ヲ謀ルニ至ルキハ、則國法ノ能力之レカ爲ニ阻攔壓縮セラレ、決シテ發動ヲ生スルヲ能ハス、故ニ顛覆ヲ以テ國法ノ規律ニ合セント欲スルモ、

決シテ能ハサル所ナリ、○顛覆起ルニ方リ、速ニ壓制ノ力ヲ盡シ、之ヲ變通シテ改革ト爲シ、以テ國家ノ制度序次ヲ全ウスルハ、實ニ國政ノ大業ナリ、國法ノ能力微弱ニシテ、顛覆ヲ阻遏スルニ足ラス、或ハ改革機ニ後レテ、顛覆ヲ制止スルニ及フ能ハサルハ、遂ニ此大業ヲ成就スル能ハサルヤ必セリ、

上ニ論スルカ如ク、顛覆ハ決シテ法ニ合スル者ニアラサレハ、時勢全ク改革ノ術ヲ用フルニ由シナク、顛覆ヲ施スノ外、國家ノ存在ヲ援ケ、其進歩ヲ導クノ方術盡ル時ニ至ラサレハ、決シテ顛覆ノ權利ヲ用フ可ラス、故ニ此權利ハ、眞ニホルクノ不得己ノ權利〔ノートレフト〕ト云フヘキノミ、○國憲ナル者ハ、唯ホルクノ外貌ノ規律ナルノミ、若シ國憲不是ノ爲ニ、國家將ニ危亂ニ趨ラントシ、ホルクノ生力將ニ痿痺セントシ、或ハ天下ノ公益公利將ニ亡滅セントスルニ至レハ、ホルクナル者強盛

活潑ノ威力ヲ發シ、不得己ノ權利ヲ施行シ、以テ切要ノ變革ヲ遂ケサルヲ得ス、所謂「不得止」ノ事ハ、敢テ示令ヲ知ラス〔按〕古語ニシテ實ニ己ムヲ得サルニ至レハ、敢テ示令ヲ俟タスシテ、處置スヘシト云フ意〕トハ、則チ是レノ謂ナリ、

① スーダツマン〔注前ニ見ユ〕ニ一ブル〔按〕噶國人、一千七百七十六年、大ニ保守オン、按〕舊法古制ヲ保守シテ、輕卒ニ之ヲ改革スルヲ好マサルヲ云、チ旨トセル人ニテ、既ニ佛國第五月ノ顛覆〔按〕一千八百三十年第五月ニ起リタル顛覆ヲ云、ヲ聽テ、大ニ悲歎セシト云フ、然ルニ顛覆ノ是非ニ就テ、左ノ論ヲ述ヘタリ、曰ク、「己ムヲ得サルノ事ハ、敢テ示令ヲ知ラスト云ヘル古語ヲ非トスル論ハ、最モ厭惡スヘシ、希臘人嘗テ土耳其ノ制御

ヲ受ケテ、其暴虐ニ困シ、婦女遂ニ其節ヲ全ウスルヲ能ハサルニ至リシカ如ク、常ニ苛酷殘虐ノ政令ヲ受ケテ、恣ニ殺戮セラレ、百方スレテ遂ニ免カル、一能ハサルニ至レハ、是實ニ己ムヲ得サルノ時ト云フヘシ、此時ニ至リテハ、斷然顛覆傾倒ヲ起シ、此災厄ヲ免レント謀ル、大ニ正理ニ合スト云フヘシ、若シ此ノ如キ時ニ及テモ、仍顛覆ヲ不義トスル者ハ、眞ニ惡人ト云フ可キノミト、



〔第四〕其他緊要ナル憲法ヲ制定スルニ至リテモ、亦スターツ、スウエネレ、チテートノ權ノ掌ル所ナリ、故ニ狹義ノ立法權柄ト云ヘハ、國憲ヲ始メ、其他ノ諸憲法ヲ制定スル權柄ナレハ、狹義ノ立法權柄ト云フキ、國憲ヲ制定スル權柄ヲ除キ、其他諸憲法ヲ制定スル權柄ノミチ云フナリ、語義狹隘ナルヲ以テ、斯ノ如ク云フ、モ、亦國憲ヲ制定スル權柄ノ如ク、スターツ、スウエネレ、チテートヨリ、其端正ナル規律ヲ以テ、發動スル者ナリ、

〔第五〕又其他ノ國權モ、皆亦此スターツ、スウエネレ、チテートノ權ニ淵源ス、故ニ國憲及ヒ其他ノ憲法ヲ以テ、諸國權發動スル所ノ規律ヲ定メ、且ツ其力ヲ限制ス、但シスターツ、スウエネレ、チテートノ權ハ、國憲及ヒ其他ノ憲法ヲ制定スル權柄トナリテ、其能力ヲ顯スト雖モ、其他ノ諸國權上ニハ、通常其能力ヲ施サス、ソ安息ス、殊ニ君主國ニ於テハ、國家日々變化スル所ノ要件ヲ處分スル事務ハ、皆之ヲ君主ノスウエネレ、チテートニ收攬ス、故ニ日常ノ事務ハ、國家自ラ之ヲ執ラシメ、安息シ、獨リ元首之ヲ執リテ動行ス、但シ君主自ラ之ヲ執ル者アリ、或ハ其管下ノ職官〔按〕政府ノ職官、チシテ、之ヲ執ラシムル者アリ、

但シ此事務ヲ執ル者〔按〕即君主チ云フ、實ニ之ヲ執ル能ハサル事務ノ生スル歟、若クハ君位空虛トナリ、國憲ニ於テ未タ嗣君ノ定マラサル時ニ於テハ、國家ノスウエネレ、チテート茲ニ再ヒ其能力ヲ發シテ、其憂害ヲ除キ、且ツ嗣君ヲ定ムルヲ從事スルナリ、

〔第六〕不保任〔ウシヘルアントナルトリフカイト〕凡ソ人タル者其諸業ノ行止ニ於テ、天神ニ對シ之ヲ保任セズ、可ナルノ理ハ、絶ヘテアル可ラス、天神ハ、必人世諸業ノ曲直邪正ヲ鑑定シテ、死後ニ之ヲ審判スル者ナリ、故ニホルクナル者ハ、敢テ天神ニ對シ、其所爲ヲ保任セサル能ハス、○又此世界ニ於テモ、ホルク爲ス所ノ善惡邪正ニ由テ、直ニ禍福利害ノ應報アルハ、即其所爲ノ審判ヲ受クル者ナレハ、是亦保任ヲ免ル、○能ハサルノ理ナリ、○去レ、凡國家内ニ於テ、國家全體ノ曲直邪正、

若クハホルクニ代リテ、最上ノ國權ヲ掌握スル者ノ、曲直邪正ヲ審判スヘキ法官ヲ設置スルコトハ、決シテ能ハサルコトナリ、然ルチ若シ強テ之ヲ設置セント欲スルキハ、國家ヲシテ全ク此法官ノ部下ニ屬セシムルノ理ニシテ、譬ヘハ四肢ヲシテ體軀ノ上ニアラシメ、局部ヲシテ全體ノ上ニ位セシムルカ如シ、

○ロベスピエール〔按〕佛人、一千七百五十八年生、一千七百九十三年（寛政五年）ヤコビチル

〔一〕按〕木卷第一款ニ出ツ、ロベスピエールハ、此黨ノ巨魁ナリ、ノ黨中ニ於テ、之ニ反セル論ヲ述ヘタリ、其論ニ云フ、余災厄ヲ受ゲシ時ニ於テ、敢テ他人ノ應護ヲ要セス、自若トシテ、ホルクハ決シテ、不正ノ事業ヲ爲サザル旨ヲ主張マタリ、余ハ斯ノ如ク世人ノ未ダ此理ヲ知ラサリシ時ニ於テ、普ク此理ヲ悟ラシメント欲シ、大ニ刻苦セシカ、遂ニ顛覆起ルニ至リテ、世人皆能ク此理ヲ悟リタリト、○但シ佛國人此ノ如キ論ニ迷フテ、大ニ之ヲ信シ、以テ實際ニ施シケレハ、遂ニ大災厄ノ刑ヲ蒙ルコトハナリケリ、〔按〕此註本文ノ意ト合セザルコト似タリ、恐ラクハ其下

國家自己ノスウエネレ、チテートノ權ヲ施行スルコト方リ、若シ外國ニ對シテ、之ヲ保任スルチ要スルトキハ、則其スウエネレ、チテートノ權ハ、外國ノ爲ニ大ニ限制セラレ、遂ニ其部下ニ屬スルニ至ル可シ、

後世列國法（ヘルケルレフト）、〔按〕一ニ萬國公法ト譯ス、大ニ進歩シ、全世界各國、殆ト相合シテ、一大國家トナリ、而シテ之ヲ統括スル所ノ大政府起ルニ至ラハ、各國皆將サ、此大國家ノ命令ヲ遵奉スルニ至ルヘシ、故ニ此時ニ於テハ、各國自己ノ權ヲ施行スルニ就テ、之ヲ保任スルノ制度始メテ起立スヘシ、去レ、此事今日ニ在リテハ、徒ニ紙上ノ空談ナルノミ、恐ラクハ後世遂ニ實事トナルノ日アラ

〔附論〕輓近立チシ所ノコシスチトイレンダ、ナチオナール、ヘルサムルンダ〔按〕全國家ニ代ハリテ、國憲ヲ制定スル議會ノ



義ノ如キニ、通常一千七百八十九年〔按〕前款ノ論ニ倣元年〔按〕佛國ノナチオナル、ヘルサムルンクフ者多シ、故ニスクーツ、スウエレーチテートノ理ヲ以テ、政令施行ノ基本ト爲サス、却テルウソウチ信シテ、ホルクス、スウエレーチテートノ理ヲ取レリ、○但ルウソウノ論ハ更ニ甚シキ者ニシテ、決シテ代議議會ニスウエレーチテートノ權ヲ委スルコナク、必彼ノ原素ノ如ク、制度序次ナク、渙散セル數千萬ノ民人ヲ以テ、此權ヲ固有スル者トナシ、而シテ此民人其共ニ欲スル所ニ從ヒ、之ヲ恣行スルヲ以テ當理ト爲ス、○ナチオナルヘルサムルンクノ論ヲ採リテ之ヲ實際ニ施セシハ譬ヘハ、猶「彗星ノ赤尾ノ現、レシカ如シ實ニ此議會ルウソウノ論ヲ假テ民心ヲ煽動シ、以テ一旦其志ヲ得シト雖モ、遂ニ又此論ノ爲ニ倒サル、ニ至レリ、〔按〕古時彗星出レハ、必凶事アルノ兆トセリ、蓋シヘルサムルンクノ論ヲ用テ、一旦其志ヲ得シハ、遂ニ又此論ノ爲ニ倒サル、前兆トナリシヲ喻フルナリ、

第四款

第二

ヒュルステン、スウエレーチテート〔按〕本卷第二款

〔第五〕ニ詳ナリ、

第二類ノスウエレーチテート〔按〕レゲンタン、スウエレーチテート、即ヒュルステン、スウエレーチテートハ、即「獨」國家元首ノ手中ニ在ル者ニシテ、今ノ國法ニテハ、唯君主國ニ於テノミ、獨リ此權ヲ認許セリ、故ニ君主ヲ以テ、スウエレーチテート〔按〕スウエレーチテートノ權ヲ有スル者ノ義トシテ、尊崇セラル、ノ權利ヲ有スル者トス、亦民主國ノ統領〔按〕プレシタントニモ實ニ此權ヲ施行スト雖モ、絶テスウエレーチテート〔按〕尊崇セラル、コナシ、

羅馬民主政體ノ國法ニ於テ定メシ所ハ、立制ノ意今時ノ民主國ヨリハ、猶廣博ナリキ、故ニ當テ王國タリシ時ニ於テ、君主掌握セシ所ノ權ヲ分掌スルコンスル〔按〕二頁ニ、マエステートノ權利ノ元首タルニ

足ルノ權利ナリ、本卷第十二款ニ詳ナリ、チ委テ、又其後ニ及テセナートニモ亦之ヲ委テタリキ、然ルニ近今ノ民主國ニ於テハ、專ラホルクノ特權ヲ貴フテ盛ナルヲ以テ、政府ノ主長ナル者ハ、唯ホルクノ指揮ニ由テ、姑ク其委任ヲ受ケシ者ト視做セリ、是ヲ以テ主長ナル者、スウエレーチテートノ權ヲ以テ、其自己ノ權利ト爲ス可能ハス、○

ルウソウガレゲンタン、スウエレーチテート〔按〕ヒュルステン、スウエレーチテートニ同シ、チ駁スル論ニ云、「一般ノ意思」云フハ、ホルク全體ノ意思ヲ云フナリ、故ニ其一部分ノ意思ハ、唯其一部分ノ意思ナルノミ、一般ノ意思ハ、能ク憲法ヲ布示スヘク、一部分ノ意思ハ、僅ニデクレート〔按〕政府布告ストシテ、去レテ、最上ノ國權ヲ以テ、唯憲法ノミヲ制立スルノ權トシテ、兼テ政令ヲ施行スル所ノ權タルヲ知ラサルハ、甚シキ謬見ト云フヘシ、

又ヒュルステン、スウエレーチテート〔按〕ヒュルステン、スウエレーチテートヲ以テ、獨リ世襲ノ君主國ノミニ之レ有リテ、選立ノ君主國ニハ、此權決シテ有ラストスルノ論アリ、去レテ、此論ハ君主其位ヲ得ルノ體裁ニ由テ、其權ニ輕重ノ別アリトスル者ニシテ、甚ダ誤ルト云フヘシ、縱令ニ選立君主ト雖モ、最上ノ國權ヲ以テ、自己ノ權ト爲ス可ク於テハ、決シテ世襲君主ト異ナルコナシ、○「舊羅馬帝」〔按〕羅馬帝國ニ新舊ノ別アリ、紀元前卅年ニ奧古年ニ於テカール、ゾローセ、教皇ヨリ、羅馬帝ノ士都帝ノ創業セシ者ナ、舊帝國ト云ヒ、又紀元八百位ヲ受ケテ、羅馬帝國ヲ恢復セリ、是即新帝國ナリ、及ヒ中古ノ獨乙帝ノ如キハ、皆選立君主ナリ、然リト雖モ眞ノスウエレーチテートナリテ、自己ノ權ヲ有セシコト、決シテ疑フヘキニアラス、又英國王維廉、ホン、オラコーン十年ニ生レ、七、百零二年ニ歿ス、ハ始テ王位ニ登リ、オラコーン朝ヲ開キシカ也、其スウエレーチテートノ權ニ至リテハ、其嗣君ノ生レナカラニシテ、繼位ノ權利ヲ有セシ者ト決シテ異ナルコナカリキ、

但シ國法學ニ於テハヒュルステン、スウエレーチテートヲ區分セテ、固有〔按〕ウールスプリングリ、又オリギチーレト云フ、



受有 アブゲライターテ、ノ二類ト爲ス、固有ノヒュルステン、スウエネーテテートトハ、君主其家ニ  
 生レ、當然ノ權利ヲ以テ得タル者、若クハ君主自己ノ力ヲ以テ得タル者ヲ云フ、即世襲君主ノスウエ  
 ーテテート、及ヒ攻奪ヲ以テ國ヲ得シ君主ノスウエネーテテート、并ニカル、デル、ゴローセ、〔按〕初フ  
 王アリ、後ニ羅馬國ヲ恢復シ羅馬帝トナル、即、或ハ非的利維廉第一世、〔按〕普魯士王、一千六百八十八  
 紀元七百四十二年ニ生レ、八百十四年ニ歿ス、〔按〕非的利維廉第一世、年ニ生レ、七百四十年ニ歿ス、  
 ノ如ク、親ラ冠冕ヲ戴キ君主〔按〕親ラ冠冕ヲ戴キ君主、ノスウエネーテテート即是ナリ、○其他獨乙諸選立帝  
 ワールカイセル、〔按〕選立セシ君主ノ義、ノ中ニ於テ、スウエネーテテートノ權ヲ、クールヒュルスト〔按〕獨乙帝  
 セラレテ帝位ニ登リシ者、〔按〕選立スル  
 權利ヲ握リヨリ受ケス、天神ヨリ受ケシ者ハ、是亦固有ノスウエネーテテートヲ握リシ者ト云フ  
 へシ、〔按〕實ニ天神ヨリ受ケシニアラス、唯此ノ如ク託言スルノミ、  
 受有ノスウエネーテテートトハ、ホルク若クハ選擇者ヨリ授托セラレタル者ヲ云フ、既ニ羅馬ノ國  
 法ニ於テハ、帝ノ權柄ハ、即羅馬ホルクヨリ授托セラレタル者トセリ、〔卷之四第十七款ヲ參看スヘシ〕  
 且ツ其後ノ選立君主國ノ制度ニ至テモ、亦通常此ノ如シ、○但シスターツ、スウエネーテテートニ至リ  
 テハ、決シテ此ノ如キ差別ナク、皆固有ノ者ノミナリ、

下ノ諸款〔按〕第十二、十三、十四款ヲ云フ、ニ於テ、國家元首ノ權利ヲ論スルニ方リテヒュルステン、  
 スウエネーテテートノ權ヲ更ニ精論スヘシ、  
 譯者曰、第一款ヨリ本款ニ至ル、論說甚タ深奧ニシ、解シ易カラサル者居多ナリ、讀者宜ク細玩  
 スヘシ、但シ又誤譯ノ多カラシキ者アラハ、幸ニ忠告セヨ、猶再思チ加フヘシ、

國法汎論卷之六 上終

大井潤一 校

書ノ處ハ本書論說中引證スル有名ナル人物ノ繪像ナリ

ペートル・デル・ゴローセ



ルド井グ十五世



ハインリヒ七世



フリードリヒ・ヴィルヘルム・ローマ



リカルド三世



ジョージ三世



ベルナドッテ



ナポレオン三世



ヤコブ二世





國法汎論卷之六 中目錄

第五款 國家ノ元首

第一 君主國ニテ其得位ノ體裁

第六款

第二 世襲法

第七款 繼位ニ就テ人體ノ應否

第八款

第三 民主國ニテ元首起立ノ體裁

第九款 先君ノ義務嗣君ニ遞傳スルノ法

第十款

第四 攝政職ノ設置

第十一款 政柄ノ失去



イ、カ、ブルンチニリ 著

加藤 弘 之 譯

第五款

國家ノ元首(スダートツ、オーベルハウフト)〔按〕君國主ニテハ、君主ヲ元首ト云ヒ、民  
主國ニテハ、統領ノ類ヲ元首ト云フ。

第一

君主國ニテ其得位ノ體裁(エントスターフングスホルメン、イン、デル、モナヒル  
し)

君主其位ヲ得ルノ體裁、古今數種アリ、

〔第一〕選立、太古羅馬ノ國法ニテハ、君主ヲ選立スル法ナリキ、又中古ニ及ヒ、教士ノ君主トナル國  
ニテハ、エプト、ビシヨフ(按)共ニ教化師ノ官名、及ヒ教皇(パプスト)、スラ、皆選立ナリキ、其他匈牙

利、波蘭、非尼西亞ノ君主、及ヒ獨乙帝國等ノ君主モ亦、皆選立ニ因テ、其位ヲ得タリ、而シテ非尼西亞國  
ノ君主ハ、ドローゲト稱シテ、終身其位ニ在ルノ制度ナリキ、

〔第二〕世襲、此體裁中古ニ於テハ、之ヲ用ルノ國屢々タリシカ、其後ニ至リ、漸ク歐洲各國ニ行ハシ  
テ、今時ハ遂ニ一般ノ通法トナレリ、

〔第三〕世襲選立ノ合制(按)元ト世襲ノ法ナレド、時アリ賢愚等ニ因テ、取捨選立スル制(加爾達  
額)〔按〕古時亞弗利加ノ一國、及ヒ古時日耳曼各國ノ制度ハ、世襲選立ノ二制ヲ合用セリ、(卷之四第  
十五款ヲ參照スヘシ)

一 中 六

〔第四〕養嗣禪位ノ制、羅馬ニテ君主自ラ國法ニ因テ、其繼嗣ニ耐ル者ヲ選舉シ、之ヲ子養シ、以テ其  
位ヲ禪リシヨアリ、俄羅斯彼得大帝モ、一時此ノ制度ヲ立テシヨアリ、



六中二

〔第五〕屬國君主ノ選任、大國ノ君主其屬國ノ君主ヲ選任スルコトアリ、中古ノカロリンゲル氏(中古佛朗哥國ノ王)ニシテ、後ニ羅馬帝ニ登リシ氏族)及ヒ獨乙建國ノ初メ其小邦ノ君主ヲ選フニ、此制ヲ用ヒ、近今ニ至リテモ、那破倫之ヲ用ヒ、土耳其國亦之ヲ用フ、

〔第六〕新建國君主ノ選立、新國ヲ建立スルニ方リテ、他各國之ヲ認許スルキハ、互ニ條約ヲ定メテ、其君主ヲ選立スルコトアリ、

〔第七〕君主ノ自立、國家戰亂顛覆ノ際、其他危急存亡ノ秋ニ方リテ、一豪傑衆ニ擢テ、國家ノ大權ヲ掌握シ、以テ自ラ君主トナルコトアリ、(本卷第十一款ヲ參照スヘシ)去レヒ此ノ如キ大事業、若シ公理ニ戻リ、正義ニ背クコトハ、則徒ラニ覆法ノ叛民タルノミ、

○比の利、デル、エローセ(按)普魯士國王、一千七百十二年ニ生レ、八十六年ニ歿ス、又比の利第二世ト稱ス、)曰ク「臣民正義ヲ以テ君主トナルハ、唯選立制度ノ國ニ生レテ、其選立ニ膺ル時、若クハ國家將ヲ亡ヒントスルニ方リテ、忠憤愛國ノ心ヲ以テ、再ヒ國家ノ不羈獨立ヲ復スル時ニ在ル

ノミ」ト

〔第八〕強大ナル外國ノ威力ヲ以テ、君主ヲ立置スルコトアリ、

以上諸體裁中、世襲選立ノ二法ニ就テハ、殊ニ其得失利害如何ニ於テ、諸大家ノ所見、及ヒ各國ノ公論紛然一定セザリキ、○選立ヲ以テ是トスル徒ハ、國家終始賢明ノ君ヲ得ント欲ゼハ、唯選立ノ法ヲ用フルニ如カスト云フ、元來選立法ヲ用フルノ本旨ハ、終始賢君英主ヲ要スルニ在リ、若シ世襲ノ法ヲ用フルキハ、賢明ノ君ヲ必得スル能ハサル、固ヨリ論ヲ須タス、加之選立ノ法ヲ用フル國ニ於テハ、其臣民タル者、司選侯(ワールフルスト)按)昔時獨乙國ニテ、國帝ヲ選擇スル權利ヲ有セシ侯伯ノ類)ノ國帝ヲ選擇スルニ方リテ、之ニ左袒スルト否トハ自己ノ意ニ隨ヒ、其可トスル者ハ、之ニ左袒シ、否ラザル者ハ、之ニ左袒セサルヲ得ルナリ、○此等ノ利アルヲ以テ、古昔ハ選立ノ法ヲ是トスル論、殊ニ

居多ナリキ、

然ルニ近今ニ至ルニ及ヒ、選立ノ法ヲ非トシ、却テ世襲ノ制ヲ是トス、其勢密ニ學者ノ議論上ノミナラス、世間ノ輿論亦普ク此制ヲ是トスルニ至レリ、(近今ノ學者中、獨シスモンゼノミ、)〔按〕瑞士人一千七百七十三年ニ生レ、八百四十二年ニ歿ス、選立制度ノ是ナル所以ヲ主張セタリ、)○今下章ニ於テ將ニ選立制度ノ不可ナル所以ヲ論セントス、

〔第一〕眞ノ賢者ヲ選擇スル、甚タ易事ナラス、然ル所以ニ二理アリ、選者ノ識鑒其當ヲ失シ或ハ誤リテ疑德ノ小人ヲ選立ス、是レ一患ナリ、去レヒ此選擇ノ一事ニ止ラス、人世萬事、十全ヲ求ムルハ、感ヘルノ甚シキ者ナレハ、此一失ヲ以テ、強テ選立ヲ不可ト爲ルニハアラス、尙一理ノ斷然不可ト爲サバ、爾可ラサル者アリ、凡ソ選立國ニテハ、才德衆ニ超ル者ハ、遂ニ君位ヲ得可キノ制度ナルカ故ニ、其選立ノ時ニ方リテ、權力熾ナル者ハ、獨リ其威ヲ逞ウシ、其他比朋ノ黨與起リ、公平ノ心ヲ以テ、國家ノ爲メニ、謀カルコトヲ遺レ、多クハ各私心ヲ抱キ、私利ヲ營ムカ爲メニ、遂ニ自餘司選者ノ權利ヲ屈撓シテ自由ノ道ヲ塞キ、以テ撰擇公正ヲ盡スコト能ハサラシム、是レ二患ナリ、是ニ於テ選立ノ制ハ、遂ニ虛器トナリテ、其實ハ獨リ威力熾ナル徒ノ恣ニ其私ヲ營ム具タルニ過キス、羅馬ノ帝爵國タリシ時ニ於テ、此ノ如キ弊害多カリキ、

〔第二〕動モスレハ司選者中其好ム處ニ僻シテ、之ヲ選舉セント欲シ、執拗ノ勢、各黨相軋シ、覺隙猜忌ノ餘、遂ニ戰ヲ用ルニ至リ、國家ノ安寧ヲ害スル憂ヒト爲ル、昔時獨乙國ニ於テ、屢、此ノ如キ弊ヨリ、國亂ヲ生セシコトアリ、但シ選立ノ制度ヲ改革シ、其宜シキヲ得ルキハ、此憂ヒヲ除クコト、寧シク難キコトナラズ、是レ亦獨乙史上ニ歴然タリ、シスモンゼノ説ニ、選立ノ國ニ於テハ、踐祚ノ争ヨリ國亂ヲ生スルコト多シ、去レヒ其勢ヒ甚頑執ナラス、國家ノ治安ヲ害スルモ亦淺シ、且鎮制ニ就クモ速ナリ、然ルニ世襲ノ國ニ至リテハ、之ニ由リテ國亂ノ生スルコト甚タ希ナリト雖モ、若シ一旦騷擾ノ起ルコトアルキハ、其勢甚タ頑執ニシテ、國家ノ治安ヲ傷ルコト少カラス、且ツ之ヲ撲滅スルモ亦甚タ易事ニアラ

六中三



六中四

スト謂ヒシハ理ナシト云フ可ラス、  
 (第三)選立數次ナルニ隨テ、曾テ王位ヲ得シ諸家國ニ充滿シテ、互ヒニ相猜忌シ、各其志ヲ逞ウセ  
 ント欲シテ、相爭奪スルノ憂ヒアリ、○此憂ヒハ既ニ隆盛ナル國、及ヒ將ニ衰運ニ傾ントスル國等ニ  
 テハ、最モ恐ルヘクシテ、國家ノ安寧ヲ害スルノ最モ劇シ、舊羅馬ノ帝國國タリシ時ニ於テ、此禍害多  
 カリキ、○但シ將サニ隆盛ニ至ラントスル國ニ於テハ、此ノ如キ禍難ニ因テ、却テ國家ノ榮利安寧ヲ  
 増進スルコトアリ、其例ハ舊羅馬ノ王國國タリシ時、及ヒ民主國トナリシ頃ノ事迹ニ於テ明瞭ナリ、  
 (第四)先君既ニ没シテ、未タ嗣君ヲ選立セサル間ハ、一時虛位ノ國(ツヰッセンノイフ)トナルヲ以テ、  
 是レニ因リテ生スル所ノ禍害亦甚カラス、○加特力教派(按)一ニ天主教ト云フ)ニテ、其教皇ノ没シ  
 タル時、速ニ嗣位ノ教皇ヲ選立スルノ規律ニ倣テ、先君ノ没後、速ニ嗣君ヲ選立スルノ規律ヲ設ル歟、  
 若クハ先君主ノ未タ没セサル時ニ於テ、預メ嗣君ヲ選擇スルノ制度ヲ設ルキハ、一時虛位ノ國トナ  
 ルカ爲メニ生スル所ノ憂患、或ハ少シク減スヘキカ如シト雖也、未タ全ク此憂患ヲ根去スト爲ス可  
 ラス、○世襲ヲ非視スル徒ノ論說ニ、世襲ノ國ニ於テ、先君既ニ没シ、嗣君尙幼冲ナルハ、攝政之ニ  
 代リテ、權ニ萬機ヲ掌ルト雖也、必シモ嗣君ノ爲メニ謀ラス、動モスレハ竊カニ其私ヲ營ム者ニシ  
 テ、是レニ因テ生スル所ノ禍難亦甚カラス、加之此禍難ノ時間ハ、選立國ニテ一時虛位國トナルカ爲  
 メニ、生スル禍難ノ時間ヨリモ、甚タ大ナリト云フ、(佛國ニ此ノ如キ禍難ノ起リシコト多クアリ、  
 (第五)司選侯動モスレハ其戚族ヲ選立シテ、世々君主トナサンテ謀ルノ恐レ少カラス、且ツ又選立  
 國ニテハ、動モスレハ君主自ラ大憲ヲ破ルノ憂ヒアリ、○司選侯ノ權力愈々強大ニシテ、能ク大權ヲ  
 其掌中ニ握ルニ堪ルルキハ、是等ノ害亦隨テ愈々大ナリ、  
 世襲法ノ選立ニ勝ル所以ハ、下文ノ數條ニ於ルカ如シ、  
 (第一)王室ト臣民ト相親附スルコト、譬ヘハ猶頭首ト體軀ト相連絡スルカコトク、且ツ其相維持スル  
 ヤ、皆ニ一身ノ終生ニ止ルノミナラス、世々繼續シテ、斷絶スルコトナシ、是故ニ國家ノ元氣終古衰頽セ

六中五

ス、民心ノ和同永ク保存スヘシ、蓋シ世襲君主ハ實ニ國家ノ全力ヲ會メテ、之チ一身ニ寄ル者ナリ、  
 (第二)是故ニ世襲君主ハ、實ニ國家ノ全力ヲ一身ニ會ムル者ニシテ、億兆ト世々其存亡ヲ共ニス、故  
 ニ其憂樂利害亦全ク相異ナラス、王室ノ利樂ハ、獨リ王室ノ利樂ナルノミナラス、即チ共ニ臣民ノ利  
 樂ナリ、臣民ノ憂害ハ、獨リ臣民ノ憂害ナルノミナラス、即チ共ニ王室ノ憂害ト云フ可ク、盛衰興亡都テ  
 相共ニシテ、決シテ相離レルナリ、○世襲君主ニアリテハ、實ニ無道ヲ極メテ、子孫ノ存亡ヲモ願  
 サル暴君ニアラサレハ、彼ノ余カ没後大洪水アルヘシ(按)佛國王路易第十五世ノ暴言ニシテ、己  
 レ終身暴逆無道ヲ極メテ一身ノ欲ヲ充レハ足レリ、子孫ノ存亡興敗ニ至テハ、天命ニ任セテ敢テ顧  
 ミスト云フノ意ナリ)ト云フカ如キ暴言ヲ發スルコトハ、決シテ有ラサルヘシ、然ルニ選立君主ノ如  
 キハ、縱令ヒ英明ノ人ト雖也、一旦私欲ノ念發スルニ至リテハ、動モスレハ國家億兆ヲモ願ニス、恣意  
 無道ヲ極メテ以テ國家ノ敗亡ヲ招クコトアリ、  
 (第三)王室ト臣民ノ愛樂利害全ク相異ナラス、且ツ奕世君トナリ臣トナリテ相離レサル、猶頭首ト  
 體軀ノ相連絡スルカ如クナルカ故ニ、君臣相愛スルノ情甚タ深ク、億兆ハ一君主ヲ親戴シ、其尊榮ヲ  
 畏敬シ、以テ一君ノ身ハ即チ是レ國家全力ノ相會マル所ナリト爲ス、是ニ於テ臣民ノ王室ヲ尊崇シ、  
 王事ニ勤勞スルノ赤心益々深ク、隨テ國民ノ性情頗ル寛厚トナリ、其志操モ亦大ニ増進スルヲ得  
 ン、  
 (第四)世襲君主ハ、一身ノ嗜欲及ヒ國家ノ經濟ニ於テ、能ク節度ヲ守ル者多シ、蓋シ今日ノ需用ニ於  
 テ足ラナク知テ、唯失ハントコト恐ル、カ故ナリ、是故ニ嗜好ノ慾ヲ恣ニスル、自ラ少ク、常ニ能ク容忍ス  
 ルモノニシテ、隨テ國家モ亦自ラ豐富ヲ得ルノ理ナリ、  
 (第五)世襲制度ノ國ニテハ、臣民實祚ヲ覬覦スルノ意ヲ生スルコト少シ、縱令ヒ臣民中ニ威望勳勞衆  
 ニ踰ル英傑アルモ、敢テ王位ニ昇ル能ハス、若シ又國家ニ朋黨起リ互ニ相猜争シテ、其首魁タル者大  
 ニ威力ヲ逞ウシ、國權ヲ操ント欲スルモ、遂ニ君威ニ防遮セラレテ、其志ヲ遂ルコト能ハス、世襲選立  
 ノ利害得失ハ、以上ノ數件ニ論スルカ如シ、去レバ古來預メ斯利害得失ヲ論究シテ、然後ニ此ニ制



可否ヲ參決シ、以テ其國制ヲ立テシモノハ殆ト希ニシテ、多クハ唯古今ノ事迹現在ノ形勢ニ由テ之ヲ定ム、畢竟從來因襲ノ制度ニ從フコト、最モ緊要ナリ、(シスモンゼノ論ニ「已ムテ得サルニ出テス」マテ從來ノ制度ヲ改革スルハ、實ニ恐ルヘキ禍害ヲ招クコト必然ナリト云ヘリ、古今沿革ノ蹟ヲ歷看スルニ、世襲國ノ一變シテ、永ク選立國トナリシハ、殆ント罕レナリ但シ、一旦舊王室倒レテ、一時選立國トナリシコト無キニモアテサレトモ、又直ニ再變シテ、選立君主遂ニ新王室ヲ開キ、以テ其位ヲ子孫ニ傳フルヲ得シコト多シ、○古來選立世襲二制共ニ或ハ幸ニシテ、數世ノ久シキニ延ル者アリ、或ハ不幸ニシテ速ニ斷滅セシ者アリ、○或ハ專ラ賢明ヲ貴フ國アリ、或ハ專ラ門閥ヲ貴フ國アリテ、其意趣各相同シカラス、其利害亦時ニ隨テ各殊ナリ、○民風衰敗セシ國ニテハ不徳ノ小人ヲ選立シテ、其非ヲ悟ラス羅馬帝國ノ事蹟ヲ以テ鑑戒トナスヘシ、○王室盛衰存亡スル所以ノ理、宛カモ活物盛衰死生スル所以ノ理ニ異ナラス、王室既ニ數世ノ久シキヲ經テ、其元氣漸ク衰弊スルコト例ヘハ、佛朗哥國(按)歐洲ノ古國、)ノメロウギン朝(按)佛朗哥國初世ノ王室、)ニ於ケルカ如ク、又君民ノ間相和セシテ、互ニ仇視スルコト例ヘハ、英國ノ斯丟亞爾的朝(按)英國ノ先朝、)ト其臣民トニ於ルカ如ク、又君民ノ心情全ク相離隔スルコト例ヘハ、佛國ノボウルボン朝(按)佛國ノ先朝、)ト其臣民トニ於ケルカ如ク、或ハ閭閻國列邦ノ民心全ク和同セント欲スト雖モ、其君主ハ之ヲ喜ハスシテ、却テ外國政府ニ依頼シテ、其擁護ヲ仰クコト例ヘハ、以太利列邦ニ於ケルカ如クナルモ、臣民遂ニ尊王ノ心ヲ遺レ暴力ヲ以テ之ヲ倒シ、遂ニ新王室ヲ戴テ、國家億兆ノ一和力ヲ復スルハ、必然ノ勢ナリ、

國民門閥ヲ重シテ、系統尊キ王室ヲ喜フノ情アルハ、即世襲制度ノ、堅固ニシテ壞レ難キ所以ナリ、佛國スラ尙ホ未ク此情ヲ脱セサルハ、嘗テ路易那破倫(按)那破倫第三世ナリ、)ヲ選擇セシニテ明瞭ナリ、但、佛國ノ如ク古來數次ノ革命アリテ、數王家ノ子孫今尙存スル國ニ於テ、君主政體ヲ存セント欲セハ、選立制度却テ利アルヘシ、

第六款

第二 世襲法(ダス、エルブレフト)

近世文明開化ノ世トナリシ以來ハ、都テ公私ヲ混淆スルコトナキカ故ニ、世襲繼位ノ事ニ就テモ必ズ茲ニ若意シテ、繼位ト繼統ノ別ヲ明カニシ、繼位ヲ以テ國家ノ公事トナシ、繼統ヲ以テ王室ノ私事トナス、○去レテ繼位法ハ、素ト世襲ニシテ、子孫繼續スルヲ主ト爲スカ故ニ、全ク繼統法ト相離ル、者ニアラス、必ズ此法ニ因テ、繼位法ヲ定ムル者ナリ、  
 (第一)世襲法ハ、國法上ニ於テ、必ズ預定スルコト緊要ナリ、然ル所以ハ、此事殊ニ、國家ノ安危ニ關スル甚大イナレハナリ、(中古ハ國法上ニ於テ、預メ世襲法ヲ確定スルコト無カリシカ故ニ、王族等動モスレハ、此事ヨリ爭論ヲ開キタリ、)○是故ニ世襲法ハ、必ズ憲法ヲ以テ確定スヘシ、決シテ君主ノ意ヲ以テ之ヲ變改セシム可ラス、是、即通則ナリ、古特羅馬ニテハ、此ノ如キ制度アラサリシカモ、獨乙ノ私法ニ於テハ、此規律既ニ備ハレリ、○抑嗣君王位ヲ繼クノ權利タルヤ、直ニ之ヲ先君ニ受ルニアラス、又先君ノ私身ニ代リテ之ヲ得ルニアラス、嗣君ノ之ヲ得ルハ、自カラ當然ノ法アリテ、之ヲ得ル者ニシテ、此事獨乙ノ家産相續法(スタムグーツ、スグツエシヨ、)ト其理ヲ同ウス、○王室一系譬ヘハ一體ノ如ク、歷世子々孫々相續イテ斷クモ斷絶セズ、先君沒スレハ嗣君當然ノ權利ヲ以テ、直ニ其位ヲ繼ク者ニシテ、實祚須臾モ空虚ナラサレハ、恰カモ一王ノ永ク死セサルカ如シ、  
 (第二)是故ニ嗣君位ヲ繼クノ權利ハ、先君沒シテ然後ニ始メテ得ル者ニアラス、必ズ預メ確定スル所ノ者ニシテ、實ニ至重ノ權利ナルカ故ニ、嚴ニ國法ヲ以テ保護スヘシ、君主ノ權ト雖モ、決シテ與奪ノ恣ニスル能ハサルナリ、

歐洲ニテハ、藩土ノ制(レーヘンシステム)〔按〕稍封建ニ類スル制ナリ、卷ノ四第九款ニ詳ナリ、大ニ此繼位法ノ起立ニ裨益ヲ爲シタレトモ、此法タル決シテ其裨益ノミニ因テ起立セシコトハアラス、繼位ノ事亦實ニ最大公事ナルヲ以テ、自カラ起立セシ者ニシテ、之ヲ要スルニ此事誠ニ國家ノ大事ナ



レハナリ、故ニ輓近ニ至リ、藉土ノ制ハ全ク壞レタレ、繼位法ハ共ニ壞ル、コトナク、今仍依然タルハ、蓋シ此理有ルニ因テナリ、

〔第三〕繼位法ハ方今必ス國憲（ニクローツヘルハッスング、）ニ載セテ確定スル所ニシテ、國憲諸條中ニ於テ、重大ナル者ノ一ナリ、

繼位ノ事ハ右ノ如ク至重至大ナルヲ以テ、君主ト雖モ私意ヲ以テ輕シク動ス能ハサル者ナリ、是故ニ君主遺言、或ハ婚約條約（エーヘルタラグ）（按）婚約ノ時ニ方リテ、將來ノ事ニ就テ、互ヒニ結フ所ノ條約ナリ、又ハ王室ノ一家憲法（ハウスゲセツ）等ニ依テ、國憲ヲ犯シテ繼位法ヲ變更スルコトハ萬々得可カラサル者ト爲ス、

中古ノ世ハ實祚ヲ以テ君主ノ私有トナシ、且ツ常ニ國法ト私法ヲ混淆シテ、未タ其別ヲ立ルチ知ラサリケレハ、此繼位ノ事ニ就テモ亦、人々ノ所見全ク今世ト異ナリキ、但シ其頃ノ所見今尙未ダ全ク滅盡セス、方今ノ國法中、儘其遺踪ノ存スル者ナキニアラサレハ、既ニ漸次漸消スルノ時トシテ、

〔第四〕繼位ノ權利ハ、此ノ如ク公明正大ノ理ニ出ルチ以テ、方今立憲國（按）立憲政體ヲ立ルノ國ナリ、ノ文明ナル制度ニ於テハ、繼位法ヲ變革セント欲スレハ、必ス國憲ヲ改正スル規律ニ從テ、立法諸部局ノ議定ニ因ラザルコトナク、且ツ君主ノ外尙モ王族中ニテ、繼位ノ事ニ與カル者モ亦、此會議ニ加ハリテ、共議スルヲ要ス、但シ國憲中若此件ヲ載セサレハ、必スシモ之ヲ要セサルコト、猶新法ヲ以テ一二公權利ヲ變革スルニ方リテ、此公權利ヲ有スル者、其會議ニ加ハルヲ要セサルコトナシ、

繼位ヲ變更スルノ法數種アリ、或ハ全ク從來ノ繼位法ヲ廢シテ、更ニ其新法ヲ設クル者アリ、或ハ唯一人ヲ除ク者アリ、或ハ并セテ子孫ヲ除ク者アリ、（英國ニテ、スツアルト氏ヲ廢シ、瑞典國ニテ、グスタフ第四世ノ子孫ヲ廢シ、佛國ニテ、ボウルボン氏ノ宗家ヲ廢セシノ類是ナリ、）又ハ唯一人ヲ立ルコトアリ、或ハ并セテ子孫ヲ立ルコトアリ、（一千八百十年瑞典國ニ於テ、佛國ノマルシャルベルナド、テナ立タルカ如ク、）此時尋常ノ廢立法ヲ用ヒス、ベルナド、テテ先朝ノ養嗣トシ、其位ヲ繼カシメシカ故ニ、其處置最モ容易ナルヲ得タリ、

〔第五〕世襲法ニ於テ、男ヲ先キニシ、女ヲ後ニスルハ、各國皆同シ、唯其制限ニ至テハ各相異ナリ、

甲 佛國ノ國法ハ羅馬ト同ウシテ、女子ハ必ス王位ヲ繼クコト能ハス、瑞典、比耳時、及ヒ普魯士等亦然リ、

乙 獨乙各國ノ法ニテハ、王族中男子ノ位ヲ繼クヘキ者アレハ、女子決シテ繼位スルヲ得ス、但シ男子全ク缺クルルハ、血統最モ近キ女子位ヲ繼クヲ得、去レテ其子ニ至リテハ、又男子先キニシ、女子後ニスル、仍前法ノ如シ、荷蘭國亦然リ、

丙 英國ノ法ハ、本族中男子缺クシテ、縱令ヒ支族中ニ男子アリト雖モ之ヲ措キ必ス本族中ノ女子ヲ立ツ、西班牙、葡萄牙亦然リ、此法ヲ用フル國ニ於テハ、王室氏族ノ變革スルコト多次ナリ、

（按）英人、一千七百二十三年ニ生レ、八十年ニ死ス、ノ著書ニ、英國ニテハ、輓近二百年間、氏族ノ變シタルコト四次ナリ、第一オラウー氏、第二ブラウンスウイグ氏、第三ハソノール氏、第四コブルグ氏はナリ、

〔第六〕國家ハ專ラ一致和同ヲ要ス、故ニ決シテ其版圖ヲ分割スルヲ許サス、故ニ又數人同時ニ王位ヲ繼クヲ許サス、○中古佛朗哥國、及ヒ其他ノ各國ニテ、版圖ヲ分割シテ、之ヲ許多ノ嗣君ニ與ヘシテ、譬ヘハ猶尋常遺物ヲ數子ニ分與スルカ如クナリシカ、是レ全ク國家ヲ以テ、君主ノ私有ト爲スノ習俗ヨリ起リシナリ、

〔第七〕世襲繼位ハ、唯嫡出ノ子ニ許スヘシ、決シテ庶出ノ子ニ許スヘカラス、且ツ其他婚約條約中ニ、將來所生アルモ、決シテ王位ヲ繼カシメサルノ旨ヲ載セシキハ、其子ハ實ニ嫡出ナレハ、敢テ繼位ヲ許スヘカラス、（此ノ如キ制度ヲ立ルハ、他ニ已テ得ス、繼位セシムヘキ者有ルチ以テナリ、去レ若シ此者ノ繼位權利ヲ廢スルキハ、此子直ニ繼位ノ權利ヲ得ヘシ、）

○上ノ〔第四〕ニ論スルカ如ク、國憲ヲ以テ繼位法ヲ變スルキハ、此ノ如キ王子、雖モ或ハ亦繼位ノ

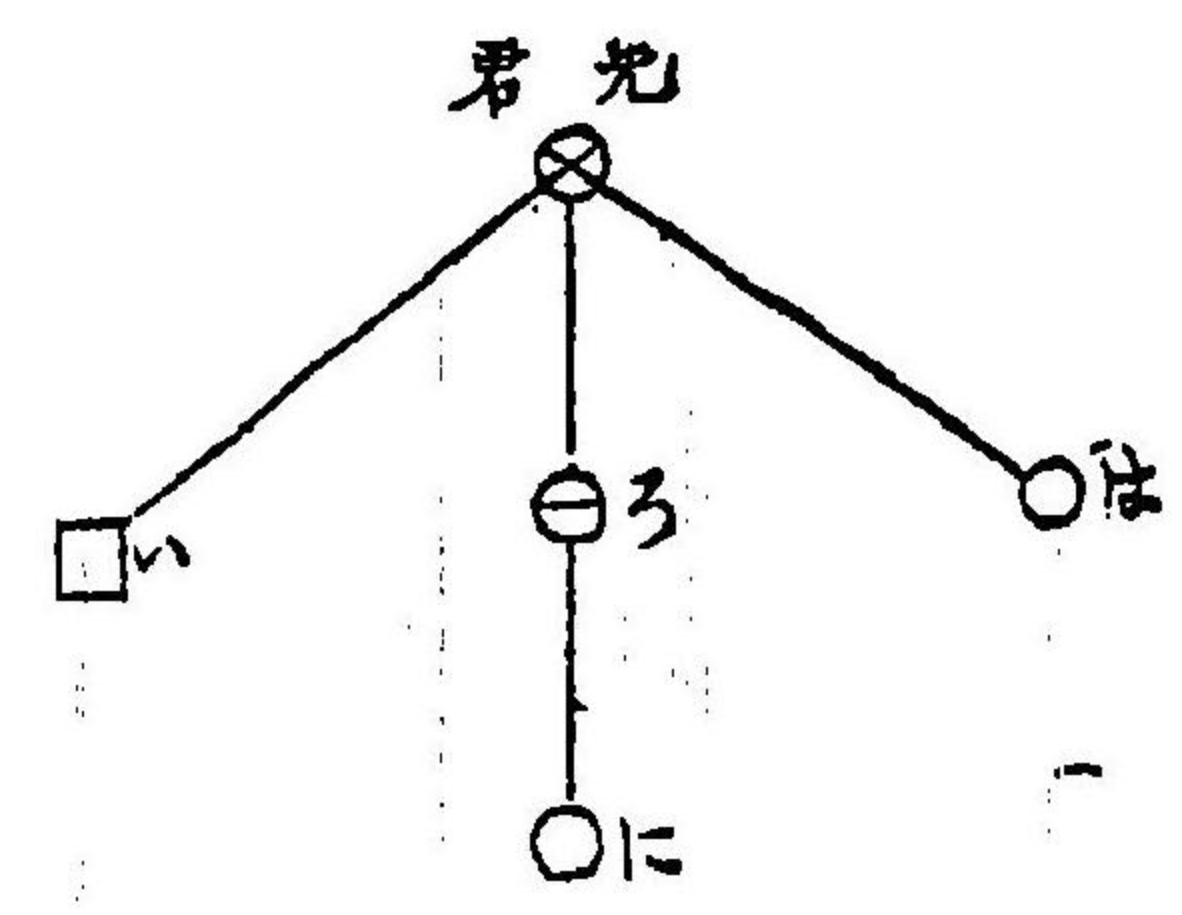


權利ヲ得ルコトアリ、但シ王室敢テ私ニ此ノ如キ變更ヲナスヲ得ス、  
 「第八」其他各國近今ノ國憲ニ於テハ、多クハ唯同等ノ婚媾（エーベンビュルナゲ、エー、按門閥同  
 等ノ男女相婚スルノ義）ヨリ生ル、所ノ子ニ非サレハ、敢テ繼位ヲ許サ、ル法ナリ、〇現ニ君位ニ在  
 ル所ノ氏族、或ハ往時君位ニ在リシ氏族ノ男女、相婚スルヲ稱シテ、同等ノ婚媾トナス、且ツ獨乙ノ  
 國法ニテハ、輒近君權ヲ奪ハレタル高貴族（スタンデスヘル）ト相婚スルモ亦同等ノ婚媾トシテ  
 可ナリ、〇然ルニ又儘一家憲法ニ於テ、他族ト相婚スルキハ、縱令ヒ其氏族、國ノ高貴族ニ列スルト  
 雖也、之ヲ同等ノ婚ト稱セサルモノアリ、此事甚ク頑陋ノ習ニシテ、中古ノ風俗ニモ猶劣レリ、  
 婚媾ノコトニ就テ、此ノ如ク制限ヲ立テシハ、獨乙固有ノ風俗ニシテ、其源ハ私法ヨリ轉シテ、繼位法  
 ニ波及シ、今ニ至リテ其遺習ノ尙存スル者ナレハ、大ニ門閥懸隔ノ風ヲ長スル者ニシテ、開化文明ノ  
 今日ニ於テハ、決シテ緊要ノ事ト爲スニ足ラス、

〔第九〕王家婚媾ノコトハ、重大ニシテ、其生ム所ノ子、當ニ父ノ私有ヲ得ルノミナラス、兼テ亦繼位ノ權  
 利ヲ得ル者ナルカ故ニ、必先ツ國君或ハ代國府ノ許諾ヲ得テ、然後此婚媾ヲ定ムルコト固ヨリ緊要ナ  
 リ、何者、此事ノ處置、大ニ國家將來ノ榮辱安危ニ關係スレハナリ、〇故ニ此事ニ就テハ、國君及ヒ代  
 國府、專ラ國家將來ノ榮辱安危ヲ顧慮スルコト甚ク緊要ニシテ、決シテ勿ク輕舉ス可カラス、去レテ此事  
 既ニ關心ノ累ナケレハ、自餘ハ都テ、相婚媾スル男女ノ意ニ任スル、固ヨリ當然ナリ、然ルニ尙種々ノ  
 陋習ヲ守リ、或ハ他族ノ混同ヲ忌ンテ、男女自由ノ權利ヲ限制スルハ、甚ク非理トス、〇王家婚媾ノ  
 事ハ、右ノ如ク重大ナルヲ以テ、方今各國ノ國憲、必ス其規律ヲ裁定ス、

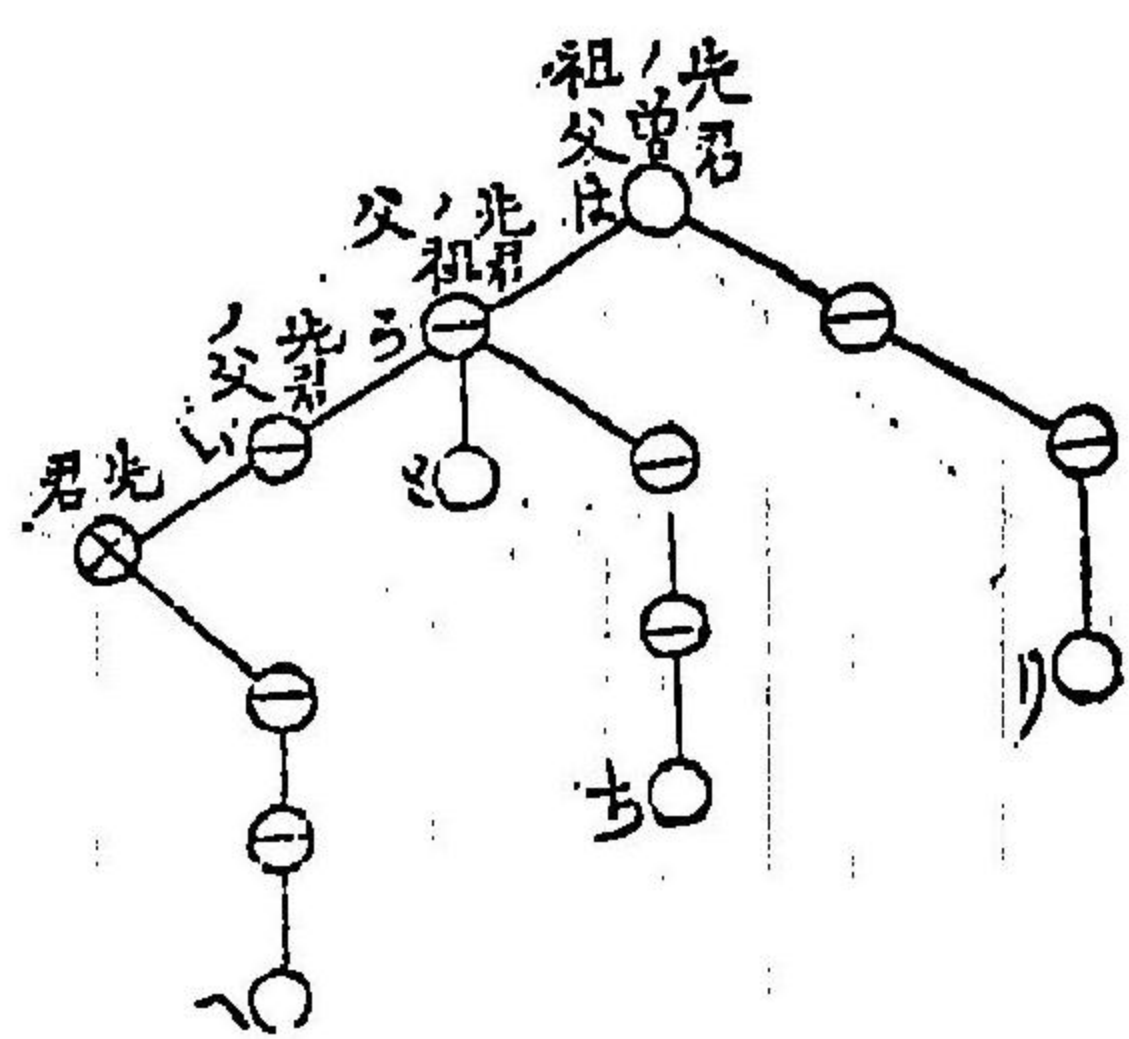
〔西班牙國一千八百三十七年（天保八年）〕議定スル所ノ國憲第四十九條ニ、左ノ文ヲ擧グ、曰ク  
 「國王將ニ婚媾セントスルコト方リ、必先ツ其旨ヲコレテス、」〔按〕立法府ノ稱號ナリ、ニ告示シ  
 而シテ其婚媾條約ハ、必ス此府ノ檢査ヲ經、其許可ヲ取リテ、然後ニ之ヲ約結スヘシ、嗣君ノ婚媾ニ  
 於ケルモ亦然リ、且ツ國君嗣君共ニ憲法ニ於テ、繼位ヲ許サ、ル者ト、相婚スルヲ禁ス、又葡萄牙國

一千八百二十六年（文政九年）ニ議定スル所ノ國憲第九十條ニ、左ノ文ヲ擧グ、曰ク「若シ自今王子  
 ナキカ爲メニ、王位ヲ繼グヘキ王女ハ、必ス國君ノ許可ヲ得サレハ、婚スルコト能ハス、若シ國君既  
 ニ没スレハ、必スコルテスノ許可ヲ經テ、然後ニ婚スヘシ、而シテ其贅夫ハ、敢テ國事ニ預ルヲ許サ  
 ス、且ツ所生アルノ後ニアラサレハ、ケニシテ、按通常王ト認ス、ノ號ヲ用フルヲ許サス、」ト、  
 〔第十〕繼位ノ序次ニ於テハ、方今各國皆長幼ノ序ニ從フ法ナリ、此故ニ先君没スレハ、長子必ス其位  
 ヲ繼グ、長子若シ先君ニ先ツテ没スレハ、長孫之ヲ繼テ、先君ノ次子ハ之ヲ繼グヲ得ス、其餘都テ亦此  
 ノ如ク、必ス本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且ツ一系中ニテハ、必ス長幼ノ序次ニ從フ、而シテ其規  
 律獨リ本族中ニ於テ用フルノミナラス、支族ニ於テモ亦同シ、〇繼位ヲ定ムルコト固ヨリ君主ノ意  
 ニ出ル者ニアラサレハ、其序次ニ就テ、族系ノ親疎遠近ヲ定ムルハ、必ス最後ノ君主ヲ本位トシテ、之  
 ヲ論ス、故ニ祖君ハ、素ト此繼位權利ノ生セシ濫觴ナレハ、却テ之ヲ以テ本位ト爲サス、〇此事ノ意ハ  
 戚族中男子悉ク没シテ、王位女子ニ移ルノ法ニ於テ、自カラ明瞭ナルヲ得可シ、



〔按〕  
 〇ハ男、口ハ女、  
 〇ハ既ニ没シタル男ナ  
 リ、即本文先君ノ長子、父君ニ先ツテ没セシキハ、其孫王位ヲ繼テ、  
 長女及ヒ次子ハ繼グ能ハサルヲ示スナリ、

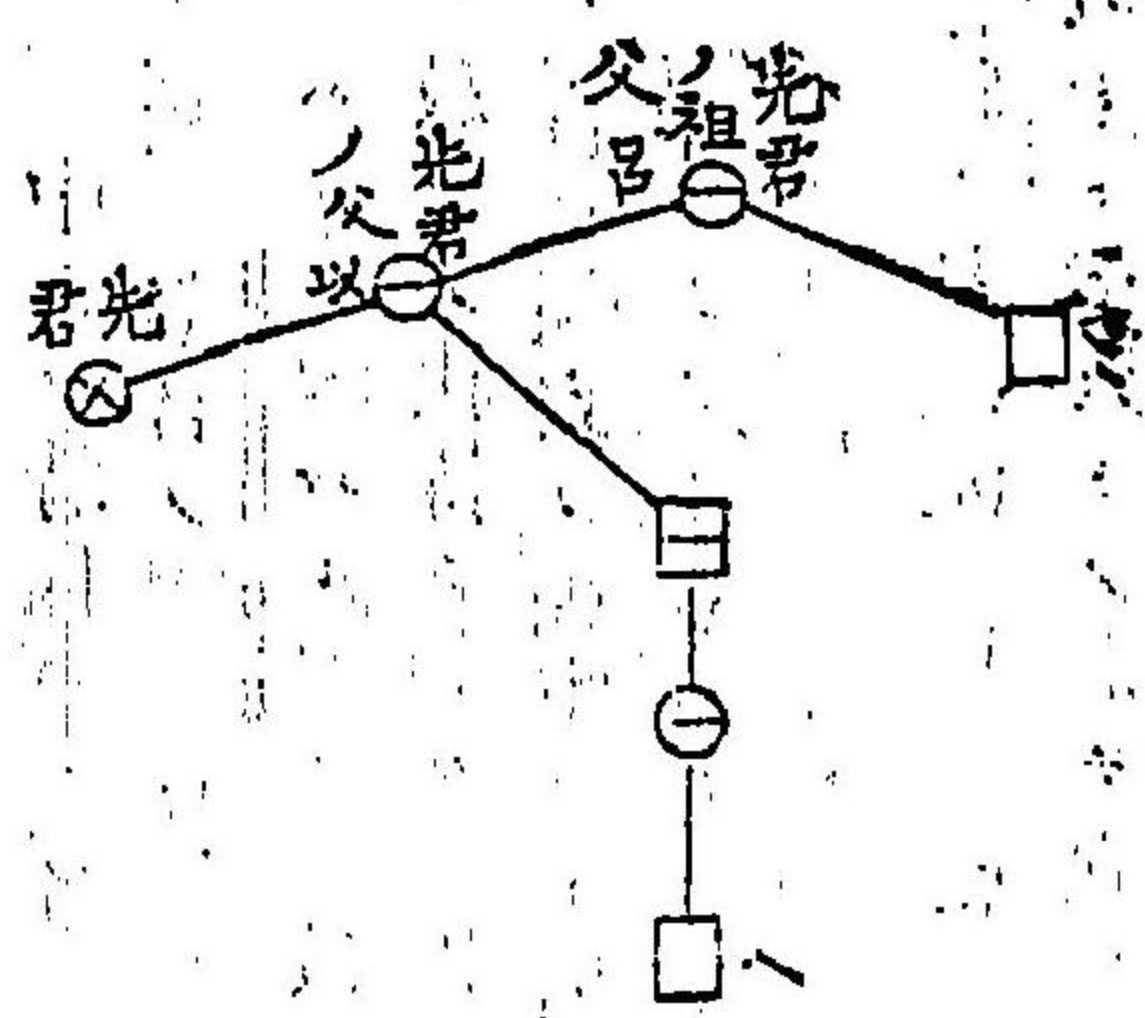




①ナル從孫ハ、②ナル叔父、及ヒ③ナル支族ニ先タチ、又④ハ⑤  
 ①ニ先タチ、⑤ハ、更ニ①ニ先タチ、

〔按〕本系ヲ先キニシテ、支系ヲ後ニシ、且ツ支系中ニモ近キヲ先  
 キニシテ、遠キヲ後ニスルヲ示ス、即チ本系ニ子ナキハ、先ツ第  
 二系ニ移リ、更ニ第三、第四ニ移ルナリ、

②世普ク知ル如ク、換地利國ニテ、嘗テハフスブルグ氏ニ、男子全ク缺ケシ時、最後ノ君主ニ最モ親近  
 ナル女子、宜シク繼位スヘキヤ、若クハ昔時男子ニ先キタ、レテ、王位ヲ繼カサリシ女子、及ヒ其子孫  
 ハ、往時ノ王ニ親近ナルヲ以テ、今宜シク繼位スヘキヤノ疑議起リ、容易ニ決セサリシカハ、遂ニ第一  
 論ニ決シ、最後ノ君主ニ親近ナル女子ヲ以テ、王位ヲ繼カシメタリ、○ハイエルン國ノ國憲ニ載スル  
 所モ、亦之ニ同シ、○此ノ如ク男子全ク缺ケテ、女子王位ヲ繼クノ序次ニ至リテハ、各國大抵羅馬ノ法  
 ニ從テ、血脈ノ近キ者ヲ先キトセス、獨乙ノ法ニ從テ、族系ノ近キ者ヲ先キニシ、而シテ同系中ニテハ  
 血脈ノ近キ者ヲ先キニス、即チ左ノ圖ノ如シ、



①系ニ屬スル所、②ナル從孫女ハ、③系ニ屬スル所ノ④ナル叔母  
 ニ先テ位ヲ繼ク

〔按〕族系ノ近キ者ヲ先キニシテ、血脈ノ近キ者ヲ後ニスル所  
 以テ示ス、即チ④ナル叔母ハ、血脈ニ於テハ、②ナル從孫女ヨリ  
 近ケレド、族系ニ於テハ、從孫女ハ叔母ヨリ近キヲ以テ、先ツテ  
 王位ヲ繼クナリ、

但シ若シ族系血脈共ニ同シキ時ニハ、弟ヲ先キニシ、姉ヲ後ニ爲スヘキヤ、或ハ男女ヲ論セズ、只長  
 幼ノ序ヲ用ユヘキヤ、否ニ至リテハ、定則ナシ、英國ノ如キハ、必ス弟ヲ先キニシテ、姉ヲ後ニスル  
 ノ法ヲ用ヒ、獨乙ノ數國ニ於テハ、男女ヲ論セズ、唯長幼ノ序次ニ從フ者アリ、  
 獨乙ニテハ、長子繼位ノ法、司選侯ノ國ニ於テ始メテ創立シ、爾後獨乙諸國ニ傳播シタリシカ、此法未  
 ク立タサリシ前ニハ、各國繼位ノ事ニ就テ、爭亂多カリキ、

〔第十一〕君主ノ遺物中ニ就テ、國法ニ屬スル者トシ、私法ニ屬スル者トシ、綿密ニ分別スヘシ、其國法ニ  
 屬スル者トハ、第一ニ、君主ノ王位ニ在ルヲ以テ掌握スル所ノ諸公權利、〔按〕權利ハ、無形物ナレド、  
 遺物中ノ尤モ重大ナルモノナリ、〕次ニ、國憲、或ハ一家憲法ニ載定スル所ノ所有物是ナリ、其他創立  
 建造ノ事ニ由リ、或ハ君主ノ遺言ニ由リテ、國法ニ屬スル遺物トナル者アリ、又私法ニ屬スル遺物ト  
 ハ、全ク君主ノ私有物ナリ、○國法ニ屬スル所ノ諸遺物ハ、必ス國法ニ定ムル所ニ從テ、唯嗣君獨リ之  
 ナ受ルヲ得、私法ニ屬スル所ノ諸遺物ニ至テハ、私法ヲ以テ之ヲ處分ス、是故ニ敢テ寶祚ヲ以テ、王家



○私遺物トナス可ラス、軍ニ私遺物ヲ受ル者ハ、敢テ公遺物ニ關スルノ權ナシ

○バイエルン國ノ國憲ニ國法ニ屬スル遺物ト、私法ニ屬スル遺物ノ別ヲ詳ニ記載ス、其國法ニ屬スル遺物トハ、即チ左ノ條件是ナリ、第一、諸簿冊、第二、公事ニ屬スル諸館舍、及ヒ其附屬ノ物件、第三、砲銃、彈藥、兵庫、及ヒ民兵ノ要具、第四、王居ノ樂人、及ヒ吏員ノ官舍、其諸器械、(此器械ハ、王居總裁ノ管スル所ニシテ、王居ノ用ニ供シ、或ハ之ヲ以テ王居ノ盛典ヲ示スナリ)、第五、王居、或ハ宴宮ノ建造、又ハ其粧飾ニ用フヘキ諸具、第六、家寶及ヒ先君ノ之ニ附加セシ物件、第七、文庫、理學器械庫、天工品庫、貨幣庫、古物庫、肖像庫、天文臺、及ヒ其諸器械、圖書庫、銅版圖書庫、其外學術獎勵ノ爲メニ必要ナル物件、第八、國庫貯藏スル所ノ貨幣、及ヒ其他貨本、官舍貯藏スル所ノ天工品、及ヒ歳入ノ未タ收納セサル物、第九、公費ヲ以テ得ル所ノ諸物件、其他私ニ得タル不移動物トイヘトモ、先君未タ嘗テ之レカ處置ヲ爲サ、レハ、是モ亦國法ニ屬スル遺物トナルナリ、

第七款 繼位ニ就テ、人體ノ應否(ベルゼンリ)、エムホルデルニシセ、デル、ヘーヒグカイト、ツール、トローンホルゲ)

〔第一〕中古ノ時代ニハ、各國共ニ藉土法ノ規律ニ因テ、君位繼嗣ノ法ヲ定ムルコト、殆ト舉世ノ風俗ナリキ、故ニ俗君ノ國(按)教士ニ非ル徒ノ治ル國ナク云フ)ニテハ、總テ教士ノ君位ヲ繼クヲ禁シタリ、例(ハ)ロンゴバルデン(按)中古歐洲ノ一國)ノ藉土法ノ如キ、則チ此禁アリ、○加特力教ノ教士ハ、都テ教皇ノ扶持ヲ仰クヲ以テ、若此徒ヲ舉テ君位ニ莅マシムルキハ、之ニ由テ大ニ獨立不羈ノ權ヲ害シ、且ツ國家ノ國家タル所以ヲ失フヲ以テ、今時各國ノ國憲ニ於テモ、亦教士ノ繼位ヲ禁スルコト中古ニ異ナラス、去レテ教士タル者、若シ國家所定ノ規律ニ從テ其職ヲ辭シ、還俗スルキハ、繼位ヲ許スコト當然ナリ、但シ素ト教士ノ君權ヲ執レル國ニテハ、此ノ如キ制度ナキコト、固ヨリ論ヲ俟タズ、波羅特士旦教派(按)通常耶蘇教、又耶蘇正教ト譯ス、即羅馬教皇ノ管轄ヲ受ケサル派ナリ)ニテハ、素ト教士ト俗人トノ別ヲ立ルコト、加特力教派ノ嚴ナルカ如クナラス、且ツ教派ノ職官ヨリ、國家ノ職官

ニ轉スルコトモ、決シテ妨ケナキヲ以テ、繼位ノコトニ於テモ、亦絶テ加特力教派ノ如キ制限アラズ、

〔第二〕今時繼位ニ就テ、必ス教派ヲ一定シ、其教派ヲ奉スル者ニアラサレハ、敢テ繼位ヲ許サ、ルノ法ヲ立ル國アリ、

中古ノ頃ハ、專ラ教派ノ同一ヲ貴ヒ、且ツ國事ト神事ト全ク一致シ、決シテ相離レサルヲ以テ、其本旨トセシカハ、(按)即祭政一致ナリ、此ノ如キ制限ヲ立テシモ、固ヨリ當然ナルコトニテ、既ニ帝ト雖モ若シ教旨ニ背畔スルキハ、直ニ教罰(キル)ヘンバン、(按)加特力教派ノ旨意ニ背クキハ、羅馬教皇ノ權威ニテ、之ヲ教派ヨリ除クノ罰ナリ)ヲ受ケ、隨テ國憲ヲ失フコト常ナリキ、○然レモ、近今ニ至リテハ、固ヨリ國事神事一致ノ論亡ヒテ、全ク離レシ者トナリ、(按)近今祭政一致ノ論全ク亡ヒシハ、蓋シ開明進歩ノ致ス所ナリ)且ツ君主ノ權柄、絶ヘテ其信奉スル所ノ教派ニ因ルヘキ者ニアラサレハ、敢テ此ノ如キ制限ヲ立テ、規律ト爲ス可ラス、但シ若シ君主信奉スル所ノ教派臣民信奉スル所ノ教派ト、相異ナルキハ、之カ爲ニ臣民王室ヲ尊崇スルノ心ヲ去リ、且ツ君主其教派ヲ信仰スルコト甚ダ厚クシ、妄ニ威力ヲ恃テ臣民ノ教派ヲ妨害スルノ憂ヒ少カラズ、故ニ君民共ニ同一ノ教派ヲ奉スルハ、大イニ可ナリ、唯此事ヲ以テ規律ト爲スハ、甚ダ不可ナリ、○但シ基督教ヲ奉スル所ノ各國、方今ハ法理大ニ開明シテ、既ニ頑陋ノ事モ絶ヘタレハ、繼位ニ就テモ、唯基督教ヲ奉スルト否トヲ以テ、其制限ヲ立テ、自餘瑣末ノ流派ヲ論スルカ如キ、陋習ヲ廢棄スルニ至ラハ、將來益、不可ナルナカルヘシ、

然ルニ、英國ノ如キハ、嚴ニ制限ヲ立テ、其國法ニ於テ、波羅特士旦王國ト自稱シ、必波羅特士旦教派ノ君、其王位ヲ繼クニアラサレハ、決シテ國家ノ安康ヲ保ツコト能ハスト爲ス、故ニ加特力教ヲ奉スル者、及ヒ此教派ヲ奉スル者ト相婚セル者ハ、決シテ王位ヲ繼クコト能ハサル者トス、○瑞典ノ如キモ、之ト相同ウシ、必スアウグスブルグ教派(按)波羅特士旦教ノ一派ナリ)ヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位ヲ許サズ、其他希臘國モ亦其國憲中ニオルトゞキス、キリストリ、キル、ヘ、デス、オロント教(按)



六 一ニ希臘教ト稱スルモノ、ヲ奉スル者ニアラサレハ、繼位ヲ許サ、ルヲ裁定シ、又俄羅斯ニテハ  
帝族ハ必、希臘教ヲ奉スヘキノ法ヲ立ツ、

六〔第三〕王位ハ、必、有名無實ナルヘカラス、是故ニ嗣君ハ實ニ政權ヲ執ルニ堪ヘサル虧缺〔按〕身體  
精神、或ハ行狀等ニ於テ、具足セサル所アルヲ云フ、決メアル可ラス、○古時ノ國法ニ於テハ、大ニ此  
事ニ着意シタリ、今時モ又仍、此ノ如キ虧缺ニハ、必、着意セサル可ラス、然ルニ嗣君虧缺甚シカラズ  
シテ、必、スシモ之ヲ廢スルヲ要セサルニ之ヲ廢シ、或ハ虧缺甚タシウシテ、之ヲ廢セサレハ、勢、政府  
亦隨テ立ツヘカテサルニ、仍、之ヲ廢セサル等ノ一儘之アリシカ、此等ノ一ハ、舉措其宜ヲ失スル者  
ニシテ、實ニ非理ト云フヘシ、○此ノ如キ時ニ方リ、或ハ攝政ヲ置テ、政權ヲ委託スルヲアレハ、此事  
却テ國家ノ災害ヲ生シ易ク、且ツ攝政ノ職タルヤ、唯君主姑ク政權ヲ執ル能ハサルノ事故アルカ爲  
メニ、一時權ニ設置スル者ニシテ、決シテ終身政權ヲ執ル能ハサル君主ノ爲メニ、置ク可キ者ニアラ  
ス、然ルニ此ノ如キ時ニ於テ、此官ヲ置クハ、當ニ利ナキノミナラス、却テ害アリ、○是故ニ嗣君此  
ノ如キ虧缺アルニ方テハ、必、機會ヲ失ハス、恰當ノ處分ヲ以テ、此事ヨリ爭論ノ生スルヲ防慮シ、而  
シテ若シ虧缺實ニ大ニシテ、眞ニ君主タルニ堪ヘサレハ、必、預メ立法院ノ議定ニ由テ、之ヲ除クヘ  
シ、是即チ國家安寧ノ爲メ、實ニ已ムヲ得サレハナリ、

〔甲〕身體ノ虧缺、サシセンスピーゲル〔按〕中古獨乙ノ法書、ニ於テハ、陰陽人、矮人、不具人、及ヒ  
癩病ニ罹ル者等ニハ、ランドレフト〔按〕尋常ノ私法ナリ、ニ屬スル、遺物相續ノ權利スラ、尙許サ、  
リキ、況テ君位相續ニ於テチヤ、去レヒ癩病ノ如キハ、必、スシモ治ス可ラサル者ニアラサレハ、唯此疾  
ニ罹ルノ故ヲ以テ、其權ヲ奪フハ、甚タ非理ナリ、故ニ今時ニ至テハ、決シテ此法ニ從フヲナシ、但シ  
其他ノ虧缺〔按〕陰陽人、矮人、不具人ヲ云フ〕ヲ受ケタル不幸人ニ、國家ノ尊貴權柄ヲ負荷セシムル  
ハ、實ニ國威ヲ汚スモノト云フ可シ、

藉土法〔ローレンフト〕〔按〕ランドレフトト相異ナルモノニシテ、藉土ノ規律ヲ定ムル所ノ法ナリ、  
ノ規律ハ、更ニ嚴ニシテ、天性ノ啞人、聾人、盲人等ハ、敢テ藉土相續ノ權利ヲ許サ、リキ、但シ輒近  
藉土ノ制亡ヒケレハ、此法亦用テ爲サ、ルハ論ヲ俟タズ、去レヒ是等ノ徒、國權ヲ執ルニ堪ヘサルハ、  
今仍、同シケレハ、今時ノ法ニ於テモ、亦是等ノ徒ニ繼位ノ權利ヲ許サズ、

〔乙〕精神ノ虧缺、一千三百五十六年〔正平十一年〕定立スル所ノゴルデテブルレ〔按〕中古獨乙ノ  
國憲〕ニ於テ、癡人及ヒ狂人ニハ、繼位ノ權利ヲ許サ、リキ、○此制度ハ、可選侯國〔按〕可選侯治ム  
ル所ノ國ナリ〕ノ爲メニ、始メテゴルデテブルレニ裁定セシト雖、必、此國ノ爲メニ、始メテ設立セ  
シニハアラス、是ヨリ先キ既ニ他邦ニ於テ用ヒシ者チ、此國ニモ亦用ンカ爲メニ、始メテ國憲ニ裁定  
セシナリ、○然ルニ今時繼位ノ事ヨリ爭論ノ生スルヲ恐ル、カ爲メニ、此ノ如キ虧缺アルニ方リテ  
モ、繼位ヲ變スルヲナク、唯攝政ヲ置キ、代リテ政權ヲ執ラシムル國アリ、去レヒ此ノ如キ處置、實ニ  
君民ノ爲メニ利ナルヤ否、未ク知ル可ラス、○

繼位變更ノコトニ就テ、爭論ノ生スルニ、立法院ノ議定ニ因テ之ヲ裁決スレハ、和平ニ至ルヲ、甚タ  
難事ニアラス、然ルニ數十年攝政ヲ置キ、之ニ由リテ生スル所ノ愛害ハ、殆ト除ク可カラサルニ至  
ルヘシ、○ダールマン〔按〕獨乙人、一千七百八十五年ニ生レ、八百六十年ニ死ス、〕ノ政學書ニ云、  
「嗣君此ノ如キ虧缺アルカ爲メニ、其繼位ノ權利ヲ奪フニ方リテハ、先ツ在位ノ君主、其議ヲ親戚  
ニ下シテ、其許可ヲ取リ、且ツ大臣ノ外、立法院モ亦共ニ之ヲ許可セサレハ、決シテ施行ス可カラ  
ス」ト、

〔丙〕行狀ノ虧缺、嗣君行狀不正ノヲアレハ、必、未タ其位ヲ繼ガサルニ及ヒ、立法院ヲシテ之ヲ議  
セシメ、以テ廢立ヲ定ムヘシ、今時ノ法即チ此ノ如シ、

第八款 第三 民主國ニテ、元首起立ノ體裁〔エントスターフングスホルメン、イマン、デル、レプアリッキ〕



六中一八

〔第一〕凡ソ政府ノ職タルヤ、日々コ變化轉遷スル所ノ治安ノ要務ニ着目注意シ、其宜シキニ隨テ、其術ヲ活用スル者ナリ、是故ニ先ツ其方法ヲ立ルニ當テ心思必ス唯一ニシテ、決ソ二途ニ分ルヘカラス、又之ヲ施行スルニ於テ、其能力常ニ前進シテ、決シテ凝滯スヘカラス、但シ民會（ホルクスヘルサムルング）按國民ノ會議ヲ云フ、若クハ代國府會議ノ政ヲ以テ、此ニ要事ヲ舉ント欲スルモ、決シテ能ハサル所ナリ、是故ニ近今ノ民主國ニテハ、通常政令ノ權柄ヲ以テ、或ハ僅々數人ニ附託シ、或ハ一人ノ全權ニ委任ス、瑞士各邦ノ如キ、多クハ第一法（按）僅々數人ニ托スルモノ、一ヲ擇用シ、亞米利加ノ如キハ、第二法（按）一人ノ全權ニ任スルモノヲ運用ス、而シテ此兩法共ニ、實ニ君主國建利ノ意ニ倣フ、顯然タル者コシテ、第二法ノ如キハ、殊ニ然リトス、實ニ大國ニ於テハ、此法制ヲ用ユルニ非サレハ、決ソ理治ヲ得サルナリ、○一千七百九十五年（寬政七年）佛國ニテ、行法權柄（ホルチーヘンデ、グワルト）ヲ以テ、五名ノゼレントリウム（按）佛國此年ニ於テ、始テ民主政體ヲ立テ、五名ノ長官ヲ置テ、政府ノ長トナシタリ、○委託シタリ、然レモ五名ノ合議常ニ一致シ難ク、隨テ政令モ常ニ凝滯スルノ患アリシカ故ニ、遂ニ之ヲ廢シテ、更ニコンスラート（按）人員三人アリテ、政權ヲ掌握シタリ、ノ官ヲ置キ、而シテ第一等ノコンスルー一人、（按）那破倫第一世ヲ、第一等ノコンスルトナシタリ、專ラ全權ヲ握リシカハ、政令ノ施設流シ、カ如ク、聊カ凝滯スルノ患アラサルコ至レリ、其後一千八百四十八年（嘉永元年）更ニ民主政體ヲ復セシ時ニ於テモ、暫時此ノ如キ合議官ヲ置キシカ、政令復々常ニ凝滯スルヲ以テ、直ニ一人ノ統領ヲ舉ケテ、之ニ全權ヲ委テタリ、（按）此時那破倫第三世統領トナリタリ、○國政ノ權一人ニアルキハ、命令常ニ一途ニ出テ、國家ノ一致和同永ク替ラス、隨テ臣民ノ政府ヲ尊親スルノ情自ラ厚ク、且ツ政府モ亦能ク其責ニ任スルヲ得、然ルニ國政合議ニ出ルルハ、其權力分ル、ヲ以テ常ニ弱ク、隨テ臣民ノ政府ヲ尊親スルノ情自ラ薄ク、且ツ政府官員、其責ニ專任スル者ナキニ至ル、○小國ニテハ、此等ノ憂害、大國ノ如ク甚キニ至ラス、且ツ小國ニテ、長官一人衆ニ超ルノ知略アルハ、動モスレハ臣民反テ之ヲ忌惡スルノ情アルモノナリ、故ニ合議ノ制却テ利アリ、○立法院官數十百員ノ中、其所見相表裏シテ、自ラ朋黨ノ相分ル、ハ

固ヨリ必然ノ勢ニテ、怪シムニ足ラス、然レモ此弊遂ニ政府ニ及ヒテ、纔ニ數員ノ間ニ於テモ、亦所見互ニ表裡スルヨリ、朋黨分ル、ニ至レハ、其一致相同全ク壞ル、モノニシテ、治安ノ憂害最モ甚カラス、○

○瑞士合邦ニテハ、ブンデスラート（按）此官員七人アリ、○政令ノ權柄ヲ托シ、其各邦ニテハレギーリソングス、コルレギー（按）此官員數名アリ、○政令ノ權柄ヲ托ス、○但シ昔者州邑ニテハ、ラシグマン、都府ニテハ、ヒルゲマイステル、及ヒスルトハイスト云ヘル官員各一人、其長トナリテ、專ラ政權ヲ執リ、又合邦ニテハ、那破倫第一世ノ補助ヲ以テ、國憲ヲ立テシ時ヨリ、合邦ノラシグマント云ヘル官員一名、政府ノ長トナリテ、其政權ヲ掌握シタリ、然ルニ輓近ゲンフニテ定立セル

國憲、及ヒ今時甚々合議ノ政ヲ喜フノ民情ハ、恐クハ他日又再變シテ、政權ヲ一人ニ委託スルニ至ルノ前徵ナラン、○

○瑞士各邦ニテ、專ラ用フル所ノ選擇法ハ、政府ノ不和ヲ預防スルニ足ラス、若シ合議府（按）政府ナリ、ノ官員ヲ選擇スルニ方リテ、先ツ統領一人ヲ選舉シ、之ヲメ其他ノ人員ヲ預選セシメ、然後ニ立法院ニテ之ヲ議定スルノ法ヲ立ル、然ラサレバ、立法院選擇スル所ノ者、統領ノ意ニ適セサルハ、敢テ之ヲ取ラサルノ權ヲ與ヘナハ、自ラ所見相合スル者、相共ニ政權ヲ執ルコトナルカ故ニ、合議府ノ中、不和ヲ生スルコト少ナカルヘシ、○民主國ニテ、議論一致セサル徒ヲ合シテ、之ヲ合議府ニ置クノ害ハ、君主國ニテ、互ニ和セサル徒ヲ合シテ、ミニストリウム（按）輔相院ノ議）ニ置クヨリモ、其害尙大ナリ、何者、君主國ニテハ、ミニストリウムノ上ニ、尙君主アリテ之ヲ統一スト雖也、民主國ニテハ、合議府ノ上ニ位シテ、之ヲ統一スル者アラサレハナリ、（按）亞米利加ノ如キハ、民主國トイヘド、君主國ノ制ニ倣テ、統領一人ヲ置テ、政府ヲ統一スルカ故ニ、此ノ如キ害アラ

六中九



六中二〇

〔第二〕政府ノ主長ヲ任スルハ、必ス選擇ニ由ル、畢竟ホルク（按）蓋シ茲ニハ國民ノ義ナリ、親ラ政令ヲ爲ス可ラサルヲ以テ、必ス公議ニ由テ長官ヲ選擇シ、以テ之ニ國家ノ全權ヲ委テ、且其尊嚴ヲ授ルナリ、故ニホルク直ニ政令ヲ爲スニハ非サレドモ、政府ノ主長ヲシテ、代リテ政令ヲ爲サシムルノ理ナリ、

ホルク親ラ政令ヲ施ス可ク能ハスト雖モ、能ク其主長ヲ選擇スル所以ニ就テ、論者既ニ講究スル所アリ、其說ニ據ルニ、ホルク公議ヲ以テ、有徳ノ君子ヲ得ルコト難キニ非ラス、唯時アリ誤テ尋常ノ人物ヲ選舉スルコトアレドモ、大ニ誤リテ不徳ノ小人ヲ選任スルカ如キハ、殆ト罕レナリ、○ホルク動モスレハ、治安ニ巧ミナル俊傑ヲ喜ハスシテ、却テ之ヲ避クルコトアリ、且ツ又其好惡愛憎、時アリテ變化スルノ患ヒナキニアラス、然レモ其大人君子ヲ仰慕スル心ハ、甚ク深切ニシテ、且ツ其衆目ヨリ君子小人ヲ辨識シ、敢テ才徳衆ニ擢ニスル所ノ君子ヲ忌妬シ、或ハ姦雄ノ詐謀ニ陥ルカ如キ思ヒナシ、○ホルク常ニ其主長ノ聲譽顯榮ヲ禱リ、而シテ自己ノ聲譽顯榮、自ラ其中ニ寓ストス、○且ツホルク其主長ヲ選擇シテ、至當ノ人ヲ得ルコト、立法院議員ヲ選擇スルニ優ル數等ナリト云フ、（按）以上、ホルク能ク主長ヲ選擇スル所以ヲ論ス、

右論スル所ノ理ニ由レハ、民主國ニテハ、其主長ヲ任スルニ、必スホルクヲシテ直ニ之ヲ選擇セシムルノ法（ウンミツテルハ、ホルクスワール）ハ、全ク廢ス可ラス、却テ立法院ヲシテ選擇セシムルノ法ニ優ルト云フ可シ、古時羅馬ニテ、數百年間此法ヲ用ヒ、又方今瑞士各邦ノ中、萬民直預政治（ウンミツテルハ、バール、デモカラチ）（按）萬民代預政治ト相反スル者ニシテ、所謂代議者ヲ以テ立法院ヲ立ルコトナク、萬民直ニ國政ニ預ル所ノ政體ナリ、○邦ニ於テモ之ヲ用ヒ、以テ國ノ榮譽利益トナス、但シ瑞士合邦、及ヒ其各邦ノ中ニモ、代國府（按）即テ立法院ノ事ナリ、○テ立ル所ノ邦ニ於テハ、代國府ヲシテ、選擇セシムルノ法ヲ用フ、○此選擇ニ法ノ利害ハ、政府一人ノ統領ヲ置クト、合議府ヲ置ク

六中二一

トノ差異アルニ因テ自ラ殊ナリ、譬ヘハ財政或ハ庶務等、其他各課ノ長官タルヘキ者ヲ選擇スルニ就キ、其所長ヲ視テ、之ヲ適應セル職ニ選任スルハ、代國府ニアラサレハ、決シテ能ハス、故ニ瑞士國ノ如ク、合議府ノ各員、是等ノ一分課ヲ掌ル者タルハ、國民ヲシテ、直ニ之ヲ選擇セシム可カラス、然レモ一人乃至二人ノ統領、國家ノ元首トナリテ、政府ノ各課ヲ統一スル者タルハ、直ニホルクヲシテ之ヲ選擇セシムルヲ以テ優レリトス、

北亞米利加ニテハ、統領ヲ選任スルニ、以上二法ヲ合用ス、故ニ選擇權利ヲ以テ、立法院ニ與ヘス、亦直ニホルクニモ與ヘス、蓋シ此權利ヲ以テ立法院ニ與ヘサルノ意ハ、即チ立法院ノ權力ヲ減殺シテ、其詐謀ヲ防キ、以テ統領ヲシテ立法院衆員ノ部下ニ均シカラサシメ、且ツホルクヲシテ大ニ政治上ニ關係スルヲ得セシメンカ爲メナリ、然レモ又此權利ヲ以テ、直ニホルクニ與フルハ、ホルクノ權力甚ク強大ニ過キテ、却テ政府ヲ蔑如スルニ至ルノ恐レアリ、是故ニ直ニ之ヲホルクニ與ヘス、必スホルクヲシテ別ニ選擇者タルヘキ者ヲ選擇セシメ、而シテ之ニ統領ヲ選擇スルノ權利ヲ與フ、是即チ二法ヲ合用スル所以ナリ、○是故ニ先ツ每邦會議ニテ、選擇者ヲ選舉スルハ、此選擇者悉ク集會シ、密議ヲ以テ統領ヲ選擇ス、而シテ其議悉ク畢リタル後、若シ統領ニ選擇セラル、人名、甚ク多クシテ、決定シカクキコトアルハ、之ヲ決議スルノ權ヲ代國府ニ委ヌ、

〔第二〕政府主長頻數變更スルハ、政令更務ノ遺傳屢斷絶シ、且ツ永久或ハ遠大ノ事ヲ謀リテ、之ヲ起創スルモ、旋テ廢滅スルノ患ヒアリ、其他治安ノ根基ヲ鞏固ニシテ、恒ニ民ノ信義ヲ取ラント欲スルモ、決シテ能ハスシテ、大ニ國家ニ害アリ、故ニ政府主長ノ屢ニ變更スルハ、甚ク不可トス、去レモ民主國元首ノ在職ハ、僅々數年ヲ以テ期セサル可カラス、若シ之ヲシテ終身其位ニ在ラシムレハ、即チ是レ君主國ノ選立君主ニシテ、民主國ノ元首ニハ非サルナリ、○是ニ於テ近今之ヲ折衷シテ、一法ヲ立テ、元首ノ在職ハ、必ス數年ヲ限ルトイヘドモ、其人能ク其職ニ適スルハ、更ニ之ヲ選擇シテ、再ヒ其職ニ就カシムルコト爲セリ、○今世ノ民主國ニ於テハ、此法ニ倣フモノ多シ、獨リ一千八百四十八



年(嘉永元年)佛國立ル所ノ國憲ニハ、統領期年ニ至リテ、職ヲ去リシヨリ四年ノ間ハ、必ス再任セ  
シム可カラサル旨ヲ記載セリ、但シ此法ヲ設ルノ意ハ、蓋シ佛國臣民ノ民主政體ヲ喜フ心情、未タ甚  
タ確實ナラサルヲ以テ、若シ統領ノ再任ヲ許サハ、此政體又變シテ、更ニ君主國トナランコト恐レシ  
ナリ、然ルニ遂ニ勞シテ功ナク、破體忽チ變シテ、再ヒ君主政體トナラタリ、(按)此時那破倫第三世  
ヲ以テ統領トセシニ、遂ニ又君主トナリテ、帝位ニ登リシヲ云フ、)

(華威頓ノ説) 統領治安ノ事ニ於テ、聊カ開然スヘキ所ナク、天下ノ衆望全ク歸マルトモ、必期  
年ニシテ其職ヲ去ラシメント欲スルハ、甚タ誤マレコトナリト云ヘリ、然ルニエツヘルソン(按)

米國第三世ノ統領)ハ之レニ反シテ、統領再任ヲ許スノ制度アル時ハ、恐クハ遂ニ再三再四ノ復  
任ヲモ許スニ至ラント云ヘリ、去レテ建國以來未ダ曾テ此ノ如キ弊アルヲ見ス、

(第四)元首或ハ主長諸員ハ、皆自由ノ選擇ニ由リ、既ニ其人物ノ賢愚長短ヲ論定シテ、然後ニ位ニ任  
セシ者ナレハ、世襲君主ノ如ク、其人體ノ應否ヲ論スルヲ要セス、

去レテ、通常左ノ規則ニ從フヲ要ス、

[甲]選擇ヲ得ヘキ者ハ、必ス國家臣民タルノ權利、(スターツビュルゲルノフト) ① 全有スル者ニ限  
ルベシ、但シ其他自國ニ生レタル者ニ非サレハ、決シテ選擇セサル法ヲ設ル國アリ、蓋シ我政府外國  
ノ議論或ハ權力ノ爲メ、動カサル、ニ至ルヲ恐ル、ナリ、

② (按)國中ノ民人ハ、悉皆其臣民クリ、雖モ實ニ國家ノ臣民ト稱スヘキハ、必ス定法アリ、此  
定法ニ洩ルル者ハ、國家臣民タルノ權利ヲ有スル者ト云フヲ得ス、即チ女子、少年、刑人、及ヒ貧  
ニシテ政府ノ救助ヲ仰ク者等ハ、各國共ニ、國家臣民タルノ權利ヲ有セサル者トス、其他ノ規律  
ニ至リテハ、各國皆殊ナリ、第二卷第二十一款ニ詳ナリ、

[乙]老成人ニ限ルヘシ、(北亞米利加ニテ、統領ハ必ス年齒三十五以上ヲ要ス瑞士ニテハ、成人年齒以  
上ヲ要ス、)

第九款 君主ノ義務、嗣君ニ遞傳スルノ法、(ユーベルガング、デル、ヘルブリッツング、デス、レ  
ゲンテン、アウフ、デン、ナーフホルゲル、)

嗣君ハ、先君ノ私身ヲ繼續スル者ニアラス、國家ノ君主タル職ヲ紹續シテ、之ヲ掌ル者ナリ、故ニ先  
君ノ私ニ負フタル義務ハ、法ニ於テ、決シテ嗣君ニ遞傳スルコトナク、唯君主ノ常職ヲ以テ負フタル義  
務ハ、必ス嗣君ニ遞傳ス、是故ニ君主既ニ没スルモ、國家及其元首ノ生命ハ、仍依然トシテ、恆ニ絶滅  
スルコトナシ、

是ニ於テ、左ノ數件ノ規律アリ、

[甲]君主出セシ所ノ布令、任セシ所ノ職務、及ヒ君主ノ職ヲ以テ結ヒシ條約等ノ如キハ、其君主没ス  
ト雖モ、舊ニ仍リテ已ムコトナシ、

[乙]君主若シ他人ニ假貸或ハ救助等ノ事ヲ許シ、又ハ職官ヲ與ヘンコトヲ約シテ、既ニ確定セシキハ、  
君主縱令此約ヲ遂ケスノ没スト雖モ、嗣君必ス此約束ヲ果スヘキ義務ヲ繼續セサルヲ得ス、○去レ  
テ、此類ノ約束、實ニ未ダ確定セル者ニアラサルキハ、縱令現ニ先君トイヘテ、法ニ於テ必ス之ヲ遂  
ヘキ義務ヲ有セス、況テ嗣君此ノ如キ義務ヲ繼續スルノ理ナシ、但シ嗣君仁孝ノ心ヲ以テ、自己ノ私  
情ヲ去リ、專ラ先君ノ遺意ヲ繼テ、此約束ヲ果シ、以テ先君ヲシテ信義ヲ失ハサラシムルハ、甚タ美事  
ナリ、去レテ此事決シテ國法ニ於テ、緊要トスル所ニアラス、唯其政ノ要則ト云フ可キノミ、

[丙]先君ノ處分セシ事ニ於テ、外面ノ證ナキ者ハ、嗣君敢テ之ニ從フヲ要セス、例ハ、政務施行ノ事  
ニ於テ、ミニスレル(按) 皇國ノ大臣ト各省卿ヲ兼任セルカ如キ高官ナリ、又單ニ大臣ト譯ス、)ノ  
連署ナキ者(按)政務施行ニ就テハ、其事ニ預カレルミニニステル、君主ト共ニ必ス連署スルコト通則ナ  
リ)或ハ國憲ノ條規ニ合セサル者等ハ、即、外面ノ證ナキ者ナルカ故ニ、嗣君尋テ之ヲ施行スルヲ要  
セス、○總テ此ノ如キコトハ、唯君主ノ威權ヲ恃テ爲ス所ニシテ、決シテ君主タルノ職ヲ以テ爲ス所ニ  
アラス、故ニ先君ノ在位中トイヘテ、敢テ國法ニ合スル所ノ處分ト爲スニ足ラス、況テ先君ノ没後ニ  
於テテヤ、



然ルニ又先君ノ處分セシコ、縱令實著非理ニ屬シ、或ハ大ニ國家ノ公益益ヲ害スルコト明カナリモ、既ニ外而ニ於テ、法ニ合スルノ證アルキハ、(按)國憲ニ悖戻スル所ナク、且ツミニステルモ既ニ連署セシ者ヲ云フ、嗣君恣ニ之ヲ廢スルヲ許サス、何者、一旦國法上ニ於テ當理トナリシ事、唯君主ノ卒去コト由テ、忽チ不正非理ト變スルノ理決シテ有ラス、總テ事ノ善惡邪正ハ、君主ノ死生ニ由テ、決シテ變易スル者ニアラサレハナリ、再輩國法汎論ニ於テ、公明正大ノ理ヲ以テ論スル所此ノ如シ、

(丁)君主變スルカ爲メ、法亦隨テ變スルノ理、決シテ有ルコトナシ、去レテ先君制定セシ所ノ法ヲ、嗣君更ニ改革スル能ハサルノ理モ、亦決シテ有ルコトナシ、嗣君之ヲ改革スルノ權利ハ、即チ先君ノ之ヲ制定セシ權利ト全ク同一ナリ、何者、國家ハ日々ニ開明進歩スル者ナレハ、其法モ亦隨テ變革セサル可ラサルヲ以テナリ、○去レテ之ヲ改革スルニハ、必ク國法ニ於テ定ムル所ノ規律ニ由テ處置シ、(一)且ツ之ニ由テ決シテ得有ル權利(チールニルナルベテス、レフト、)按)權利ニ原有ト、得有ル別アリ、原有トハ、人生ノナカラニ有スル所ノ權利ヲ云ヒ、得有トハ、作業事故ヨリ生スル所ノ權利ヲ云フ、兵庫縣令神田孝平カ譯スル所ノ性法略ニ詳ナリ、(一)ヲ傷害スルコトナカル可シ、

○例ハ、先王嘗テ國法ノ規律ニ從テ、自己ノ權利ヲ廢セシコアリ、今之ヲ復スルコト、縱令ニ國家ノ爲メニ甚ク緊要ナリモ、恣ニ之ヲ爲ヌテ得ス、必ク之ヲ立法府ニ謀リテ、然後ニ議定スルヲ要ス、

(戊)先君ノ私債ハ、嗣君ノ決シテ償フヘキ者ニアラス、唯先君ノ私産ヲ繼續セル者、私法ノ規律ニ從テ、之ニ償フノ義務ヲ受クヘキノミ、縱令ニ王室家産(スタムグート、)デル、コローチ)ノ爲メニ、此ノ如キ負債ヲ爲スト雖モ、國君タルノ職ヲ以テ爲セシニアラサレハ、嗣君決シテ之ヲ償フノ義務ヲ受クルコトナシ、○但シ若シ此ノ如キ負債ニ因テ王室ノ産ヲ増殖スルコトアルキハ、其増殖セシ數ニ應ジテ、之ヲ償ハサル可カラス、猶ヒデークム、ミスグート、)按)賣却及ヒ贈遺等ヲ禁スル所ノ遺物、或ハレハ、レングート、)按)薪土ノ如ク物主ヨリ薪用スル所ノ物件、)ノ法ニ於ケルカ如シ、

第十款

第四 攝政職ノ設置(ベグクニツング、)デル、レゲント、)ナフト、)

第一世襲君主國コテハ、嗣君幼沖ト雖モ、位ヲ繼テ政權ヲ掌握スルモ妨ケナシ、去レテ成長ノ後ニ至ラサレハ、實ニ此權ヲ施行スルコト能ハス、故ニ其幼年ノ間ハ、必ク攝政(レゲント)ヲ置キ、代リテ政權ヲ執ラシムルヲ要ス、

攝政ヲ置クキハ、國家ニ害アルコト多キヲ以テ、昔時既ニ君主ノ幼沖ト稱スル年齒(ミンデル、)エーリグ、)カイト)トテ、私法ニ於テ幼沖ト稱スル年齒ヨリ短ウスルノ制ヲ立テ、而シテ此年制ヲ過キテ、既ニ成人ノ年齒(ホル、)エーリグ、)カイト)トニ届レハ、直ニ攝政ヲ廢スルヲ以テ、通法トナシタリ、元來國家ノ治安ハ、甚ク容易ノ術ニアラサルニ、斯君主ノ幼年間ヲ縮メテ、眞ニ幼弱ノ君主ニ、政權ヲ施行セシムルハ、甚ク異シムヘキノ似タレモ、是レ實ニ已チ得サルコト出ルナリ、○幼弱ナル君主政權ヲ施行スルガ爲メ、國家ノ安寧ヲ害スルコト、必シモ之レ無キニアラサレモ、其害タル小ニシテ猶避ク可シ、然ルニ數年間攝政ヲ置クキハ、動モスレハ君主ノ權利ヲ害スル者コシテ、之ニ由テ一旦國家ノ危害ヲ生スルキハ、其患實ニ大イコシテ、容易ニ除ク可ラス、○ゴルデチ、)ブルレ、)按)中古獨乙ノ國憲、)ノ法ニテハ、年齒十八ヲ以テ獨乙ノキールヒュルスト、)按)帝ヲ選擇スル權利ヲ有セシ、)ノ國法上ノ成人年齒ト爲シタリ、然ルニ獨乙ノ私法上ニテハ、二十一ヲ以テ成人年齒ト爲シ、羅馬ノ法コテハ、二十五ヲ以テ成人年齒ト爲シタリ、又近今ノ法コテモ、通常十八ヲ以テ君主ノ成人年齒ト爲ス、獨乙各國多クハ此例ニ從フ、英國荷蘭比耳時亦然リ、○瑞典一千八百零九年(文化六年)ノ國憲第九十三款ニ、君主十八ニ至レハ、(按)國政ヲ議スル官、)ホーフステス、)トリブナル、)按)高等法院、)ホフゲリクト、)按)一種ノ法院、)及ヒコレギ、)按)會議ノ官、)ニ參列スルコト得可シ、但シ私法上ノ成人年齒ニ至ラサル間ハ、敢テ其決議ニ預ルコト得サル由チ裁定ス、然ルニ西班牙一千八百三十七年(天保八年)ノ國憲第五十六款ニ、齡十四ニ至ル迄チ、君主ノ幼年ト爲ス由チ職ス、)同國一千八百十二



年ノ國憲第五十八章ニハ、年齒十八ヲ以テ君主ノ成人ト爲ス由テ載セタリ、又佛國ニテハ甲利第五世在位一千三百七十四年ヨリ、年齒十四ヲ以テ君主ノ成人ト爲シタリ、  
 (第二) 中古ノ國法ニテハ、幼君ニ代リ、政權ヲ掌握スル所ノ攝政職ヲ以テ、兼テ君主ヲ保傳スル職(ホルムンドシヤフト)ノ如ク視做ス。常ナリシカ、今時ノ國法ニテハ、大ニ其別ヲ明カニシ、攝政職ハ、國家治平ノ爲ニ設ル所ニシテ、全ク君主ニ代リテ、政權ヲ掌握スル者トナシ、保傳ノ職ハ、唯幼君ノ私身ヲ輔翼スル者トナス、是故ニ攝政ト保傳トハ、其人ヲ殊ニスルモ妨ケナシ、而シテ攝政ニ任シタル者ニハ、政令ヲ托シ、保傳ニ任シタル者ニハ、君主私有ノ事務ヲ托ス可シ、  
 是故ニ現立國法(ボシチーヘス、スターツレフト)按現ニ設立スル所ノ國法ヲ云フ)中、故ラニ攝政設置ノ規律ヲ設ケサレハ、必、私法ノ規律(例ヘハ遺言)按(君主ノ遺言)憲法(按)王家戚族憲法、或ハ一家憲法ノ類ヲ云フ歟)或ハ政府命令ヲ以テ定ム)ニ從テ、攝政ヲ任スルコト、當然ナリト云フ論アレハ、決シテ取ル可ラス、總テ私法ノ規則ヲ以テ、之ヲ國事ノ區域ニ轉用スルカ如キハ、必、方今ノ制度ニ適セサルナリ、故ニ萬一今時ノ現立國法上ニモ、仍、攝政設置ノ規律ハ、必、私法ニ從フ可キ由ヲ載スルキハ、已ムヲ得サレハ、若シ否ラサレハ、必、國法ノ規律ニ從ハサル可ラサルコト、固ヨリ論ヲ俟タス、

方今ノ諸國憲ニハ、攝政設置ノ規律ヲ裁定スルコト詳ニシテ、或ハ預メ其定規ヲ設クル者アリ、  
 臨時ニ之ヲ任スルヲ以テ、規律ト爲ス者アリ、○攝政ヲ任スルノ權ヲ以テ、單ニ君主ニ托セス、又單ニ兩院ニモ托セス、  
 ③必、立法府ノ憲法(按)君主兩院相議定スル所ノ憲法ナリ)ヲ以テ、之ヲ定ムルノ規律アリ、  
 ④蓋、能ク立憲世襲國(コンスタツチオチルレ、エルブモノナルヒー)ニ適應スル法ト云フ可シ、去レハ若シ君主在命ノ日ニ於テ、未タ此ノ如キ憲法ヲ設立セサレハ、幼冲ナル君主ノ最親戚ノ者代リテ此憲法設立ノ會議ニ參列ス可シ、而シテ此人若シ決議ニ預ルコトヲ得サルモ、必、共ニ之ヲ議スルノ權アル可シ、荷蘭ノ制度即チ此ノ如シ、  
 ⑤以聖國ノ國憲第二篇第十章ニ云、「君主成人年齒ニ達シタル王族ノ中ヨリ、嗣君ノ幼年時中、攝

政職ニ任ス可キ者ヲ選舉スヘシ、若シ君主未タ之ヲ選舉セズノ没スレハ、父族(アグナ)按(按)俗ニ父方ノ親戚ト云フニ同シ)中ヨリ、嗣君ニ次テハ第一ニ繼位ノ權利ヲ有セ、成年ノ王族攝政トナル可シト、○又西班牙國一千八百三十七年(天保八年)ノ國憲第五十七款ニ云「君主ノ父、又ハ母、或ハ君主ニ次テハ第一ニ王位ヲ繼クヘキ權利ヲ有セル王族、攝政トナル可シト、○葡萄牙國一千八百二十六年(文政九年)ノ國憲第九十二章ニ云、「君主ニ最モ親近ナル王族、攝政トナル可シ、但、年齒必、二十五以上ヲ要ス」ト、○普魯士國ノ國憲第五十六、及五十七章ニ云、「父族中ニ於テ最モ親近ニシテ、能ク其任ニ堪ユヘキ者、攝政トナル可シ、但、兩院其補助トナリテ之ヲ選擇ス」ト、

⑥比耳時ノ國憲第八十一章ニ云「兩院合併シテ、攝政ヲ選任ス」ト、○瑞典國一千八百零九年(文政六年)ノ國憲第九十三款ニ記スル所モ之ニ同ウシテ、ライフス、ステンデ(按)立法府ナリ)議シテ、一名若シハ數名ノ保傳ヲ選任スト云、「按」此二國ノ制度ノ如キハ、攝政ヲ選任スルノ權利ヲ以テ、單ニ兩院ニ托スルナリ、  
 ⑦英國、荷蘭國、佛國等ノ制度ニ於テハ、攝政ヲ選任スルハ、必、立法府ノ憲法ニ出ツ、(按)此三國ノ制度ノ如キハ、即立憲世襲國ニ適應スル者ナリ、  
 (第三)但、攝政ヲ設置スルコト、皆ニ幼君ノ時ニ於テスルノミニ非ス、又成人年齒ニ屆レル君主ト雖、  
 凡、登祚ノ後、事故發シテ、政權ヲ執ル能ハサルコト方リテ、其事故或ハ甚大ナルコトニ非サル歟、若クハ久シク存スルコトニアラサレハ、必、攝政ヲ置テ、權リニ之ニ政權ヲ托スルヲ要ス、其事故ト稱スル者ハ、左ニ臚列スルカ如シ、

〔甲〕身體ノ虧缺、例ヘハ聾、瘂、啞及大患、  
 〔乙〕癡狂及之ニ類スル精神病、例ヘハ癡愚及最モ甚シキ憂悶、



〔丙〕久シキ不在、〔按〕久シク國內ニ在ラサルヲ云、或ハ幽囚、  
 〔丁〕大ニ君職ヲ損害スル諸業、例ハ暴逆無道、暴ニ國憲ニ悖戾セル政令、及公然治安ヲ害スル苛政、  
 〔戊〕私法ヲ破リテ、自ラ君主ノ體面ヲ汚辱スル所業、  
 〔己〕行狀不善ニシテ、大ニ臣民ノ尊崇ヲ失ヒ、遂ニ政權ヲ保ツコト能ハサルニ至ルヘキ所業、  
 右諸事故中、殊ニ丁戊己ノ如キ者アルニ方リテ、攝政ヲ設置シテ、君主ニ代ハラシムルハ、殊ニ條理及  
 事業ニ於テ、甚ク施シ難シトス、條理ニ於テ施シ難シトスルハ、何ソヤ、抑此ノ如キ時ニ方リテ、君ノ非  
 ナ舉テ其政權ヲ放クシムル者ハ、即チ臣民ナルヲ以テ、冠履全ク顛倒スト云フヘシ、故ニ緩カニ其政權  
 ナ奪フノ外、他罪ヲ加フルコト能ハサルハナリ、又事業ニ於テ施シ難シトスルハ、何ソヤ、總テ暴惡ナル  
 君主ハ、輒ク政權ヲ放ツ者ニアラス、必ズ暴威ヲ逞ウシ、攝政ヲ置ント欲スル徒ニ抗シ、以テ遂ニ之ヲ  
 壓倒スルニ至レハナリ、但シ合同邦（ツースサムメンゲセツツテ、スターテン）ノ如キハ、各邦憲法ノ外、仍  
 全國ノ國憲、若シハ合同國憲ト稱スル、合同各邦ヲ統一スル所ノ規律アルカ故ニ、此ノ如キ時ニ方リテ  
 モ、其處置ヲ得ル自ラ難カラズ、〔按〕獨乙合同邦ノ如キ是レナリ、○是故ニ近今ノ國家學者中、唯甲  
 乙丙ノ事故ノ爲メ、攝政ヲ置ク事ヲ許シ、丁戊己ノ事故ノ爲メニ之ヲ置ク事ヲ許サ、ル者アリ、蓋シ甲乙丙  
 ノ事故ノ如キハ、其事實、素ト政權ヲ執ル能ハサルコト明カニシテ、決シテ君主ノ行狀ニ由ル者ニア  
 ラサルカ故ニ、速ニ判定シ易シト雖モ、丁戊己ノ如キハ、悉ク君主ノ行狀ニ關係スル者ニシテ、自  
 ラ甲乙丙ノ如ク判定シ難キヲ以テナリ、○去レテ此ノ如キ時ニ方リテ、正義ノ術ヲ用ヒテ、速ニ君  
 主ノ暴惡ヲ防ク能ハサルキハ、臣民殆ント之ニ堪ユル能ハスシテ、遂ニ不正義ノ術ヲ用ヒテ、顛覆  
 ナ謀ルニ至ランコト必セリ、但シ此事ニ付テハ、末款君主不保任ノ條〔按〕即第十三款ニ於テ、尙詳論  
 セント欲ス、就テ看ル可シ、

〔第四〕民主國ニテハ、元首幼冲ノ患ナキカ故ニ、攝政ヲ要スルコト幾希ナリ、且若シ統領就職ノ後、事故  
 ニ由テ政權ヲ執ル能ハサルキハ、必ズ副統領之ニ代リテ、政權ヲ施行スルカ故ニ、決シテ政令ノ爲メニ  
 妨ケナシ、然ルニ民主國ニテハ、一ノ患ト爲スヘキハ、統領副統領同ク没スル歟、若クハ其在職ノ期既ニ

滿テ、副統領ノ選擇未ダ定マラサル時ニ於テハ、恰モ選立君主國（ワールモナルヒー）ニ於ケルカ如ク、  
 國家首領ヲ失フテ、一時虛位國（ツサッセンライフ）トナルニ在リ、

第十一款

第五 政柄ノ失去、（ヘル、スト、デル、ヘルシヤフト）

〔第一〕辭謝（エントサーグング）又アブメングング、君主政權ヲ辭謝シテ、之ニ附屬セル義務ヲ棄テ  
 シ、欲スルキハ、其自由ニ任シテ可ナリ、然ルニ此自由ヲ妨ケテ、猶政柄ヲ掌握セシメント欲スルモ、  
 素、治國ノ責ニ任スヘキ力ノ足ラサル者ヲシテ、強ヒテ其責ヲ負荷セシメントスルコトナルカ故ニ、甚  
 理ニ當ラス、且、國事ヲ好マサル者ヲシテ、強ヒテ國事ヲ掌ラシメント欲スルモ、國家ニ於テ小益アラ  
 スニテ、却テ害アリ、但シ僅ニ一邑ノ如キ小民主國ニテハ、強ヒテ政柄ヲ掌握セシムルコトアリ、例ハ  
 瑞士國ニ二ノ山邦等ニ於ケルカ如シ、〔按〕山邦トハ山嶽多キ國ヲ云フナリ、  
 但シ世襲國ニテハ、辭謝ニ二様アリ、一チ無約辭謝ト云フ、一チ有約辭謝ト云フ、君主其位ヲ辭スルニ  
 方リテ、他日重祚ノ約ナケレハ、宛カモ没去ニ由テ、其位ヲ去リシニ殊ナラス、之ヲ無約辭謝ト云フ、又  
 君主嗣君ノ爲メニ謀リテ、一旦其位ヲ讓ルト雖モ、嗣君他日若シ先ツテ没スルコトアルキハ、必重祚スヘ  
 キノ約ヲ立ルコトアリ、之ヲ有約辭謝ト云フ、

〔第二〕默謝（スチルシユワイゲンデ、エントサーグング）敢テ自ラ辭謝セズ、唯勢ニ由テ自然辭謝  
 トナル者アリ、之ヲ默謝ト云フ、但シ之ヲ認定スルコト自ラ容易ナラス、ト雖モ、其實ハ決シテ明謝（アラ  
 スドリニツリヘ、エントサーグング）〔按〕前章論スル所ノ辭謝ト云フ、ニ異ナラス、君主若シ永ク  
 其國ヲ去ル歟、若クハ永ク政務ヲ棄ルニ至ルトキハ、則默謝ト定メテ可ナリ、既ニ一千六百八十八年

（元祿元年）英國顛覆ノ時ニ於テ、其巴力門議員ノ中、眞ニ王室ニ左袒セル黨スラ、尙此理ヲ認許セ  
 リキ、〔按〕英國王ヤーコッパ第二世在位ノ時、教法ノ事ヨリ騒亂起リ、國民王ニ叛テ顛覆ヲ謀リ、  
 ルニ、王ニ之ヲ防クコト能ハス、遂ニ佛國ニ奔リタリ、然ルニ此時王ニ左袒セル黨スラ、猶之ヲ王トマル  
 コト能ハスシテ、其默謝ヲ認定シタリ、○又君主自カラ其版圖ヲ他人ニ賣却シ、或ハ受與スル時ニ於



テモ、其事ノ理非ヲ論セス、總テ君主ノ默謝ト定メテ可ナリ、

〔第三國憲ノ規律ニ從テ實ニ君位ニ在ル可ラサルノ理生シタル者(アイントリット、アイチル、アブソルーション、ウンヘーヒグカイト)例ハ英國ノ國憲ニ於テハ、君主加特力教派(按、基督教ノ舊派、

ニ轉依スルキハ、敢テ君位ニ在ル可ラサルナリ、○但シ方今ハ此ノ如キ時ニ於テモ、亦實ニ甚シカラサ

ル、廢位アル時ニ於ケルカ如ク、唯攝政ヲ置テ、代リテ政權ヲ掌握セシムルヲ以テ、是レトスル國ア

リ、古今此等奪位ノ例、皆モ甚カラス、

〔第四廢位(アインセツツング)中古ノ頃ニハ君主國ニテ廢位ノ事アリキ、民主國ノ如キハ、今仍此規

律アリト雖モ、方今君主國ノ國法ニテハ、通常此規律ヲ用フルヲ許サズ、(猶本卷第十三款ニ論ス)

〔第五奪位(エント、ロオスング)第一、敵國外寇、暴威ヲ以テ君位ヲ奪フアリ、第二、國民舉テ顛覆ヲ

企テ、以テ君位ヲ奪ヒ、君主政體ヲ倒スニアリ、第三、弱者篡奪ヲ企テ、君主ヲ倒シ、以テ國權ヲ吞ムコ

ナリハナシ、

名義正シカラサル君主(按)未ク權利ヲ併有スル能ハスシテ、唯事業ヲ奪ヘル君主(ハ、權威自ラ強

大ナルカ故ニ、速ニ國民ヲ制服セント欲ス、國家實力アル所ノ政府ナキキハ、其安寧秩序、獨リ存ス可

ラサルヲ以テ、臣民亦自ラ此君ニ服從シテ、其命令ニ恭順スルニ至ル、是ニ於テ此君遂ニ其志ヲ得可

シ、縱令ニ儘之ニ服セスシテ、其命令ヲ拒絕セント欲スル者、若クハ其黨與アルモ、僅々數人ノ力能ク

企テ及フ可キニアラス、直ニ兵隊、法官、警守官等ノ爲メ、制壓セラレシト必然ナリ、是時ニ方リテ、名

義正シキ君主(按)既ニ事業ヲ奪ハレテ、唯空シク權利ヲ有スル君主(己レニ忠良ナル臣民ヲ保護セ

ント欲スルモ、力足ラサルヲ如何セン、君主自ラ臣民ノ權利ヲ保護スルコト能ハサレハ、臣民君主ノ權

利ヲ敬重セスト雖モ、亦之ヲ如何トモス可ラス、○去レモ又名義正シカラサル君主、名義正シキ君

主ヲシテ、全ク權利ヲ放シムルコト能ハス、其威力ヲ以テ臣民ヲ屈服セシカ如ク、此君主ヲ屈服シテ

全ク其權利ヲ奪フコト甚々容易ナラス、

○英國ニテハインリヒ第七世ノ時一千四百九十四年(明應三年)巴力門ノ議定ニテ、現ニ事業ヲ

執レル君主ニ勳功アリシ徒ヲ、謀反ノ罪、若クハ他罪ヲ以テ刑ス可ラサル旨ヲ令シタリ、  
〔按〕ハインリヒ第七世嘗テリカルド第三世ヲ擊テ之ニ勝テ、遂ニ王位ニ登リタレハ國民猶  
舊王室ヲ慕フテ、新王室ニ勳功アル者ヲ惡ミシ故、巴力門ニテ此ノ如ク議定シテ之ヲ令シタリ  
茲ニ事業ヲ執レル君主ト云フハ、即ハインリヒ第七世ナリ、  
國ノ假法(ベシツ)遂ニ轉シ國法トナルノ機會ハ、即茲ニ於テ生ス(按)假法轉シテ國法トナルノ  
論ハ、首卷第九款ニ詳ナリ、國ノ假法ヲ以テ、恣ニ之ヲ國法ト爲サント欲スルモ、決シテ能ハス、然ル  
ニ強ヒテ之ヲ國法ト爲サントスルハ、大ニ法ノ法ヲ本旨ヲ害スト云フ可シ、眞ノ法タルヤ、唯直ニ事  
業ニ施シ得ルヲ以テ足レリト爲ス可ラス、必亦其間ニ道義ヲ存セスハ有ル可ラス、故ニ徒ニ人力ヲ  
以テ、假法ヲ轉シ、眞法ト爲サント欲スルハ、甚々誤レルコトナリ、故ニ弱者唯其威權ヲ逞ウシテ、國民ヲ  
制服セシノミコテハ、決シテ名義正シキ君主ト稱スルニ足ラス、代國府、及ヒ諸職官、殊ニ法院等、皆此  
弱者ヲ認テ君主トスルニ至リテ、始テ眞ニ名義正シキ君主ト稱ス可シ、故ニ此時ニ至リテハ、臣民  
タル者、皆必此君主ヲ奉シテ、其命令ニ恭順セスハ有ル可ラス、(按)假法ナル者、始テ眞法トナルノ  
機會、即此時ニ在リ、  
故ニ會テ位ヲ奪ハレシ君主、(按)即名義正シキ君主、全ク其權利ヲ失フノ期限アリ、即國內ニテハ、  
臣民名義正シカラサル君主ニ抗スル能ハスシテ、遂ニ之ニ服從スルニ至リ、又外國ニテハ、其政府兩



六中三二

君（按）名義正シキ君主ト、正シカラサル君主ナ云、ノ間ニ周旋シテ、和平ヲ復セントスルノ謀遂ニ成ラサル歟若シハ兵力ヲ以テ名義正シキ君主ヲ援ケルノ力盡キテ、却テ名義正シカラサル君主ト和スルニ至ルキハ、既ニ名義正シキ君主恢復ノ術盡ル時ニシテ、是レ正ニ此君ノ全ク權利ヲ失フノ期限ナリ、

〔第六〕攝政ハ嘗テ之ヲ設置セシ旨意已ムキハ、則其職ヲ失フコト當然ナリ、其旨意ノ已ムトハ、即チ幼冲ノ君主没シテ、嗣君位ヲ繼ケ歟、若クハ幼君既ニ成人年齒ニ至ルチ云フナリ、但シ若シ其旨意實ニ已ムヤ否ノコト、決シ難キト方リテ、攝政ノ廢置ヲ定ムルニ就テハ、必ス嘗テ之ヲ設置セシ時ニ於テ要シタル國法規律ニ從フ可シ、

大井潤一 校

國法汎論卷之六 中終

國法汎論卷之六 下 目錄

第十二款

第六 國家元首ノ權利

甲 マニステートノ權利

第十三款

乙 不保任及保任

第十四款

丙 施政權 外權

第十五款

丁 施政權 內權

第一 授官ノ大權

第二 授譽ノ大權

第十六款

第三 兵馬ノ大權

第四 警保ノ大權

第十七款

第五 司法ノ大權

第十八款

第六 財務ノ大權

第七 監臨ノ大權

第八 教育方法ノ看護

第十九款

六下目錄



六下目錄

- 第九 權利施行ノ體裁即布告及命令
- 第二十款
- 第十 政府非常ノ權即國家不得已ノ權

國法汎論卷之六下

瑞士 イ、カ、ブルンチユリ 著  
加藤 弘 之 譯

第十二款

第六 國家ノ元首權利、(レフテ、デス、スターツオーベルハウプテス)

甲 マエステートノ權利、(按)マエステートノ本義ハ、尊貴顯榮ト云フカ如キ意ニシテ、帝

王ノ尊稱ニ用フルコ、略漢土ノ陛下ニ相似タリ、然ルモ又君主ノ尊貴顯榮ニ關スル權利ヲモ亦、マエステートノ權利ト稱ス、(猶本文ニ詳ナリ)

(第一)君主ハ即スウエレイン(按)國家ノ大權ヲ掌握スル者ノ義、)ナルヲ以テ、又國家ノ尊貴顯榮ヲモ、一身ニ負荷ス、是故ニ君主タル者ハ、必スマエステートノ權利ヲ有スル者ニシテ、縱令ヒマエステートノ尊稱ヲ得ル能ハサル所ノ君主ト雖モ、此權利ヲ有スルニ至リテハ、決シテ異ナルコトナシ、方今ハマエステートノ尊稱ヲ以テ、唯カイセル、(按)通常帝ト譯ス、故ニ以下皆帝ト譯ス、)及ヒケレニク(按)通常王ト譯ス、故ニ以下皆王ト譯ス、)コトニ用ヒテ、其他ノ君主ハ、縱令ヒ國家ノ主權ヲ掌握スト雖モ、決シテ此尊稱ヲ用ヒス、元來此尊稱タルヤ、羅馬ニテ帝位ヲ尊稱スルニ用ヒタルヨリ起リ、次テ佛朗哥國ニテ用ヒ、又夫ヨリ傳ヘテ獨乙帝ニモ用ヒタリ、其後又中古ノ末ニ至リテ、王ヨリ帝ヲ尊崇スルニ此稱ヲ用ヒタリ、去レモ王ハ帝室ヨリ、此稱ヲ受ルコト能ハサリキ、○又エストハ、一レンノ講和(按)一千六百十八年ヨリ、其四十八年ニ至ル迄、三十年間、獨乙ニテ戰爭アリテ、遂ニエストハ一レンコトテ、始メテ和陸整フタリ、世之レチ三十年ノ戰爭ト稱ス、)ノ後ニ至リテハ、獨乙政府(按)即帝ノ政府ナリ、)ヨリ、王ヲ尊崇スルニ、マエステートノ語ヲ用フルコトナリ、且ツ司選侯(シールフェルスト)モ亦、此尊稱ヲ受ンコト望ムニ至レリ、但シマエステートノ權利ナシト雖モ、唯此尊稱ヲ得、ニ於テ妨ケナシ、是故ニ后妃及ヒ既ニ位ヲ禪リテ、



六下二

政權ヲ辭セル君主ニモ、其尊榮ヲ表スルカ爲メ、此尊稱ヲ用フルヲ通例トス、  
マエテ、テートノ權利ハ、復此尊稱ノ有無ニ關スルコトナシ、是故ニ君主ノ國家元首タル尊榮ヲ毀損  
スル者アルハ、之ヲマエステートベライゲング(羅甸語ニキリメン、レセ、マエスタナスト云、)  
〔按〕君主ノ尊榮ヲ毀損スル罪科ノ義、ノ罪ヲ犯セル者トシテ、臣民ノ體面ヲ毀損セシヨリハ、更ニ  
重キ刑ヲ加ヘタリ、

方今民主國ノ國法ニテハ、其元首ニマエステートノ權利、及其尊稱ヲ與フルコトナシト雖也、舊羅馬民  
主國ノ法ニテハ、其主長ニマエステートノ權利ヲ與ヘタリ、但シ尊稱ハ與ヘサリキ、

〔第二〕君主ハ敢テ侮辱ス可ラス(ウンヘルレツリフカイト)ト爲シ、且ツ君主ノ身ハ、即チ神聖(ケ  
ハイリフト)爲ス、而テ此事モ亦、羅馬ノ國法ニ於テ、始テ詳定セシコナリ、元來羅馬ニテホルクスト  
リテン)ノ權利ヲ確保センカ爲メニ、若シ之ヲ侮辱スル者アレハ、天神必ス其身軀、及其所有物ヲ没入  
ス可シ(サクロサンクチ)ト定メタリ、然ルニ其後羅馬帝起ルニ至リテ、此ホルクストリテンノ權力、  
及ヒ此規律(〔按〕天神必ス其身軀所有物ヲ没入ス可シト云フ規律)ヲ合セテ、共ニ帝ニ移傳シ、且、基督  
教行ハル、ニ至リシヨリ、帝ヲ以テ神聖ト爲スノ意、益確實トナレリ、

〔按〕古時羅馬ニパトリシール及ヒプレベスト云ヘル二種ノ民アリテ、パトリシールハ貴族、プ  
レベスハ平民ナリシカ、一時此二種ノ民不和ヲ生シテ、遂ニプレベスノ族、ハイリグベルグト云  
ヘル山中ニ移住セシニ、其後又パトリシールト條約ヲ爲テ、爾後プレベスノ中ヨリ、代議者ヲ出  
シテ、パトリシールト共ニ、國事ヲ議スルコトヲ定メタリ、仍テ此代議者ヲ稱シテ、ホルクストリア  
ン云ヒシナリ、

加特力教ヲ奉スル所ノ國ニテハ、此二件(〔按〕君主ヲ侮辱ス可ラサルコト、及ヒ君主ヲ神聖ナリト爲  
スノ二件)ノ意、今仍盛ナリ、但シ波羅特士且教ヲ奉スル國ニテモ、君主ノ侮辱ス可ラサルノ規律ハ、國

法ニ於テ甚緊要トシテ、嚴ニ之ヲ定ムト雖モ、君主ヲ以テ神聖ナリト爲ス規律ニ至リテハ、方今全ク  
廢シタリ、

○巴以里國一千八百十八年(文政元年)ノ國憲ニ云、王ノ身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可カラズ、  
又西班牙國一千八百三十八年(天保九年)ノ國憲ニ云、王ノ身ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可カラ  
ズ、又云、王敢テ保任ノ責ヲ負ハス、(〔按〕保任ノ事、本卷第十三款ニ詳ナリ、)又據地利一千八百  
四十九年(嘉永二年)ノ國憲ニ云、帝ハ神聖ナリ、敢テ侮辱ス可ラス、又云、帝敢テ保任ノ責ヲ負  
ハス、(〔按〕以上三國ハ、皆專ラ加特力教ヲ奉スルノ國ナリ、故ニ今仍君主ヲ以テ神聖ト爲スノ  
規律ヲ存ス、)然ルニ荷蘭一千八百四十八年(嘉永元年)ノ國憲、及ヒ普魯士國一千八百五十年嘉  
永三年ノ國憲ニハ、唯王ヲ侮辱ス可ラサル旨ヲ載スルノミ、(〔按〕此二國ハ波羅特士且教ノ國ナ  
リ、故ニ王ヲ以テ神聖ト爲スノ規律ナシ、)

〔第二〕君主ハ其尊榮及ヒ威嚴ヲ表スルカ爲メ、必ス國ノ表章(ライフスインシグニ)ヲ携帶ス、冠ハ  
乃マエステートノ表章、劍ハ乃正善ヲ保護シ、邪惡ヲ懲罰スル威權ノ表章、環ハ乃公明仁慈ノ表章ナ  
リ、其他猶各國皆各種ノ表章アリ、譬ヘハ古時獨乙帝ノ位ニ即クニ方リ、始テ得シ所ノ金ノライフ  
スアッペル(〔按〕眞實ノ如ク球形ニ造リタル物)ハ、即全地球ヲ統御スルノ表章、又雙頭ノ鷲ハ、昔時  
獨乙ノ内相和セシテ、互ニ抗拒セシテ、國帝始テ立ツニ迫テ、之ヲ和セシメ、以テ一體トナセシ  
テ、示スノ表章ナルカ如ク、其他又百合花ハ佛國王ノ表章、獅子ハ英國王ノ表章ナルカ如シ、儘又王自  
ラ好テ、各種ノ表章ヲ用フルコトアリ、

〔第四〕其他王位ノ隆榮ヲ表スル者二類ナリ、其一ハ、即王室ノ職官(ホフスタート)其二ハ、即君主ヲ  
崇敬スルニ要スル所ノ善美ノ儀禮(セレモニ)是ナリ、古時佛朗哥國ニテ、王室ニ四種ノ職官(〔按〕  
四種ノ官トハ、用度ヲ掌ル官、厨房ノ事ヲ掌ル官、審藏ノ事ヲ知ル官、閑廐ノ事ヲ掌ル官、是ナリ、)マ

六下三



エルク氏著ス所ノコンヘルサチオニス、レキシコン王室ノ部ニ詳ナリ、チ置キシヨリ、中古ノ諸王室、亦皆此制度ニ倣ヒタリ、而今時王室ノ職制、亦之ニ淵源スル者多シ、又今時君主ヲ崇敬スルノ儀禮ニ至リテハ、古時ビツッソツ帝國(按)紀元二百九十五年ニ於テ、羅馬帝チオドシウス、デル、ゴローセ、羅馬國ノ所屬チ二分シテ、東西ノ一國トナシ、以テ其二子ニ與ヘタリ、其東國チ稱シテ東羅馬又ビツッソツ國ト云ヒケリ)ニテ、用ヒタル儀禮ニ倣フモノアリ、但シ此國ノ儀禮ニ於テハ、君主專治國ノ意、甚盛ナルノミナラス、尙且、東方諸國(按)亞細亞諸國チ云フ)ノ風習ニテ、教法ノ意、黨緒ノ事體、關係スルカ如ク、此儀禮中ニモ亦、教法ノ意寓スルモノニシテ、大ニ方今文明開化國、自由ノ道理ニ戻レル者ナキコアラズ、

〔第五〕君主ハ、必ス隆盛豐饒ナルヲ要ス、然ラサレハ、決シテ蕪々タル尊貴チ示スニ足ラス、然ルニ民主國ノ如キハ、之ヲ以テ緊要トスルコトナシ、但シ縱令ヒ民主國ト雖モ、其主長タル者、衣食ニ乏シク、困厄貧窶、其生チ送ルヲ以テ、主適トスルノ理ハ、決シテアル可カラズ、蓋シ主長タル者、此ノ如クナルキハ、啻ニ豪戶ノ壓倒スル所トナルノミナラス、尋常富民モ亦、睥睨スルニ至ル可シ、○君主國ニテハ、國家億兆仰ク所ノ榮光、常ニ君主ト、其戚族ノ身ニ衰マリ、煥然トシ、其光輝チ發揚スル者ナレハ、君主ノ豐饒ナルハ、實ニ緊要ノ事ト云フヘシ、

君主ノ家産ハ、其君職チ盡スカ爲メニ、必要ナル費チ支償スルヲ以テ、足レリト爲ス可カラズ、其家産ヲ以テ、尙汎ク國民ニ慈惠チ施シ、且ツ國內ノ學術技藝チ勸導獎勵シ、以テ人才チ育セスハ、アル可カラズ、非的利、デル、ゴローセノ語コト、人君ハ、猶天ノ日夜雨露チ降シ、常ニ下土チ潤シ、止マサルカ如クナル可シト云ヘリ、故ニ君主ノ多ク財チ費セヤ、唯節度チ失テ、奢侈淫蕩ニ流ル、ノ弊チ生スルニアラサルレハ、却テ國家安康ノ爲メ、甚タ緊要ナルコトニシテ、決シテ惡シキコト爲ス可カラズ、○是故ニ王室ノ貧富ハ、猶君主ノ一身ニ於ルカ如ク、殊ニ全國ノ利害ニ關係スル者ニシテ、決シテ臣民ノ貧富ノ、其一身ニ止マルカ如キコアラズ、故ニ王室ノ財政ハ、民人ノ家事ト、其意全ク相異ナリ、羅馬國ノ帝國トナリシ以來ハ、其民主政體ノ時ニ於テ、國家ノ所有タリシ財用チ、漸ク帝ノ有トシテ、

之ヲ自己ニ屬セルヒスクス(按)所有ナリ)ニ合併スルニ至リ、總テ國家ノ所有チ以テ、其諸法典ト共ニ、悉皆帝ノ專ラニスル所ト爲セリ、又中古羅馬人種、及ヒ日耳曼人種ノ各國(按)羅馬人種ノ各國トハ、歐羅巴ノ南方、及ヒ南西方ノ各國ニシテ、殊ニ以太利、西班牙、葡萄牙國等チ云ヒ、又日耳曼人種ノ各國トハ、歐羅巴中央、及ヒ北方ノ各國ニシテ、殊ニ獨乙、荷蘭、瑞典、那威等チ云)ニテモ、君主巨大ノドメイン(按)君主ニ屬スル土地ナリ)チ所有シ、且ツ國家ノ稅餉チモ、悉ニ用フルノ權チ有シタリ、但シ政府ノ定費、及ヒ法院ノ費用等ハ、總テ其所有チ以テ、之チ償フノ義務チ荷フタリキ、然ルニ近今ニ至リテハ、大ニ公私ノ分別チ明ニシテ、此ノ如キ混同チ廢シタリ、

甲 眞ニ國家ノ所有タル可キ者ハ、決シテ獨、君主ニ屬セス、必、國家全體ニ屬スル者ニシテ、國家ノ諸歲入ハ、悉皆國家ノ所有スル所ナリ、故ニ又此所有チ以テ、諸歲出諸公費チ償フコト、當然ナリト爲ス、

乙 王室ノ費用チ償フカ爲メ、國家ヨリ君主ニ附與スル所ノ財用ハ、即チチヒールリステト稱スル者ニシテ、之ヲ以テ王室ノ私事ニ費スハ、君主ノ自由ニ任ス、

丙 眞ニ王室ノ私有タルモノ、

始、テチヒールリステノ制チ設ケシハ、英國ニシテ、最初ハ、毎年(カレン)ノ會議ニテ、其額チ定メシカ、後世ニ至リテハ、預、定額チ立テ、屢變更スルコトナシ、○但シ其始、ニ於テハ、從來王室ニ收受セシ國家歲入、及ヒ稅餉チモ、チヒールリステニ加ヘタリシカ、輒近ニ至リテハ、全ク此等ノ稅餉チ除去スルコトナリ、且、近今各國立憲君主國トナリ、及ヒ國憲ニ於テ、全ク此ノ如キ混同チ廢スルコトチ確定シタリ、○但シ此ノ如キ公私ノ混同チ全廢セシ以來、君主歲入ノ額ハ、全ク代國府ノ議定ニ因ル者トナリ、從前公私混同チ世ノ如ク、全ク王室ノ自由チラサルハ、因ヨリ論ナシ、去レヒ此混同チ廢セシカ爲メ、王室會計ノ規則能ク整ヒ、又屢、費用多寡ノ差ヒチ生スルノ憂、或ハ俄ニ許多ノ費チ鎖スル等ノ下、憂全ク止ミ、且、額數既ニ定マレルカ故ニ、預、費用チ算定シテ、其節制チ設ルコト、自ラ又容易トナリ、



六下六

其他國民モ亦國家ノ經濟ニ預ルヲ得テ、王室奢侈ノ爲メ、收斂セラル、等ノ患除キ、又王室窮カニ代  
國府ニ賄屬シテ、若干ノ徵稅ヲ議定セシムル等ノ弊止ミ、且、時勢ノ變化ニ隨テ、チヒールリステノ  
額ヲ定ムルコト、甚容易トナリ、君民共ニ大ニ便チ得ルニ至レリ、

○一千六百八十九年(元祿二年)名聲盛ナル頓覆ノ後、維新第三、及其妃馬亞即位ノ時、於テ、始テ  
定額ヲ立テタリ、(按)一千六百八十九年ニ神教及ヒ暴政ノ事ヨリ頓覆起リ、國王ヤコブ第二  
遂ニ佛國ニ奔リケリ)

パトリモニアール、スタート(按)本卷第二款ニ出ツ)ニテハ、國家ヲ以テ、王室ノ私有トナスカ故ニ、

決シテチヒールリステノ制アル可キ理ナシ、然ルニ方今歐洲各國ノ君位ノ如ク、盛強ノ威望ヲ以テ、  
其全權ヲ一身ニ負荷セル者ニ、チヒールリステヲ附與スルハ、眞ニ當理ノ事ト云フ可シ、頭首ハ其滋  
養チ、體軀ノ各部ヨリ資取スルニアラサヤ、然ラハ、則國家全體ノ爲、其理治ニ勞スル君主ニシテ、其  
需用チ國家全體ヨリ資取スルコト、何ソ非理トセンヤ、

チヒトルリステハ、通常毎歲ノ定額金、及ヒ王居、宮殿、博物院、其他寶器ノ類、總テ國家ヨリ王室ニ附與  
スル者ヲ云フ、英國ニテハ、君主ノ即位毎ニ巴力門憲法(按)王ト兩院ト相議シテ、定メタル憲法ヲ

云)ヲ以テ、其君主在位中ノ定額ヲ立ツ、佛國亦其恢復(按)一千八百十四年ボウルボン氏再ヒ王位ヲ  
得ルニ云)ノ時ヨリ、此制ニ倣ヒ、比耳時モ亦此制ニ倣フテ、國憲第四十三條ニ、其旨ヲ記載シ、荷蘭亦  
此制ヲ取テ、其國憲第二十七條ニ、之ヲ記載セリ、其他ノ各國、亦此制ヲ取ル者多シ、唯獨乙各國ニテ  
ハ、或ハ預メ金額ヲ定メテ、終始變更セサル國アリ、或ハ國家ヨリ王室ノ所屬トセルドローン(按)前  
ニ見ユ)ノ稅餉ヲ以テ、其歲入トスル國アリ、○又西班牙ノ如キハ、其國憲第四十九條ニ據ルニ、君  
主ノ即位毎ニチヒールリステノ額ヲ定ムルコトヲ、專ラコルテス(按)立法府ナリ)ノ議ニ委任ス、爾荷

牙ノ國憲第二十七條ニ載スル所モ亦之ニ同シ、又希臘國ニ於テハ、其國憲第三百五十七條ニ、十年毎  
ニ會議ヲ以テ、チヒールリステヲ改正スル由チ載ス、○但、兩院ナシ、其欲スル所ニ隨テ、屢、君主  
需用ノ額ヲ變更セシメ、且、此額ヲ以テ、朋黨相爭フテ、不正ト爲サシムルカ如キハ、實ニ君主ノ君主タ  
ル威望ヲ損スルノ甚シキ者ト云フ可シ、

○巴以里國一千八百三十四年(天保五年)ノ國憲第二十三條、及ヒ普魯士國一千八百二十年(文政三  
年)ノ國憲第五十九條ヲ參看ス可シ、

○ダールマル(按)獨乙ハ、一千七百八十五年ニ生レ、八百六十年ニ死ス)ノ政學書ニ、「毎年金額ヲ  
定ムルカ如キハ、一私人ノ家事ニ於テスラ、尙堪ユ可カラズ、去ルチ國家第一等ノ王室ニシテ、此ノ  
如キ制アルハ、實ニ笑フヘキコトナラスヤ」ト云ヘリ、理アル論ト云フ可シ、

チヒールリステヲ以テ、他ノ國家所有ト全ク相分テ、國ニ於テハ、國家ノ歲入、其歲出ヨリ多キハ、  
則之ニ由テ國家ノ儲蓄ハ増益スレド、君主ノ富有ハ決シテ増益セズ、又君主國家ヨリ收受セシチヒ  
ールリステヲ節用シテ、貯蓄チ爲スルハ、若シ他ノ事故アルニ非レバ、君主ノ富必ズ増益スルヲ得可シ、  
王子及ヒ王族ノアパナーセ(按)王子王族ノ費用ノ爲メニ、國家ヨリ附與スル所ノ金額)ハ、之ヲチヒ  
ールリステノ内、算入セスシテ、別個ニ附與スルチ良法トス、總テ君主ノ位置ハ、國家至重ノ者ナルカ故  
ニ、其チヒールリステヲ以テ、兼テ多少ノ王子王族ノ需用ニ充テシムルハ、甚可ナラス、王子王族ハ、自  
ラ王室所有(スタムヘルメーゲンス、デル、コローチ)ノ貧富ニ準シ、其品位ニ應セル活計ヲ營、可キノ  
權アルノミ、而シテ活計ノ方法ハ、殊ニ私法ノ規律ニ屬シ、國法ノ規律ニ屬セズ、然ルニ君主ノ權利ハ、  
殊ニ國法ノ規律ニヨル者ナリ、但シ王子王族ノ活計ノ方法モ亦自、王室ノ顯榮、國家ノ威嚴ニ、關係ナ  
シト云フ可ラスト雖、決シテ大關係アル者ニハアラス、○歐洲各國ニテ、國土ヲ治ムルノ權ハ、必、唯一  
ナラサル可ラサルノ理、概近始テ明瞭トナリテ、國法ニ於テ、此理ヲ貴重セシカ故ニ、版圖ハ必、分割ス

六下七



六

可ラサルノ法トナリ、且ドメーン及ヒコローングート(按)王室ニ屬スル土地ニ至リモ、共ニ王位ヲ繼ク所ノ君ニ傳フルトナリシヨリ、始テアパナーセノ制起リタリ、故ニ昔時ハ其他ノ王子王族等、皆王室ノ所有ヲ君主ノ遺物トシテ、分取スルノ權利ヲ有セシカモ、輒近此權利ヲ廢シテ始テアパナーセノ制ヲ立テ、王子王族等、之ヲ以テ其需用ニ充ツルコトナリ、而シテ其額數ハ、王室所有ノ貧富ニ準シ、且王子王族ノ需用ニ應シテ、國君自ラ之ヲ定メタリ、但近今ノ國法ニテハ、必憲法ヲ以テ、其額數ヲ定ムルコトナリタリ

第十三款

乙 不保任、ウンヘルアメントチ 及ヒ保任、ヘルアメントチ

〔第二〕國家ノ元首タル者、自己ノ處置ヲ保任スルヲ以テ、良法トスヘキヤ否ノ論、古來各國ニ於テ、相同シカラス羅馬ノ國法ニテハ、民主政體ノ時ニ於テスラ、政府ノ主長タル者、尙其職掌區域内ノ事ニ就テハ、敢テ保任セサルノ法ナリキ、然ルニ古時日耳曼ノ法ハ、全ク之ニ反シ、縱令君主ト雖モ、必ス保任スルヲ以テ當然ノ事トナシタリ、○方今君主政體ヲ立ル所ノ歐洲各國ニテハ、全ク羅馬ノ法ヲ取テ、君主ハ敢テ保任セサル者トス、但シミニニステルヲ以テ、其政令ヲ保任ス可キ者トナシ、而シテ君主ハ必スミニニステルノ輔佐ヲ得サレハ、敢テ政令ヲ施行ス可ラストナスカ故ニ、君主不保任ノ權利モ、其實ハ自ラ限制セラル、所アリ、唯獨リ佛國那破倫氏ノ國家ニ於テハ、君主敢テ保任スルノ法ヲ立ツ、方今ノ民主國ニ至リテハ、概シテ日耳曼ノ法ヲ取テ、主長保任ノ制ヲ用フ、○今左ニ古來保任不保任ノ因テ起リタル所以ヲ論ス、

〔第二〕羅馬國ニテハ、素、政權ノ盛強ナルヲ以テ、專、緊要ノ事トナシタリ、但シ其民主政體ノ時ニ於テハ、政權甚、強大ニ過キテ、遂ニ專横ニ至ルヲ懼レシカ故ニ、之ヲ預防センカ爲メ、主長在職ノ年限ヲ短縮シテ、廢之ヲ改選スルノ法ヲ立テ、且ツ政權ヲ一人ニ托セス、其勢ヲ分割スルノ法ヲ立テ

リ、去ル若シ主長タル者、其在職ノ年限中、必ス其政令ヲ保任セサル可ラサルノ法ヲ立ルハ、主長ノ威力、遂ニ之ガ爲メ、減殺セラレ、且其尊貴顯榮、亦之レニ因テ、陵夷スルニ至ラントナ恐レ、加之、國家第一等ノ高官タル者、同等若クハ下等官員ノ審判ヲ受ルハ、條理甚タ紊ル、ト爲セシカ故ニ、主長不保任ノ法ヲ立テタルナリ、○是故ニナベリウス、ガラフス(按)羅馬民主政體ノ時ニ於テ、ホルグストリブンノ一人ナリ、ホルグストリブンハ、本卷第二款(第二)ニ詳ナリ、カ、其同僚マルクスオクタブスノ職ヲ放ツノ議ヲ唱ヘテ、遂ニ之ヲ遂グシハ、即チ從來ノ法ヲ破リタルナリ、既ニ西塞羅ノ説ニコンスル(按)羅馬民主政體ノ時ニ於テ、政府ノ主長ナリ、人員二名トス)ノ職ハ、決シテ罪ヲ以テ放ツ可カラスト云ヘリ、其後州縣ノ長官、縱令ヒ罪アリト雖モ、必ス其在職ノ期滿ル後ニアラサレハ、決シテ法院ニ於テ、審判ヲ受クルコトナカリキ、○其後帝國トナルニ及ヒテハ、縱令ヒ其官員罪アリト雖モ、帝自ラ其罪ヲ問フニ非サレハ、亦他人ノ之ヲ糾彈スルヲモ許サ、リキ、○帝必ス自ラ憲法ヲ敬重スルノ義務ヲ、負ハサルニアラス、去レ若シ時アリテ、自ラ憲法ノ區域ヲ超エ、或ハ不正ノ事ヲナスコトアリハ、決シテ此罪ヲ問フノ方法ハ有テサリキ、是故ニ帝ナル者ハ、絶テ憲法ノ爲メ、束縛限制セラル、者ニ非スト云フニ至レリ、

〔第三〕中古日耳曼ノ論ハ、全ク羅馬ノ論ト相反セリ、日耳曼人ノ意ニテハ、縱令ヒ政權ヲ握リテ、國家ノ尊貴ヲ負ヘル者トイヘモ、罪アレハ之ヲ問フハ、當然ノコトニシテ、公正ノ法ハ、敢テ曲ク可ラストセリ、故ニ通常ハ上等ノ法官、下等ノ官員ヲ審判スルノ法ナリシカモ、若シ上等ノ法官、自ラ法ヲ犯シテ、國家ノ安寧ヲ害スルコトアルハ、其代者(按)下等ノ法官ニシテ、上等ノ法官ニ代ハル者ヲ云、)上官ノ罪ヲ審判スルノ法ナリキ、

六下九

中古ノ頃ニハ、王公侯伯、罪ヲ犯スニ至リテハ、帝之ヲ審判スルヲ以テ、當然ノコトセリ、去レ此事ノ實ニ行ハレシハ、唯帝ノ統御内ナル獨乙羅馬合國ノミニシテ、其他ハ基督教ヲ奉スル各國トイヘモ、

キヤロル



六下一〇

決シテ行ハレサリキ、(按)帝獨乙羅馬ヲ合シテ、之ヲ統御セシ故、此法此合國ニハ行ハレタレハ、其餘ノ各國ハ實ニ帝ノ統御ヲ仰カサリシ故、行ハレサリシヲ云、(但)右此各國ノ王公モ、亦絶テ帝ノ統御ヲ仰カサリシト云フニハ非サレハ、只殆ト帝ノ爵位ヲ尊崇セシノミニシテ、實ニ全ク其統御ヲ受ケシニ非サレハナリ、○其後ニ至リテ、帝獨乙各國王公ノ爵位ヲ放ツコ方リテハ、必ス先ツライフスタグ(按)獨乙ノ合議府)ノ許可ヲ得サレハ、之ヲ施行スルコ能ハサルノ法トナリシカハ、後年獨乙帝國崩解(按)一千八百零六年、獨乙帝國崩解セリ、然ルニ辛未ノ歲ニ至リ普魯士王之ヲ恢復シテ、獨乙帝トナレリ、)ノ時ニ至ル迄、各國共ニ、獨帝ノ此權ヲ專ラコスルヲ認許シタリキ、

最大至高ナル帝ノ權威ハ、天神ノ授托スル所トシテ、極メテ之ヲ尊重セシカハ、是ニヨリテ、決シテ帝ノ不保任ヲ許スコハ有ラサリキ、若シ帝ノ犯罪輕ウシテ、其位ヲ失フコ至ラサル者ナレハ、バルツガラーフ、ホン、ライン(按)バルツガラーフシャフトナ治メシ君)之ヲ審判セリ、去レハ其罪大ニシテ、帝位ヲ放ツカ如キハ、シールヒュルスト(按)本卷第五款(第五)ニ出ツ)ノ權ニアリキ、○輒近羅馬國法ノ規律ヲ取用スルニ至リ且ツスウエレーチテート(按)本卷第一款ニ出ツ)ノ理、大ニ開明セシヨリクールヒュルストノ權ヲ以テ、帝位ヲ放ツノ非理ナル所以、世ニ明瞭トナリテ、學者大ニ此法ヲ排斥セリ、(按)シールヒュルストハ、帝ヲ選擇スル權アレハ、既ニ之ヲ選擇セシ後ハ、帝ノ統御ヲ仰ク者ナリ、然ルニ獨帝ヲ廢スルノ權アルハ、即下ニシテ、上ヲ罰スルモノニシテ、甚タ國家ノ大權ニ害アルヲ以テナリ、)

〔第四〕近今ノ法コテハ、君主ノ不保任ニ三様アリ、其一ハ、私法ニ關セル不保任、(プリハートレフトリヘ、ウンヘルアノトナルトリフカイト)其二ハ、刑法ニ關セル不保任、(ストラフレフトリヘ、ウンヘルアノトナルトリフカイト)其三ハ、政治ニ關セル不保任、(ポリチーセ、ウンヘルアノトナルトリフカイト)是レナリ、

六下一

羅馬ノ法コテハ、帝ノ專權ヲ准許セシカハ、私法ノ事ニ至リテハ、帝ト雖モ必ス自ラ保任スルヲ當然ノ事トセリ、但シ臣民直ニ帝ヲ負債者トシテ、法院ニ訴フルコ能ハス、去レハ帝亦實ニ一私人ナラスト云フ可ラヌ、帝果シテ一私人ナレハ、必ス他人ニ相對シテ、私法ニ屬スル所有ノ關係ナキ能ハス、是ニ於テ帝ノ所有ヲ以テ、帝ノ私身ニ代ヘ、之ヲ以テ他ノ私人(按)臣民ヲ云)ト同等ノ者ト視做セシナリ、是ニ於テ國家ノ所有タルヒスリス、(按)前款ニ論セシ如ク、古時ノ法コテハ、國家ノ所有ト稱スレハ、其實有トナ分別スルコ、今時ノ如ク判然タラサリシ故、茲ニヒスリスヲ以テ、國家ノ所有ト稱スレハ、其實ハ殆ト王室私有ニ異ナラス、及ヒヒスリスニ同シキ權利義務ヲ有セル、帝室ノ私有ヲ、一個ノ負債者ト視做シテ、之ヲ法院ニ訴フルノ權利、臣民ニ在リシカ故ニ、臣民實ニ法院ノ保護ヲ受ル者ニシテ、決シテ帝ノ爲ニ、其權利ヲ侵害セラル、ノ憂ナカリキ、

又方今各國ノ國法トイヘハ、臣民君主ノ負債ノ事ニ就キ、之ヲ訴ヘントスルヲ阻止スルノ理、決シテアル可ラス、實ニ羅馬ノ國法ニ從フヘキコ、固ヨリ當然ナリ、但、日耳曼ノ法ノ如ク、臣民直ニ君主ヲ負債者トシテ訴フルヲ許シ、以テ其管下ノ法官ヲシテ、君主ヲ審判セシムルカ如キハ、條理ニ戻ルコ甚ウシテ、實ニ君主ノ體面ヲ毀損スルコ、甚カカラサルヲ忘ラス可ラス、是故ニ輒近スウエレーチテトノ理開明セシヨリ、遂ニ此法ヲ廢棄スルニ至リタリ、○方今ハ臣民國家ノ所有ニ就テスラ、尙訴訟ヲ爲シ得ルノ法ナレハ、況テ君主ノチヒールリステ、或ハ其私有ニ就テ訴フルヲ得ルコ、固ヨリ當然ナリ、

然ルニ英國コテハ、此事ノ規律未ダ開明セシテ、獨乙ノ法コ劣ルコ甚タシ、何者、英國ノ法ニ於テモ、君主ノ負債ニ就テ、臣民ノ之ヲ訴フルヲ許シ、以テ臣民ヲ保護スルハ、獨乙ニ殊ナラスト雖モ、唯臣民ノ之ヲ訴フル權利ヲ以テ、決シテ其當然ノ權利トナサス、特ニ國君ノ慈惠ニ出ル者トナセハナ



○ プラッソストン(按英人、一千七百二十三年ニ生レ、八十年ニ死ス)ノ英法論ニ云ク、人若所有ノ事ニ就テ、國君ノ事ヲ訴ヘント欲セハ、カンツライホフ(按上等法院)ニ訴フ可シ、然ルキハ法官臣民ノ權利ヲ以テ、國君賜フ所ノ慈惠ト視做シテ、之ヲ保護シ、且、國君ノ此臣民ニ對セル義務ハ、法ノ嚴ニ命スル所ト爲サス、特ニ國君慈惠ヲ臣民ニ施スカ爲ノ務トナス、ト、蓋、プラッソストン氏ノ説ハ、ブッヘンドルフ(按獨乙人、一千六百三十二年ニ生レ、九十四年ニ死ス)カ唱ヘタル、考察性法論(ヘルマイントリヘス、ナツールレフト)チ因襲スル者ナリ、其論ニ「賢明ナル君主ハ、敢テ臣民ニ對シテ、其約束ヲ破ルチ欲セサルハ、固ヨリナレド、縱令ヒ若シ之ヲ破ルコトアリモ、臣民タル者、上ヲ要シテ、此約束ヲ遂ケントスルハ、大ニ性法ノ理ニ反レリ」ト云ヘリ、去レモ其論中相矛盾スル所アルハ、辨チ俟スシテ明カナリ(按論中相矛盾スルト云ヘルコト甚、解シ難シ、但、賢明ノ君ハ、約束ヲ破ルチ欲セスト云ヒナカラ、縱令ヒ約束ヲ破ルコトアリモ、之ヲ不法ト爲サ、ルハ、即相矛盾スル所以ナル歟、猶再考ス可シ、)

〔第五〕刑法ノ事ニ就テハ、私法ノ事ニ於ケルカ如ク、國君ノヒスクス、若クハチヒールリステテ以テ、國君ニ代ハルヘキ者ト爲ス可ラス、何者、ヒスクス、チヒールリステ等ノ如キ物ハ、固ヨリ罪ヲ犯スヘキ者コアラズ、且、國君ニ罰チ加ントスル法院ハ、素ト國君管下ニ屬スル者ナルカ故ニ、乃下ニシテ上ヲ罰スルノ理コシテ、甚、良法ト云フ可ラス、且、縱令ヒ法ノ良否ヲ問ハス、敢テ之ヲ行フモ、君主ヲ罪人トシテ、之ニ刑チ加フルハ、其下タル者實ニ忍フヘカラサルノ極コシテ、且、之ニ由テ大ニ君主ノ威嚴ヲ損シ、大ニ國家ノ安寧ヲ害スル患アレハナリ、○君主ニ罪アルニ方リテ、設シ措テ之ヲ問ハサルキハ、必、其弊害ナシト云フ可ラス、去レモ問ハサルヨリ、生スル弊害チ以テ、君主ニ刑チ加フルヨリ、生スル所ノ弊害ニ比ヤテ、之ヲ考フレハ、則問ハサルヨリ、生スル害ハ尙小ナリ、若シ君主ノ罪狀ヲ舉テ、之ヲ罰スルキハ、是ニ因リテ、遂ニ全國ノ秩序ヲ破リ、安寧ヲ害スルニ至ランコト必セリ、是故ニ近今ノ法ニテハ、君主刑法ノ事ニ就テハ、全ク保任セシメテ、可ナルノ規律ヲ保守ス、

〔第六〕政令ノ處置ニ就テモ、亦方今各國ノ國法、皆全ク保任セサルノ規律ヲ用フ、去レモ此規律ヲ用フルノ意、並ニ其體裁ニ至リテハ、舊羅馬ニテ此規律ヲ用ヒシ意、並ニ其體裁トハ、全ク相異ナリ、羅馬ニテハ、君主ハ敢テ憲法ノ爲ニ限制セラレズシテ、可ナル者ト爲セシカモ、方今無限ノ君權アラサル各國ニテハ、全ク此意ヲ取ラズシテ、君主ナル者ハ、必、國憲、及ヒ憲法ヲ敬重スルノ義務ヲ負荷セル者ト爲ス、故ニ此事ニ就テハ、方今ノ立憲國、皆共ニ羅馬ノ君權無限ノ法ヲ棄テ、而レテ日耳曼ノ法ヲ取テ、君主ハ國家法制ノ範圍中ニ於テ、其頭首ニ位スル者トシテ、必、先、其法制ニ從テ、自己ノ權柄ヲ施行シ、且、共ニ其法制ヲ保護セサル可ラサル者ト爲スニ至レリ、○各國皆君主自カラ許可シテ此ノ如キ義務ヲ負荷セサル可ラサル者トセリ、故ニ國憲誓約(ヘルハッスングスアイド)〔按〕國憲ヲ遵奉スヘキ旨ヲ述ル誓約)及ヒ登祚誓約(コロームングスアイド)〔按〕登祚ノ時ニ於テ、爲ス所ノ誓約)ヲ以テ之ヲ天神及ヒ人民ニ誓フテ常法ト爲ス、若シ君主チシテ現存ノ法ヲ遵守セシムルノ方法、愈少ナケレハ、此ノ如キ制度(按)誓約ヲ爲スノ制度)愈緊要ニ且、良善ナリトス、何者、此ノ如キ制度ハ、君主チシテ、義務ノ必、守ラサル可ラサル所以ヲ辨識セシメ、以テ大ニ其心ヲ獎勵スルニ足レハナリ、

〔第七〕英國ノ國家學者、國君ノ國憲憲法、及ヒ慣用法ヲ遵守スヘキ義務ト、其不保任ノ制度ト、全ク矛盾サル理ヲ、明示セント欲シテ「國君ハ敢テ不正ノ事ヲ爲ス能ハズ」ト云ヘリ、去レモ全ク取ルニ足ラス、蓋、此語ノ意、國君ヲ以テ、完全具備、一點ノ過誤ナキ人ト爲ス者ニシテ、猶加特力教徒ノ教皇チ以テ、大成至聖一小瑕ナキ人ト爲スカ如シ、是レ即君職純清ナル所以ノ理、及ヒ君主政體完全ナル所以ノ理ヲ以テ、之ヲ體軀ヲ備ヘタル君主ニ移スナリ、○既ニ巴力門ハ此理ニ由テ、國君ノ言行ヲ誹謗セシ徒ナ、屢繫獄ノ刑ニ處セシコトアリキ、

○〔按〕蓋、本文謂フ所、「君職ハ、極メテ純清ナル者、君主政體ハ、極メテ完全ナルハ、固ヨリナレド、是唯十全ノ理ノミ、然レニ此十全ノ理ヲ取リ、以テ活體ヲ具ヘタル君主ヲ論スルハ、甚、誤ルト謂フ



去レ此ノ如キ事ハ、唯天理政體（イデチカラチ）按實ニ國家ニ主タル者ハ、人ニアラス、天理ナリ

トスル政體ナリ、ノ國ニ適應ス可クシテ、君主國ニハ、決シテ適應セサルナリ、學者縱令百方辨テ費シテ、此ノ如キ理ヲ主張セント欲スルモ、素、古今萬國ノ事蹟、及天賦ノ人性、戻レル論ナレハ、決シテ其非ヲ掩フ能ハス、總テ人ノ良知ノ許可セサルコトヲ以テ、國法上ノ規律ト爲サント欲スルハ、譬ハ猶霧霞ノ上ニ、宮殿ヲ造ルカ如シ、其危殆固ヨリ言テ俟タス、○君主若シ小事ヲモ爲シ能ハサルハ必ズ又一不正ヲモ爲シ能ハサル可シ、君主木偶ニ同シウシテ、全ク他人ノ爲ニ、其權ヲ竊マル、歟、否ラサレハ、君主自己ノ意思ヲ以テ、國家ノ治安ヲ謀ラント欲スルモ、力及ハサルカ爲ニ、遂ニ他人ニ、其權ヲ奪ハレテ、實ニ國事ノミナラス、亦一身ノ事スラ、尙之ヲ自在ニ爲ス能ハサルニ至レハ、君主ハ敢テ不正ノ事ヲ爲ス能ハス」ト云フモ可ナリ、去レ此事體此ノ如キニ至リテハ、君主ノ君主タル權カハ、全ク亡滅シテ、一ツモ存スル所ナシ、故ニ君主敢テ不正ノ事ヲ爲ス能ハス」ト云フ語言ハ、君主タル者、國家ノ政權ヲ一身ニ統一スル所以ノ條理ト、全ク相矛盾スルコト明ニシテ、且、君主及ビ國家ノ爲ニ、甚、弊害アリ、君主ハ敢テ不正ノ事ヲ爲ス勿レ」ト云ハ、眞ニ當理ノ確言ト云フ可シ、

〔第八〕是故ニ君主不保任ノ法ヲ立ツルヤ、決シテ君主ノ身、完全具備シテ、一點ノ過誤ナキヲ以テスルニアラス、唯方今ノ世、君主ノ上ニ位シテ、之ヲ審判スル所ノ法院ナキヲ以テナリ、且、又君主ヲ罪犯人トシテ、之ニ刑ヲ加フルルハ、之ニ由テ生スル所ノ國家ノ災害タル、實ニ君主ノ一二暴業ヨリ生スル弊害ヨリモ、更ニ甚シキヲ以テナリ、○若シ各國ノ上ニ位スル大法院アリテ、能ク各國君主ノ正邪曲直ヲ審判シ、且、又此審判ノ爲ニ、國亂ノ生スルコトアルニ方リテハ、能ク之ヲ制壓スルノ權カヲ備フレハ、中古羅馬獨乙合國ノ制ニ倣テ、不保任ノ法ヲ廢スルモ之ニ由テ災害ノ生スルコト、決シテ有ル可カラス、後世法理眞ニ開明スルニ至レハ、遂ニ能ク此ノ如キノ法モ行ハル可ク、且、之ニ由テ君主ノ權カモ亦、強大トナルニ至ル可シ、蓋シ總テ保任ノ法ハ、人ヲシテ邪惡ヲ爲サシメサルニ足ル

ミナラス、却テ亦舉措處分チ、自由ニナサシムルノ良法ナレハナリ、○英國ニテハ、國君不保任ノ法ヲ立ルトイヘ、其ミニステルチ舉ルコ方リテハ、必ズ巴力門多數ノ信ス、ト、否トチ視テ、然後ニ之ヲ舉ク、然ルニ、北亞米利加ニテハ、大統領保任スルノ法アレ、其ミニステルチ任スルニハ、敢テ代

國府ノ信否ヲ窺ハスシテ、自由ニ之ヲ舉ク、又佛國ニテハ、曾テ不保任ノ權ヲ握リタル君主スラ、爲シ能ハサリシ事ヲモ、保任ノ義務ヲ負ヘル大統領ハ、却テ能ク自由ニ處分シ得タリ、

路易那破倫（按）那破倫第三世ナリ、一千八百五十二年（嘉永五年）一月十四日ノ布告書ニ、左ノ旨ヲ述、タリ曰ク、君主不保任ノ法ハ、嘗テ三次ノ顛覆ニ於テ、滅絶セシ者ナルチ、猶此ノ如キ制度

ヲ立テ、之ヲ國憲ニ載スルカ如キハ、實ニ民心ヲ欺ク者ト云フ可シ、去レ佛國ニ於テモ亦、保任ノ法、決シテ眞ノ制度ト稱スルニ足ル地歩ヲハ、占メサリキ、  
君主及ビ國家共ニ、天神ニ對シテ、其所爲ヲ保任セサルノ理ハ、決シテアルヘカラス、且、人世ニ於ケルモ、一時ハ能ク其所爲ノ非ヲ掩ヒ得ヘキモ、永世遂ニ之ヲ匿ムコト能ハサルハ、必然ノ理ナレハ、君主不保任ノ規律ハ、實ニ君主國ノ條理ニ於テ、緊要ノ事ト云フ可カラス、止方今列國法、未ダ完全ノ地位ニ至ラサルカ故ニ、君主保任ノ法ヲ用フルルハ、之ニ由テ國家ノ大騷亂ヲ生シ、其害却テ不保任ノ法ヲ用フルヨリ起ル所ノ害ヨリモ、更ニ倍從センコト恐ル、カ爲、已ムテ得ス、不保任ノ法ヲ用フルナリ、但、不保任ノ法ト雖、決シテ全ク限界ナキニハアラス、必、之ヲ限制スル者ナシト云フ可ラス、其故ハ何ソヤ、君主實ニ此權利ヲ恃ミ、苛酷暴虐ヲ恣行スルルハ、臣民敢テ之ニ恭順セス、遂ニ顛覆ヲ謀リ、以テ嚴罰ヲ君主ニ加フルニ至レハナリ、

〔第九〕方今各國、皆共ニ君主不保任ノ制度ヲ用フルハ、羅馬ノ國法ニ同シト雖、又別ニミニステル保任ノ制ヲ立テ、以テ君主不保任ノ弊害ヲ救フカ故ニ、羅馬ノ法トハ全ク同シカラス、  
立憲國ニ於テハ、君主政令ヲ施行スルニ就テ、必ズミニステルノ輔翼ヲ假ラサルチ得スト爲ス、是ニ



於テミニステル必政令ヲ保任スルノ法ヲ立テ政令若國憲及憲法ニ悖戾スルコトアルキハ、則ミニステルヲ以テ、必其罪ヲ負當セサル可ラサル者ト爲ス、是ヲ以テ不保任ノ權利ヲ有セル君主モ、亦此法ノ爲ニ牽制セラレ自ラ不正ヲ爲ス能ハサルニ至ルナリ、蓋ミニステルナル者、君主ノ自ラ爲セル不正ニ代テ、甘シテ其罪ヲ受ル者ハ殆ント希ナルニ由テナリ、○輓近スウエローチテートノ理、大ニ開明セシ以降、古時日耳曼ニテ用ヒタル、君主保任ノ制度ノ非ナルヲ知テ、遂ニ之ヲ廢シ、之ニ代ヘテ、君主不保任ノ法ト、ミニステル保任ノ法トナシ、並用スルニ至レリ、此法創立セシ以來、君權強大ニ過キテ、其限界ヲ踰越スルカ如キ弊熄ミ、君主及ヒ其寵遇ヲ得タル黨與ニ至リテモ、生平敢テ違法戾典ノ舉アルコトナク、且ミニステルモ亦現在ノ形勢ニ著眼シテ、能ク細心ニ事ヲ處置スルニ至レリ、故ニ此法アリト雖モ、ミニステル罪ヲ得テ、審判ヲ受ルカ如キハ、世甚ダ罕レニシテ、却テ君主及ヒミニステル等ヲ獎勵シテ、心ヲ其義務ニ竭サシムルニ至レリ、○但シ又此法立シカ爲ニ、君主ナル者、保任ノ義務ヲ抱ケルミニステルノ輔佐ヲ假ラスシテ、恣ニ事ヲ施設シ、且臣民モ亦、自然ニ之ヲ默許シテ、其非ヲ論セサルカ如キ弊害、全ク無シトハ云フ可カラズ、○又時アリテハ、此法アルカ爲ニ、ミニステル等ノ威權、却テ君主ニ超過シ、君主ハ徒ニ虛器ヲ擁キテ、實權ハ全クミニステルノ掌中ニ歸スルカ如キ弊害モ、亦全ク無シトハ云フ可カラズ、(卷之四第二十一款及卷之七、第五第六款ヲ參看ス可シ)既ニ一二ノ國ニ於テ、此ノ如キ弊害ノ生セシコトアリキ、

○佛國ニテ、一千七百九十三年(寬政五年)八月十日ノ事(按)此時佛國ニ顛覆起リ、暴黨此日ニ於テ、路易第十六ニ迫リテ幽囚シタリ)起ルニ方リ(衆人國君(按)路易第十六ナリ)ノ己レヲ固ウセシカ爲、顛覆黨ヲ敵視セル者ト、當テ相結ヒシヲ知リシ後、コンヘント(按)議會ノ名)ニ於テ、君主保任不保任ノ制度ニ就テ、盛ニ激論アリシカ、暴黨遂ニ此議ヲ決シ、國君ヲ黜ケ、併セテ王位ヲ廢シタリ、

〔第十〕方今、諸民主國ニテハ、政府ノ主長、及ヒ其職員共ニ必ス保任スルノ規律ヲ用フ、

私法ノ事ニ於テハ、主長職員、兩ナカラ皆尋常ノ法院ニ於テ、之ヲ審判シ、且ツ刑法ノ事ト雖モ、尋常ノ罪科ハ、必通例ノ法ヲ以テ審判ス、○私事ニ於テ不正ヲ爲セルニ方リテハ、其審判ノ法、全ク尋常ノ私人ニ異ナラス、職官ノ故ヲ以テ、決シテ他法ヲ用フルコトナシ、但シ官事ノ不正ヲ以テ、之ヲ審判スルニ至リテハ、民主國ト雖モ、亦必別法ヲ用フ、蓋シ職官ノ威權、是ニ由テ滅殺セシコト恐ル、ナリ、若シ此ノ如キ官事トイヘ、必常立ノ法院ニ於テ、其審判ヲ行フキハ、法院ノ威權、自ラ政府ニ超過スルニ至リ、國家ノ序次、甚錯亂スト云フ可ク、且常立ノ法院ハ、政務ニ密涉セル事件ニ就テ、審判スルニ堪ヘサル者ナリ、(卷之七第六款ヲ參看セヨ、事理此ノ如キヲ以テ、瑞士國ノ國憲ニテハ、政府其政令ノ施行ニ就テハ、專ラ立法府ニ對シ、保任スルノ規律ヲ立ツ、則政令權柄ヲ掌握スル徒、立法權柄ヲ掌握スル者ノ、審判ヲ受ルナリ、○又北亞米利加ニテハ、統領及ヒ其他ノ職員、罪犯アルコト方リテハ、下院之ヲ訴ヘテ、上院之ヲ審判スルノ規律ナリ、

○警ヘハチヨリフ邦(按)瑞士合邦ノ一ナリ)ノ邦憲第十四條ニ云、「若、邦憲、憲法、或ハ職務ニ悖戾セル處置アルキハ、ゴローヒレ、ラート(按)立法府)ヨリ、レギールンクスラート(按)政府ナリ)及、オーベルゲリフト(按)上院ナリ)ニ將來ノコトヲ戒諭シ、或ハ其職員ヲ召シテ、之ヲ審判ス」

ト、○又瑞士合邦ノ國憲第七十四條ヲ參看ス可シ、

○亞米利加合邦ノ國憲第一款第三條ニ云、「獨リセナート(按)即上院ナリ)ノミ國事ニ就テ審判スルノ權アリ、」同上第二款第四條ニ云、「統領、副統領、及ヒ其他諸政官、叛國ノ罪ヲ犯シ、或ハ賄賂ヲ貪リ、又ハ其他ノ重罪ヲ犯セルカ爲メ、下院之ヲセナートニ訴フルキハ、其職ヲ放ツ可シ」ト、○又佛國一千八百四十八年(嘉永元年)ノ國憲第六十八條ニ云、「統領及ヒミニステルハ、自己ノ職掌ニ係レ



ル事ハ、統テ之ヲ保任スヘシ、又九十一條ニ云、「ナチオナルヘルサムリング、(按)議會ナリ、ヨリ統領、或ハミニステルノ罪狀ヲ訴フルトハ、オーベルステル、ゲリフツホフ、(按)最高ノ法院、之ヲ裁決ス可シ、敢テ之ヲ他ノ法院ニ委スルコト無カル可シ、」又九十二條ニ「オーベルステル、ゲリフツホフノ官員ハ、法官五名、ゲスタルチ(按)重刑ヲ施スニ方リテ、民人中ヨリ、徳望アル者數員ヲ舉テ、之ニ其罪ノ有無輕重ヲ商議セシム、之ヲゲスタルチト云フ、」三十六名ナリト、

第十四款 丙 施政ノ權利、(レギールングスレフト)

外權、(ステルヘルトレーツング、ナーフ、アウツセン)

〔第一〕國家ノ元首ハ、國家ニ代ハリテ、尊榮、權利、及ヒ威力ヲ、他列國ニ示ス者ナリ、而シテ其規律ニ於テハ、方今君主國民民主國共ニ、大抵相同シ、唯君主ノ威權ハ、民主國元首ノ威權ニ比スレハ更ニ大ナルノミ、

是故コ公使、(ゲサンテ)、チ外國ニ差遣シテ、之ヲ信任シ、或ハ外國ノ公使ヲ受ケテ、之ヲ認ムル等、内外ノ公事ヲ掌ル權利、全ク元首ニ在リ、去レテ君主敢テミニステル(按)外務ミニステルナリ)ノ輔佐ヲ假ラスニテ、公使ヲ選任シ、或ハ其章程ヲ設立スルヲ許サス、但シミニステルノ舉ント欲スル者ハ、君主之ヲ信セスト雖モ、強ヒテ聽從スルノ理ハ、決シテ有ルコトナク、又ミニステルノ爲ニ阻攔セラレテ、親ラ我公使ニ接遇スル能ハサルノ理モ、亦決シテ有ルヘカラス、加之立憲國ノ法ニテハ、君主敢テミニステルノ補佐ヲ告諭シ俟タスシテ、自ラ内外ノ情實ヲ觀察スルヲ許ス、唯内外交際ノ事ヲ決定スルニ方リテハ、必シミニステルノ允可ヲ賴ラサルヲ得ス、○君主、外國ト事ヲ論定スルカ如キハ、必シミニステルノ輔佐ヲ假ルニアラサレハ、之ヲ舉行スルヲ許サス、去レテ外國朝廷若クハ其政府ノ情實ヲ體ニ就テハ、君主直ニ其報告ヲ得テ、毫モ妨ケナシ、

國內ニ於テ君主ヲ除クノ外、自ラ外國ノ公使ヲ認ムル者、絶テ是レ有ラズ、君主ノ信任ヲ受ケスシテ能ク公使ノ職掌ヲ施行スル者、亦絶テアルコトナシ、總テ列國交際ノ大事件ハ、獨リ國家ノ元首、及ヒ其全權ヲ委任セラレタル者、能ク之ヲ掌ルヲ得、唯既ニ條約(ヘルトレグ)慣用法、(ヘルコムマン)或ハ憲法上ノ預、裁定セル民間私事、(ブリハートサー)及ヒ警保事務(ポリツァムサー)ハ、按、國家、及民間ノ安寧平穩等ヲ警保スル事務ナリ、卷ノ七第八款ニ詳ナリ)ニ屬スル小事ノ處置ニ至リテハ、列國下等ノ官吏、互ヒニ國界等ニ相會シテ、專對議定ス、(但シ縱令此ノ如キ小事ト雖モ、元首或ハ自ラ之ヲ措置セント欲スルトハ、下等官吏ノ之ヲ掌ルヲ停ムルノ權アリ、即チ尊權ハ高權ニ對シテ、其勢力ヲ失フナリ、

〔第二〕君主ハ、宣戰講和ノ權利ヲ掌握ス、但シ世事ハ全ク國家ノ掌ル所ナレモ、君主必ス之ヲ一身ニ統轄スルナリ、故ニ黨人或ハ軍隊、君命ヲ俟タスシテ、能ク外國人ト爭端ヲ開ク可シト雖モ、敢テ戰爭ヲ宣告スルヲ得ス、又君命ヲ俟タス、能ク休戰スヘシト雖モ、敢テ和ヲ講スルヲ得ス、○若シ立法院ヲシテ、直ニ宣戰講和ノ義ニ參預セシムルキハ、政府ノ權、殆ト立法院ニ移ルニ至ルヘシ、故ニ歐洲各國ニ於テハ、實ニ害アリトス、蓋シ立法院ニテ、此等ノ商議ヲ爲スルハ、勳モスレハ、敵國ノ利トナルコト多ク、自國ノ利トナルコトハ、殆ト罕ナリ(今日下ノ事ニ應ジ、之ヲ處置スルニ方リテハ、必シ其情實、事體ヲ沈思熟慮シ、純一ノ意見ヲ以テ、之ヲ決定シ、而メ議既ニ決定セハ、時ヲ費サス、神速ニ之ヲ舉グル)甚ダ緊要ナリ、然ルニ立法院ノ如キハ、必ス黨論相分レ、商議輒ク一決セサルカ故ニ、此ノ如キ時ニ當テ、其情實事體ヲ沈思熟慮シ、純一ノ意見ヲ以テ、之ヲ決定スルコト甚難ク、且ツ既ニ決定スト雖モ、神速ニ舉行スルモ、亦甚ダ難シ、

六下一九 但シ君主宣戰講和ノ事ヲ、獨決スルヲ得ルモ、君主ノ權甚ダ強大ニ至ルハ、論ヲ俟タス、而シテ其弊害ヲ數フレハ、君主若シ志ニ無名ノ師ヲ興シ、或ハ無謀ノ戰ヲ開テ、若干ノ軍費ヲ要スルコトアレハ、與人必シ之ヲ償フノ義務ヲ負ハサルヲ得ス、是時ニ至リ、立法院ミニステルノ罪ヲ舉ケ、之ヲ罪スルモ、既



六下二〇

ニ許多ノ人命ヲ殘ヒ、若干ノ財用ヲ費シ、及ヒ國家ノ安寧ヲ傷リシテ如何セン、且ツ勢既ニ此ノ如クナ  
ルニ至リテ、軍費ヲ納ル、チ肯セサルハ、義ニ於テ爲ス可カラサル所ナリ、但シ假令ヒ義不義ハ於テ論  
セサルモ、若シ之チ肯セサルノ機アルキハ、君主兵力ヲ以テ、暴ニ臣民ニ迫ルカ如何セン、蓋シ獨リ君主  
宣戰講和ノ權ヲ專ラニスル、其兵ノ處ル所、大凡此ノ如シ、實ニ輕忽ニ考フ可カラス、去レモ又政府此  
ノ如ク無名ノ軍ヲ興シ、無謀ノ戰ヲ開クコ方リテハ、立法府能クミニステルノ罪ヲ責問スルノ權利  
アリ、此權利アルノ利タルヤ、實ニ少カラス、蓋シ立法府此權利ヲ握ルカ故ニ、政府又能ク深謀遠慮シ  
テ、敢テ輕舉妄動ノ事ヲ爲サス、且ツ立法府ノ衆論政府ト相悖ルコ甚クシキキハ、能クミニステルチ  
退黜セシムルニ足ル、故ニ是ニ由テ、遂ニ能ク廟謨ノ方向ヲ變改セシムルコアリ、(按)蓋君主宣戰講  
和ノ權利ヲ掌握スルノ弊害、必無シト云フ可ラス、去レモ若シ立法府ヲシテ、此權利ニ預ラシムルキハ  
其弊害更ニ甚シ、是故ニ立法府ニ此權利ヲ與ヘサルナリ、)

講和ノ事ハ、實ニ戰爭ヲ罷ムルノ止マラス、又此事ニ由テ、兩國ノ際、將來永繼スヘキ規律ヲ立  
ルコ履之、アリ、是故ニ講和ノ約、又一種ノ國約(スターツヘルタラグ)トナリ、而シテ國約ノ規律ニ  
由テ限制セラル、  
民主國ニテハ、宣戰講和ノ權、若シ政府ニアルキハ、是ニ由テ政府ノ威力、甚ク強大ニ至ラントテ恐ル、是  
故ニ北亞米利加合邦ノ國憲ニテハ、宣戰ノ權利ヲ以テ、コングレス(按)立法府兩院ナリ、)ニ委テ、而  
シ講和ノ權利ヲ以テ、統領ニ委テタリ、但シ預メセナリト(按)上院ナリ、)ノ決議許可ヲ得サレハ、之  
ヲ施行スルチ得ス、蓋シ此法ヲ立ルノ意タルヤ、戰端ヲ開クチ以テ、民主國ノ爲ニ甚ク害アリト爲シ、  
和ヲ講スルチ以テ甚ク害ナシト爲シ、且ツ宣戰ノ事ハ、勉メテ爲シ難クシ、講和ノ事ハ、勉メテ爲シ易ク  
ルチ以テ、良善ノ事ト爲タルナリ、○瑞士合邦ノ國憲ニテハ、宣戰講和ノ二權利ヲ以テ、單ニブンド  
スヘルサムルング(按)立法府ナリ)ニ委ス、

〔第三〕外國ト盟約、ブンド(ニッス)及ヒ國約ヲ結フノ權利、亦元首ノ自ラ掌握スル所ナリ、縱令ヒ元首  
此權利ヲ施行スルノ全權ヲ握ルレト國トイヘモ、亦自ラ之ヲ限制スル所ナキニアラス、何者、外國條約  
ト國內ノ法ト、相關セル規律ニ至リテハ、必ス立法府之ニ預ラサルコナク、且ツ二三ノ國ニ於テハ、其國  
憲中、故ラニ外國條約ニ關セル規律ヲ、裁定スレハナリ、

○瑞典國ノ國憲第十二條ニ云、「君主外國ト盟約ヲ結フノ權利ヲ掌握ス、但シ必ス預メ外國事務ヲ掌  
シルミニステル、及ヒホフカンツレル(按)高官ナリ、)ノ議ヲ聽カサル可カラス、○荷蘭ノ國憲  
第五十七條ニ云、「君主講和ノ約、及ヒ外國ト諸條約ヲ結フノ權利ヲ握ル、○若シ條約ノ旨趣、國家  
ノ大事ニ關ス可シト思フコアルキハ、必ス之チゲテラール、スターテン(按)立法府ナリ、)ノ兩院ニ  
告諭ス可シ、○若シ歐洲若クハ他洲ニアル所ノ荷蘭ノ版圖ヲ分割シテ、之チ外國ニ與ヘ、或ハ之チ  
外國所轄ノ地ト交易スルノ條約ヲ結フ歟、若クハ、此條約中ニ、從來憲法ニ於テ定メタル權利ヲ改  
革シ、或ハ別ニ新法ヲ立ル等ノ條件アルキハ、必ス先ツ之チゲテラール、スターテンニ告諭シテ、其准  
可ヲ得ルニアラサレハ、君主恣ニ條約ヲ結フチ得スト、

第十五款  
丁 施政ノ權利(レギールングスレフト、)  
內權(インテレゲワルト、)

施政ノ權柄ハ、徒ニ各殊ノ權利ヲ集成統合セル者ニハアラス、實ニ一點ノ中心ニ、充積圓滿セル國權  
ノ分レテ各殊ノ權利トナリ、煥然ト諸方向ニ於テ、發耀スル者ナリ、譬ヘハ猶一點ノ光輝、其線ヲ六  
隅ニ映射シテ、饒ス所ナキカ如ク然リ、○君主國ニテハ、君主乃一點ノ中心トナリテ、國權ヲ一身ニ收  
攬撮合ス、故ニ君主ハ、立法權柄ニ於テ、實ニ示案ノ權利(イニチアチー、) (按)法案ヲ立法府ニ示シ  
テ、之チ商議セシムルノ權利)ヲ握ルルニナラス、兼テ亦決定ノ權利(サンクチオン、) (按)立法府ノ商  
議スル所ヲ決定シテ、眞法ト爲スノ權利)ヲ握ル、故ニ獨リ君主法案ヲ査定シテ、之チ眞ノ憲法ト爲

六下二二



シ、而シテ直ニ之ヲ公告ス、是レ君主乃國家ノ中心トナリテ、昭々タル一致和同ノ德光ヲ、其身上ニ彰ス者ナリ、○君主ハ、立法院ノ首領ナルヲ以テ、此府ノ議定ニ於ケル、或ハ決定シ、或ハ決定セサルノ權アリ、兼テ又施政權柄ヲ掌握スル者タルヲ以テ、其決定セル法ハ、直ニ之ヲ公告シ、以テ臣民ヲシテ之ヲ遵奉セシムルノ權アリ、(卷之五第十一款ヲ參看ス可シ)然ルニ民主國ニ於テハ、此制度全ク相異ナリ、例ヘハ北亞米利加ノ如キハ、統領決定ノ權ヲ握ルト雖モ、君主國ノ全キカ如クナラス、唯大ニ局促セル拒絕ノ權利(ト)〔按〕立法院ノ議ヲ拒絕スルノ權利ナリ)ヲ掌握スルノミ、又瑞士國ノ如キハ、政府絶テ決定ノ權ヲ握ル能ハス、唯示案ノ權ヲ握ルノミ、但シ憲法ヲ公布スルノ權ニ至テハ、諸民主國ニ於テモ、全ク政府ニ在リ、

其他君主内權ヲ施スル權利ヲ以テ、決シテ單ニ行法權柄(ホルチーヘンデ、ゲワルト)ト、爲ス可ラス、必ズ獨立獨行シテ、能ク國家ノ秩序ヲ整理シ、臣民ヲ指揮シ、兼テ又保護シ、及ヒ監督誘導スル諸權柄等、悉皆君主ノ掌中ニ在リ、○凡ソ國家ノ安寧ヲ保チ、及ヒ諸權利ヲ保護スルニ就テハ、殊ニ日々轉化スル所ノ形勢ニ、仔細ニ著眼スルコト、必要ナルヲ以テ、是等ノ諸件ハ皆專ラ君權ノ負荷スル所ナリ、故ニ憲法ナル者ハ、唯日常政令權柄ノ發動スル區域ヲ定メテ、決シテ之ヲ超ユルコト能ハサラシメ、且、政令施行ノ方向ヲ與ヘテ、常ニ之ヲ失ハサラシムルニ在ルノミ、現ニ政令ヲ施行スルノ事ニ至リテハ、獨、君主能ク事情ヲ酌量シテ、自由ニ之ヲ爲スコト、固ヨリ當然ナリ、

是故ニ左ニ舉ル所ノ數件ハ、特ニ君主ノ主持スル所ナリ、

第一 授官ノ大權(アマツホーハイト)

君主ハ、國家諸職官ノ資テ稱ムル所ナリ、故ニ國家諸職官、一モ君主ノ授任ニ由テ、出テサル者ナシ、亦君主ニ從屬セサル者ナシ、往昔既ニ此事ノ緊要ナル理ヲ知り、是ニ由テ大ニ、國家ノ和同ヲ鞏固セシカレ、實ニ此理ノ明亮トナリシハ、全ク近今ノ君主國ニ在リ、又此理ニ循テ、諸職官中、互ニ亦其等級ノ高卑ニ由リ、次第ニ高等ニ從屬スル、固ヨリ當然ナリ、

立憲國君主握ル所ノ授官ノ大權ハ、其規模甚大ナリ、官等高ウシテ、愈々君位ニ近ケレハ、君主ノ權愈々自由ニ之ヲ黜陟スルヲ得、殊ニミニステルノ如キハ、君主ヲ輔佐シテ、其政令ニ參與スル者ナレハ、之ヲ黜陟スルハ、獨、君主ノ自由ニスル所ナリ、○賢明ナル君主ハ、唯自己ノ偏見ヲ用ヒ、或ハ好惡愛憎ニ由リテ、ミニステルヲ舉ルコトナシ、必ズ先ニ國家ノ爲メニ謀リ、實ニ其任ニ堪ユヘキ人物ヲ選任スルヲ本旨トナシ、且、政府ト立法院ト、其間能ク相和スルコト、甚々緊要ナルカ故ニ、必ズ立法院ノ信ヲ得タル者ヲ、選任スルヲ以テ本旨トスルハ、固ヨリ論ヲ俟タズ、去レテ君主立法院ノ信不信ヲ窺ヒ、或ハ好惡等ニ隨テ、ミニステルヲ黜陟スルノ義務ヲ負フカ如キハ、斷然アラサル所ナリ、唯現任ノ立法院、若ハ將來任スヘキ立法院ニ、信セラルヘキ人物ヲ撰テ、之ヲミニステルニ任スルハ、則テ政(ボリナツ)ノ巧ナル者ナリ、何者、立法院ノ政府ヲ惡ムコト、甚々シキニ過ルトキハ、之ニ由テ、政府ノ威權大ニ衰弱振ハサルコト至レハナリ、但シ君主敢テ立法院ノ薦舉ヲ希フコトアラズ、必ズ自ラ舉任スルナリ、○舊ミニステルヲ罷メ、新ミニステルヲ舉ルコト方リテハ、君主之ヲ舊ミニステルニ議シ、其連署ヲ得テ、之ヲ舉ルコト通法ナレバ、此事決シテ必要ノ法ト云フコト足ラス、若シ舊ミニステル、君主ノ舉ゲント欲スル人物ヲ肯セサルコトアラハ、新任スル所ノミニステルヲシテ、自ラ其選任ニ連署セシメテ可ナリ、舊ミニステルノ肯セサルカ爲メ、君主自ラ舉ゲント欲スル人物ヲ、舉ル能ハサルノ理ハ、萬々有ルコトナシ、立憲國ノ法ニ於テハ、ミニステル選任ノ事ニ就テモ亦、之ヲ保任スル者、一人アレハ、則足レリトス、

其他ノ官員ヲ選任スルニ至テハ、君主獨リ之ヲ專ラニスル能ハス、必ズミニステルノ贊輔ヲ假ラサルヲ得サルナリ、但シミニステルノ薦ムル所ノミニステルヲ取テ、之ヲ任スルヲ要スルコトアラズ、又能ク必ズ其任ニ堪ユヘキ者アルヲ知ラハ、自ラ之ヲミニステルニ詢リ、或ハミニステルノ薦ムル所、若シ自己ノ意ニ適セサルハ、之ヲ拒ムコト、固ヨリ自由ナリ、○能ク注意シテ、此ノ如キ權ヲ施行シ、以テ其任ニ堪ユヘ



人物ヲ簡シテ之ヲニステルニ任スルハ、古來賢明ノ君主ノ、獨能シ爲ル所ナリ、故ニ縱令ヒ君主  
他ニ如何ナル權利ヲ握ルモ、唯之ニ由テノミ、大ニニ國家ノ安危盛衰ヲ生スルニ至ラズ、大ニニ國家ノ  
安危盛衰ヲ生スル所以ノ者ハ、唯君主ノ聰慧ト、否ラサルコ由ルノミ、

合衆國ノ統領、其諸官員ヲ選任スルノ制度モ、大概亦之ニ同シ、唯別種樞要ノ職官ヲ選ムハ、統領獨  
之ヲ授任スルヲ得ス、必先ツ之ヲセナート〔按〕上院ナリ、コ諮リ、其許可ヲ得サル可ラス、但シ下等ノ  
官員ヲ選任スルニ至リテハ、コングレス〔按〕兩院ナリ〕此權ヲ以テ、單ニ統領或ハ法院、(ゲリフツホ  
フ)若シハ諸省ノ長官ニ委附ス、○瑞士國ノ法ハ、諸職官ヲ授任スルノ事ニ於テ、大ニコ政府ノ權  
ヲ限制シ、多クハ代國府、若シハホルクヲ選任セシム、但シ此制度アルトキハ、之ニ由テ、遂ニ諸職  
官中ニ朋黨起リ、動モスレハ、政府ノ一和ヲ傷リ、且ツ政令諸務ヲ施行スヘキ諸官員、皆上權ヲ侮慢シ  
テ、之ニ恭順セサルカ故ニ、政府ノ氣力遂ニ痿痺シテ、振ハサルニ至ルノ害アリ、甚々恐ル可シ、

北亞米利加合邦憲(ブンデスヘルハッスング、ホン、ノールドアメリカ)第二章第三條云、「統領  
セナートト議シテ、左ノ諸官ヲ授任ス、即チ公使、及ヒ其他外國ニ遣スヘキニコステル、〔按〕上  
云フ所、ニコステルトハ、相異ナリ、〕コンスル、〔按〕通常領事官ト譯ス、〕並ニト等法院ノ法官其他  
未タ曾テ國憲、或ハ憲法ニ於テ、授任ノ制度ヲ裁定セサル諸職官等是ナリ、但シ縱令ヒ此諸職官  
ト雖モ、コングレスニテ樞要トセサル卑官ナレハ、統領及ヒ法院、或ハ諸省ノ長官等ニ命ヲ傳ヘテ  
之ヲ授任セシム可シト、○又佛國一千八百四十八年(嘉永元年)ノ國憲第六十四章ニ云、「統領自  
由ニコニコステルヲ黜陟ス、但シ其他高官ノ黜陟ハ、之ヲニコステルニ議シ、卑官ハ其省ニコステル  
ノ建白ニ因テ、之ヲ黜陟ス可シト、

第二 授譽ノ大權(エーレンホーハイト)

賞爵(ノーデル)〔按〕通例世襲ノ爵ナリ、勳賞(テルデル)〔按〕通例國事、軍事、及ヒ學術等ニ於テ、非常ノ  
勳功ヲ奏セシ者ニ與フル爵ニシ、其人ノ終身ニ止マル、品階(ラング)〔按〕右ニ爵ノ外ニ、品階ト稱ス  
ル者アリ、例ヘハ英國ノ如キハ、上高等教士ヨリ、下雇夫ニ至ル迄、六十二ノ品階アリ、及ヒ稱號(チー  
ル)〔按〕官吏ノ榮譽ヲ示ス尊稱、例ヘハ皇國ノ殿下、閣下等ノ如キ者、並ニ官名ナモチーテルト云フ、儘  
功勞アリシ官吏ニハ、退職ノ後モ猶官名ヲ與ヘ置クコアリ〕等ノ如キ、總テ臣民ノ名譽顯榮ヲ表スル  
者ハ、通常君主ノ授クル所ナリ、臣民ノ勳勞ヲ鑒定シテ、之ヲ敬重スルハ、實ニ君主ノ美觀ナル特權ト  
云フ可シ、君主此一辨術〔按〕即臣民ノ勳勞ヲ鑒定シテ、之ニ爵位ヲ授クルヲ云フ、〕ヲ舉行スル、其宜シ  
キヲ得ルキハ、大ニ臣民道義ニ進ムノ心ヲ獎勵シ且ツ臣民ヲ、實ニ愛國ノ志ヲ奮起セシムルニ  
足ル、蓋シ此ノ如クナルキハ、天神ノ好シテ、善徳ヲ賞スルノ心ニモ、亦能ク協合スト云フ可シ、○然ル  
ニ二百年以來、(延寶大和以降)、各國君主恣ニ濫賞ヲ行ヒシヨリ、其弊風今仍ホ革マラス、之レカ爲メ  
摺紳家ノ風俗習慣頹敗シテ、其爲ス所兒戲ニ異ナラス、遂ニ眞ニ國家ノ爲メコ其身ヲ勞セント欲ス  
ル者ナキニ至レリ、故チ以テ賢君英主時ニ世ニ出テ、此弊ヲ矯メント欲スルモ、陵夷ノ久キ之ニ服  
スル者多カラサレハ、又如何モス可ラス、豈歎スヘキノ極ニアラスヤ既ニ歐洲大地ノ數國ニテハ、君  
主臣民ニ賜フ所ノ榮譽ハ、却テ侮辱ノ表記ノ如ク、若シ此榮譽ヲ得テ、高貴ノ人トナルハ、即其負罪ノ  
明證ヲ公示スルカ如ク見ユルニ至レリ、○今世ハ漸ク虛ヲ賤シシ、實ヲ貴ムノ時トナレハ、君主此權  
利ヲ施スニ於テモ、古時ノ如ク先ツ能ク其勳勞ノ虛實ヲ鑒定シ、然後ニ之ヲ施行スレハ甚ダ可ナリ、  
決シテ全ク此權利ヲ廢棄スルヲ要セス、

○那破倫第一世カエーレンレギチン(〔按〕勳爵ナリ)ヲ設立セシハ、蓋シ能ク此理ヲ知レハ  
既ニ一千八百四十八年ニ於テ(嘉永元年)佛國民主政體ヲ復セシ時ニハ、衆論頗ル貴爵ヲ惡シカ  
レ、其國憲第百零八章ニ、仍此エーレンレギチンヲ存スル旨ヲ記載セシハ、那破倫ノ卓見ヲ證スル



ニ足<sup>レ</sup>蓋<sup>ニ</sup>エ<sup>リ</sup>レン<sup>レ</sup>ギ<sup>キ</sup>ナンノ如キ勳爵ノ具存スルキハ、自ラ人々榮譽ヲ貪ルノ情起リテ、頻リニ之ヲ求メント欲スルニ至ルハ、決<sup>シ</sup>疑フヘキニアラス、去レ<sup>レ</sup>也今日ニ在テハ、人性未タ全ク此情ヲ脱スルコト至<sup>ラ</sup>ス、加之此情却テ人々ノ相競フテ、勳功ヲ奏スヘキ一具トナル者ナレハ、今嚴<sup>シ</sup>此情ヲ奪ハシムルハ、寧<sup>シ</sup>之ニ良好ノ目的ヲ與ヘテ、以テ立功ノ一獎具ト爲<sup>ス</sup>テ善シトス、○那破倫カシント、ヘレナニ於<sup>テ</sup>著セル書中ニ、勳爵ニ就テ左ノ如ク云ヘリ、曰「太古ノ善良ナル民ヲ治<sup>シ</sup>テ、術ヲ取テ、以テ今時ノ老衰セル民ヲ治メント欲スルハ、甚不可也、今時ノ民、専ラ國家ヲ愛テ、一身ヲ顧ミサル者ハ、實ニ百千萬人中僅ニ一二人ニ過<sup>キ</sup>ス、其餘ハ皆自己ノ身ヲ愛シ、自己ノ利ヲ貪リ、自己ノ榮ヲ謀<sup>ル</sup>ニ汲々タル者ノミ、凡工人ハ、其己ニ屬スル所ノ材ヲ、恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス、余會テ君主政體ヲ恢復シ、勳爵稱號等ヲ復興セシハ、余カ秘策ニシテ、全<sup>ク</sup>此理ニ出ル也、○佛國今世ノ開化ヲ考フルニ、民人各、衆人ノ爲<sup>ニ</sup>尊崇セラル、ヲ欲シ、且<sup>ツ</sup>他人ノ爲<sup>ニ</sup>尊敬セラル、徒<sup>ニ</sup>、自ラ亦尊敬スルヲ許ス、一般ノ情意ナリト、〔按〕以上那破倫ノ語ナリ、○凡<sup>ソ</sup>稱號ヲ好ムノ情意アルハ、支那人ヲ除クノ外、獨<sup>シ</sup>乙人ヲ以テ最モ盛ナリトス、然<sup>ル</sup>ニ一千八百四十八年(嘉永元年) フランソホルトニテ獨<sup>シ</sup>乙各國會議ノ時ニ於テ、其代議者等職掌ヲ帶ヒサル稱號(〔按〕職掌ナキ官名ニシテ、唯尊稱トナル者ヲ云)ハ、必<sup>ズ</sup>廢スヘキ旨ヲ論シタリ、即チ獨<sup>シ</sup>乙人甲極ヨリ俄<sup>ニ</sup>轉<sup>シ</sup>テ、乙極ニ飛行セリ、實ニ驚クニ堪ヘタリ、〔按〕獨<sup>シ</sup>乙人ハ、素<sup>ニ</sup>稱號ヲ好ムノ情意盛ナリシニ、俄<sup>ニ</sup>此ノ如キ論ヲ立テシハ、全ク元來ノ情意ニ相反スルコトナルカ故<sup>ニ</sup>、如斯云フナリ、

○〔按〕本文凡<sup>ソ</sup>工人云々ハ、蓋<sup>シ</sup>「人君ノ民ヲ治ムルヤ、猶工人ノ工事ヲ營ムカ如シ、工人其工ヲ施サント欲セハ、必<sup>ズ</sup>先<sup>ニ</sup>己<sup>ニ</sup>屬スル所ノ材ヲ恰好ニ用フルノ術ヲ知ラサル可ラス、人君其民ヲ治メント欲セハ、必<sup>ズ</sup>先<sup>ニ</sup>其情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ術ヲ知ラサル可ラス、余カ君主政體ヲ恢復シ、勳爵稱號等ヲ復興セシハ、即チ佛人ノ情意ニ投シテ、之ヲ獎勵スルノ秘策ナリキ、」ト云フノ意ナリ、當路者宜シク注目スヘキ所ナリ、

第十六款

第三 兵馬ノ大權(ミリテールホルハイト)

君主ハ軍政ヲ統掌スル所ノ首領ナリ、故ニ親ラ海陸二軍ヲ統轄シ、軍兵ヲ徵募シ、其將校ヲ選任シ、而ノ將軍ニ號令ヲ委任シ、城郭堡塞ノ建築ヲ命ジ、及ヒ兵器戰艦ヲ監督ス、  
中古ノ世ニハ、貴戚豪族亦各、兵ヲ備ヘタリシカハ、此ノ如クナルキハ、兵權大ニ分レテ、國家ノ一致和同ヲ損シ、其害遂ニ國內ノ和平ヲ破ルニ至ルヲ以テ、今世ハ決シテ此ノ如キヲ許サズ、號令ノ一途ニ出ルハ、軍隊ノ勢力ヲ盛ニシ、及ヒ其目的ヲ確定スルコト於テ、甚<sup>ク</sup>緊要ナルコトナリ、  
軍隊ハ、單<sup>ニ</sup>君主ノ號令ノミニ肅遵スヘキ旨ヲ誓ハシムヘキヤ、將兼テ國憲ヲモ遵奉スヘキ旨ヲ誓ハシム可キヤ、其可否ニ至リテハ、今時仍<sup>ホ</sup>論說紛然トシテ、未タ一定セズ、君主若シ自己ノ權力ヲ恣ニナシ、國憲ノ條規ト相戾レル處置ヲ以テ、其軍隊ヲ使令セント欲スルコトアルキハ、此論實際上ニ於テ大關係ヲ生ス、○今他ノ情實ニ關セシテ、只自由ニ論スルキハ、國憲誓約(ヘルハッスングアイト、〔按〕國憲ヲ遵奉ス可キ旨ヲ述フル誓約)ノ文中ニ、軍隊ハ敢テ國憲ニ悖戾セル所業ヲ、助ケサル旨ヲ裁定スルコト、甚<sup>ク</sup>緊要ニシテ、自カラ君主ヲシテ、輒<sup>シ</sup>國憲ノ規律ヲ破ル能ハサラシムルニ足ルカ如シ、去<sup>レ</sup>レ<sup>レ</sup>軍隊ヲシテ單<sup>ニ</sup>君主ノ號令ニ肅遵スルノミナラス、亦兼テ國憲ヲモ遵奉スルノ誓約ヲ爲サシムルキハ、軍隊乃チ重複ノ義務ヲ負フノ理ナルカ故<sup>ニ</sup>、軍情自ラ岐分シ、法令自ラ錯亂シ、其一致和同破レテ、勢ヒ遂ニ相爭鬪スルニ至ルノ害アルヲ知ラサル可ラス、○軍隊ハ、素<sup>ニ</sup>唯號令ヲ奉シテ、一ニ之ヲ肅遵ス可キ者ニシテ、決シテ之ヲ是非スヘキ者ニアラサレハ、軍隊自ラ號令ノ善惡良否ヲ考思シテ、然後ニ之ヲ遵奉ス可キト、否トチ定ムルヲ許スカ如キハ、甚<sup>ク</sup>害<sup>ニ</sup>ナリ、○今世ノ如ク、人々各自在<sup>ニ</sup>事ノ善惡良否ヲ評論スルヲ得ルノ時ニ於テハ、殊<sup>ニ</sup>害アリトス、○軍隊既ニ國憲誓約ヲ爲スト



雖也、必<sub>レ</sub>君主ノ號令ヲ嚴奉スルハ、決<sub>シテ</sub>背<sub>ク</sub>可<sub>ク</sub>ラサルノ通法ナリ、唯君主兵權ヲ恣行シテ、苛政ヲ施スカ如キ時ニ於テハ、已ムテ得<sub>ス</sub>、其號令ヲ拒絶スルヲ善シトス、但<sub>シ</sub>兵士ノ精神勇壯ニシテ、昏迷スルコトナク、能<sub>ク</sub>民ノ權利及自由ノ理ヲ知ルトキハ、縱令<sub>ヒ</sub>君主ノミニ誓テ、兼テ國憲誓約ヲ爲サ、ルモ、君主此兵士ヲ用ヒテ、民ヲ苛虐スルカ如キコトハ、決<sub>シテ</sub>爲<sub>シ</sub>能ハサル可<sub>ク</sub>、又軍隊其大元帥(キリーグスヘル)ナル君主ヲ尊崇親愛スルノ情深切ナルトハ、縱令<sub>ヒ</sub>嘗テ國憲誓約ヲ爲セシコトアルモ、決<sub>シテ</sub>君主ノ號令ヲ拒絶スルカ如キコトハ爲<sub>サ</sub>、ル可<sub>シ</sub>、君主國憲ヲ破ラント欲スル時ト雖モ亦然リ、○英國王ヤークコッパ第二世(一千六百三十三年ニ生レ、七百零一年ヲ殂ス)ノ軍隊ハ、嘗テ君主ノ號令ヲ遵奉ス可<sub>キ</sub>旨ヲ誓ヒシカモ、遂ニ此誓約ヲ破リテ、之ニ敵シ、(按)ヤークコッパ第二世在位一千六百八十八年ニ於テ、民顛覆ヲ起シテ、之ヲ攻撃セシカハ、王遂ニ佛國ニ奔リタリ、又佛國テレソトリアール、レギールンク(按)一千七百年代ノ末ニ、佛國君主ヲ廢シテ、民主政體ト爲セシ後ニ於テ、立<sub>チ</sub>シ政府ナリ、ノ時ニ於テ其軍隊ヲシテ國憲ヲ遵奉スヘキ旨ヲ誓ハシメタルモ、那破倫遂ニ此兵ヲ用ヒテ、此政府ヲ倒シタリ、是ニ由テ之ヲ觀レハ、實ニ恃ムヘキハ獨リ精神ノミ、決<sub>シテ</sub>其形貌(按)誓約ノ類ヲ云)ニハ非ス、

○佛國一千八百四十八年(嘉永元年)ニ、民主政體ヲ立テシ時ニ於テスラ、尙此理ヲ善シトシテ、之ヲ其國憲第百零四章ニ裁定セリ、曰ク「軍隊ハ必ス號令ニ嚴遵スルヲ要ス、敢テ其善惡當否ヲ論スルヲ許サス」ト、

以上論スルカ如クナル故ニ、國憲中ニ、軍隊ノ國憲誓約ヲ爲スノ本旨ヲ、詳細ニ記載スルコトナキハ軍隊ノ誓約ハ、唯其職掌當然ノ理ニ由テ、法制秩序、及ヒ民人ノ自由ヲ保護シ、敢テ自ラ之ヲ侵害セストノ誓約ト稱做ス可<sub>シ</sub>、大元帥ナル君主、一號令ヲ出ス毎ニ、軍兵タル者其國憲ニ協フト否トヲ考テ、之ヲ是非スルヲ、誓約ノ本旨トスルハ、甚<sub>シ</sub>不可<sub>ナリ</sub>、軍隊ノ君主ニ恭順スルノ軍法、大基礎ナルニ軍隊君主ヲ是非スルヲ得ルトハ、此基礎全ク崩解スルカ故ニ、遂ニ軍隊ノ一致和同破レテ、互ヒ<sub>ニ</sub>爭鬪ヲ起スニ至ル、甚<sub>シ</sub>タ恐ル可<sub>シ</sub>、○君主出ス所ノ號令ノ、國憲ニ協フヲ保任スル者ハ、即チ<sub>ニ</sub>ミニステル(按)兵部<sub>ニ</sub>ミニステルナリ、)或ハ元帥(コムマンザーレンデゲテラール)ナリ、其號令ヲ遵奉スヘキ將校及ヒ兵卒等ハ、決<sub>シテ</sub>保任ノ義務ヲ負フ者ニアラス、○但<sub>シ</sub>若シ誓約ニ就テ、國憲中ニ他ノ意ヲ詳載シ、以テ軍隊中ニ不和ヲ生スルノ害ハ、君主ノ兵權ヲ弄スルノ害ヨリモ、却テ小ナリトセハ、他ノ論旨自ラ當理トナル可<sub>シ</sub>、

○即瑞典ノ國憲ノ如キ是レナリ、其第二十八章ニ云「國君ヨリ出ス所ノ號令ハ、其布令ヲ掌ル者」之ニ連署シ保任スルヲ要ス、但<sub>シ</sub>此者國君ノ決定スル所、國憲ニ悖戾スルヲ知ラハ、必<sub>ズ</sub>之ヲスタツラート(按)國政ヲ參議スル官)ニ質ス可<sub>シ</sub>、王若シ猶其決定スル所ヲ遂ケント欲シテ止マサレハ、敢テ之ニ連署セサルノ權利、及ヒ義務ヲ得ヘシ、但<sub>シ</sub>此ノ如クナルキハ、此者必<sub>ズ</sub>其職ヲ退ク可<sub>シ</sub>、而シテ其後ライフスステンデ(按)立法府ナリ、)其論ノ是非當否ヲ判決スルニ至ル迄ハ、敢テ再任ス可<sub>ラス</sub>、去レモ其官俸ハ未<sub>ダ</sub>奪フ可<sub>ラス</sub>ト、

君主ハ徒ニ大元帥ノ號令有スルヲ以テ足レリト爲ス可<sub>カ</sub>ラス、必<sub>ズ</sub>親<sub>ラ</sub>六軍ヲ統御シ、兵權ヲ以テ實ニ之ヲ一身ニ綜歸ス可<sub>シ</sub>、非<sub>レ</sub>的利第二世(按)非<sub>レ</sub>的利、デル、ゴローセト稱セシ普魯士王ナリ)曰ク「英明ナル君ハ、必<sub>ズ</sub>親<sub>ラ</sub>六軍ヲ號令ス可<sub>シ</sub>、六軍ハ即君主ノ京都ナリ、君主ノ利益ナリ、君主ノ義務ナリ、君主ノ榮譽ナリ、其他千萬ノ事故ニ由テ、君主ハ必<sub>ズ</sub>親<sub>ラ</sub>六軍ヲ號令セサル可<sub>ラス</sub>ト、是故ニ君主ハ必<sub>ズ</sub>君主ノ職ヲ以テ、六軍ヲ號令スル者ナリ、君主若シ六軍ヲ號令スルノ器アラスシテ、親<sub>ラ</sub>六軍ニ臨ムキハ、大ニ謀ヲ誤テ、遂ニ六軍及ヒ國家ノ敗亡ヲ速クニ至ル、豈恐レサル可<sub>ン</sub>ヤ

凡<sub>ソ</sub>政府ノ權力ヲ、務メテ微弱ニセント欲スルハ、今世ノ民主國ヨリ甚<sub>シ</sub>クハナシ、是ヲ以テ政府主長(按)統領ノ類)若シ兵權ヲ掌握スルキハ、大ニ之ヲ恣ニシテ、其威權遂ニ國君ノ如クナルニ至ラント恐レテ、此念慮ヲ放擲スル能ハス、一統領ヲ主長トセル民主國ニ於テハ、殊ニ然リトス、○



○三下六

是故ニ北亞米利加ニテハ、雷ニミリツツ〔按〕有事ノ日ニ臨テ徵集スル兵隊、一ヲ編制スルノ權ノミナラズ、亦之ヲ徵集シ、及ヒ叛賊ヲ平定スルノ權等、總テ皆コングレス〔按〕立法院ナリ〕ニ在リテ、統領ハ僅ニ小數ノ常備兵、及ヒ合邦ノ軍艦ヲ都督スルノミ、其他各邦ノミリツツニ至リテモ、コングレス之ヲ徵集スルニ非レハ、統領決シテ之ヲ號令スルコト能ハス、○佛國民主國タリシ時ニハ、統領軍隊ヲ調理スルノ權ヲ有セシカハ、親ラ之レカ元帥トナリテ、號令スルノ權ハナカリキ、○瑞士國コトハ、ブンデスヘルサムルング〔按〕立法院ナリ、閉會ノ時ニ於テハ、ブンデスラート〔按〕政府ナリ〕能ク軍兵ヲ徵集スルノ權ヲ握ル、但シ之ヲ使役スルノ時間久シキヲ要スル歟、若クハ徵集スル所ノ兵數二千人ヲ超ユル時ニ於テハ必ズブンデスヘルサムルングヲ集會セシメ、而シテ此府ノ會議ニテ、軍隊ヲ調理スルヲ俟ツヲ要ス、

第四 警保ノ大權〔ボリツァイホーハイト〕

總テ國家警保ノ事ハ、雷ニ君主ノ名ヲ用ヒ、其指揮ニ隨テ之ヲ施行スルノミニ止マラス、時宜ニヨリハ、君主親ラ此事ヲ施行スルヲ要ス、但シ其時宜ナル者ハ、殆ト希ナリ、即國家大危難ノ事起ルニ方リテ、之ヲ救防スルヲ要スル時、若クハ通常警保官吏ノ爲ス所ヲ監察シテ、其擅恣ヲ防止スルヲ要スル時ヲ云フナリ、○日常警保ノ事務ニ至リテハ、殆ト滙際ナシ、決シテ一人ノ能ク爲スヘキニアラス、故ニ別ニ官吏ヲ置テ、間斷ナク此事務ヲ行ハシム、是故ニ警保ノ理、及ヒ其制ニ至テハ、次卷ニ於テ更ニ詳論ス可シ〔按〕卷之七、第八、第九ノ二款ニ詳論ス、

第十七款

第五 司法ノ大權〔ユスタツツホーハイト〕

太古中古ノ世ニハ、君主親シク最上等ノ法官トナリテ、獄訟ヲ總掌セリ、是ヲ以テ獨乙帝ハ獨乙各國君主ノ司法ノ權ヲ保護シ、且ツ之カ嚮導トナレリ、故ニ帝各國ヲ巡行スル時ニ於テ、親ラ其法院ニ臨

一三下六

ミ、輒テ獄訟ヲ掌レリ、而シテ是時ニ方リテハ、地方ノ法院ハ、必ズ其權ヲ失ヘリ、然ルニ輒近一二百年前ヨリ、此法一變シ、君主決シテ獄訟ノ本務ヲ掌ラサルノミナラス、此職務ニ關係スル所ノ君權モ亦、殆ト消滅シテ、此職務遂ニ全ク法官ノ手ニ移ルトナレリ、但シ此法官ハ、君主ヨリ其職掌ヲ受ケ、且ツ君主ノ名號ヲ以テ、獄訟ヲ掌ル者ナリト雖モ、必ズ不羈獨立スル者ニシテ、決シテ君主ノ指揮號令ヲ奉シテ、其職ヲ掌ル者ニアラス、○是故ニ「獄訟ノ事ハ、悉ク君主ヨリ出ツ」ト云ヘル古言ノ意、今世ニ在リテハ、大ニ變換シ、且ツ其意ノ涉ル所モ、甚ダ限局スルニ至レリ、世人動モスルハ、君主ハ全ク獄訟ノ事ヲ知ラサルヲ以テ、善シトスル者アリ、果シテ然ラハ、頗ル君主國ノ理ニ戻ルト云フ可シ、其故ハ、何ソヤ、凡ソ國家ノ職官、君主ノ統下ニ屬セサル者、一ツモアル可キノ理ナキニ因テナリ、○輒近ニ至リテハ、法官獄訟ノ事務ヲ行フノ實事上ニ於テ、君主ノ指揮ヲ遵奉スルノ法ハ、全ク廢亡セリ、蓋シ確然タル法律アリテ、緊ク法官ヲ束縛シ、決シテ其擅行ヲ許サ、ルヲ以テ、此ノ如クナルヲ要スルナリ、君主若シ實ニ獄訟ノ事ヲ掌ルキハ、其強大ナル威權ヲ恃テ、遂ニ獄訟ノ公正ヲ害シ、以テ法律ノ正理ヲ紊スニ至ル可シ、○是故ニ立憲君主國輒近ノ制ハ、君主親ラ獄訟ヲ掌ルノ法ヲ廢セシカハ、法官ハ尙君主ヨリ其職掌ヲ受ルト、且ツ形貌ニ於テハ、必ズ君主ニ從屬スルノ規律ニ至テハ、永存シテ亡フルコトナシ、○〔按〕形貌ニ於テ、君主ニ從屬スト云フハ、即實事ニ於テ、君主ニ從屬スルノ反對ナリ、實事ニ於テ君主ニ從屬スルキハ、必ズ君主ノ命令ヲ遵奉セサル可ラス、故ニ本文ニ論スルカ如キ害アリ、

○瑞典一千八百零九年〔文化六年〕ノ國憲第十七章、及ヒ廿一章ニ據レハ、其君主親ラ最高等ノ法院ニ參列スルノ權アリ、他ノ立憲國ニテハ、絶テ無キ所ナリ、

然リト雖モ、其他司法ノ權ノ、尙君主ノ掌握ニ在ル者、左ノ數條ニ舉ルカ如シ、

〔一〕國憲並ニ獄訟ニ就キ、遵守スヘキ憲法ノ區域内ニ於テ、獄訟ノ總規則ヲ示令スルノ權利、君主ノ手中ニ在リ、

〔二〕法官ヲ任シ、其職權ヲ授ルノ權利、亦君主ノ手中ニ在リ、但シウールタイムニシテ、及ヒグスタ



ル子(按)其ニ民間ノ選擇ヲ以テ、獄訟ニ預ル者ナリ、卷之八ニ詳ナリ)ノ如キハ、必シモ司法ノ職權ヲ有スル者ニアラス、唯時アリテ、法院ニ列シ、法ヲ論スル者ナリ、故ニ法官トハ、全ク其歸ヲ殊ニス、故ニ君主是等ノ者ヲ授任スルハ、必ス緊要ノ事ニアラス、加之、獄訟ノ事ハ、務テ公正大ニ貴フト云フノ理ニ據テ、之ヲ考フレハ、則君主是等ノ職任ヲ任スルハ、尤良善ノコニアラス、

○審判斷定セル事ハ、必ス君主ノ名號ヲ以テ、之ヲ示令シ、且施行ス、蓋君主目ラ國家ノ正義公道ヲ保護スル所以ノ理、茲ニ於テ發顯スルナリ、

○普魯士國ノ國憲第六十八章ニ云、「憲法ノ外、決シテ他ノ權ニ從屬セサル法官ナル者、君主ノ名號ヲ以テ、司法ノ權柄ヲ施行ス、○斷定セル事ハ、國王ノ名號ヲ以テ、之ヲ施行ス、ト、

○獄訟ノ處置如何、其次第如何、國家秩序ノ保護如何、獄訟ニ係レル文書如何、並ニ司法省、(ユスチツ、ミニス、テリウム、)按)直ニ獄訟ヲ司ル法院ニハアラス、唯其事務ヲ司ル省ナリ、)及其屬司ニ於テ、右文書ノ處置如何ヲ監察探索スルノ權利、皆君主ノ手中ニ在リ、又總テ獄訟ノ事ニ就テ、其官吏ヲシテ、形勢表ヲ作り、之ヲ報知セシムルノ權利、亦君主ニ在リ、

○國家ノ安寧ヲ破リ、及ヒ政令ヲ害スル罪犯者アルニ方リテ、政府ノ權力ニアラザレハ、之ヲ追捕スル能ハサルハ、則追捕ノ命ヲ下スノ權利、特ニ君主ニ在リ、蓋スターツァーンワルト(按)追捕ノ權ヲ掌ル官ナリ、詳ナルコトハ、卷之八第四款ニ就テ看ル可シ)カ、常ニ視察スル所ノ區域ハ、甚狹ウシテ、高遠ナル治術ニ著意セサル者ナレハ、動モスレハ、其勉力スル處、却テ宜キニ適セス、或ハ甚急劇ニ失シ、或ハ甚緩慢ニ流レ、共ニ國家ノ害ヲ生シ易シ、能ク此弊ヲ防シ、獨リ君主ノ力ニ在ルノミ、何者、君主ハ總テ治體ノ諸關係ヲ偏察シテ、洩ス所ナキヲ以テナリ、

○刑法ニ關セル審問ヲ停止スルノ權利、亦君主ニアリ、但正義公道ヲ害セサランカ爲ニ、必ス此權利ニ就テ、限制スル處アルヲ要ス、

○普魯士ノ國憲第四十九章ニ云、「獨、君主既ニ就緒セル審問ヲ、別格ノ憲法ニ從テ、停止スル

ノ權ヲ握ル」ト、然ルニ(以里ノ國憲第八款第四章ニ記ス所ハ、之ト相反ス、曰ク、「君主決シテ就緒セル審問ヲ停止スル能ハス」ト、

○罪科ヲ減シ、及ヒ赦スノ權利、亦君主ニ在リ、凡ソ人ヲ憐ムノ情ハ、素、良心ニ備ハル者ニシテ君主仁恤ヲ以テ、罪科ヲ減シ、或ハ赦スノ權利ハ既ニ時勢ニ愜ハサル法ノ刻薄ナル所ヲ和厚ナラシメ、及ヒ硬固ニシテ、變通シカタクキ法ヲ、今日千狀萬態ノ景況ニ隨テ、變通セシムルニ、缺ク可ラサル者ニシテ、蓋君主ニ此權利アルハ、實ニ君主國ノ、大イニ他ノ政體ニ優ル所以ナリ、○君主決シテ親ラ、人ヲ罪スル能ハス、法官之ニ代リ、君主ノ名號ヲ以テ、憲法ニ由テ、人ヲ罪ス、去レハ、主ハ反テ、親ラ人ノ罪ヲ赦スヲ得ルナリ、君主若シ婦人ノ仁ヲ行フハ、甚國家ノ安寧秩序ヲ傷ル可シ、去レハ寬裕ノ心ヲ以テ、眞ノ仁恤ヲ行フハ、更ニ國家ノ安寧秩序ヲ堅固ナラシムルニ足ル、○仁恤ノ處置ト雖モ、亦法ニ合セサル可ラサルヲ以テ、立憲君主國ニ於テハ、必スミニスナルノ連署ヲ取ルヲ緊要トス、

○マルチン、ルテル(按)獨乙人、一千四百八十三年ニ生シ、五百七十年ニ死ス、(加特力教ノ大イニ其督ノ本旨ニ背クヲ歎シ、別ニ波羅特士旦教ノ一派ヲ立テシ宗祖ナリ)曰ク、「仁恤ト法律トハ君主必之ヲ行フ可シ、君主絶ヘテ赫怒ノ威ヲ震ハス、空シク姑息ノ小惠ヲ施スハ、皆ニ王室ノミナラス、其弊ノ及フ處、閭國民人、亦悉ク化シテ惡人トナリ、且禮儀廉恥地ヲ拂フニ至ル可シ、又若シ君主宜シク怒ル可ラサルニ、却テ憤怒ヲ逞フシ、無益ノ刑ヲ濫施スルハ、遂ニ苛酷ノ政令行ハレ、實ニ神ヲ敬スル善人スラ、尙之ニ恐怖シテ、一日モ安居スル能ハサルニ至ル可シ、ハイデ(按)眞神ヲ知ラサル民ノ義)ノ言ニ「嚴刻ナル法律ハ、大イニ不正ノ法ナリ」ト云ヘリ、余又之ニ加ヘテ言ハシ「無益ノ仁恤ハ、大イナル不仁ナリ」ト○父子ニ於ケルノ理ニ同シ、凡ソ人ノ父タル者、絶ヘテ其鞭策ヲ加ヘス、其放恣ノ行ヲ縱セハ、却テ是レ不慈ノ尤モ甚シキ者ト云フ可シ、何者、若シ此ノ如クナルハ、其子悛ムル處ナク、遂ニ重刑ヲ蒙ルニ至ルハ、必然ニシテ、即父自



テ之ヲ殺手ニ附スルニ異ナラサレハナリト、

因死刑ノ施行ヲ許可スルノ權利亦君主ニ在リ、故ニ君主自ラ之ヲ許可セサレハ、敢テ死刑ヲ行フヲ得ス、蓋シ臣民ノ生命ヲ敬重スルニ於テ、至要ノ規律ナリ、

四斷定セル刑罰ヲ施行スヘキ命令ヲ下スノ權利、君主ニ在リ、

五法院ニテ訴訟ヲ採用セズ、或ハ其裁斷ヲ怠ルコトアルニ方リテ、訟者之ヲ君主ニ訴フルコトアルキハ、直ニ命令ヲ法院ニ下シテ、其審判ヲ促シ、或ハ政務ニ就テ起レル訴訟ヲ、裁決スルノ全權ヲ任スルノ權利、又ハ獄訟事務ノ妨害ヲ、除去スルノ權利、皆君主ニ在リ、

六負債返償ノ延期ヲ許スノ權利、君主ニ在リ、道理ヲ辨別セサル債主アリテ、國內災厄ノ時ニ當リ、甚ダ己ムテ得サルニ非スシテ、暴ニ負債者ニ迫リ、償還ヲ促スニ途ハ、君主己ムテ得ズ、其權ヲ私法ノ區域ニ施シテ、償還ノ延期ヲ許スヲ得ルコト、甚ダ緊要ナリ、○此權利ハ、始テ羅馬ニ起立シ、其後獨乙帝國ノ國憲ニ於テ、帝ノ特權トシテ、裁定セシカ、爾來獨乙各國ノ君主モ亦、此權ヲ掌握シテ、動モスレハ之ヲ濫用シタリキ、抑此權利タルヤ、實ニ全ク廢ス可ラズト雖モ、然レモ素ト一時債主ノ權利ヲ奪フコトナルカ故ニ、必ス熟慮シテ、眞ニ己ムテ得サルノ時ニアラサシ、決シテ之ヲ施行ス可ラス、是故ニ必ス別ニ一法ヲ設立シ、以テ君主ノ特有セル、此權利ヲ限制ス可シ、且若シ別種ノ憲法ヲ以テ、此權利ヲ施行スル所ノ國ニ於テハ、兼テ立法者（按）即立法院ヲ云）ノ權ヲモ、必ス限制スルコト緊要ナリ、

但シカビテ、ユスナツ（按）君主親ラ、獄訟ヲ掌ルノ制ヲ云フ）ノ諸制ハ、既ニ全ク廢止セリ、方今ノ民主國ニ於テ、獄訟ノ事ハ、通常全ク政府ヨリ分隔シ、形貌ニ於テモ、亦全ク政府ニ從屬セサル者ト爲ス、古時主長ノ司法權柄ニ就テ、掌握セシ諸權利中、今僅ニ存スル者ハ、司法職官ヲ授任スルノ議ニ預ルノ權利、罪人ノ追捕ヲ命スルノ權利、及ヒ斷定セシ所ヲ施行スルノ義務等是ナリ、○但シ合衆國ニテハ、政務ニ於テ犯セシ罪科ノ外ハ、統領其罪ヲ減シ、及ヒ之ヲ赦スノ權利ヲ握ル、佛

國民主政體ノ時ニ於テモ亦、此權利ヲ握リタリキ、瑞士國ノ政府ニハ、全ク此權利アルコトナシ、

第十八款

第六 財務ノ大權（ヒナソツ、ホーハイト）

國家ノ需要ヲ供給シ、及ヒ之ヲ供給セシカ爲メ、國家ノ所有（スタットツヘルモトゲン）ヲ管理シ、稅餉ヲ收取シテ、之ヲ公費ニ供用シ、及ヒ歲入歳費ヲ計算スル等ノ事務モ、總テ亦必君主ノ統括スル所ナリ、此事ニ於テハ、民主國ノ制度ト雖モ、亦甚ダ君主國ニ異ナラス、民主國ニ於テモ、財務ハ亦必一途ニ出テサルヘカラサル所以ト、且其規律ノ完全具備セサル可ラサル所以ヲ知ル、是ヲ以テ眞ノ權柄ニ係レル事務ハ、國民決シテ全ク之ヲ政府ニ委託スルナシト雖モ、財務ニ至テハ、大抵政府ニ委託シテ、國民之ニ關シテ欲スルノ情意ヲ抱クコト少シ、（按）財務ノ權ハ、他ノ諸權ノ命令、指揮、保護等ノコトヲ主トスルカ如クナラス、專ラ國用ノ供給ヲ主トナスカ故ニ、權柄ノ意自ラ少シ、是ヲ以テ、眞ノ權柄ニ係レル事務ト、分別スルナリ、

第七 監臨ノ大權（オーベルアウフシツレフト）

監臨ノ權ハ、他ノ施政權利トハ、全ク其趣ヲ異ニシ、命令、指揮、保護等ノ如キ、眞ノ施政權ヲ行フヲ先務トセス、今日現ニ、實際ニ顯ハル、情實、事態ヲ通察スルヲ以テ、先務ト爲シ、次テ右ノ施政權ニ及ホス者ナリ、是故ニ君主ハ、國家職官ノ規則職掌ヲ、監臨スル權アルノミナラス、又實ニ自主自立シテ、國家ノ訓督ニ賴ラサル、人物及ヒ事件（按）私人私事ヲ云フ）ヲモ、兼テ總監スル權アリ、政府ハ其版圖内ニ起リテ、國家ノ利病ニ係リ、或ハ國家ノ法制ニ關スヘキ諸事ヲ舉ク、總テ之ヲ通察スルノ權ヲ有ス、○政府ハ右等ノ諸件ヨリ、國家ニ忠害ノ生スルヲ、深慮シテ、其安寧ヲ長全スルニ適當セル方法ヲ、機會ヲ失ハスシテ、設ケンカ爲メ、常ニ著意シテ、怠ラサルヲ要ス、

古時佛朗哥國ニテ、發遣使（センドボータ）ヲ置キ、方今復各國ニ於テ、形勢官（スタチスチセル、プ

ロー）〔按〕版圖内ノ形勢表ヲ設ル官ナリ、ヲ置クカ如キハ、即君主監察ノ權ヲ施行セシカ爲ナリ、殊ニ發遣使ノ如キハ、通常形勢表（スタチスチツク）ヲ設ルノ外、更ニ親シク州縣ノ情實事體ヲ視察セシム



ルカ爲、必要ナル者タルヲ以テ、今時ト雖モ、此制ノ全ク亡ヒタルニハ非ス、○但シ國家タル者臣民  
私事ノ秘密、及其親族間ノ秘密ヲ嚴密ニ探索シテ、遂ニ民人ノ自由ヲ妨ルコト至ル等ノ一ハ、敬シテ爲  
ス可ラス、且、縱令ニ必要ノ事ト雖モ、之ヲ探索スルニ、不正ノ術ヲ用フルハ、甚善カラズ、其他國家ノ  
宜シク關係ス可ラサル事ニ關係シ、遂ニ臣民ノ後見、ベホールムンツンク、ノ如ナルニ至ルハ、又尤  
善カラズトス、一殊コ邑社(ゲマインデ)按卷之十一ニ詳ナリ)及ヒ諸會社等ヲ創立スルニ、其事態  
若シ國家ノ利害得失ニ關係スヘキ者アルハ、政府必シ其許スト否トヲ、考定ス可キヲ以テ、必預メ  
其情實事體ヲ、監察セサル可ラス、去レテ會社ヲ結フノ事、唯民人互相ノ私事ノミニシテ、絶テ國家ノ  
利害ニ涉ラサル者ナラハ、政府敢テ之ニ關ス可ラス、○

○羅馬帝國ノ法ニテハ、縱令國家ニ利害ナキ會社ノ事ト雖モ、政府必之ニ關シテ、民人ノ自由ヲ  
限制シタリキ、

第八 教育方法ノ監護(ソルゲ、ヒュール、デー、シルツールヘルルトニツセ)  
國家ハ人材教育ヲ監護ス可シ、凡學術諸科、大小學校ノ規制ノ如キハ、專ラ國家ノ設立スヘキ者ニハ  
アラサレハ、其良否得失、大ニ國家ノ成敗ニ關係アルカ故ニ、必之ヲ監護シテ、其弊害ヲ救ヒ、以テ教  
育ノ方法ヲシテ、國家ニ裨益アラシムルハ、實ニ政府ノ權利、及義務ト云フ可シ、  
神教會ハ國家ノ内外ニ通セル大會ニシテ、自ラ國家輻輳ノ外ニ在テ、獨立スル者ナレハ、政府亦之ヲ  
監察シテ、其弊害ノ國家ニ及フヲ、防止セサル可ラス、  
是等ノ事ハ、總テ第九卷ニ於テ、詳論ス可シ、

第十九款  
第九 權利施行ノ體裁(ホルメン、デル、アウスユーゲルク)即チ布告(ヘルオルドスング)及  
命令(ヘール)

以上論説スル所ヲ以テ、施政權柄、全ク斯ニ盡セリト爲ス可ラス、上文論スル所ハ、所謂一點ノ中心ニ  
圓滿セル國權ノ、散シテ各殊ノ權利トナリ、發耀セル者ト云フ可キノミ、(按)本卷第十五款、內權ノ

章ヲ參看ス可シ、是故ニ、此國權ハ、國家遇フ所ノ景況ニ隨テ、猶數種ノ權利トナリ、諸方向ニ發耀シ、  
又景況新クニ生スルハ、隨テ復其新方向ニ發耀ス、眞ニ無盡ノ泉源ノ如ク然リ、

施政權柄ヲ施行スルノ體裁、乃チ左ノ如シ、

甲 アルゲマイチス、ヘルオルドスング(按)政府憲法許ス所ノ區域ニ於テ、徧ク令スル所ノ布告、  
チ示シテ此權柄ヲ施行ス、

乙 事ニ當リ時ニ臨ミ、アインオルドスング、ヘール(按)共ニ命令ノ義)及ヒヘルボット(按)  
禁止ノ義)チ示シテ、此權柄ヲ施行ス、

甲行ニ舉ケタル布告ノ事ニ就テハ、既ニ上卷ニ論述セリ(卷之五第九款ヲ參看スヘシ)乙行ニ舉ル命  
令、及ヒ禁止ノ如キモ亦、眞ニ政府ノ施政權柄ニ屬ス、○政府ヲ以テ、獨リ吏務ノミヲ掌レル者ト爲シ、決  
シテ命令指揮ノ權柄ヲ、握ルヘキ者ト爲サ、ルハ、乃チ當今ノ通病ニシテ、其義ノ害タル、甚ク少クナラ  
ス、凡國家ノ國家タル所以チ、失ハサラント欲セハ、政府唯臣民ヲ訓戒説諭スル等ヲ以テ、足レリト爲  
ス可ラス、緊要ノ事ニ至テハ、必、共ニ確乎不拔ノ威嚴ヲ以テ、命令指揮ヲ出シ、臣民ヲ、必之ニ聽  
從セシムルノ權アラサル可ラス、○政府ノ命令指揮ナル者ハ、即チヘール(按)命令ノ義)アウフ  
タラク、(按)委任ノ義)レスクリプト、(按)臣民ノ請願ニ答フル文書ノ類)コンツェッション(按)  
請願ノ許容)パン(按)嚴命ノ類)ヘルボット、(按)禁止ノ義)及其他尙許多アリ、

○華盛頓ノ人ト爲リ、國權ノ專恣ニ至ルヲ、恐ムコト尤甚シ、去レテ一千七百八十六年(天明六年)第  
十月三十一日ノ書翰ニ、左ノ文ヲ述ヘタリ、足下余ニ勸ムルニ、メッセヂセツ(按)合衆國ノ一部、  
ノ騷亂ヲ鎮定スルニ、政府宜シク訓戒説諭ヲ用フ可シト云ヘリ、去レテ余ハ訓戒説諭ヲ用フルノ方  
法、如何チ知ラス、縱令ニ今之ヲ用フルノ方法アルモ、恐テクハ此ノ如キ大騷亂ヲ鎮定スルニ於テ  
適應セル妙術ト云フ可ラス、夫レ訓戒説諭ハ、決シテ政府ノ威權ト爲スコ足ラズト、○



○按メフセテセツニ騷亂起リシ時、其地ヨリ合衆國政府ニ請ヒ、訓戒説論ヲ用ヒテ、和平ヲ謀ランコトヲ欲セシ故、華盛頓之ニ答フル註文ノ如シ、蓋シ華盛頓ノ意謂ラク、政府ノ權ヲ以テ、僅ニ訓戒説論ヲ爲スニ過キストスルハ、甚ク不可ナリ、此ノ如キ、大騷亂發ルニ方リテハ、政府宜シク其威嚴ヲ張テ、之ヲ鎮壓セサル可ラス、訓戒説論ヲ用フルカ如キハ、適シ政府ノ弱ヲ示ス者ニシテ、決シテ威權ヲ顯スニ足ラズト、信ニ確論ト云フ可シ、

政府此命令指揮ノ權ヲ、若クシテ施行スルニ於テハ、必ク現存ノ國憲、憲法及ヒ其他ノ規律ニ限制セラレ故ニ取テ之ヲ毀損スルヲ許サズ、又取テ其區域ヲ超ユルヲ許サズ、○政府ハ、公利公益ノ爲メニ已ム可ラサル所アレハ、則ク必ク之ヲ施行スヘキ命令ヲ下ス可シ、但シ施行スル者ヲ、必ク正善ノ方法ニ由ラシムヘシ、  
此ノ如キ限制ハ、施政權柄ニ於テハ、立法權柄ニ於テヨリモ、施シ易ク、且速ニ施シ得可シ、○殊ニ法院ノ如キハ、其職掌内ニ於テ審判斷定スルニ方リテハ、縱令ヒ政府ノ命令ト雖モ、形貌或ハ事理ニ於テ、憲法ニ合セサル所アレハ、決シテ之ヲ遵奉セサル、權アルノミナラス、尙目ツ其職掌當然ノ事ニ於テハ、全ク政府ノ意思ニ反レル、處分ヲ以テ、國家ノ法制秩序ヲ保護スルノ權アリ、○然リト雖モ、法院ハ、政府ノ監督トナリテ專ラ政府ノ處分ヲ監督スルノ權アラス、目ツ又政府ノ命令指揮、形貌事理ニ於テ、或ハ憲法ニ悖戾スルコトアリ、敢テ之ヲ審問スルノ權ナシ、○是故ニ、臣民政府ノ處置ヲ以テ、法院ニ控訴スルハ、通常許サ、ル所ナリ、(卷之八第五款ニ於テ、猶詳論スヘシ)、  
政府ノ下等官員ノ如キニ至テハ、其職掌ノ區域内ニ於テ、政府(按)ニミコステル等ヲ云、)ヨリ命セラレシコトハ、事理上ニ於テ、縱令ヒ憲法ニ悖戾スル所アルヲ察ルモ、必ク之ヲ遵奉セサルヲ得ス、何者、下等官員ハ、全ク政府ニ從屬スル者ニシテ、決シテ獨立スル者ニアラサレハナリ、是故ニ此等ノ輩ハ、政府ノ處分ニ就テ、毫モ保任ノ義務ヲ負フ者ニアラス、實ニ保任ノ義務ヲ負フ者ハ、自ラ其事ヲ處分セル政府、即チミコステルナリ、(卷ノ七第三款ヲ、參看ス可シ、)

第二十款

第十 政府非常ノ權、アウスナームスレフ 即チ國家不得已ノ權、(スグーツ、ノト、ホン、レギールンク)

但シ國憲、或ハ憲法等ニ於テ、儘全ク此規律ニ相反スルコトナキニアラス、

ナ國家ハ、高尊ノ者ナルヲ以テ、之ヲ保護スルハ、乃チ政府ノ第一義務タリ、是故ニ國家ニ已ムヲ得サルノ事體(ノートハル)按)大危亂ヲ云、)發スルコト方リテ、之ヲ救フハ、國家ノ大危亂ヲ救フニ於テ、他術損シ、或ハ現存ノ法制秩序ヲ傷害スルハ、決シテ妨ケナシトス、實ニ國家ノ大危亂ヲ救フニ於テ、他術アラサレハ、一ニ私人ノ權利ヲ枉ルハ、論スルヲ須ヒス、衆多群民ノ權利ト雖モ、必ク之ヲ壓抑セサルヲ得ス、(國家ノ安寧健康ハ、至要ノ事ナリ)ト云、ヘル格言アルコト非ラヌヤ、故ニ此安寧健康ヲ保ツコト、必要ナルコトハ、力ヲ極メテ爲サ、ル可ラス、但シ政府ヲ利シ、民ヲ害スルノ意ヲ以テ、民權ヲ犯スハ、極メテ不可ナリトス、  
〔第一〕所謂政府非常ノ權、即チ政府不得已ノ權ナル者ハ、全ク此理ヨリ生スル者ニシテ、所謂ホルク不得已ノ權利(按)本卷第三款(第三)ヲ、參看ス可シ、)ト、其理同一ナリ、(按)施行スル者ハ、全ク異ナレ、其國家ヲ救フノ理ハ、全ク同一ナルヲ云、)但シ政府若シ此權ヲ施行スルハ、人民ノ權利、及ヒ自由ニ於テ、決シテ損害ナキヲ保ツ可ラス、且、若シ政府此權ヲ施行スルハ、常規ト爲スハ、其權遂ニ限制スル所アラサレシテ、全ク暴政ニ陥ルハ、必然ナリ、故ニ平常ニ當テ、非常權ヲ施行スルハ、決シテ許サ、ル所ナリ、去レ、其實ニ已ムヲ得サルノ事體發スルコト方リテハ、此權ヲ用フルニアラサレハ、僅ニ其一部ヲ庇フカ爲メ、全體却テ大災害ヲ被ルニ至ル、是故ニ此權決シテ缺ク可ラス、○船艦颶風ニ遇フテ、殆ト遁ル、ノ術アラサルニ方リテハ、船長實ニ其職ヲ辱シメサルノ器アレハ、斷然船客ノ物品ヲ激浪ニ投シ、敢テ惜マズ、又苦戰ノ時ニ於テ、數隊ヲ捨ルニアラサレハ、決シテ全軍ノ捷ヲ奏スル能ハサル歟、若シ全軍ヲシテ、妨礙ナク、退行セシムル能ハサルニ臨テハ、老成ノ將ハ、斷然數隊ヲ捨テ、敢テ願ミサルハ、必然ナリ、國家大危亂ノ時ニ臨ミ、君主タル者ノ處置、豈獨リ之ニ反ナルヲ得ンヤ、(按)全體ヲ救フハ、其一部ヲ捨ルノ肝要ナル所以ト云フ、)



六 治休ニ通曉セル國ニ於テハ、夙ニ此理ヲ辨識セシカ故ニ、既ニ國憲上ニ於テ、預メ此ノ如キ非常權ノ制ヲ設立シタリ、往古羅馬ニ於テ、デシタトール(按)國家大危亂ノ時ニ於テ、一時無限ノ大權ヲ掌握セル官、ヲ立テシハ、即チ此理ニ出ル者ニシテ、彼ノ「コンスラート」天下ノ事ヲ以テ自ラ任スルハ、決

シテ惡キコトアラズ、ト云ヘル規律ハ、實ニ確言ト云フ可シ、又非西西亞ニ於テハ、國家大危亂ノ時ニ臨テハ、虜ニ數人共ニ國家ヲ救フノ權ヲ掌握シタリ、其他英國ニ於テハ、ベアス、コルプス、アクトノ規律(按)一千六百七十九年ニ於テ、立テタル法ニシテ、罪人ヲ捕縛スルキハ、必二十四字間ニ糾問ス可ク、決シテ之ヲ過コシ、長ク幽囚スルヲ許サ、ルノ法ナリ、蓋英國ニテ、臣民ノ自由ヲ保護スルニ於テ、最モ緊要ナル者ナリ、一チ一時廢棄スルノ法(ス、ペンシオン)並ニ歐洲大地各國ニ於テ、ベラーゲルングス、ツウスタンド、及ヒスタンドレフトノ法(按)共ニ守城或ハ大騷亂ノ時ニ方リ、將軍暫ク常律ヲ廢シ、嚴密ノ處置ヲ爲シ得ルノ法ナリ)アルカ如キ、皆非常權ノ已ム可ラサルヲ以也、君主國民主國ニ論ナク、絶ヘテ已ムヲ得サル事體ノ生セザル理ハ、決シテ有ル可ラス、然ルニ儘其國憲上、全ク此非常權ヲ、設定セサル國アリ、或ハ能ク之ヲ設定スルモ、甚ク細詳ヲ得サル國アリ、又ハ非常權ノ、遂ニ專横ニ至ランヲ恐レ、故ラニ之ヲ禁スル國ナキニシモアラス、去レヒ國家焉ソ已ムヲ得サル事體ノ、絶ヘテ生セサル理アラザヤ、若シ此ノ如キ國ニ於テ、一旦大危亂ノ生スルアルニ遇ヘハ、之ヲ救防スルノ術、殆ト難シ、○但シ此ノ如キ國ニ於テモ、英邁ナル王公輔弼ハ、已ムヲ得サル事體ノ生スルニ遇ヘハ、必ラス紙上ノ憲法ヲ捨テ、能ク天理去(ナツール)セツツ(按)天理ニ出ル憲法ノ義ヲ取用シ、而シテ自ラ保任ノ義務ニ背イテ、破法ノ責問ニ遭フチモ顧忌セズ、敢テ國家ヲ救フチ以テ、其專任ト爲ス、○去レヒ其勢已ムヲ得サルニ方リテハ、彼ノデシタトール、無限權ヲ許スノ規律ヲ、豫メ國憲ニ裁定セル國ニ於テ、事ヲ濟スニ比スレハ、其處分ノ難キ、實ニ數倍ナリ何者、臣民直ニ其處分ノ國憲ニ背ケルヲ、責問スルコト、必然ナレハナリ、○然ルニ暗弱ナル王公輔弼ハ、國家

内患外寇アルニ方リテモ、決シテ此ノ如キ勇斷ヲ、爲ス可ク能ハスシテ、空シク國家ヲ亡滅ニ附シテ救フ能ハス、

○按「ミ」ニステルハ、政令ノ國憲ニ合スルヲ、保任スルノ義務アルコト、既ニ本卷第十三款ニ詳論スルカ如シ、去レヒ賢輔良弼ハ、此ノ如キ時ニ臨ミ、徒ニ國憲ヲ墨守シテ、國家ヲ危ウスルコトナク、必「自己」ノ名利ヲ棄テ、身命ヲ抛テ、國家ヲ救フコトヲ、以テ、其專任ト爲ス、  
〔第二〕非常權ヲ施行スルコトハ、已ムヲ得サルノ事體、既ニ發シタル時、若クハ未タ發セサルモ、其機既ニ現然トシテ、遂ニ除ク可ラサル時ニ於テス可シ、唯國家全體ノ利益ヲ、増進スルノ目的ヲ以テ、此權ヲ施行スルハ、甚ダ非理ナリトス、何者、若シ唯國家全體ノ利益ヲ、増進スル爲メ、非常權ヲ用フルヲ許シ、此權遂ニ常權トナルニ至ル可シ、此權若シ常權トナルハ、國家ノ法制秩序モ、變亂ノ爲メ、遂ニ滅裂スルニ至リ、且自由ノ權モ、亦共ニ保存スル能ハサルハ、必然ノ勢ナレハナリ、○國家ノ法制、並ニ臣民ノ自由ヲ保護スルハ、政府ノ常義務ナリト雖モ、此義務ヲ盡サンニハ、必「現存」ノ法ヲ守ラサル可ラス、  
又非常權ニ限制センカ爲メニ、預メ已ムヲ得サル事體ヲ、認定指示スルノ規律ヲ綿密ニ立テタル國アリ、即チ羅馬ニ於テハ、セナートノ議ヲ以テ、已ムヲ得サルノ事體ヲ決定シ、英國ニ於テハ、已ムヲ得サルノ事體ヲ認定シテ、彼ノハベアス、コルプス、アクトヲ一時廢棄スルハ、獨リ「巴力門」ノ權ニアルノ規律ヲ立テタリ、○佛國一千八百四十八年「嘉永元年」ノ國憲、第百零六章ニ、唯憲法上「已ムヲ得サル」事體トシテ、認定セリ、景況ノ發シタル時ニ於テノミ、ベラーゲルングス、ツウスタンド(按)前ノ「第一」ニ出ツ、ヲ用フヘキ旨ヲ載セ、復普魯士國ニテハ、戰爭及ヒ反亂ノ起リシ時ヲ以テ、已ムヲ得サル事體トナシ、而シテ此ノ如キ時ニ於テハ、國憲ノ二三條規ヲ、一時全ク廢止シ得ルコト爲セリ、○但シ古來王公輔弼實際ニ臨ミ、非常權ヲ施スニ方リテ、此ノ如キ限制ヲ拘守スルキハ、決シテ國家ノ急ヲ救フニ足ラサルヲ知リシ時ニハ、此限制ヲ超ヘテ、尙其歩ヲ進メタリキ、

六下四一



已ムテ得サル事休テ、指示スルノ規律ナキ國ニ於テハ、必、國家元首、之ヲ決定スルヲ當然ナリ、但シ立憲君主國ノ如キハ、此時ニ於テ、君主ト共ニ權署スル所ノミニニステル、其處分ヲ保任スルハ、固ヨリ當然ニシ、且ツ預メ、スターツテ、(按、國政ニ參議スル高官卷之七、第六款)ニ詳ナリ、(一)謀レハ、更ニ善ナリ、○但シ此決定ヲ以テ、國家元首ニ托セテ、代國府ニ托セサルハ、何ソヤ、蓋シ代國府ハ、已ムテ得サル專體ノ發スル時ニ臨ミ、必シモ現ニ集會スル者ニアラス、且ツ代國府ハ、事情切迫ノ時ニ臨ミ、神速ニ救防ノ策ヲ運シ、以テ適宜ノ處分ヲ施スノ職官ニアラス、加之、決シテ此ノ如キ職掌ニ堪ヘサルヲ以テナリ、○但シ此權ハ、政府ノ常權ト異ニシテ、素ト強暴ノ權ナルヲ以テ、政府若シ、已ムテ得サルニ非スシテ、恣ニ此權ヲ施行スルヲ、輒近獨逸各國ニ於テ、其政府恣ニ此暴權ヲ施行セシカ如クナルキハ、臣民塗炭ニ苦シムノ恐レ少カラストス、是故ニ政府此權ヲ施行スルニ方リテハ、必、兩院之ヲ監督スルノ權ヲ握ル、甚タ緊要ナリ、

〔第三〕縱令ニ專體已ムテ得サルノ時ト雖モ、猶爾憲憲法ニ悖反セサル處分ヲ以テ、防護シ得ルノ術アル間ハ、決シテ非常權ヲ用フルヲ許サス、又已ムテ得サルノ專體、將ニ起ラントスルノ機、先ニ現ハルカ爲メ、能ク憲法ニ由テ、防護スヘキ方法ヲ設ケ得ルキハ、則非常權ノ區域、自ラ減縮ス、(按)本來非常權ト爲セル條規モ、預メ憲法ヲ以テ姑ク之ヲ常權ノ規律トナスカ故ニ、非常權ノ區域自ラ減縮スルナリ、)普魯士國等ニ於ケルカ如ク、已ムテ得サル專體ノ生スル時ニ於テハ、政府一旦救時ノ憲法ヲ、告示スルノ權ヲ握レル國ニ於テハ、政府ノ此權ヲ施行スルヤ、決シテ非常權ヲ施行スト云フ可カラス、既ニ預メ、國憲及、其他ノ憲法ヲ以テ、限定セル權利ヲ、施行スト云フ可シ、

〔第四〕古時羅馬ニテハ、已ムテ得サルノ專體生スルニ方リテハ、テラトール(按)本款〔第一〕ニ出ツ)ノ官ヲ立テ、非常權ヲ施行セシメシカドモ、若シ此ノ如キ官ヲ立テサル國ニ於テハ、國家元首、必、此權ヲ施行ス可シ、決シテ從屬スル所ノ職官輩、之ヲ施行スルヲ許サス、但シ寇賊俄ニ襲來スル時等、防禦瞬間ヲ争フニ方リテハ、官吏ハ勿論、縱令一私人ト雖モ、亦能ク一旦此權利ヲ施行シ、危急ヲ救フニ於テ、決シテ妨ナシ、但シ直ニ之ヲ政府ニ報シテ其後ノ處置ニ就テハ、政府ノ號令ヲ俟ツテ要ス、去レ、若シ國家元首、其職ニ堪ヘサルカ爲メ、遂ニ已ムテ得サルノ事、起ル時ニ於テハ、必、重要ノ職官、非常權ヲ施行セサルヲ得ス、即チミニステル、及ヒ兩院或ハ時宜ニヨリテハ、將軍等之ヲ施行ス可シ、

〔第五〕救防ノ目的ニ從テ、其方法ヲ設定シ、及ヒ之ヲ限制ス可シ、未タ事ナキ時ニ於テ、預メ救防ノ方法ヲ設定セント欲スルハ、徒ラニ無益ノ勞ト云フヘキノミ、凡ソ已ムテ得サルノ專體發スルニ當リテハ、一時公權利ヲ阻止シ、又ハ之ヲ廢棄シ、或ハ私權利ヲ毀損スル等、固ヨリ妨ナシト、ス例ハ公事ノ商議及ヒ會合ヲ禁止シ、出版ノ自由ヲ、一時阻止シ、又ハ非常法院(アウツセル)オルデントリヘス、ゲリフト)ヲ設ル等ノ如キ、都テ公權利ヲ阻止廢棄スル所以ナリ、所謂國家已ムテ得サルノ專體ナル者ハ、素ト國事ニ關スルヲナルカ故ニ、此事發スルニ至リテハ、是等公權利ヲ阻止廢棄スルハ、私有ヲ毀損シ、或ハ私人ノ日用交際、及自由ノ權利ヲ限制スルヨリモ、更ニ緊要ナリトス、但シ國家安寧ニ存在スルノ權利ハ、元ト至高ノ權利ナルカ故ニ、已ムテ得サルノ專體發スルニ方リテ、國家存在ノ爲メ、妨礙トナルヘキ諸權利ハ、舉テ之ヲ禁止スルヲ、甚タ緊要ナリトス、救防ノ方法ヲ限制スルキハ、非常權ノ區域、亦自ラ定マルナリ、即チ左ノ如シ、

- 甲 救防ノ方法ハ、救防ノ難易ニ適應スルヲ要ス、決シテ不適宜ニ嚴ナル可ラス、又此方法ヲ施スカ爲メ、現存ノ方ヲ毀損限制スルモ、亦救防ノ難易ニ隨テ、其可ニ適スルヲ要ス、決シテ不適宜ニ大ナル可ラス、
- 乙 既ニ救防ノ志ヲ達シタル後、仍非常權ヲ施行スルヲ許サス是故ニテラトール(前ニ見ユ)ノ權ヲ施行スル時限ヲ短小ニ定ムル國アリ、蓋シ此權ヲ施行スル時限遷延久シキ時ハ、遂ニ變シテ暴虐ノ權トナルヲ恐ル、ナリ、
- 丙 其事體唯一時ノ方法ヲ設ケテ、救防シ得ヘキキハ、決シテ悠久ノ方法ヲ施ス可ラス、且ツ立法



府ハ、常ニ此方法ノ舉行ヲ監督シ、速ニ平常ノ法制ニ復セシムルヲ務ルノ權アリ、殊ニ已ムヲ得サル事體發起ノ際ニ於テ、一時令シタルアルゲマイチ、ヘルオルドスング(按)前款ニ出ツノ如キハ、立法府其時機ヲ察シ、務メテ速ニ廢止セシムルコトニ、心ヲ用フ可シ、

丁 事體方ニ般ナルヲ以テ、縱令ヒ大ニ非常權ヲ施スコトアリモ、主トシテ之ヲ施行セシムニステルハ、其方法ニ就テ、必ズ自ラ保任セサル可ラス、何者、若シ此ノ如キ時ニ於テ、ミニステル保任ノ義務ヲ負ハサルキハ、是レ即チミニステル唯私利ノ爲ニ、國難ヲ救防スト云可クシ、決テ實ニ國家ノ爲ニ、其難ヲ救防ストハ、云フ可ラサレハナリ、○非常權ヲ施行スル、愈嚴猛ナレハ、之ヲ施行スル者、其方法ノ已ムヲ得サルニ出ル所以ヲ、保任スルノ義務モ、亦愈大ナリ、非常權ヲ施行スル時ニ於テ、悠久ノ新法ヲ立ルコトハ、通常許サ、ル所ナリ、然レモ唯已ムヲ得サルノ事體ナルヲ以テ、現存ノ法ヲ毀損スト雖モ、當ニ之ヲ犯法ノ處分トセサルノミナラス、却テ緊要ノ處分ト爲スナリ、去レテ法ニ合セサル事ヲ擧ケテ、之ヲ法ト爲スカ、如キハ、甚ダ不可ナリ、凡ソ非常權ハ、唯非常ノ事發スルカ爲ニ、已ムヲ得ス、緊要ト爲ス者ニシテ、決テ新法ヲ立ルカ爲ニ、緊要ト爲スニアラス、是故ニ政府ノ威權ヲ逞ケ、新ニ私法ヲ設ケ、或ハ法院ノ審判裁斷ヲ經ス、恣ニ刑罰ヲ施ス等ノ處置、及ヒ其他現存ノ國憲ヲ、永シ變革スル等

ノコトハ、通例非常權ノ已ムヲ得サル處分ト、目スルヲ許サス、○但シ此ノ如キ處分ト雖モ、或ハ認許サセサル可ラサルコトアリ、凡ソ已ムヲ得サルノ事體ヲ、救防スルノ術ハ、素ト此事體ノ大小緩急ニ應ジ、舉措セサル可ラス、此事體ノ起リタル原因ヲ推スニ、若シ國憲ノ不善ヨリ生スル者ナルキハ、國憲ニ隨テ、其原因ヲ除去スル能ハサルハ、固ヨリ論ナシ、故ニ此ノ如キ時ニ方リテ、國家ノ難難ヲ救ハント欲スル者ハ、預メ國憲ヲ改革セシムルヲ企テ謀リテ、之ヲ遂ケサル可ラス、既ニ輒近各國ニ於テ、顛覆及ヒ復舊顛覆(レ)アクチオシ、(按)一旦顛覆リテ政體ノ變セシテ、又憲制ニ復シテカ爲ニ、起ス所ノ顛覆ヲ云、ノ爲ニ、國憲數次顛覆シテ、遂ニ不具トナリシカ故ニ、此ノ如キ改革屢アリキ、○此ノ如キ改革ヲ爲スニ方リテハ、從テ立法府、若シハ新ニ選任セル立法府等、能ク其方法ヲ監察シ、以テ現法ヲ犯ス所ノ新法ヲ認許シテ、遂ニ之ヲ眞實ノ法ト爲スノ權アル可シ、○

○普魯士王非的利、維廉第四世(フリードリヒ・ヴィルヘルム)、一千七百九十五年ニ生レ、八百六十一年ニ殂ス、ハ、一千八百四十九年(嘉永二年)ニ於テ、非常權ヲ施行シ、復佛國統領路易、那破倫(ルイ・ボナパルト)、(按)那破倫第三世ナリ、ハ、一千八百五十一年(嘉永四年)十二月二日ニ於テ、非常權ヲ施行セタリ、即チ非的利、維廉第四世ハ、第二院(按)即チ下院ナリヲ廢シテ、獨リ自カラ代議者選擇ノ法ヲ改革シ、復路易、那破倫ハ、ナチオナルヘルサムルング(按)議會ノ名ヲ解イテ更ニ新國憲ヲ制シタルヲ云フナリ、○此ノ如キ非常權施行ノ方法ヲ以テ、或ハ正ト爲シ、或ハ不正トナス者アリテ、其論一定セサレモ、普國佛國共ニ遂ニ、之ヲ認許シテ、全ク遵奉スルニ至リシハ、又疑フ可ラス、

大井潤一 校



國法汎論卷之七上 目錄

國家職務及與ノ政令

- 第一款 國家職務ノ品類及法ニ關セル性
- 第二款 國家官吏ノ任用
- 第三款 國家官吏ノ權利及義務
- 第四款 國家職務ノ止息
- 第五款 輔弼ノ官



按此... 瑞士... 加藤弘之... 譯

國法汎論卷之七 上

瑞士

イ、カ、ブルンチユリ 著  
加藤弘之 譯

國家ノ職務、スターツヂ、及ヒ眞ノ政令、アイゲントリヘ、レギメント、〔按〕立法、司法、施政等、皆政令令ヲ施ス權柄ニアラス、直ニ政令ヲ施行スル者ハ、獨リ施政權柄ノミ、故ニ此權柄ヲ以テ、眞ノ政令ト爲シテ、他ノ權柄ト區別スルナリ、

第一款 國家職務ノ品類〔アルテン〕及ヒ法ニ關セル性〔按〕國家職務ノ性ニ二品アリ、則チ法ニ關セル性ハ、專ラ道義學科ノ論スル所ナリ、然レモ、法學ニ於テハ、唯法ニ關セル性ヲ論ス、道ニ關セル者ト、道ニ關セル者ト、是ナリ、

〔第二〕國家職務ナル稱ノ眞義、全ク開明セシム、實ニ近今國家ノ眞理始、テ開明セシニ由ルナリ、故ニ中古ノ世ニ於テハ、國家職務中ニ、私法ノ意ヲ混交シ、又其後ニ至リテハ、君權無限ノ意モ、共ニ之ニ錯交シ、其公正ナル所以ヲ喪瀆シタリキ、凡ソ國家職務ト云ヘル言辭ハ、以テ能ク二義ヲ徵スルニ足レリ、即チ其一ハ、國家元首ノ特任ヲ以テ、公事ヲ掌ルノ義、其二ハ、國家ノ爲メニ、公事ヲ掌ルノ義ナリ、故ニ此ノ如キ特任ヲ膺シ、以テ國家ノ爲メニ、其權ヲ施行スル者ニアラサレハ、決シテ國家官吏〔スターツヂ〕ト稱ス可ラス、

一上七  
是故ニ立法府ノ議員、州會ノ議員〔プロヒンチアル、ステンデ〕及ヒゲスオルチ〔按〕卷之六第十七款、君主ノ寄任ヲ受ルモ、亦國事ヲ掌ラサル者等ハ、決シテ國家官吏ト稱ス可ラス、此論詳ニブルンチユリ氏ノ國家學韻府〔未タ譯本ナシ〕國家職務ノ部ニ見ユ、



(ロ)ニ出ツ、猶詳ナルコトハ、卷之八ニ就テ看ル可シ、ハ勿論、其他臣官、(ゲマインデベアムテ)アドホカート(按)裁判所ニ於テ、原告人、被告人ニ代リテ、辨論スル官ナリ、詳ナルコトハ、卷之八ニ就テ看ル可シ、及ヒ王室ノ私臣等ニ至テモ、通例國家官吏ト稱ス可ラス、且、國事ト神事テ、全ク分別セル國ニ於テハ、ビシヨフバルレル(按)其ニ神教ノ官吏、等モ亦、決シテ國家ノ官吏ニアラス、凡ソ以上諸官吏ニ於テハ、或ハ公事ヲ掌ルモ、全ク君主ヨリ、其職掌ヲ受ケス、或ハ其職務(國家ノ事上ニ、關係ナケレハナリ、

〔第二〕國家職務ノ品類異ナルニ隨テ、各其職官アリ、故ニ國家ノ各職官ハ、則國家全體ノ部分ニシテ、皆固ヨリ各殊ノ職務ヲ掌ル權有リ、是ヲ以テ、各職官皆之ニ充ツル所ノ官員アリテ、必、其意見ヲ以テ、其職務ヲ行フヲ要ス、但、權勢ニ至テハ、限制スル所ナキニアラス、(是故ニ國家官吏ト泛稱スルハ、必、國家元首ヨリ寄托セラレタル、職掌ヲ、自己ノ意思ヲ以テ、施行シ得ル者ヲ指目ス、去レ、其眞ニ國家官吏ト稱スヘキハ、君主ヨリ制馭ノ權(オブリグカイトリヘ、ケワルト)ヲ、寄托セラレテ、之ヲ施行スル者ヲ云フノミ、其餘ニ至テハ、絶ヘテ國家ノ權柄ヲ、負荷スル者ニアラス、唯教育、或ハ經濟等、其他諸務ノ分課ヲ、授托セラレタル者ト云フヘシ、是故ニ此等ノ官吏ハ、適當セル古語ヲ以テ之ヲ目セハ、唯公務官吏(ニッヘントリヘル、ブレイゲル)ト稱ス可キノミ、

例ヘハ、公學ノ博士(プロヘッソール)教官(レーレール)公病院ノ醫務、(ギレントール)醫官(アルツト)及ヒ公務醫官(スターツアルツト)〔按〕横死者ノ屍體ヲ、檢査スルヲ掌ル醫官、及ヒ衣食住等、其他總テ一般ノ健康ニ利害アル者ヲ、檢査スルヲ掌ル醫官等ヲ云フ、(公務建築官(スターツインゲニオイ)〔按〕公屬ノ隄防橋梁等ノ建築ヲ掌ル官、)等其他出納官(カッシール)官地稅官(ドメーンヘルワルテル)ノ如キ財務官吏等ハ、皆公務官吏ナリ、

眞ノ國家官吏中ニ就テ、又政官(レギールングスベアムテ)法官(ユスチツベアムテ)ノ別アリ、乃政官ナル者ハ、實ニ政令ノ權ヲ施行スル者ナリ、故ニ其職掌内ニ於テ、(公利公益ニ緊要ナルコトハ、必ス命令指揮シ、以テ之ヲ舉行スル權アリ、但、是等ノコトヲ爲スニ於テ、敢テ專斷スル能ハス、必ス上官

ノ命ヲ俟ケサルヲ得サルナリ、○然ルニ法官ハ之ニ反シ、敢テ自己ノ意見ヲ以テ、(公利公益ニ緊要ナルト否トテ、考定スルヲ得ス、既ニ規定セル現存ノ法ヲ司守シ、獨リ之ニ由リテ、審判裁斷スルヲ得ルノミ、但、此事ヲ行フニ就テハ、敢テ政府ノ命令指揮ニ束縛セラル、ヲ要セス、專ラ自己ノ知識ヲ用ヒテ可ナリ、是故ニ常規ニ由テ、之ヲ論スレハ、政官ハ、專ラ自由ニ處分スル者ト云フ可シ、法官ハ、專ラ法制ヲ遵守シテ、處分スル者ト云フ可シ、

〔第三〕以上政官法官ノ外、猶一種補助官吏(スターツァーイングステルテ、又アムツゲヒュルヘ)ト稱スル者アリ、此官吏モ亦決シテ國家ノ官吏ニアラスト云フ可ラス、然レ、其素性タル、眞ノ職官アル者ニアラス、故ニ亦職權ヲ有セス、尙且ツ獨立セル職掌ヲ有セス、唯上官ニ隨屬シテ、其補助ヲ爲スノミ、則、史官(カンツェルリスト)諸公局ノ監督(アウフゼーヘル、イン、エッヘントリヘ、アーンスタルト、〔按〕公學校(公病院等)監督ナリ)財務補助官(ヒナンツ、ゲヒュルヘ)等是ナリ、○是等諸官吏モ亦、公務ヲ處分スルヲ以テ、猶僅ニ心思ニ係レル職掌有リ、是ヲ以テ國家官吏ノ部ニ列セサルヲ得サルナリ、然ルニ又職務上ニ於テ、自己ノ心思ヲ勞スルヲ須ヒス、唯上官ノ吩咐コノミ、承奉スルカ如キ、卑官ニ至リテハ、縱令ヒ國家ノ爲メニ、必要ナル者ト雖、決シテ國家官吏ト稱スルニ足ラス、則、子使丁(ラカイ)守門卒(ポルチール)學校輕卒(ベテール)裁判局輕卒(ワイベル)及ヒゲリフツギーチル)選卒(ゲンヌダール)等即チ是ナリ、故ニ此輩ハ、唯國家ノ奴僕(スターツベギーンテ)ト稱ス可シ、是ヲ以テ此輩ノ國家ニ對セル權利ニ於テハ、國家官吏ノ國家ニ對セル權利ト同一ニ、國法ヲ以テ論ス可ラス、唯私法ノ使役合約(チーンストヘルダラグ)ノ規律ニ從テ、論ス可シ、

〔第四〕國家官吏ノ中、復文官(チヒールベアムテ)武官(ミリテールステル)ノ別アリ、此區別ハ、素ト羅馬帝コンスタンチン、デ、ゴローセ(紀元二百七十四年ニ生レ、三百三十七年ニ死ス)ノ時ニ於テ、判然創立セシ者ニシテ、今猶全ク存ス、○但、武官ノ中ニ於テハ、獨リ將校(オッフチール)ノミ、國家官吏ト稱ス可シ、兵卒(ソルダート)ノ如キニ至テハ、決シテ國家官吏ト云フニ足ラス、何者、號令ヲ司ル者ハ、獨リ將校ノミニシテ、兵卒ハ之ニ預ラス、必竟兵卒ノ兵役ニ從事スルノ義ハ、或ハ國民タル者悉皆



兵役ニ從事ス可キノ義務アルニ出テ、或ハ私法ノ規律ヲ以テ、備役セラル、コ由ルヲ以テナリ、○武官ノ文官ト相異ナル所以ハ、殊ニ其規律嚴肅ヲ主トシテ、唯命是レ奉セサル可シアルノ法アルト、及ヒ其職タル、實ニ自ラ處分スルノ權アラズ、殆ト唯其命セラル、所ヲ奉行スルト、此二件ニ在リ、  
 [第五]在昔或ハ國家官吏ノ國家ニ對セル權利ヲ取テ、契約ヲ結フ所ノ、私法規律ニ相同シカル可ト、説ク者アリシト雖モ、其理決シテ此ノ如クナラス、眞ニ國法ノ規律ニ出ル者ナリ、是故ニマンダート、  
 ト、(按)甲乙二人互ヒニ契約シ、甲其事ヲ以テ、乙ニ委託スルノ文書ヲ具ス、之ヲマンダート云フ、但シ乙ノ其事ヲ爲ス、決シテ備錢ヲ受ルカ爲メニアラス、唯其榮譽ヲ欣フ爲メニ爲スナリ、)或ハ卑賤ナル備役合約(ジョンストミーテ、(按)備錢ヲ以テ備役スルノ合約)ノ理ヲ以テ、國家職官ヲ論スル如キハ、大イナル謬ト云フヘシ、抑、國家職官ノ授任罷黜、及ヒ奉職等ノ、一モマンダート若クハ備役合約ノ理ニ合スル者ナシ、

凡、國家職官ハ、國家タル者、公事ノ爲メ、其意見ヲ以テ授任スル者ナリ、而シテ之ヲ授任宣言(アーノステルルングス、デクレート)ト號ス、但シ儘之ヲ別種憲法(スベチアルゲセツ)ト稱スルモノアリト雖モ、其語甚、妥當ヲ缺ケハ、聽用ス可ラス、何者、授任宣言ハ、通常立法府ノ施行スル所ニアラス、君主國ニテハ、君主必、之ヲ施行シ、民主國ニテハ、儘又民選ニ出レハナリ、○或ハ外國人ヲ、國家公事ノ爲メ、使役セント欲スル時ハ、預、其旨ヲ本人ニ示シ、其唯諾ヲ得、相約シ、然後ニ公然之ニ職務ヲ授與スト雖モ、國家敢テ之ヲ外國人ニ請願スト云フ可ラス、國家ハ必、外國人ノ上ニ在アリ、專テ其意見ヲ以テ、外國人ニ、職務ヲ授與スル者ナリ、是故ニ時アリテ、右合約ヲ爲セシ後、若シ國家其約ヲ破リ、外國人ニ、職務ヲ授與セサルコトアリ、外國人其違約ヲ、私法ニ因テ、法院ニ訴フルコト能ハス、縱令、之ヲ訴フル、法院亦之ヲ國家ニ責メテ、決シテ此合約ヲ遂ケシムルノ權ナシ、但シ國家此ノ如キ合約ニ背クノ故ヲ以テ、外國人全ク私法ノ規律ニ屬シタル償金ヲ、收受スルコトハ、許ス可シ、(按)例ハ外國人ヲ某事ニ使役スヘキヲ約シテ、國家遂ニ此約ヲ破リタルトハ、外國人政府ヨリ償金ヲ取ル

ハ、當然ノコトナリ、

國家職官ノ眞ニ國家職官タル所以ハ、其職分タル、素、國家ノ爲メニ設クル所ニシテ、全ク公事ニ係リ、且、其活動宛、モ有機體ノ活動ニ相同シキニ在リ、故ニ總テ職官ナル者ハ、國家ノ生濟ニ於テ、必需ナルヲ以テ、其榮養ノ爲メニ設クル者ナリ、決シテ職官ヲ荷フ人ノ爲メニ設クル者ニアラス、○是故ニ唯私人ヲ利スルカ爲メニ、職官ヲ與ヘ、或ハ職官ヲ以テ、私事ヲ營ムノ具ト爲スカ如キハ、大、不可ナリ、中古ノ時、各國ニ於テ、此ノ如キ事數、行ハ、且、輒近ニ至リテモ、佛國ニ於テ、尙此ノ如キ事行ハレシハ、必竟國家ノ眞理、未、全ク開明セサルヲ以テ、國法猶私法ノ爲メニ束縛セラレ、其能力ヲ全伸スル能ハサリシニ坐スルナリ、

〔按〕有機體ハ、即チ活物ナリ、活物ナル者ハ、各、精神體軀アリテ、精神自ラ能ク活動シ、亦能ク體軀ヲ活動セシム、金石土塊等ノ無機體、或ハ人造器械等ノ、自ラ活動スル能ハサルカ如キコトアラズ、茲ニ國家職官活動ノ力ヲ以テ、有機體ノ活動ニ比スレハ、國家職官タル者ハ、唯國家元首ノ命ヲ奉承スルニアラス、必、ヤ自己ノ意見ニ隨テ、謀畫區處シ、自ラ其責ヲ盡スヲ以テナリ、職官ニ附加スル所ノ俸祿(ベソルツング)、ノ如キハ、實ニ私法ノ理ニ出ル者ナリ、故ニ俸祿ノ有無職官タルノ理ニ於テ、決シテ利害アルコトナシ、既ニ古來俸祿ヲ附加セサル職官儘之レアリ、然レ之レカ爲メニ、職官ノ理、少モ變ルコトアラザリシハ、蓋シ職官俸祿ノ有無ニ關セサルノ明證ナリ、

第二款 國家官吏ノ任用(アーノステルルング、デル、ユターツヤーテル)

〔第一〕近今ハ、職官ヲ世襲スルノ風、止ミタレ、中古ノ世ニハ、歐洲各國共ニ、世襲ノ職官多ク、子々孫々同官ヲ繼襲セシ故ヲ以テ、其威權殆、王侯ノ如クナルニ至リテ、遂ニ國家ノ一致、及ヒ序次ヲ害シタリキ、元來職官ヲ負荷スル所ノ人ハ、能ク其任ニ堪ヘ、其責ニ任スルノ器ヲ備フル事、甚、緊要ナリ、然ルニ能ク其任ニ堪ヘ、其責ニ任スルノ器ハ、子々孫々決シテ能ク世傳スル所ニアラス、唯其人ニ存スル者ナリ、是故ニ職官ヲ世襲スルノ法ハ、人材ヲ得ルノ法ニアラス、却テ人材腐擧ノ道ヲ梗塞スル者ニシテ、國家ニ害アル鮮カラス、



七 但シ近今ト雖也、全ク世襲ノ官ナキニハアラス、去レテ多クハ唯其人ニ榮譽ヲ與フルカ爲ニ、授ク  
ル者ニシテ、決シテ職掌アル官ニアラサレハ、殆、有名無實ノ者ナリ、例ヘハ王室ノ世襲職官(モルブ、  
ホフ、アムト)ノ如キ是ナリ、(按、貴族等ニ榮譽ヲ與フルカ爲ニ、皇國ノ侍從等ニ類セル官ヲ授  
ケテ、世襲セシムル國アリ、去レテ實ニ其職ヲ奉スルニアラス、唯盛典祭儀等ノ時其席ニ列スルノミ  
ナリ、

〔第二〕古時ノ民主國ニ於テハ、職官授任ノ期限ヲ定メテ、僅ニ數年間ト爲スノ法、徧ク流行シ、而シテ  
或ハ再任ヲ許シ、或ハ再任ヲ許サ、ルモアリキ、方今ノ民主國ニ於テモ亦、此ノ如キ授任期限ヲ定ム  
ル職官アリ、殊ニ瑞士國ニ於テ此法ヲ用フ、○邑官(ゲマインデアムト)ノ如キハ、固ヨリ大ニ才力  
ノ鍛鍊ヲ要スルヲ甚ク罕ナレハ、右ノ如ク授任ノ期限ヲ定ムト雖モ、事ニ就テ甚ク妨ナシ、去レテ國  
家官吏ノ如キハ、實ニ積年累月、其職ニ鍛鍊習熟セサル可カラス、而シテ近今萬事學術ヲ要スル世ニ  
方リテハ、此事最モ緊要ナレハ、右ノ如ク授任ノ期限ヲ定ムルカ如キハ、施政上實ニ大害アリ、凡、此  
ノ如キ期限ヲ立テタル國ニ於テハ、其弊ノ赴ク所各人自己ノ榮利ヲ求メント欲シ、比朋黨與其志ヲ  
達セント欲シ、皆相爭軋シテ、國家ノ職官ヲ得ルヲ願フカ故ニ、官吏ノ交換スルヲ、頻數ニシテ、且、之  
レカ爲ニ、國家ノ存在ヲ傷ヒ、其安寧ヲ破リ、遂ニ職官ノ遠大ナル能力ヲ損壞スル、甚ク弊ナカラスシテ  
其國家ニ害アルヤ、實ニ大ナリ、是故ニ授任ノ期限ヲ立ルノ法ハ、其任ニ適セサル官吏ヲ罷メ、若ク  
ハ民人ノ信ヲ失ヘル有テ、黜ケ、實ニ其責ニ任スヘキ英才ヲ擧ゲテ、之ニ代ハラシムルニハ、頗ル利  
アレド、此利ハ上ニ論スル所ノ、諸弊害ヲ償フニハ足ラサルナリ、○但、貴族政治(アリストクラシー、  
一)ノ國ニテハ、萬事恆常ヲ守リ、且、適度ヲ失ハサルヲ好ムノ風行ハル、カ故ニ、此ノ如ク職官授任ノ  
期限ヲ立ルモ、甚ク害ナシトイヘド、民人政治(デモクラシー)ノ國ハ、全ク之ニ反シテ、素、官吏ノ交  
換ヲ好テ、職官授任ノ短キヲ欲スルノ僻アルカ故ニ、此ノ如キ制度ハ實ニ害アリ、加之、此ノ如キ制度  
アルキハ、如能ノ士ハ、寧、他業ヲ撰ムモ、敢テ仕官ヲ潔トセサルニ至ルカ故、國家人材ヲ得ルヲ甚ク難  
ク、且、議論屢、變遷スルカ爲ニ、確平タル條理立タスシテ、遂ニ如能ノ士ヲ驅除スルノ弊害アリ、甚ク  
恐ルヘシ、

〔第三〕職官ノ授任ヲ應諾スルト否トハ、本人ノ自由ニ任スルヲ當然ニシテ、既ニ一般ノ通則トナレ  
リ、但シ國家ノ職務ヲ、素、國家ト本人トノ、合約ニ出ルヲ以テノ故ニアラス、元來人ノ精神才智ノ  
上ニ係レル職務ヲ、他人ヨリ強逼シテ、奉セシメント欲スルモ、決シテ得ヘキニアラス、且、ツ總令ヒ本  
人自ラ之ヲ奉スルモ、唯勢已ムヲ得サルニ出ルキハ、決シテ功益ノアル可キニアラス、唯實ニ本人自  
ラ好テ、其職官ヲ應諾セル時ノミ、又好テ能ク勉勵スヘキヲ以テナリ、加之、政府其臣民ヲシテ、國家  
ノ爲メ、特別ニ勞苦セシムルノ理モ、亦決シテアラサレハナリ、○此規律ハ、方今若民主ノ各國ニ於  
テ、共ニ皆從用ス、

但シ國家ノ職官トイヘド、殆、邑官ニ類スル者、若シハ邑官ト相關涉スル者ニ至リテハ、此例ヲ以テ  
論ス可ラサル者アリ、蓋シ是等官吏ハ、其才能ヲ要スルヲ甚少ク、且、ツ其人數ハ甚ク多ク、要スルカ  
故ニ、其職務ハ凡ソ臣民悉皆當然盡スヘキ職務ト同一理ナリト視做シテ、全ク本人ノ自由ニ任セサ  
ルヲト爲セシナリ、

〔第四〕國家ノ職官ニ適應スヘキ人材ヲ、考試スルノ方法ニ於テハ、獨乙ノ任官規制(ベアマテンシス  
テム)ハ、殊ニ嚴密ニシ、實ニ官試(スターツプリアリユフング)ニ於テ、及第セシ者ニアラサレハ、任用  
スルヲナシ、蓋シ此規律ノ善良ナルヲハ、敢テ疑フ可ラス、他各國ニ於テ、官吏ヲ選任スルモ、必ス求  
官吏生(カンヤダート)即考試ヲ受ケタル者ナリ)ノ考試簿ニ由ルヲ要セサルカ如キ比ニアラス、○官  
試法アルキハ、既ニ學術習熟ヲ經テ、能ク其任ニ適スヘキ者ニアラサレハ、任用セラル、トナシ、且、ツ  
又在廷ノ官吏、勳モスレハ、其比朋黨ニ脅サレ、及ヒ王室ノ爲メニ欺カレ、漫ニ事ヲ誤ルカ如キ、弊害  
決シテ生スルヲナシ、其他少年ニシテ有志ノ徒、專ラ學習ヲ以テ、就官ノ正路ト爲シ、決シテ僥倖ヲ得



シト欲スル者ナク、尙且ツ不學無識者等、浪リニ就官ノ志ヲ起スカ如キ弊害モ亦、決シアルコトナシ、○然レモ徒ニ此法ノミヲ株守スルハ、甚ダ不可ナリ、時アリテハ、儘此法ニ由ラサルコトモ無カル可ラス、凡ソ外國人ヲ任用セント欲スルニ方リテハ、官試ヲ要セスト雖モ、其材能顯然タル時ハ勿論、假令モ國人ト雖モ、實ニ賢俊ノ徒ヲ舉ル時ニ方リテハ、敢テ考試ヲ用フ可ラス、蓋シ天性聰敏ノ徒ハ、縱令モ學習ノ常規ヲ踏マサルモ、儘大ニ有レ爲ノ才能ヲ顯スコトアリ、然ルテ唯學習ノ常規ヲ踏マサルノ故ヲ以テ、徒ラニ之ヲ任用セサルハ、實ニ政府ノ迷誤ニアラスヤ、例ヘハ、ミニスレル及ヒス、ターラトト、(按)議政ノ官、等ノ如キ、當路輔弼ノ才能ヲ要スル官、及ヒ大學博士(プロフェッソール)ノ如キ等、學識ノ廣博ヲ要スル官ニ、任用スヘキ人物ニ於ケルカ如キ、即チ是レナリ、但シ此ノ如キ規律外ノ事ヲ行フニ當リテハ、是ニ由リ或ハ遂ニ規律ヲ傷害スルノ患、全クアラストハ云フ可ラス、然レモ能ク着意シテ此事ヲ爲セハ、此患ヲ防ク、亦甚難キニアラス、

右論スルカ如ク、獨乙ノ法ハ、大ニ他各國ノ法ニ優リテ、良善ト稱ス可シ、然レモ弊害モ亦之ニ加ハリテ、動モスレハ、其佳好ノ葉實ヲ損敗スルコトナキニアラス、弊害トハ、何ソヤ、獨乙ニテハ、始テ求官生ヲ官ニ莅任シ、或ハ既ニ官ニ就ケル者ヲ、猶高官ニ登用スル等、多クハ唯從來勤仕スル年數ノ多小ニ拘リテ、專ラ其才能ヲ論セサルヲ云フナリ、(一)凡ソ天性敏捷ナル者、數年間、卑官ニ在リテ、雇工ニ類セル賤役ヲ爲スルハ、遂ニ是ニ由テ、其英氣疲倦挫摧シ、全ク天性ヲ耗スルニ至ル可シ、故ニ數年ノ後、始テ擢ンテ高官ニ用ヒラシ、重職ヲ委托セラル、モ、既ニ疲倦挫摧セル衰叟、豈能ク國家ノ用ヲ爲スニ足、可ケンヤ、○但シ此弊害タル、素ト任官規制ノ惡シキカ爲、ニ生シタルニハ、アラス、全官吏權ヲ專ラニスルノ惡習ヨリ生シテ、漸ク増益シタルニ由ルナリ、

○(按)始テ官ニ任用スルニ、從來勤仕セル年數ノ多少ヲ以テスルト云ヘルコト、甚ダ解ス可ラス、去レモ既ニ考試ヲ受ケ、未官ニ就カザル時、姑ク試補トナリテ、其職掌ヲ試習スルコトアリ、蓋シ此試習ノ年數ヲ云フ歟、

考試ノ方、通常分テ二次トス、乃其一次ノ考試ハ、全ク大學ノ業課ヲ卒ヘタル後ニ施ス者ニシテ、之ヲ學事考試(テオレネーセ、ブリーフンク)ト云フ、即チ博士之ヲ掌ルナリ、凡ソ此考試ニ於テハ、考試ヲ爲ス者モ亦考試ヲ受ス者モ、其ニ其材能ニ適セル事ヲ爲スカ故ニ、其宜シキヲ得ルコト、決シテ他方法ノ及フヘキニアラス、且ツ此考試ノ方法良善ナルキハ、風教自ラ後來大學生徒ノ志ヲ獎勵スル、甚ダ勸ナカラストス、其二次ノ考試ハ、即實事ノ考試(プラクティセ、ブリーフンク)〔按〕財務ノ官ニ任用セント欲スル者ハ、財務ノ實際ヲ考試シ、外務ノ官ニ登用セント欲スル者ハ、外務ノ實際ヲ考試スルノ類ニ云、ト稱ス、○凡ソ求官生ノ者、必ス法科及ヒ政科共ニ、其大要ヲ研究セサル可ラサルハ、固ヨリ論ヲ俟クニ去レモ、一人ニシテ、法政諸科ヲ併セ研究シテ、法政ノ二官ヲ兼攝スルニ堪ユル者ハ、世上殆、罕ナルヲ以テ、求官生ノ自ラ好ム所ニ隨ヒ、一科ニ就テ、或ハ専ラ法科ヲ修メシメ、或ハ専ラ政科ヲ講セシムルコト、甚ダ緊要ナリ、然レモ求官生ヲシテ、漫ニ數科ヲ學テ、徒ラニ廣博ニ涉ラシメント欲スルハ、却テ其好ム所ノ一科ヲ專修セント欲スルノ志ヲ挫折シテ、遂ニ其材能ノ發達ヲ妨害スルナリ、然ルニ獨乙ノ考試ハ、必ス眞ノ法學(アイゲントリヘ、ユリスプルデンツ)〔按〕博ク法學ト云フキハ、國法列國法ヲ始メ、民法、訴訟法、治罪法、刑法、商法、其他理財學等ヲ、總稱ストイヘモ、其中ニ就テ國法學、及ヒ理財學ヲ除テ、其餘ノ者ヲ眞ノ法學ト稱スルナリ、(一)ナ考試スルチ主トシテ、國法學理財學(ナチオナルエコノミー)等ノ優劣ニ注意スルコト、甚ダ少シ、蓋シ獨乙考試法ノ宿弊ナリ、卑賤ナル官吏ヲ任用スルコトハ、敢テ官試ヲ要セス、只管預實地ニ練熟シ、殊ニハ唯記錄ヲ掌ルニ堪ユレハ、乃チ可ナリ、

他各國ニ於テ用ユル所ノ任官規制ハ、獨乙ノ如ク確實ナラス、又整備セズ、故ニ立憲君主國、及ヒ民主國共ニ、動モスレハ、朋黨相引クノ風盛ナルカ故ニ、大臣或ハ權臣ノ黨與首長等ト、治體ニ於テ、志ヲ同ウスル者、若クハ其寵遇ヲ受クル者ハ、未嘗テ學業ヲ研究セズ、未嘗テ實際ニ練磨セストイヘモ、頻ニ能ク任用セラレ、又既ニ學業ヲ研究シ、復能ク實際ニ練磨シテ、頗ル任ニ堪ユヘキ者ト雖モ、大臣若



シハ權臣ノ黨與首長ノ同志寵者ニアラサレハ、決シテ任用セラレサルノ弊アリ。○政令ノ處置ニ就テ、朋黨相分レ、互ヒニ相爭フ時ニ於テ、政府其權力ニ損害ナキテ欲セハ、必政府ト志ヲ共ニシ、論ヲ同ウスル者ヲ舉ゲテ、之ヲ任用スルコト、殊ニ緊要ナリ、去レテ同朋相引クノ勢甚シ、盛ニシテ、大臣等好惡愛憎ヲ恣ニシ、偏ニ同志寵者ノミヲ舉ルルハ、遂ニ國家ノ職務、其本意ヲ失ヒ、且、朋黨常ニ相爭フカ爲メ、政令ノ目的全ク動亂スルニ至ルハ、必然ナリ。

○英國ニ於テ、學識才能共ニ乏シキ徒、威權盛ナル巴力門議員ノ庇護ヲ以テ、官ニ任用セラレシメ、屢ニ之レアリ、凡、自修セルフ、ゴーヘルンメント、ヲ許スノ法ハ、政府ノ事務ヲ減スルニ足ルコト、辨テ俟メス、去レテ、猶政府ノ掌中ニ存セル事務ヲ、恰好ニ掌ルカ爲メ、要スル所ノ學識才能ヲ減スルコトハ、未ダ足ラサルナリ。

○〔按〕本文云フ所英國ニテハ、專ラ自修ノコト行ハル、故ニ民ノ私事ハ、大抵民ニ任セテ、政府之ニ關セサルノ法ナリ、故ニ政府ノ事務甚ク減省スルハ、他各國ノ比スヘキニアラス、去レテ猶政府ノ掌中ニ存セル事務ヲ、恰好ニ掌ルカ爲メ、官吏タル者、必、其學識才能ヲ具セサル可ラサルコト、決シテ復他各國ト異ルコトヲ、然ルニ尙右ノ如ク、其任ニ堪ヘサル者ヲ任用スルコトアルハ、甚ク怪シムヘキコトナリト云フノ意ナリ。

但、法官ノ任用ニ就テハ、各國共ニ良善ノ法ヲ用フ、今時ニ任リテハ、法官ハ必、法學ニ熟達セル者ニアラサレハ、決シテ其職務ニ從事スル能ハサルコト、明クナルヲ以テ、各國共ニ、政官ノ任用ニ於ケルカ如キ、妄舉ヲ爲スコトナシ。

〔第五〕官吏ハ、能ク任ニ堪ユルノ器ヲ備フルコト、最モ緊要ナリ、然ルニ能ク任ニ堪ユヘキ人物ヲ、概シテ一種屬中ニ求メント欲スルモ、決シテ得可キニ非ス、是故ニ概近各國ノ開化大ニ進歩セシヨリ、唯名族貴戚ノミヲ舉ゲテ、官吏ト爲スノ法ヲ廢シ、而シテ國家ノ臣民タル者ハ、尊卑ノ論ナク、悉皆官ニ任シ得ヘキ路ヲ開キタリ。

〔第六〕求官生タル者、自ラ好テアラクナカント、レヘレメダール、及ヒアウフクラトール〔按〕共ニ試補ノ官、等トナリテ、政府及ヒ法院ニ入り、其補助ヲ爲スチ願フキハ、之ヲ許スコト、當然ニシテ、即チ、獨乙國固有ノ法ナリ、而シテ之ヲ試験時〔ノヒチアールト〕ト稱ス、○求官生學業ノ考試既ニ了ルキハ、則試験トナリテ、實地ノ試験ヲ經、以テ實際ノ考試、及ヒ任官ノ預塗ヲト、ルナリ、此法アルカ故ニ、求官生ナル者、能ク實地ニ通曉練達シ、且、能ク其任ニ堪ユヘキト否トノコトモ、益ク瞭然トナルナリ、○去レテ徒、○此考試法ノ順序ヲ逐ラノミテ貴テ、專ラ此事ヲ拘泥スルキハ、又自ラ一種書記官ノ風、〔按〕所謂官員風ナリ〕盛ニ流行スルニ至リ、其弊遂ニ官吏妄リニ倨傲ヲ極メ、威權ヲ恣ニスルノ風習ヲ長スルコト流ル、但シ試験時ヲ立ルノ良法ヲ廢セシテ、此弊害ヲ除去スルコト、甚難カラサル可シ。

〔第七〕何レノ時ヲ以テ任官ノ時期ト指定スヘキヤノ論、紛然トシテ一定シ難シ、去レテ既ニ論シタルカ如ク、任官ノ事ハ、元來國家タル者專ラ其意思ヲ以テ爲ス者ニシテ、決シテ國家ト臣民トノ合約ニアラサルノ理ニ由テ、之ヲ考フレハ、政府其意思ヲ決定シテ、之ヲ告述スル時、即是選任ノ旨ヲ錄載シテ調印スル時ヲ以テ、任官ノ時期ト指定スヘキコト、固ヨリ當然ト云フ可キ、故ニ官吏タル者ハ、是時ヨリ私法ニ屬セル俸祿〔按〕俸祿ノ私法ニ屬スル所以ハ、本卷第一款ノ末條ニ出ツ〕ヲ得ヘキハ勿論、又其職官ニ屬セル權利ヲ受領スルコト、緊要ナレハ、是亦其時ヨリ受領スルノ權アルヘシ、○其後任官ノ宣言〔デクレート〕ヲ本人ニ付與シテ、實ニ之ヲ官ニ就カシムル等ノコトハ、唯授任ノ餘業ナリ、決シテ之ヲ以テ、直ニ授任ト爲ス可ラス。

第三款 國家官吏ノ權利及義務  
レフテ、ウインド、ヘルブリフツン、  
ゲン、デル、スターツベアムテン、

〔第一〕官吏ハ、必職官ニ附屬セル公務ヲ掌ル權利ヲ有ス、之ヲ稱シテコムベテンツ〔按〕職掌ノ權利ト云フ義〕ト云フ、  
此權利ハ、實ニ重要ノ者ニシテ、眞ニ國法ニ屬スル者ナリ、故ニ此權利ハ、必、緊要ナル事ヲ施行スルノ義務ト相抱合シテ、決シテ離ル、コトナシ是ヲ以テ、官吏タル者、此權利ヲ施用スルト否トノコトハ、敢テ官吏ノ自由ニ任ス可ラス、○且、此權利ハ、官吏ヲシテ、自ラ欲スル所ヲ爲サシムルカ爲メ、與フル



者ニアラズ、唯公事ヲ奉行セシムル爲メ、與フル者ナリ、是故ニ官吏タル者、其職掌ノ權利、及ヒ事務ノ規律ヲ以テ、永ク其身ニ附着セル者ト爲スヲ得ス、抑、此權利規律ハ、或ハ憲法ノ議定ニ出テ、或ハ上官ノ示令ニ出ル者ナリ、是故ニ憲法ヲ以テ、此權利規律ヲ改革スルキハ、官吏タル者、縦令之ヲ欲セスト雖モ、敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、且、從來職官ニ附屬セサル職務ノ、又新ニ増加スルコトアリモ、亦敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、蓋シ職官ハ、眞ニ全ク國家ニ從屬スル者ナリ、故ニ官吏ノ權利義務モ、亦固ヨリ國家ニ從屬スル者ナリ、

〔第二〕官吏ハ、其職官ニ相應セル稱號(チーテル)、(按)職官ノ稱號、及高官ノ榮譽ヲ示ス尊稱ヲ云、例ヘハ、大臣、參議、卿、輔、及殿下、閣下等ノ如シ、及ヒ品階(ラング) (按)高卑諸官相應ノ品階アリ、)ヲ得ルノ權利アリ、但此權利ハ、全ク國法ニ屬スル者ニシテ、決シテ私權利ト云フ可ラス、是故ニ憲法ヲ以テ、稱號品階ヲ改革スルハ、素ヨリ當然ノコトニシテ、決シテ私法ノ區域ヲ侵セル處分ト云フ可ラス、但シ官吏其職ヲ退ケル後、猶故トノ如ク、稱號品階ヲ保有シ得ルコトアリ、然ルキハ、則此事退職セル者ノ私權利トナルナリ、(按)功勞アリシ官吏等ニハ、退職ノ後モ、猶稱號品階ヲ與ヘ置クコトアリ、)

〔第三〕官吏タル者、公務ノ爲メニ消セシ費用、及ヒ公事ノ爲メニ受ケタル損失等ノ償還ヲ得ル權利ハ、唯官吏ノ私權利ト稱スヘキノミ、而シテ俸祿アル官吏、或ハ俸祿ナキ官吏共ニ、皆此權利ヲ有ス、〔第四〕官吏其職務ヲ奉スルカ爲メニ、其償金(按)即俸祿ヲ云、)ヲ求ルハ、決シテ當然ノ理ニ出ルニアラス、此職官ニ俸祿ヲ附加シ、彼職官ニ俸祿ヲ附加セサル等ノコトハ、全ク國家ノ自カラ定ムル所ナリ、而シテ官吏俸祿ノ職官ニ任シテ、俸祿ヲ得ルノ權利ハ、全ク私權利ニ屬スル者ナリ、何者、俸祿ナル者ハ、政府其金(スターツカッセ)ヲ以テ、之ヲ給スレハナリ、(按)金錢給與ノコトハ、決シテ國法ニ關スル者ニアラス全ク、私法ニ屬スルヲ以テナリ、)但シ俸祿ニハ、二個ノ本質アリ、既ニ獨乙各國ノ内、其國憲ニ於テ、明カニ品位祿、(スマンデスゲハルト)及職務祿(ザインストゲハルト)ノ別ヲ爲セル國アリ、而シテ品位祿ナル者ハ、即チ官吏ヲシテ、

其品位ニ相應セル營生ヲ爲サシムルニ緊要ニシテ、且、官吏ノ學藝鍛鍊ヲ要スルキハ、此祿殊ニ缺ク可ラサル者ト成ルナリ、○職務祿ナル者ハ、全ク職務ヲ奉スルニ就テ、要スル所ノ費用、及ヒレブレゼンタチチノスコステン(按)政府ニ代リテ、爲ス所ノ費用ト云フ義ニシテ、殊ニ外國ニ差遣セル公使

等ニ、此費用多シ)ノ爲メニ設クル者ナリ、官吏若シ其職ヲ免サレ、其官ヲ退ケル時ニ於テ、此二祿ノ區別判然タル可シ、何者、官吏其職ヲ免サレ、其官ヲ退ケル後モ、或ハ猶舊ニ依テ、品位祿ヲ得ルコトアリト雖モ、職務祿ヲ得ルノ權利ハ、免職ノ後、全ク熄滅スレハナリ、是故ニ品位祿ハ、殊ニ私權利ニ屬シ職務祿ハ、職官及ヒ公務ニ密合スル者ナリ、○儘又謝金(スポルテル)又ゲヒュトル、(按)俗ニ手数料ト云ヘル如キ者ニシテ、例ヘハ、賣買、貸借等、官ノ證印ヲ得ル時等ニ於テ、私人ヨリ其事ヲ掌レル官吏ニ報ユル金ヲ云、)ヲ得ル職官アリ、此謝金ハ、即其官吏ノ別俸トナリ、而シテ形貌ニ於テハ、必ス職務祿ノ如ク然リ、又官吏ノ生計ニ便利ナラシメンカ爲メニ、之ヲ本俸ニ合算スルキト雖モ、此理ハ亦變スルコトナシ、(按)例ヘハ、本俸ハ、一年一千圓ニシテ、謝金ハ、大凡五百圓前後ナルキハ、之ヲ合シテ、一千五百圓ノ俸祿ト定ムルカ如キ本俸ニ合算スト云フナリ、)○但シ此ノ如キ職官ノ職掌ヲ、唯公利公益ニ着眼シテ定ムルコト、全ク國家ノ權ニ在ルカ故ニ、又憲法ヲ以テ、右謝金ノ額ヲ定立シ、或ハ改革スル等ノコトアルハ、固ヨリ當然ナリ、而シテ若シ謝金大ニ減少スルニ方リテ、憲法ヲ以テ俸祿ノ額ヲ適宜ニ増加スルハ、唯其事ノ良好處分ナルヲ以テナリ、故ニ縱令ニ國家此事ヲ爲サ、ルモ、本人私法ノ規律ヲ以テ、政府ニ迫リテ、其損失ニ就キ、十分ノ償金ヲ取り得ルノ理、決シテ有ル可ラス、

〔第五〕俸祿ハ、素ト私法ノ理ニ屬スル者ナルカ故ニ、官吏若シ過失ナクシテ、俄ニ其職ヲ罷ラル、キハ、則猶殘レハ奉仕年限ノ間ハ、必ス安息祿(ルーヘゲハルト) (按)罪ナクシテ職ヲ免スハ、通例安息ト稱ス、故ニ免職後ノ祿ヲ、安息祿ト云、)即チ救助祿(ペンシオン)ヲ得ルノ權利アリ、而シテ彼品位祿ナル者、即此安息祿トナル、固ヨリ當然ナリ、去レテ預、品位祿ト、職務祿ノ區別ヲ立ルコトナケレハ、則直ニ俸祿ヲ以テ、安息祿トナス可シ、但シ俸祿全額ノ内ニ於テ、實ニ職務ノ施行ニ就テ、緊要ナル費用及ヒレブレゼンタチチノスコステン(前ニ出ツ)ニ充ツヘキ部分ハ、必ス其中ヨリ減除ス可シ、預、憲法ヲ



以テ、安息祿ノ額數、及ヒ其規律ヲ詳定スルヲ其好ト爲ス、何者、官吏俄ニ其職ヲ罷メラルレハ、必ス安息祿ヲ受ルノ權利アルハ、固ヨリ疑ヘキコトニアラザルニモ、預憲法上ニ其額數ノ規律アラサレハ、官吏ノ免職毎ニ之ヲ定ムルハ、輒ニ甚難クシテ、且此ノ如クナルハ、政府或ハ之ヲ定ムルニ、動モスレハ私情ヲ交ユルカ如キ流弊モ亦行レテ、其害タル甚ク少ナカラサレハナリ、○安息祿ハ、現ニ國家ノ用ヲ爲サ、ル者ニ與フル祿ナルカ故ニ、其總計甚ク増加スルハ、國家遂ニ之ヲ資給スルニ堪ヘサルノ恐アリ、去レ方今ノ世、實ニ一事業トシテ、奉務スヘキ職官(按、唯榮譽ノ爲メ、奉務スル職官ト相異ナル者ナ云)ニ俸祿ヲ附加スルハ、實ニ已ム可ラサルカ如ク、方今適宜ノ安息祿ヲ賜與スルノ制アルモ、亦稱實ニ已ム可ラサルノ理ニ出ルナリ、凡ソ官吏ノ俸祿ハ、工商諸業ノ利アルニ比スレハ、其利タル甚ク薄クシテ、殆其家眷ヲ撫養スルヲ得ルニ過サレハ、俸祿ヲ以テ富ヲ致スハ、甚難キモノナリ、然ルニ官吏タル者ハ、其初、預、學習練習ノ功ヲ積ミ、且既ニ其職ニ就ケル後ニ及ヒテモ、勉勵辛苦ノ勞ヲ要スルヲ、殆工商諸業ノ比ニアラサルヲ明カナリ、故ニ國家タル者、期國務ニ盡力セシ者ヲ顧テ、之ヲシテ貧困ノ憂ナカラシムルノ義務ヲ、負ハサル可ラス、國家此事ヲ爲サント欲セハ、安息祿ノ制ヲ立ルノ外、決シテ他術アラサル可シ、○國家安息祿ヲ資給スルニ堪ヘサルノ憂アルハ、即此祿制ヲ立ルノ失ナリト雖モ、現ニ職務ヲ奉スル所ノ官吏、能ク其職掌ヲ盡スルハ、則此得テ以テ彼失ヲ償フト云フ可シ、且安息祿ノ制ナキハ、官吏動モスレハ賄賂ヲ貪リ、或ハ民物ヲ剝奪スル等ノ害少ナカラスト雖モ、若此制アルハ、此ノ如キ害モ、亦隨テ生セサルノ理ナリ、

國家死亡セル官吏ノ寡婦孤兒等ヲ教育スルハ、決シテ當然ノ義務ト云フ可ラス、何者、職官ハ其久シキモ、本人ノ終生ニ止マルニ過キサレハ、俸祿モ亦、決シテ子孫ニ及フノ理アラサレハナリ、去レ政府或ハ慈善ヲ以テ、右等ノ徒ノ救助金ヲ預備スル國アリ、但此金ハ、殊ニ官吏俸祿ノ内ニ就キ、常ニ數分ヲ減除シテ、之ヲ蓄積シ、以テ其寡婦孤兒ニ、適宜ニ資給スルナリ、

〔第六〕官吏ノ義務ハ、多クハ其有スル所ノ權利ヨリ生スル者ナリ、且官吏タル者、其上官ニ對シテ恭順(ゲホトルサム)ヲ守リ、國家國民ニ對シテ、忠義(トロイユ)ヲ盡シ、及ヒ官事ヲ秘匿スル(ゲ

ハイムニス)等ノコトハ總テ其身初、國家職官ニ列スルヨリ、生スル所ノ義務ナリ、故ニ此義務タルヤ、官吏通常ナス所ノ職務誓約(ギーンストアイト)及ヒ職官誓約(アムツアイト)ニヨリ、始テ生スルニハアラズ、唯此誓約ニ由テ、其義務益々確實トナルノミ、凡ソ誓約ナル者ハ、決シテ職官ノ義務ヲ定立スル者ニアラズ、又決シテ此義務ノ區域ヲ變革スル者ニアラズ、

職官ノ品性異ナルニ隨テ、恭順ノ種類亦相同シカラス、例ヘハ、政官ノ恭順ハ法官ノ恭順ト、其旨全ク相異ナリ、何者、政官ハ政府ニ從屬シテ、實ニ其指令ニ恭順スヘキ者ナレハ、法官ハ之ニ反シテ、實事ニ於テハ、全ク獨立シテ、殆政府ニ從屬セサルノ規律ニ、實ニ公正ナル辯訟ニ於テ、最も緊要ノコトナレハナリ、(按、法官實事ニ於テハ、政府ニ從屬セサルヲ、詳ニ卷之六第十七款ニ見ユ)○但、總令ニ政官ト雖モ、奴僕ノ如ク、政府ノ命令ハ、際限ナク、偏ニ遵奉スルヲ緊要ト爲スコハアラズ、必、現存ノ法制、及ヒ道義ノ理ニ由テ、其中自ラ限制スル所アリ、然ルニ官吏タル者ノ遵奉スヘキ命令ト、遵奉スヘカラサル命令アリテ詳ニ之ヲ判定スルハ、殊ニ難事ノ一ナリ、

〔甲〕上官其職掌内ニ於テ、當然ノ法則ヲ以テ、下セル命令、及ヒ委託ハ、即形貌ニ於テ、法ニ合スル者ナルカ故ニ、屬官タル者、必、自己ノ職掌ニ應ジテ、之ヲ遵奉施行スヘキコト、固ヨリ當然ナリ、去レ上官若シ職掌外ノ事、及ヒ唯私情ニ涉レル事ヲ依頼シ、或ハ署名セル命令書ヲ要スル時、之ヲ用ヒスシテ、依頼スルカ如キハ、之ヲ拒テ遵奉セサルコト、固ヨリ當然、云フ可シ、何者、官吏タル者ハ、決シテ上官ノ僕妾ニアラス、實ニ國家ノ官吏クシテ、凡ソ上官指令セル事ノ、能ク正理公道ニ協フト否トハ、特ニ命令ノ形貌ニ於テ、判然タルヘケレハ、先、此形貌ヲ考定スルコト、最も緊要ナリ、(按、命令ノ方法、當然ノ法則ニ協フト否ト考定スルコト、命令ノ事理ヲ考定スルコトハアラズ、)但、上官指令セル事、實ニ其職掌内ニ屬スルヤ否ヤ、判然明カナリ難キト雖モ、上官若シ之ヲ以テ、斷然其職掌内ニ屬スルトナセハ、屬官タル者ハ、敢テ之ヲ拒ムノ權ナシ、故ニ此ノ如キハ、方テハ、屬官タル者ハ、自己ノ所見ヲ上官ニ稟述シ、以テ上官ノ更ニ再考熟思シテ、其行フト轍ムコト、決スルヲ俟ツノ權利アリ、加之、上官ノ指令ヲ奉スルニ、敬思ヲ加ヘサルハ、其底ル所、國家ノ法制紊レ、安寧ノ破ルヘキヲ察セハ必







キニ至ルキハ、政令ノ權、遂ニ全ク陵夷スルニ至ル可シ、官吏ノ所業、縱令ヒ未ダ曾テ不恭順ヲ顯サ、ル  
 事ト雖亦然リ、○官吏タル者、政府上官ト全ク相反スル意見ヲ抱クコトアリ、未ダ曾テ忠義ヲ傷フト  
 云フ可カラス、加之、縱令ヒ心中政府上官ヲ惡ムノ情アルモ、其奉職上ニ於テ、尙ホ忠義ヲ盡セハ、則未  
 曾テ忠義ヲ傷フ者ト爲ス可ラス、去レモ官吏若シ怨惡ノ情ヲ、奉職上ニ施スニ至ルキハ、遂ニ國權ノ一  
 致破レテ、殆ホ安全ナル能ハサルニ至ル必然ナリ、但シ官吏ノ意見、政體ノ本意、或ハ政令ノ方向ト、全ク  
 相表裏スルカ爲ニ、政府上官ニ對シテ、忠義ヲ盡スノ心ヲ捨テ、遂ニ抗拒ノ情ヲ、言行ニ顯ハサ、ル  
 得サルニ至ルキハ、君子ハ必ス其官ヲ辭セサル可カラス、若シ然セサレハ、官吏タルニ必要ナル忠義ノ  
 務ト、自己ノ意見ト相反リテ、君子ノ體面ヲ損スルコト、甚ダ甚カラス、然ルニ法官ノ如キハ、其職掌政令  
 ニ關セズ、又政府ノ意思ニ屬セズシテ、獨立スル者ナルカ故ニ、曾テ上ニ論スルカ如キ患アラズ、  
 ○ギヅウ(佛人、一千七百八十七年ニ生ル)カ著セル、華盛頓一生成ノ緒論中、華盛頓ノ論ヲ擧ケ、  
 曰ク、余吾國ノ政柄ヲ掌握スル間ハ、人或ハ政府衆議ト全ク相表裏セル所見ヲ抱クヲ知リ、而シテ  
 之ヲ要路ニ擧ルコトハ、敢テ爲ス能ハス、若シ此ノ如キコト爲セハ、則政府自刃スルナリト、(按)  
 「政府自ラ好シテ倒ル、ナリ」ト云意、○又ベルツ(獨乙人、一千七百九十五年ニ生ル)カ著  
 セルスタイン一生成中(按)スクリンハ獨乙人、一千七百五十七年ニ生レ、八百三十一年ニ死ス、  
 普魯士ミニオステルスタインカ、忠義ヲ存セサル官吏ノ國家ニ、大害ヲ爲ス所以ヲ歎タル論ヲ擧ク、  
 曰ク、凡、國家官吏、過半廉恥ヲ失ヒ、忠義ヲ喪フニ至リテハ、已ムテ得ズ嚴酷ノ處置ヲ施シ、或ハ劇  
 ニ其職ヲ放テ、或ハ之ヲ幽囚シ、或ハ之ヲ寂漠ノ地ニ放逐シ、以テ國家ヲ害シ、政府ヲ倒サント欲ス  
 ル暴論ノ蔓衍スルヲ防クノ外、決シテ他ノ術計アレコトナシト、  
 其他官吏タル者ハ、國家元首ノ許可ヲ受ケサレハ、敢テ外國ノ職官ヲ兼任セズ、又外國ノ勳爵俸祿等  
 ヲ受ケズ、其他總テ外國君主、若シハ其政府ノ免許等ヲ受ケサルコトモ、亦官吏ノ忠義ト云フ可シ、  
 「第八」官事ヲ秘匿スルコト(ザーンストゲハイムニス、又アムツヘルスパーゲンハイト)モ、亦官吏ノ必  
 守ルヘキ義務ナリ、去レモ此事全ク限界ナキコトハアラス、唯其發露ニ由テ、政府若クハ其事ニ關セル  
 私人ノ爲ニ、害ヲ生スヘキ事件ハ、必ス秘匿シテ、敢テ漏洩セサル可ク、且大義ニ於テモ、敢テ漏洩ス  
 ルヲ要セサル事件(按)若、政府上官等大惡無道ノ隱謀アルコト方リテハ、縱令ヒ政府上官ニ害アリモ、  
 之ヲ漏洩シテ、其害ヲ防カサル可ラス、蓋シ人ノ天神ニ仕フル大義此ノ如シ、ハ必秘匿シテ漏洩セサ  
 ルヲ要ス、其他ハ之ヲ漏洩スルモ、決シテ妨ナシトス然ルニ決シテ秘匿スルヲ要セサル事件ナモ、  
 猶秘匿シ、或ハ國憲及ヒ憲法ニ悖戾セル處分ヲ、掩蔽スルノ意ヨリ、故サラニ之ヲ秘匿スルト、及ヒ經忽  
 ニ官事ヲ漏洩スルトノ二事ハ、譬ヘハ、猶相對セル巖礁ノコトシ、宜シク共ニ之ヲ避ケテ、其中路ヲ行  
 クヘシ、

「第九」國家ハ其法制秩序ヲ保護スルノ義務ヲ負フカ故ニ、官吏若シ其職務ヲ怠リ、或ハ其規律ニ背ク  
 コアルキハ、必ス之ニ刑罰ヲ加フノ權利ヲ握ル、但シ此罪ニ二種アリ、其一ハ、職官ヲ以テ犯ス所ノ大罪  
 (アムツヘルブレヘン)按)例ヘハ、賄賂ヲ貪リ、官金ヲ私シ、或ハ官事ヲ漏洩スル等ノ罪ナリ、ニシ  
 テ刑法ヲ以テ罰スル所ノ者、其二ハ、職官ノ義務ニ背ク罪(アムツヘルレツツク)按)尋常ノ法ニテ  
 ハ、罪トナラサレモ、職官上ニ於テノミ、罪トナル者ナリ、ニシテ、懲戒法(デスチプリナルヘルハ  
 ーレン)按)上官其屬官ヲ罪スルノ法ナリ)ヲ以テ罰スル所ノ法ナリ、而シテ甲刑(按)職官ヲ以テ犯セ  
 ル罪)ハ、尋ラ一般ノ公正廉直ヲ保護スル本旨トナシ、乙刑(按)職官ノ義務ニ背ク罪ヲ罰スル刑、  
 ハ、專ラ國家ノ安寧健全ヲ保護スル本旨ト爲ス、故ニ此二刑中、又司法(ゲロント)、警保(ポリツァ  
 イ)ニ權ノ別アリ、(按)司法ハ、專ラ公正廉直ヲ保護スルノ權、又警保ハ、專ラ安寧健全ヲ保護スルノ  
 權ナルカ故ニ、若クハ云フナリ)○甲ハ、即尋常ノ刑法ヲ用ヒ、且尋常ノ治罪法ニ由テ、之ヲ審判  
 スルヲ常則トス、但シ又國家ノ爲ニ謀リテ、此常則ヲ棄テ、以テ他法ヲ用フル事ニ様アリ、即其一ハ、  
 職官ヲ以テ犯セル大罪ヲ審判スルノ權ヲ以テ、法院當然ノ權トシテ、之ニ委セス、唯政府若クハ此事  
 ナ法院ニ委任スヘキ權ヲ有スル職官ヨリ、法官ニ指令シテ、此罪ヲ審判セシムルノ法ト、又其二ハ、別  
 ニ官吏ノ審判ヲ爲スヘキ法官ヲ設置スルノ法ト、是ナリ、



懲戒ノ治罪法ハ其區域尋常ノ治罪法ヨリモ廣博ナリ故ニ刑官ハ判シテ殆ト無罪トシ釋セシ所業ト雖モ懲戒法ニ於テ國家ノ要務及其職官ノ義務ニ戻レル所業タルキハ必懲戒刑ニ處セサル可ク○都テ職務ニ於テ犯セル罪ハ小罪ト雖モ懲戒刑ヲ以テ之ヲ罰シ且職務ヲ怠ルノ罪モ又之ヲ以テ罰ス其他官吏ノ尋常私罪ニ關セル所業ト雖モ若シ職官ノ威ヲ汚シ民人ノ信ヲ失フニ足ルモノナレハ必懲戒刑ヲ以テ之ヲ罰ス

○普魯士國一千八百四十九年(嘉永二年)ノ布告(ヘルオルドスング)第一章ニ云「官吏タル者ハ官事私事ニ論ナク言行宜シシ民人ノ望ニ協ヒ其信ヲ得ヘシ是レ即其諸義務中ノ一ナリ」

懲戒刑ハ分テ二類トス即其一ハ唯過失ヲ罰スル刑(オルドスングスストラフ)ナリ即懲戒(ウルスング)譴責(ヘルワイス)及ヒ些少ノ罰金(ベシユレンツテ)ゲルドアーセ)等ノ如シ其二ハ暫ク職務ヲ停ムルノ刑(アインステル)ンクイン)アムテ)按)其職官ヲ免サスシテ唯暫ク職務ノミヲ停ムル處ノ刑ニ云フ)他官ニ選擧スルノ刑(ヘルセツツング)デス)ベアムテン)アウフ)アイチ)アンデレ)ステル)本人ノ請願ニ依ラスシテ安息ヲ命スル刑(ウソフライ)キルリゲ)ヘルセツツング)イン)デン)ル)ヘ)スタン)ド)按)安息ヲ命スト雖モ猶安息祿ヲ給ス)或ハ放職(エントラ)ッスング)按)俸祿モ共ニ放)ナリ)ノ刑等ナリ而シテ第一刑ハ通常審判ノ法ヲ用ルヲ要セス唯上官ノ權ヲ以テ處分スルヲ許ス)去)レ)第二刑ニ於テハ上官若シ專恣不正ノ處分ヲ爲スルハ大イ)ニ屬官ノ權利ヲ侵害スルノ恐レアルヲ以テ必審判ノ法ヲ用ヒサルヲ得ス)或ハ又放職ノ刑ハ尋常ノ法院ニテ施行シ暫ク職務ヲ禁スル刑)他管ニ選擧スル刑)及ヒ安息ヲ命スル刑)等ハ總)政府ニテ施行スルノ法ヲ立ル國アリ○但シ尋常ノ法院ハ官吏ノ罪ヲ審判スルニ於テモ唯其平民ノ罪科ヲ審判スルノ方法ヲ用フルヲ知ルノミ)是)ヲ以テ唯其人ヲ視テ其職官ヲ視ル能ハス)故ニ職官ニ於テ緊要ナル事ヲ十分ニ辨知スル能ハ)ス)又官吏ノ言行善良ナラサルキハ大イ)ニ國權ノ一致)和同)ヲ傷害スル所以)ノ理)ヲモ)詳細)ニ洞悉ス)ル能ハサル者ナリ然ルニ此)ノ如キ法院ニ)官吏ノ罪科)ヲ審判スルノ特權)ヲ與フルハ)決シテ良法ト

云フ可ラス况ヤ此法アルキハ二三官吏ノ幸ハ却テ國家及ヒ諸職官ノ害トナリ且私法獨)據)テ獲)テ國)法)例)ス)ノ)理)ナリ○或ハ其編制宜シキヲ以テ能ク國法ノ理ヲ詳悉シ實ニ官吏ノ罪ヲ審判スルニ堪ユル法院處)ノ)アラハ此)ノ如キ特權)ヲ委任)スル)モ)國家)ノ)爲)ニ)決)シ)テ)害)ヲ)生)ス)ル)ヲ)ナ)カル)可)シ)若)シ)此)ノ)如)キ)法)院)ア)ラ)ザ)レ)ハ)已)ム)ヲ)得)サル)コ)方)リ)テ)ハ)政)府)必)ス)此)權)ヲ)握)リ)テ)官)吏)ノ)言)行)其)任)ニ)當)ラ)サル)モ)ノ)ヲ)退)黜)ス)ル)ヲ)緊)要)ト)爲)ス

○按)尋常ノ法院ハ能ク私人ノ罪ヲ審判シ得ト雖モ職官ノ罪ヲ審判スルニ至テハ拙陋ナル者多シ故ニ職官ニ於テ有罪トナルヘキ所業)ヲ)モ)私)法)ニ)照)準)シ)無)罪)ト)爲)ス)コ)ト)ナ)キ)ニ)ア)ラ)ス)若)シ)此)ノ)如)ク)ナル)キ)ハ)罪)ヲ)免)レ)シ)官)吏)ハ)俸)祿)ヲ)得)レ)ル)之)ニ)由)テ)國)家)諸)職)官)ノ)規)律)ハ)遂)ニ)紊)亂)セ)サル)ヲ)得)ス)是)レ)即)本)文)二)三)官)吏)ノ)幸)ハ)却)テ)國)家)及)諸)職)官)ノ)害)ト)ナ)リ)且)私)法)獨)據)テ)獲)テ)國)法)ヲ)倒)ス)ト)云)フ)所)以)ナ)リ

○普魯士國一千八百四十九年(嘉永二年)七月十一日ノ布告ニ云「官吏忠義ノ務ヲ傷フ時若シハ職掌ニ於テ緊要ナル臆量ヲ失フ時其他政府ヲ怨惡スル黨ニ與ニスル時ニ於テハ殊ニ之ヲ退黜スルヲ要ス」ト

第四款 國家職務ノ止息(エン)デ)ス)スタ)ーツ)ゲ)ーン)ステ)ス)

〔第一〕官吏ハ職官ノ爲)ニ)任用)ス)ル)者)ニ)シ)テ)決)シ)テ)官)吏)ノ)爲)ニ)職)官)ヲ)設)ク)ル)ニ)ア)ラ)ス)故)ニ)職)官)ヲ)廢)止)ス)ル)ト)ハ)官)吏)亦)其)職)ヲ)喪)フ)ハ)固)ヨリ)當)然)ナ)リ)總)テ)職)官)ノ)廢)立)ヲ)定)メ)及)ヒ)其)品)類)ヲ)立)ル)ト)ハ)公)衆)ノ)利)害)如)何)ヲ)視)テ)施)行)ス)ル)者)ナ)リ)故)ニ)此)事)ハ)全)ク)國)法)ニ)屬)ス)ル)處)分)ト)云)フ)可)シ)然)レ)モ)官)吏)品)位)祿)ヲ)得)ル)ノ)權)利)ハ)全)ク)私)法)ノ)理)ニ)出)ル)者)ナル)カ)故)ニ)縱)令)職)官)ヲ)廢)止)ス)ル)コ)ト)アリ)モ)此)權)利)ヲ)併)セ)テ)共)ニ)廢)止)ス)ル)ノ)理)ハ)決)シ)テ)有)ル)可)ク)元)來)右)ノ)如)ク)職)官)廢)止)ノ)爲)ニ)無)官)ト)ナ)リ)シ)者)ハ)若)シ)其)職)官)ノ)廢)止)ナ)ケ)レ)ハ)即)猶)數)年)ノ)間)俸)祿)ヲ)得)ヘ)キ)者)ナル)カ)故)ニ)縱)令)無)官)ト)ナ)リ)シ)後)ト)雖)モ)其)數)年)間)ハ)必)品)位)祿)ヲ)受)ル)ノ)權)利)ヲ)有)ス



〔第二〕官吏授任セラレタル職官ノ奉仕ヲ承諾スルト否トハ、本人ノ自由ニ任スル、一般ノ通則ナルカ如ク、職官ヲ辭謝スルコトモ亦、近今ノ國法ニ於テハ、必ズ本人ノ自由ニ任スル、通則ト爲スニ至レリ、但シ任官ヲ承諾スルノ自由ヨリ、復シ之ヲ辭謝スルノ自由ノ由テ起ルニハアラズ、辭謝ノ自由ヲ生スル因故ハ、必ズ他ニ在ル者アリ、何者、總テ義務ヲ擔當スルト否トノ、本人ノ自由ニ在ルノ理ヲ推テ、又之ヲ放擲スルモ、其自由ニ在リトスルノ理ハ、決シ有ル可ラサレハナリ、他ノ因故トハ何ヤ、即チ本人ノ氣力及ヒ情意ナリ、凡ソ國家職官ノ如キハ、特ニ官吏タル者ノ氣力ノ強弱、情意ノ向背ニ由テ利害ヲ生スルコト最モ多ク、而シテ政府總令ヒ官吏ノ氣力ヲ強壯ナラシメ、情意ヲシテ歸向セシメント欲スルモ、勢ヒ決シテ能ハサルナリ、然ルニ本人氣力ノ強弱ト、情意ノ向背ヲ問ハス、強ヒテ職務ヲ掌ラシメント欲シ、敢テ其辭謝ヲ許サ、ルキハ、決シテ國家ノ爲ニ、少益アラサルコト必然ナリ、○但シ若シ國民各々奉務スヘキ職官〔按〕本卷第三款〔第三〕ヲ參看ス可シ、ノ如キハ、少ナクモ預定セル期限内ハ、必ズ辭職ヲ許サ、ルコト爲ス、○

○普魯士ラントドレント〔按〕國土ノ法ト云フ義ニシテ、普國固有ノ法テ云、羅馬法等ヨリ擧用セル法ニアラサルナリ、○云、官吏自ラ職ヲ辭スルニ方リテ、之ヲ許容セサルハ、唯公衆利益ノ爲ニ、甚ク害アル時ノミナル可シト、○巴以里國一千八百十八年〔文政元年〕ノ布告ニ云、〔國家官吏ハ、其職ヲ辭スルコト自由ナル可シ、但シ品位祿、職務祿、稱號及ヒ職掌ノ標章〔按〕服色等ノ標章ヲ云フ歟、〕ハ、皆之ヲ失フ可シ、總テ職ヲ辭スルニ、其辭スル所以ノ理ヲ陳述スルヲ要セスト、

○例ハ英國ノ法ニテハ、一年間セリツフ〔按〕州縣ノ一官、ノ官ニ奉仕セシ者ハ、其後三年間ノ休暇ヲ得ヘキコト、本人ノ自由ニ任ス、

但シ官吏自ラ職官ヲ辭スルノミニテハ、猶ホ其職官ヲ離ル、コト能ハス、蓋シ官吏タル者、恣ニ職官ヲ離ル、ノ理ハ、決シテアラザレハナリ、官吏若シ恣ニ職官ヲ離ル、ハ、是即チ自ラ職官放擲スルナリ、凡ソ官吏ノ辭職ヲ請フハ、當テ職官ヲ授任シタル、國家元首復シ之ヲ罷免スルニ、其際只十分ノ理柄生

ス、故ニ官吏タル者、實ニ此罷免ヲ得テ、始テ其職ヲ離ル、ヲ得ルナリ、且免官ノ時期ヲ定ルカ如キハ、公衆ノ利害ヲ視テ、極爲スルコト、至ク政府上官ノ權ニアリ、

官吏緊要ノ事故〔按〕疾病老衰等ノ類ヲ云、〕アラズシテ、辭職スルカ爲メ、其請ヲ允スルハ、乃チ職官ヨリ生スル所ノ權利ハ、國家ニ屬スル者、〔按〕職掌ニ係レル權利ハ勿論、稱號品位等ヲ得ルノ權利ヲ云、〕及ヒ私法ニ屬スル者、〔按〕俸祿ヲ得ルノ權利ヲ云、〕ノ別ナク、皆之ヲ失フ可シ、

〔第二〕去レテ官吏當然安息ヲ請フノ權利ヲ得タル者ハ、前條ノ理ヲ以テ論シ難シ、但シ此ノ如キ官吏ト雖モ、安息ヲ請フキハ、眞ニ職掌ニ係レル權利ヲ失フハ、固ヨリ言テ俟ス、唯稱號品位等ノ如キ、榮譽ノ權利、及ヒ俸祿〔按〕安息祿ノミナシ、〕ヲ得ルノ權利ハ、猶必ズ保存スルヲ得可シ、而シテ其救助祿〔按

即安息祿ナリ〕ノ多少ハ、通例當テ勤仕セル、年數、及ヒ其人ノ年齢ニ隨テ、各差アリ、○高齡〔獨乙ニテハ七十歳比耳時ニテハ六十五歳ニシテ、且、既ニ數十年間〔三十年、或ハ四十年〕勤仕セル者、及ヒ

縱令此年齡年數ニ滿タサルモ、疾病等ニ由テ勤仕ニ堪ヘサル者ハ、救助祿ヲ得ルノ權利ヲ得ヘシ、且、官吏若シ職務ノ爲メニ疾病症傷等ヲ得テ、遂ニ勤仕ニ堪ヘサルニ至ルキハ、必ズ復救助祿ヲ得ル固ヨリ當然ナリ、何者、國家ノ職務ヲ委任セラレタル者、其職務ノ爲メニ傷害ヲ受ルキハ、國家之ヲ償フ

ノ義務ヲ負フハ、固ヨリ法ノ公理ニ出レハナリ、

〔第四〕官吏ノ請求ニ依ラスシ、其職ヲ罷免シ得ヘキヤ否、且、如何ナル時ニ於テ、罷免シ得ヘキヤノコトニ就テハ、近今各國ノ議論相異ナリ、獨乙國ニ於テハ、既ニ其帝國ノ時ニ於テ、法學士ノ論ニ基キ、

官吏タル者ノ私身ノ爲メ、大ニ其家計ヲ慮リテ、職官ハ通例官吏ノ終生保有スヘキ權利トナシ、而テ政府敢テ恣ニ之ヲ罷免スルコトナカリキ、唯官吏若シ其職掌ニ背リキハ、必ズ法院ノ審判ニ由テ、免職セラレタリキ、○但シ時アリ大ニ其家計ヲ慮リテ、職官ヲ免ルルハ、決シテ國家ノ理ニ戻由ラサル所以ナリ、論スルノ徒モ、儘之レアリシカハ、前世期〔一千七百年代〕ニ至リテハ、終身任用ノ法ヲ立テ、蓋シ自

善シトスルノ論、盛ニ世ニ行ハレ、遂ニ近今ノ國憲ニ於テ、終身任用ノ法ヲ立テ、蓋シ自由權ノ進歩シタル所以ニシテ、且、政府ノ專恣ヲ防制スルノ良法ト云フヘシ、即チ獨乙ニテ此法ヲ用



ヒ又近世ニ至リテハ、瑞士國ニテモ、其官ニ於テ之ヲ用フ、但シ僅ニ定期間任用スルノ官殊ニ多シ、然ルニ英國ニテハ、政論朋黨、ボリヤ、セ、パルター、〔按〕政治ノ方法ニ就テ、議論相異ナルカ爲メ、黨與數派ニ分ル、之ヲ政論朋黨ト云、威權盛ニシ、職官ハ特ニ國家ノ爲メ、授任スル者ニシテ、決シテ私人ノ願望ニ由テ、授任スル者ニアラズト云フ論チ、主張スルカ故ニ、獨乙ノ議論ニハ、全ク相反シテ、荷クモ官吏タル者ノ私身ノ爲メニ、慮ルノ論ナシ、特ニ國家ノ爲メニ謀ルノミ、故ニ英國ニテハ、君主自由ニ職官ヲ授任スルノ權利ト共ニ、又之ヲ自由ニ赦免スルノ權利ヲモ併セ握リテ、決シテ此權利ヲ限制セサルノ法ヲ立テタリ、○但シ法官ハ、必ス實ニ君主ニ從屬セサルヲ良法ト爲スカ故ニ、君主トイヘハ、自由ニ罷免スル能ハサルノ法アリ、既ニ維廉第三世（一千六百五十年ニ生レ、七百零二年ニ歿ス）ノ世ニ於テ通常法（ゲマイチス、レフト）〔按〕英語ニコムモンラウト云、即慣用法ナリ、ノ法官ハ寵愛（〔按〕國君ノ寵チ云、アル時間、任用スルノ舊法ヲ改メ、而シテ行狀（〔按〕法官ノ行狀ナリ）正善ナル時間、任用スルノ法ヲ立テタリ、但シ行狀正善ナラサルコトアルニ至リテハ、必ス國君巴力門ト商議シテ、之ヲ免黜スルコトナセリ、○北亞米利加ノ法モ亦、英法ニ倣フ、佛國ニテハ、政官ヲ免スルハ、往古ヨリ君主ノ專ラニスル法ナリキ、唯法官ヲ免黜ス可ラサルコトハ、既ニ第十六世期（〔按〕一千五百年代ナ云）ニ於テ、通則トナセリ、

獨乙ノ法ハ、官吏タル者ノ私身ノ爲メニ慮ルコト、實ニ甚ダシキニ過ルルノ弊アルハ、辨チ俟タズ、去レテ若シ此弊ヲ除去シ、而シテ更ニ國家ノ爲メニ謀ルコトヲモ爲セハ、此法却テ他ノ立憲各國ノ法ニ優ルコト明カナリ、他各國ノ法ノ如キハ、君主自由ニ官吏ヲ免職スルヲ許ストイヘハ、獨乙ノ法ハ、畜ニ之ヲ許サ、ルノ益アルノミナラス、亦政論朋黨ノ縱ニ政府ヲ籠絡シテ、遂ニ官吏進退ノ權ヲ奪フノ防クニ足ルノ益アリ、

職官ハ、國家ノ爲メニ設立スルノ理ニ由テ、國家ハ必ス自己ノ安寧ノ爲メニ、官吏ヲ任用スルノ權利アルコトハ、又自己ノ安寧ノ爲メニ謀リテ、一官吏ヲ免黜シ、他ノ一官吏ヲ以テ之ニ代任スルノ權利ヲモ、

併テ掌握セサル可ラス、而シテ此權利ハ、必嘗テ之ヲ任用セシ者ノ掌ルヘキコト、固ヨリ當然ナリ、故ニ若シ何レノ官、此權利ヲ掌握スヘキ平ノコト、決定シ難キキコト方リテハ、〔按〕嘗テ任用ヲ掌リシ官、若シ既ニ廢絶シタルカ如キキニ於テハ、本法ノ如ク、嘗テ任用ヲ掌リシ官、復テ赦免ヲ掌ル可ラサルカ故ニ、何レノ官此權利ヲ施行スヘキ乎、甚ダ決定シカタクナリ、○國家元首、此權利ヲ掌握ス可シ、○官吏ノ退黜チ、獨リ法院ニ委任スル所ノ各國ニ於テモ、退黜ノコト、若シ全ク政治上ニ關係ノ、少モ私法ノコトニ關係ナキキハ、必ス此規律（〔按〕任用ノ權利ヲ握ルル者、復テ赦免ノ權利ヲモ握ルルノ規律ナリ）ヲ用フルヲ要ス、

○北亞米利加ニテハ、統領嘗テセナトトノ補助ヲ以テ、任用セシ官吏トイヘハ、統領獨リ之ヲ赦免スルノ權利ヲ握ルルノ法アリ、甚ダ理ニ戻レリ、

但シ其法（〔按〕國家安寧ノ爲メニ謀リテ、官吏ヲ免黜スルノ法）亦必ス限制スル所アリ、即チ政府ニ從屬セサル法院ノ爲メニ、之ヲ限制シ、或ハ官吏ノ私身ノ爲メニ慮リテ、之ヲ限制ス、是故ニ司法ノ事チ、全ク法院ノ特權ニ任スル國ニ於テハ、甲ノ限制（〔按〕政府ニ從屬セサル法院ノ爲メニ、限制スルヲ云）チナスカ爲メニ、近世一法ヲ立テ、縱令ヒ政府ノ權ト雖ヒ、法官チ本人ノ意ニ戻リテ、免職スルヲ得ス、又他官ニ遷任スルヲ得ス、若シ安息ヲ命スルハ、必ス全祿ヲ給セサルコトナシ、而シテ英國ニテハ、實ニ已ムテ得サルニ方リテハ、巴力門ノ議チ以テ、法官ヲ罷免スルノ規律ヲ立テ、又獨乙ニテハ、法院ノ審判チ以テ、之ヲ罷免スルノ規律ヲ立テタリ、

乙ノ限制（〔按〕官吏ノ私身ノ爲メニ慮リテ、限制スルヲ云ナリ）チ爲スニハ、大概左ノ數件ノ外、免黜ノ事ヲ行フ可カラズト爲ス可シ、

甲 官吏罪犯アルカ爲メニ、官吏タルノ品行ヲ損スルコト、灼然タルキハ、之ヲ罷免ス可シ、

乙 官吏任用ノ後、縱令ヒ罪犯ノコトアラズト雖ヒ、其職掌ニ勉勵セス、或ハ臆量アラズシテ、其品行官吏タルニ堪ヘサルコト明カナルキハ、之ヲ罷免ス可シ、

丙 官吏精神昏迷シテ、職官ノ事務ヲ失忘シ、實ニ國家ノ爲メニ、緊要ノ務ヲ爲スニ堪ヘサルキハ、之ヲ罷免ス可シ、即チ例ヘハ、癡狂放心等チ患フル者はナリ、



丁

官吏縱令其身一ノ間然スヘキヲナシト雖也、自ラ他ノ事故ニ由テ、實ニ其職ニ居ル能ハサルニ至ル時、若クハ大ニ人望ヲ失スルニ至ルキハ、遂ニ其職ヲ罷免ス可シ、即チ官吏ノ專ヨリシテ、雄強ナル外國政府ト、葛藤相生シ、解ス可ラサルニ至ルキハ、縱令其官吏、常ニ能ク職務ヲ盡シテ、曾テ之ニ背キシヲナシト云フ也、遂ニ其職掌ヲ奉スル能ハサルニ至ルカ故ニ、已チ得ス、其職務ヲ停メサル可ラス〔余カ見テ以テスレハ、普魯士王佛帝那破倫第一世ノ強威ニ、敵シ難キカ爲、ニ、遂ニミニスレルスタインヲ罷メシカ如キ是レナリ、〕  
 又官吏公衆ノ惡ミチ受ケテ、之ニ由テ遂ニ騷亂ノ起ラントスルキハ、縱令其官吏亦能ク常ニ職務ヲ盡シテ、曾テ之ニ背キシヲナシト云フ也、既ニ大ニ人望ヲ失フヲ以テ、之ヲ時メサル可ラス、

〔按〕スタインハ、普國柱石ノ臣ト稱セラレシ賢相ナリシカ、當罷佛帝那破倫第一世カ、擅ニ獨乙ヲ謀ルヲ惡ミ、之ヲ抗拒スルノ策ヲ企テシカ故ニ、那破倫ノ威ヲ以テ、普國ニ迫テ、之ヲ退黜セシメタリ、

右數件ノ如キコアルニ方リテハ、國家必、其官吏ヲ罷免シ、以テ公衆ノ爲ニ妨害ヲ避ケサル可ラス、但シ第一件、即チ甲行ニ論セルカ如キコアルニ方リテハ、法院、刑法ノ通則ニ隨テ、官吏ノ罪ヲ審判スルコト、當然ナルヲ以テ、政府ハ敢テ之ニ關セス、獨リ法院此事ヲ掌リ、其權ヲ以テ、官吏ヲ退黜ス可シ、然ルキハ稱號品階、俸祿、及ヒ救助祿ヲ得ルノ權利等ヲモ、亦共ニ剝奪スルコト當然ナリ、

第二件、即チ乙行ニ論セルカ如キハ、官吏實ニ罪犯ノコアルカ爲、ニ、之ヲ黜クルニアラサルヲ以テ、決シテ尋常ノ法院ヲシテ、審判セシム可ラス、必、懲戒法ニ由テ、之ヲ罷メ可シ、但シ本人チシテ、自己ヲ防護スルニ、自由ナラシムルコトニ、意ヲ用フルコト肝要ナリ、〔按〕冤罪アルヲ恐ル、カ故ニ、本人チシテ、其情實ヲ陳セシムルコト、自由ナラシムルコト肝要ナリ、○罪過〔按〕實ニ罪犯ト稱スルニ足ラサルモノナシ、云、ノ大小ニ隨テ、或ハ相應ノ安息祿ヲ與ヘテ、安息ヲ命シ、或ハ官吏ノ私身ノ體面、及ヒ其稱號、品階等ヲ妨害セスシテ、唯其職ヲ免スル〔但シ俸祿ヲ得ルノ權ハ、全ク廢除ス可シ〕等ノ差等アルヘシ、

然ル上段ノ赦免〔按〕安息祿ヲ與ヘテ、安息ヲ命スルノ一段チ云、ハ、唯職官ヲ免スルノミニシテ、未、官吏ノ其職ニ在リテ、受ケタル私權利〔按〕安息祿ヲ得ルノ權利、チ、損害スルニ至ラサルヲ以テ、下段ノ赦免〔按〕官吏私身ノ體面、及ヒ其稱號、品階等ヲ損害セスト雖モ、職官ト共ニ、全祿ヲ廢除スルノ一段チ云、〕ニ於ケルヨリモ、更ニ自由ニ處分スルノ權利、尙政府ニ在ルヘキコト、論チ俟タス  
 第三件、即チ丙行ニ論セルカ如キコアルニ方リテハ、安息〔按〕安息祿ヲ命スルコト當然ナリ、故ニ通例放職〔按〕安息祿ヲ停ム、〕スルヲ許サス、何者、官吏決シテ罪アルニアラス、唯精神心思ノ常チ失フ者ナレハナリ、

第四件、即チ行ニ論シタルカ如キコアルニ方リテハ、或ハ安息ヲ命シ、或ハ他官ニ遷任ス可シ、但シ其職官ノ品性ハ、必、實ニ前官ニ同シカル可シ、〔按〕例ヘハ、甲省ノ卿ナレハ、乙省ノ卿ニ遷シ、或ハ乙省ノ輔ナレハ、甲省ノ輔ニ遷スノ類チ云、且、品階、俸祿、共ニ舊ニ依テ變ス可ラス、○丙丁ノ二行ニ論シタルカ如キ時ニ於テハ、政府上官、能ク事情ヲ酌量シテ、至當ノ處分ヲ爲ス、最モ緊要ナリ、而シテ現ニ免職ス可キ官吏、曾テ國家元首ノ授任ヲ受ケン者ナラハ、必、國家元首ノ准許、及ヒ命令ヲ俟テ、之ヲ免ス可シ、

然ルニ政府故ナク、縱ニ官吏ヲ免黜シ、剩サヘ此時ニ於テ、官吏チシテ、自己ノ利益ヲ防護スル〔按〕冤チ訴フル等ノ類、チ得サラシムルノ國、近今儘之レナキニ非スト雖モ、甚、職官ノ安靜ニ害アリ、

〔第五〕姑シ職掌ヲ禁スルコト〔六、ペンシオン〕〔按〕前款第九ニ出ツ、ハ、或ハ刑罰ノ爲、ニ施行シ、或ハ公衆ノ利益ノ爲、ニ唯一時ノ處分トシテ、施行ス可シ、〔按〕意下條ニ於テ明瞭ナリ、而シテ刑罰ノ爲ニ、施行スル時ニ於テハ、或ハ法院、治罪法ヲ以テ之ヲ施シ、或ハ政府上官懲戒法ヲ以テ之ヲ施シ得可シ、然ルキハ、官吏、姑シ其職掌ヲ施行スルノ權利ヲ失ヒ、及ヒ通例其時間ハ、法祿ノ全額、若クハ若干部分ヲ受ル能ハサル可シ、

其時チ定ム可シ、例ヘハ、官吏罪犯ノ訴ヘアル時ノ如キ是レナリ、但此ノ如キ訴ヘアラスト雖モ、儘政府



ノ權ヲ以テ、右ノ如ク一時ノ處分ヲ爲ス可アリ、即チ安息ヲ命スルノ制度ナキ國ニ於テ、大イニ民人ノ怨惡ヲ受ケタル官吏ヲシテ一時之ヲ避ケシメント欲スル時ノ如キ是レナリ、(按)本文論スルカ如キ状態アルキニ於テモ、官吏ヲシテ、仍其職掌ヲ爲サシメントスルキハ、大ニ公衆ノ爲ニ害アリ、故ニ前文ニ姑ク職掌ヲ禁スルコトヲ、公衆利益ノ爲ニ、一時ノ處分トシテ、施行スト云フナリ、○一時ノ處分ヲ爲スノ意、決シテ刑罰ヲ施スカ爲ニアラサルキハ、其官吏ノ官ニ在リテ受ケタル私權利(按)俸祿ヲ得ルノ權利ハ、決シテ奪フ可ラス、然レモ敢テ俸祿ノ全額ヲ與フルヲ要セス、唯其一半ノ品位祿ノミヲ與シ、何者、官吏實ニ私事ノ爲ニ受ル者ハ、唯此祿ノミナレハナリ、○又縱令ヒ罪犯審問ノ時間、姑ク其職掌ヲ停ムル時ト雖モ、品位祿ハ與フ可シ、但シ若シ罪過ノ爲ニ償金、及ヒ罰金ヲ出サシムルコト有ルニ於テハ、之ニ充ツルカ爲ニ、此祿ヲ本人ニ付與セスシテ、姑ク法院ニ附托ス可シ、

第五款 輔弼ノ官(ニニステリウム) (按)ニニステル總員ノ相合スル者ヲ云フ)

〔第一〕ニニステルハ、國家元首ノ輔弼トナリテ、君權ノ諸方向ニ發揮スルヲ助クル者ナリ、凡ソ立憲君主國ノ如キハ、其君主政令諸課ノ處分ニ於テ、必ズ本課ヲ委任セルニニステルノ輔佐ヲ假ラサルヲ得ス、而シテニニステルハ、其處分ニ就テ、必ズ保任ノ義務ヲ負ハサル可ラス、○又民主國トイヘ、一統領(アイン)プレシデント)ヲ以テ政府ノ主長トナセル國(按)北亞米利加ノ如キ是レナリ、瑞士ノ如キハ、教員ヲ以テ、政府ノ主長ト爲ス、)コトハ、必ズニニステル、即スターツセクン)テールヲ置テ、統領ノ輔佐ト爲ス、但シ民主國ノ統領ハ、自ラ保任ノ義務ヲ負フカ故ニニニステルノ爲ニ、其權ヲ限制セラル、)君主ニ比スレハ、更ニ少シ

ニニステルハ決シテ國家元首ノ私臣ニアラス、是故ニ元首ノ命令依囑ヲ、悉皆遵奉スルノ義務ヲ負ハサルノミナラス、必ズ亦自ラ任シテ、政府ノ嚮導トナリ、以テ君主ノ命令依囑スル所、實ニ法ニ合シテ、國家ニ緊要ナリヤ否ヲ考定シ、且ツ自ラ見ル所ヲ以テ、之ヲ君主ニ論述スルノ權アリ、國政ノ大體ニ於テ、君主ノ所見、若シニニステルト合セサルコトアルトハ、是ニ由テ政府ノ能力挫折シテ、盛ニ發進スル能ハサルノ恐レアリ、是ヲ以テ君主ハ、必ズ其欲スル所ニ隨テ自由ニニニステルヲ選任スルヲ得

ルノ法アリ故コ他人強ヒテ薦ムル所ノ人物アルモ、君主若シ之ヲ信セザレハ、必ズ之ヲ舉ルヲ要セス、且ツ縱令ヒ君主ノ舉ント欲スル人物ト雖モ、其人若シ君主ヲ信セザレハ、亦必ズ其選舉ヲ承奉シテ、ニニステルトナルヲ要セサルナリ、○若相相信スルハ、實ニ緊要ナリト雖モ、其間必ズ兄弟朋友ノ親愛アルカ如クナル可シト云フニハアラス、唯政治上ニ於テ、君主ハ其ニニステルノ才幹實ニ現今ノ政令ヲ執ルニ堪ユルヲ信シ、又ニニステルハ君主輔佐ヲ吾レニ任シテ、敢テ疑フ所ナキヲ信スレハ即足レリ、

〔第二〕國務ノ品類、及ヒ方向ニ隨テ、之ヲ區分シテ、數部ト爲ス、ノ方法數種アリ、但シ事務ノ區域甚ダ廣博ナル各部ハ、必ズニニステル一員、其首位ニ在リテ、之ヲ統括スルヲ善シトス、何者、每部必ズ一人其精神ノ全力ヲ以テ、之ニ任スル者アラサル可ラサレハナリ、○數部(デパルテマン)ノ區分ハ、通例左ノ如シ、  
〔甲〕外務省(ダス、オイセ) 總テ外國交際、及ヒ其諸關係ノ事務ヲ掌ル、其他合邦(ブンデス)ステートン(按)各部ノ上、別ニ大政府アリテ相統合スル者ヲ云、米國瑞士等ノ如シ、盟邦(スターテン)プエントン(按)各國相盟合スル者ヲ云、獨乙ノ如シ、)ニ於テハ、兼テ其各邦聯合ノ事ヲ掌ル、  
〔乙〕內務省(ダス、イン) 總テ國內諸部(イン)テレル、オルガニスムス(按)州縣等ヲ云、)ヲ總管シ、且ツ國內ノ諸政令ヲ掌ル、但シ別種重要ノ事務ハ、別ニ諸省(按)以下諸省ヲ云、)ヲ置テ、之ヲ掌ラシム、  
〔丙〕兵部省(キリーグ)スミニステリウム) 國家ノ兵備軍務ヲ掌ル、  
〔丁〕警保省(ポリツァイ)ミニステリウム) 國家ノ警保權ヲ掌ル、但シ或ハ之ヲ司法省ニ合シ、或ハ內務省ノ屬司トナセル國アリ、

〔戊〕司法省(ユス)ツツミニステリウム) 國家元首預ル所ノ司法事務ヲ掌ル、(按)法院ト混ス可ラス、尙卷之六第十七款ヲ參看ス可シ、)  
〔己〕財務省(ヒナンツ)ミニステリウム) 財務ノ權ヲ施行シ、財用ノ供給ヲ掌ル、



〔庚〕教部省(ソルツースミコステリウム)神教、及諸學術、教育ニ關係セル事務ヲ掌ル、  
 〔辛〕土木ノ公役、及工商ノ事務ヲ掌ル所ノ省(ニコステリウム、ヒュール、エッヘントリヘ、アルバイテ  
 ン、ハンデル、ウインド、ゲエルベ)在昔ハ、此事務ヲ、内務省、若クハ財務省ニ合併セシカモ、今時開化ノ世  
 ニ於テハ、是等ノ事業ヲ盛大ニスルヲ、甚ク切要ナルヲ以テ、多クハ別ニ一省ヲ置テ、之ヲ掌ラシム、  
 民主國ニ於テハ、或ハ合議官(コルレギー、又ラート)ヲ置テ、右ノ諸事務ヲ掌ラシム、蓋シ民人政體  
 (デモクラシー)ヲ貴ヘル國ニ於テハ、總テ一人全權ヲ握リテ、事務ヲ統括スルヲ嫌忌スルヲ、甚クシ  
 キカ爲ナリ(按)瑞士國ノ如キハ、合議官ヲ置ク、米國ハ然ラズ、  
 〔第二〕國家元首、右諸省ニコステルノ上ニ在リテ、之ヲ統括ス、是故ニ君主ハ必ス、各ニコステルト親  
 シク接遇スルヲ要ス、但、國政ノ大體ニ於テニコステル各員ノ所見、互ニ合同一致スルヲモ、亦甚ク  
 緊要ナリ、蓋シ各省ノ事務、互ニ關涉スル所アリテ、甲省ニコステルノ處分乙省ニコステルノ處分ニ利  
 害ヲ生スルカ如キヲ、必シモ無キ能ハス、是ヲ以テニコステル總員ヲ合セテ、ニコステル合院ゲサ  
 ムトミニフアリウム、(按)即スターツミニステリウムナリ、ヲ設ケ、以テ共ニ要務ヲ商議セシムル  
 ノ制度アルナリ、然ルニ此制アラサルモ、ニコステル各員、各自ニ君主ト議シテ、事ヲ決定スルノミ  
 コシテ、決シテ、相共ニ商議スルヲナキカ故ニ、政令ノ爲ニ害アリ、○ニコステル合院ノ内、相合同一致  
 スルモ、其勢力盛強ナルカ故ニ、君主及ビ兩院、并ニ國民ノ爲ニ、壓制セラル、カ如キ、恐アルヲナ  
 シ、去レモ若シニコステル相合同一致スルヲ甚クシキニ過キテ、遂ニ君主ノ威權ヲ蔑如シ、其統御ヲ仰  
 サルニ至ルカ如キハ、甚ク不可ナリ、是故ニ君主タル者ハ、ニコステル各員ニ召シテ、政ヲ議シ、事ヲ定  
 ムルモ、決シテ妨ケナシ、且ツニコステル總員ノ中、一人ヲ汰シテ、之ヲ退黜スルモ、亦決シテ妨ケナシ  
 トス、  
 ミコステルブレシデント(按)ニコステルノ首領ト云フ義ニシテ、本邦太政大臣ノ如シ、但シ又兼テ一省

卿ノ職ヲ帶フ、一人アリテ、ニコステル合院ノ首坐ヲ占ム、英國ニ於テハニコステルノ中於テ  
 必、門閥品階ノ最モ貴者ヲ撰テ、之ヲニコステルブレシデントト爲スヲ善シトフ、是レ全シ形ヲ取リ、  
 實ヲ捨ツル者ナレモ、蓋シ英國ノ能ク實際ニ老練シテ發明スル所以ナリ、然ルニ他各國ニ於テハ、多  
 シハ實ニ政柄ノ大綱ヲ執レル者ヲ以テ、ニコステルブレシデントト爲スヲ常ナリ、○第一法(按)英國ニ  
 テ用フル法ナリ、テ用フルモ、二個ノ利益アリ、向者、第一、君主猜忌ノ情ヲ生スルヲ自ラ少クシテ、  
 實ニ政柄ヲ執レルニコステルヲ離視セル徒ノ射レル箭、直ニ此ニコステルニ中ルヲ少クシテ、且其  
 質權、決シテ、痿痺スルノ患ナケレハナリ、○然リト雖モ、第二法(按)實ニ政柄ヲ握レルニコステル  
 ナ、ニコステルブレシデントトナスノ法ナリ、テ用フルモ、ニコステル合院能ク和同シテ、其勢力盛  
 強トナリ、且、院中ノ序次、自ラ宜シキヲ得ルノ益アリ、  
 ○(按)實ニ政令ノ大綱ヲ執レルニコステルヲ以テ、ニコステルブレシデントトナスモ、其威  
 權愈々盛ナルカ故ニ、自ラ君主猜忌ノ情ヲ發セサル能ハス、且、此ニコステルヲ離視セル徒ノ、之  
 ナ傾倒センヲ謀ルモ、亦愈々熾ナリト雖モ、門閥品階貴キ者ヲ、ニコステルブレシデントト爲ス  
 中ハ、權威甚ク盛ナラサルカ故ニ、君主ノ之ヲ猜忌スルモ、自ラ薄ク且此時ニ於テハ、實ニ政柄ヲ執  
 レルニコステルハ、譬ヘハ此門閥品階貴キニコステルヲ干盾トシテ、自ラ其後面ニ潛伏スルカ  
 如キ景狀ナルカ故ニ、之ヲ監視セル徒ノ傾倒ヲ謀ル勢力モ、自ラ殺弱スルナリ、  
 〔第四〕ニコステルハ、政令ノ處分ニ就テ、君主ニ自己ノ所見ヲ述告シテ、其裁定ヲ乞ヒ、及ビ君主出ス  
 所ノ施令ノ文書ニ、共ニ連署スル者ナリ、又君主ハ、ニコステルノ論述スル所ヲ聞テ、其可否得失ヲ  
 自由ニ思量シ、且、若シ職官(スターツラート)〔按〕本卷第六款ニ詳カナリ、ノ議ヲ聽カント欲セハ、  
 則、召シテ之ニ謀リ、而シテ自己ノ所見ヲ以テ、或ハ之ヲ採用シ、或ハ之ヲ採用セサルノ權ヲ有ス、君主  
 縱令、一、二、政令ニ於テ、ニコステルノ議ヲ採用セサルヲアリモ、之ニ由テ、ニコステル、其職ヲ退ク



ヲ要スルノ理、決ノアルナシ、蓋シ君主僅ニ一二ノ議ヲ採用セサルハ、未タミニステルヲ厭惡スルヲア  
ラサレハ也、去レテ若シ此ノ如キ時ニ於テ、君相ノ際、其見ル所全ク相表裏シ、國政ノ大體ニ於テ、遂ニ後來  
其議論ノ和同セサル可キ勢、預シメ洞察ス可キニ至リテハ、已ムテ得ス、其ミニステルヲ罷免スルノ  
外、決シテ他術アルコトナシ、而シテ其處分ニ至テハ、或ハ君主之ヲ罷免シ、或ハミニステル自ラ解職ヲ求  
ム可シ、兩様共ニ必自由ナルヲ要ス、

君主ハ必ミニステルノ建議ヲ俟ツテ要スルノ理ハ、決シテ之レアラス、又預メ自己ノ意見ヲ示シテ、  
ミニステルヲシテ、靜ニ之ヲ熟思シ、其施行ノ方法ヲ設定シテ、以テ上聞セシメ、而シテ其可否得失ヲ  
裁定スルノ權アリ、但シミニステルハ、必自己ノ所見ヲ君主ニ建白シ、又君主ノ處分、或ハ不正不當ノ  
コトアレハ、之ヲ諫諍シ、君主若シ之ヲ聽カサルハ、已ムテ得ス連署ヲ辭シ、其事ヲ輔佐セサルヲ以テ、  
自己ノ義務ト爲ス可シ、

日常小事ノ如キハ、政令ノ要務ナラサルヲ以テ、君主專ラ之ヲミニステルニ委託シ、通例之ニ關セ  
サルヲ善シトス、但シミニステルノ事ヲ施行スル、或ハ粗漏ニ涉リ、又ハ專恣ノ處分ヲ爲ス等ノ恐レアラ  
ハ、小事ト雖モ、君主必親カラ之ヲ聞知セサル可ラス、○政令諸務ノ方法ヲ一致セシメテ、互ニ際離  
セサラシメ、及ヒ公衆安寧ノ術ヲ營ム等ノ如キ、大政務ニ至リテハ、君主必怠慢ナク、丁寧綿密ニ注  
意シ、而シテ其力ノ及フ限リハ、必自ラ主トナリテ、之ニ從事スルヲ要ス、但シミニステルノ輔佐ヲ假  
ルハ、固ヨリ當然ナリ、總テ君相ノ際、且ニ其處分ニ就テ、隱秘スルハ、甚ダ不可ナリ、

〔第五〕君主實ニ施行セント欲スル政令ノ文辭ニハ、必其事ニ參與セルミニステル、君主ト共ニ連署  
スルヲ要ス、若シ此連署ナキ文書ハ、未タ眞實ノ政令タルヘキ形貌ヲ得サル者トス、ミニステル亦連署  
ヲ爲スハ、之ニ由テ、其處分ヲ保任スルノ義務ヲ負フ可シ、故ニ若シ其處分ノ不正不當ナルガ爲メ  
ニ、他日罪ヲ受ルコトアルコト方リテ、當テ特ニ君命ニ由テ、處分セシ由ヲ辨スルハ、決シテ其罪ヲ免カ  
ル、能ハサルコト當然ナリ、總テミニステルタル者ハ、敢テ君主ノ非ヲ擧ケテ、自ラ其罪ヲ遁ル可ラス、政  
令處分ノ惡キハ、全自己ノ罪ナリト爲シ、又其處分ノ仁善ニシテ、公衆ノ之ヲ感戴スルニ至ルハ、全  
君主ノ功ナリト爲スヲ要ス、

ミニステル保任ノ形狀ニ數種アリ、  
〔甲〕公論(エントリ)ハ、マイメンツ(按)天下ノ公論ヲ云フ)ニ對シテ、保任ス可シ、凡出版ノ自  
由ヲ許セル國ニ於テハ、天下千萬ノ眼目、悉クミニステルノ舉動ヲ注視ス、(按)出版自由ノ國ニテ  
ハ、新聞ヲ以テ善惡ニ就キ、ミニステルノ舉動ヲ公告スルカ故ニ、天下悉ク之ヲ知テ、論スルヲ得ルナ  
リ)故ニ其一舉一動、直ニ天下ノ評論ニ掛ラサル者ナシ、殊クミニステルヲ監視スル黨與ノ論ニ至  
テハ最モ其盛ヲ極ム、方今各國共ニ、君主其處分ヲ保任セサルノ規律アリト雖モ、此規律決シテミニ  
ステルノ罪ヲ掩フ能ハス、且縱令ニ君主言ヲ設ケテ、ミニステルノ非ヲ庇護セント欲シ、某處分ハ決  
シテ獨リミニステル自己ノ意ニ出ルニアラス、他特ニ吾カ意ヲ體シ、吾カ命ヲ奉シテ、行フ所ナリト説  
クト云フ也、亦決シテミニステルヲ救フコト足ラサルナリ、

〔乙〕兩院ニ對シテ保任ス可シ、兩院ハ、公衆ニ代リ、其不平ノ意ヲ遞傳シテ、君主ニ告訴スルノ權利  
アリ、且專ラ其事ヲ處分セシミニステルニ、處分ノ嫌疑スヘキ所以テ、告述スルノ權利アリ、  
ミニステル若シ兩院多數(メーホルハイト、デル、カムメルン)ノ望ヲ失フキハ、國家ノ爲メニ甚ダ重害  
タリ、何者形勢此ノ如クナルニ至ルキハ、兩院ミニステルノ處分ニ就キ、其方法ヲ准許スルヲ欲セサ  
ルカ故ニ、縱令ニ其方法中、公衆ノ爲メニ仁善ナルコトアルモ、或ハ阻閣セラレテ、遂ニ行フ能ハサルニ至  
レハナリ、是故ニミニステル大ニ兩院ノ嫉惡ヲ受ケテ、遂ニ銷ス可カラサルニ至リテハ、已ムテ得  
ス其職ヲ罷免スルノ外、他術アルナシ、去レテ此事決シテ、國法ノ規律タルコトハアラス、既ニ各國ニ於  
テ、唯兩院少數(ミンデルハイト、デル、カムメルン)ノ左袒ヲ得タルミニステル、多數ノ嫉惡ヲモ顯



ミス、猶多年ノ間、自若トシテ其職ニ止マリシ例少カラス、○英國ニテハ往昔ヨリ巴力門政令（バル  
ラメンツレギールンク）按英國ニテハ、巴力門ノ威權盛ニシテ、専ラ政令ノ實權ヲ握ル、ノ法行ハ  
レテ、巴力門ノ威權感強ナルヲ、實ニ驚クニ堪タリ、蓋シ他ノ寸憲各國ニ於テ、巴力門ノ威權、此ノ  
如ク盛強ニ過ルキハ、殆ト治安ニ害アルヤ、必然ナリト雖モ、英國ニテハ、此法却テ治安ニ益アリ、故ニ  
ミニスナル若シバ力門ノ爲メニ一敗ヲ取ルコトアルハ、動モスレハ、其職ヲ辭スルニ至ルコト、從來ノ風習  
トナレリ、然ルニ此國ニ於テスラ、古來二三ノミニスナルハ、大ニ下院ノ嫉惡ヲ受ケテ、尙且、數年間、  
能ク政柄ヲ握リタリキ、例ヘハ賢相ピット（一千七百五十年ニ生レ、其八百零六年ニ死ス）ノ如キ則  
チ是ナリ、○蓋シ若シ大地各國ニテ、ミニスナル一敗ヲ取ル毎ニ、輒チ其職ヲ辭スルノ風習アルキハ、  
國家ノ爲メニ甚ダ不利ナル可シト雖モ、英國ニテハ、却テ不利ナラサルハ、何ヤ、英國ニテハ、君主及、兩  
院ノ信ヲ兼テ得タル人傑少カラズ、且、此國ニテハ、國家ノ礎石トナリテ、強盛ノ威權ヲ備フル者  
ハ、貴族、富人、及、識者ニシテ、貴族ハ、父祖ノ品行ヲ墜サンテ恐レ、富人ハ、自己ノ利ヲ失ハント恐  
レ、識者ハ、其道ニ背カンコト恐ル、カ爲メニ、輕舉暴動ヲナシテ、敢テ政府ニ抗拒セント欲スルノ意  
アラサレハナリ、然ルニ大地ノ羅馬人種各國、及、日耳曼人種各國（按前冊ニ註ス）ノ如キハ、未ダ  
英國ノ如ク、眞ノ靜寧ヲ得ル能ハスシテ、殊ニ平民（按殊ニ貧賤無識ノ徒ヲ云）ノ權、甚ダ強大ニ過  
ルヲ以テ、縱令ヒミニスナル一旦兩院多數ノ嫉惡ヲ受ルコトアリ、敢テ之ヲ顧ミス、自若トシテ其職  
ニ止マルヲ緊要トス、但シミニスナル若シ終始多數ノ嫉惡ヲ受ルニ至リテハ、勢復、其職ニ居ル能ハサ  
ルハ論チ俟タズ、

○當時下院君主ニ抗疏シテ、左ノ旨ヲ述タリ、曰ク、「政府若シホルク（卷之六上ニ出ツ）ノ代者タル  
臣等ノ信セサル政令ヲ執テ、敢テ改メサルハ、必ズ國家ノ安寧ヲ害ス可シト、（按）蓋シピット  
惡テ、此ノ如ク云フナリ、然ルニピット其後遂ニ天下ノ信ヲ得タリ、故ニ下院改選ノ後ニ及ヒテハ、

其多數悉クピットニ左袒スルニ至レリ、（按）方今普國ノ賢相卑思麥ノ如キモ、其初メ甚ダ人望ヲ得  
サリシカ、方今ハ殆ト全國ノ人望ヲ得ルニ至レリトゾ、  
是故ニ通例ノ景狀ヲ以テ論スレハ、ミニスナルトナリテ、國務ヲ掌ルヘキ者ハ、必ズ君主及、兩院ノ信  
ヲ得ル者ナル可シ、

〔丙〕國事ノ告訴（スターツカターゲ）アルコ方リテハ、國事法院（スターツゲフト）ニ對シテ、保  
任ス可シ、國事ノ告訴ヲ爲スノ法ハ、各國ニ於テ相殊ナリ、或ハ各院各自ニ之ヲ爲シ得ルノ國アリ、  
或ハ獨、百姓院（ホルツスガムメル）按即下院ナリ、之ヲ爲シ得ルノ國アリ、或ハ兩院合シテ、始メテ  
之ヲ爲シ得ルノ國アリ、唯兩院合シテ、始メテ告訴ヲ爲シ得ルノ國ニ於テハ、告訴ノ事甚ダ限制セラル  
、ナリ、（按）蓋シ兩院ノ論、一致セサレハ、告訴ヲ爲シ得サレハナリ、○又此ノ如キ告訴ノ審判ヲ掌ル  
ヘキ官ニ至リテモ、各國復々相同シカラス、或ハ上院之ヲ掌リ、或ハ別種ノ國事法院之ヲ掌ル、（卷ノ五  
第十一第十二ノ兩款ヲ參看ス可シ）

〔第六〕ミニスナルノ政令ニ關セハ、保任（ポリチーセ、ヘルアントナルトリフカイト）ハ、其法律ニ關  
セル保任（ユリスチーセ、ヘルアントナルトリフカイト）トハ、相異ナリ、政令ニ關セル保任ノ制、全備  
セル國ニ於テハ、ミニスナル唯見ル所チ愆リ、不當ノ政令ヲ爲セシ時ト雖モ、亦得テ之ヲ告訴スルチ  
許スカ故ニ、ミニスナル必ズ其處分ノ保任ヲ辨解セサル可ラス、之ヲ政令ニ關セル保任ノ辨解ト云フ、  
但シヨニスナル若シ現存ノ法制（國憲、及、憲法）ヲ毀損シ、及ヒ罪科ヲ犯セシ時コアラサレハ、決シテ  
法律ニ關セル保任ノ辨解ヲ爲スヲ要セス、○是故ニ、政令ニ關セル保任ノ辨解ハ、縱令ヒミニスナル  
背法ノ罪科ナシト雖モ、其理治不當ニシテ、國家ノ安寧ヲ營ムニ足ラサル時ニ於テ爲ス可ク、又法律  
ニ關セル保任ノ辨解ハ、唯法ニ戻レルコト爲セシ時ニ於テノミ爲ス可シ、  
瑞典國ニテハ、ミニスナル若シ右ニ様ノ保任ニ背ケルキハ、別ニ其告訴ヲ掌ルノ官アリ、乃チミニ  
ステルノ政令不當ナル時、及、現存ノ法制ニ背ケル時ニ於テハ、共ニステンデ（按即代國府ナリ、）ノ



一部局之ヲ告訴スルヲ得、〔按〕瑞典國ニテハ、代國府中ニ、數部局ヲ置キ、諸事ヲ分掌セシム、其中國憲ヲ保護スルヲ掌ル一局アリ、此局即ミニステルノ罪過ヲ告訴スルヲ掌ルナリ、但シ政令不當ナルキハ、之ヲステンデ〔按〕代國府ノ全部ヲ云フ、ニ告訴シ、若シ國憲及ヒ憲法ニ背戾セルヲアルキハ、スターツアーンワルト、〔按〕罪犯者ヲ逮捕シ、及ヒ罪犯ヲ告訴スルヲ掌ル官ナリ、卷之八第四款ニ詳ナリ、ノ紹介ヲ以テ、之ヲオーベルステル、ゲリフツホフ〔按〕最高法院、ニ告訴スルヲ得ルナリ、〇ステンデ其一部局ヨリ告訴セシ旨意ヲ思量シテ、若シ理アリトスルキハ、其事ヲ君主ニ聞シ、告訴セラレタルヲ一ト、〔按〕議政ノ官、若シハスターツセクレンテール、〔按〕ミニステルナリ、ヲ罪センコトヲ請フノ權アリ、凡ソラートタル者ハ、能ク其任コ堪ユヘキ材能ヲ具ヘ、且能ク實際ニ練磨シ、兼テ公正廉ニシテ、能ク天下ノ人望ヲ得ルヲ要スルコト、國家ノ憲法ナリ、故ニ若シ其政令不當ナルカ爲メ、告訴セラル、キハ、既ニ天下ノ人望ヲ失フコト明瞭ナルヲ以テ、仍長ク其職ニ在ル能ハサルコト、固ヨリ明カナリ、〇但シ國事法院〔スターツゲリフト〕ハ、法律ノ規律ヲ以テ、其犯人ノ罪科ヲ審判シ、而シテ之ニ法律上定ムル所ノ刑ヲ加フ、

英國ニテハ、右論スルカ如ク、政令ニ關セル保任ト、法律ニ關セル保任トノ別ヲ立ルコトナシ、故ニ以テミニステルノ事ニ就テ、告訴スヘキコトアルキハ、總テ其事ノ、或ハ專ラ政令ニ關シ、或ハ專ラ法律ニ關スルニ論ナク、下院之ヲ告訴シテ、上院之ヲ審判ス、且此國ニテハ、ミニステルノ施行セシ所業中ニ就テ、必ス告訴スヘキ所業ト、告訴ス可ラサル所業ノ區別ヲ立テ、及ヒ刑罰ヲ加フヘキ所業ト、刑罰ヲ加フヘカラサル所業トノ區別ヲ判カチ、或ハ保任法〔ヘルアントナルトリフカイツゲセツ〕〔按〕保任ノ規律ヲ定ムル法ナリ、及ヒ處刑法〔ストラフゲセツ〕〔按〕ミニステルヲ刑スル法ナリ、ヲ設ル等ノコトヲ以テ、甚ク緊要ト爲サス、唯時ニ臨テ、國家ノ爲メ、至當ノ處置ヲ施スヲ以テ、緊要ト爲ス、〇此國往昔ハ、甚ク慘酷ノ處置多カリシカ、爾後實際ニ練磨スルニ隨テ、漸ク變シテ寬仁ノ處置ヲ爲スコト

ナレリ、又北亞米利加ニ於テハ、政令ニ關セル事、及ヒ法律ニ關セル事共ニ、都テセナート〔按〕上院ナリ、其告訴ヲ受ケテ、之ヲ判定スト雖、其權亦限制スル所アリテ、唯縱カニ放職〔エントセツツング〕ノ及ヒ不應官〔アムツウンヘーヒグカイト〕〔按〕職官ニ應セストシテ、罷免スル義歟、猶再考スヘシ、ノ罰ヲ加フルノミ、若シ刑法ヲ以テ刑罰ヲ加フルコト、當然ナル可シト思フキハ、其審判ヲ尋常ノゲスナルチンゲリフト〔按〕ゲスナルチナ用フル法院ノ義ゲスナルチノコトハ、卷之八ニ詳カナリ、ニ委スル法ナリ、余カ所見ヲ以テスレハ、此法蓋シ英國ノ法ノ全備セル者ナラン、

英國ノ法學士中、或ハ尋常刑法ノ理ニ由テ、唯罪犯アル時ニ於テノミ、保任ノ法ヲ用ヒ、其餘ハ之ヲ用ヒサルノ規律ヲ立テント欲セシ者アリシカモ、此論遂ニ行ハレサリキ、佛國ニテハ、ミニステル唯國家ニ對セル罪犯〔スターツヘルゲーヘン〕〔按〕私人ニ對セル罪犯ト相異リ、アル時ニ於テノミ、下院之ヲ上院ニ告訴スルノ法アリ、但シ又政令不當ナルノ罪モ亦國家ニ對セル罪犯ノ部ニ屬スルコトナセリ、凡ソ告訴スヘキ罪ハ、第一ニ、謀叛ノ罪、〔ヘルラート〕佛語ニトラヒンント云、即チ總テ君主、及ヒ國家、并ニ國憲ヲ危ウスルヲ云、第二ニ、民財ヲ剝奪スルノ罪、〔エルプレッスング〕佛語ニコンキニシオント云、即チ法ニ背イテ、稅歛ヲ厚ウシ、賄賂ヲ貪リ、官金ヲ私贓スル等ノコト、復タ之ニ屬ス、第三ニ、忠義ヲ捨テ、其職掌ニ背クノ罪、〔ルウントロイウング〕佛語ニプレワリカオント云、其他總テ憲法ニ背戾スル罪、權威ヲ恣ニスル罪、并ニ總テ國家ノ公益公利ヲ損害スル罪〔按〕政令不當ノ罪ナリ、等、並ヒニ亦之ニ屬ス、

獨乙ニテハ從來專ラ法律ニ背ケル罪ニ著眼シテ、政令ヲ害セル罪ニ、注意スルコト甚ク少シ、是故ニ其審判ヲ以テ唯國事法院ニ任シテ、嘗テ政府ニ任スルコトナシ、〔第七〕ミニステルノ保任、有名無實トナラサルヲ要スルカ故ニ、各國共、近今ノ國憲ニ於テ、君主ニニステルノ罪過ノ查問ヲ停止スルノ權、及ヒ其既ニ審判セル罪ヲ赦ス等ノ權利ヲ限制シ、或ハ廢棄シ



七上三入

タリキ

○(按)君主查問ヲ停止シ、或ハ罪ヲ赦ス等ノ權ハ、卷之六第十七款ニ詳ナリ。

比耳時ノ國憲第九十一章ニ云、「カッサチオンスホフ」(按)上等法院、ミニスタルノ罪ヲ審判スルハ、立法府ノ一院、其赦罪ヲ請フニアラサレハ、君主敢テ之ヲ赦ス可ラスト。

大井潤一 校

國法汎論卷之七 上終

國法汎論卷之七 下 目錄

第六款 議政ノ官

第七款 兵權○常備軍及護國軍

第八款 警保

第一 警保ノ本性

第九款

第二 警保ノ區分及ヒ其專要ノ職掌

錄目下七



瑞士

イ、カ、ブルンナニリ 著  
加藤 弘 之 譯

第六款 議政ノ官(スターツラート)

〔第一〕方今ノ世ニ於テハ、兩院アリテ、憲法ヲ議定シ、ミニステラル合院アリテ、國政ノ要務ヲ施行シ(其他ノ諸事務ニ至テハ、各省ニ於テ、其ミニステラル之ヲ分掌シ得ルカ故ニ別ニ議政ノ官ヲ置クハ、無用ニ屬スルノ説ヲ、唱フル者アリ、

實ニ君權無限ノ國(アフリルターテ、モナルヒー)ニ於テハ、兩院ヲ設ルコトナク、唯議政ノ官アリテ、兩院ノ職掌ヲ關攝スルカ故ニ、此國ニテ此官ヲ置クハ、立憲君主國(コンスタツチオナル)、モナルヒー)ニ於テ、此官ヲ置クヨリモ、更ニ緊要ナルコトヲ論テ俟タズ、但シ縱令ニ兩院ヲ置ク所ノ立憲君主國ト雖モ、此官全ク無用ニ屬ストハ云フ可ラス、抑、此國ニテハ、議政ノ官、直ニ憲法ヲ制立スルノ職掌ヲ帶フコトハアラス、去レテ兩院ニ於テ政府ヨリ示ス所ノ法案(ゲセツツホスホールシユラグ)ヲ採用スルト否トハ、殊ニ其法案ノ得失可否ニ由ルカ故ニ、必ク議政官ヲ置テ、預此法案ヲ商議取捨セシムルコト、甚ク緊要ナリ、是レ即議政官ノ主務タル所ナリ、○ミニステラルハ、能ク政務ヲ創始シ、其方向ヲ示定シ、及ヒ其處分ヲ嚮導スル者ナリ、去レテ其職タル、素ク治安ノ劇務ヲ統理シテ、心身須臾モ(閑靜ナル暇アラサルカ故ニ、其政令ニ就キ、曾テ潛思熟慮スル能ハサル者ナリ)故ニ必ク閑散ニ居リ、潛思熟慮ヲ以テ、其本務トスル者アラサル可ラス、而シテ此職務ヲ負フ者ハ、能ク廣博ナル國務ヲ詳悉シ、且ク憲法、及ヒ慣用法ノ可否得失ヲ、自在ニ觀察シ、并ニ國事ノ至要ナル者ト、否ラサル者トヲ辨識スルコト、緊要ニシテ、且ク又比朋黨與ノ論判ノ爲メニ、決シテ動カサレサルコト、亦甚ク緊要ナリ、然ルニ兩院ノ如キハ、素ク此ノ如キ職務ヲ負フニ適セサルノミナラス、固ヨリ此ノ如キ職務ヲ負フ可キ者ニアラス、又ミニステラルニシテ、此職務ヲ負ハシメント欲スルモ、前論スルカ如



ク、事務繁劇コシテ、餘暇アラサルヲ如何セン、是ヲ以テ事ニ老練セル徒、數員ヲ合シテ、別ニ一官ヲ設ケ、以テ此務ヲ負ハシメサルヲ得ス、是即議政官ノ必要ナル所以ナリ、故ニ此官ニ充ツル者ハ、能ク國家ノ事體、風習ヲ熟知シテ、之ニ適應セル政令ヲ、謀議シ得ル者ニアラサレハ、不可ナリト云フ

長ヘニ變更セサル議政官アリテ、頻ニ變更スルニシテ、權勢ヲ限制スルキハ、國家安寧ノ道ニ於テ、其利少ナカラズ、  
議政ノ官ハ、素ト君側ニ在リテ、自由ニ政令ヲ參議セシメシカ爲メニ、設立スル者ニシテ、猶ホ兩院ノナルク〔按〕卷ノ六ニ詳ナリ、ニ代ハリテ、ホルクノ利害及ヒ其所見ヲ論達セシムルカ爲メニ、設立ナルカ如シ、那破倫〔按〕第一世ナリ、ノ語ニ云フ、「議政ノ官ハ、余カ商量ノ爲メノ心思ナリ、ミコステルハ、余カ施行ノ爲メノ心思ナリ」ト

〔第二〕又政府示ス所ノアルケマイチ、ハルオールドメンク〔按〕政府徧ク示令スル所ノ布告ヲ云、卷之六第十九款ニ詳ナリ、ノ如キモ、通例議政ノ官參議シテ、其可否ヲ論スル者ナリ、故ニ此時ニ於テハ、此官兩院ニ代ハリテ、専ラ兩院ノ職掌ヲ爲スナリ、〔按〕政府示ス所ノ布告ノ如キハ、立法府ノ關スル所ニアラス、専ラ議政官ノ議ヲ聽テ、之ヲ定決スルナリ、是ヲ以テ此ノ如キキニ於テハ、此官決シテ缺ク可ラサル者ナリ、總テミコステルノ建議スル所ヲ定決スル者ハ、獨リ君主ニ止マルト雖モ、先ッ其可否ヲ議政官ニ咨詢シテ、然後ニ定決スルキハ、其事大ニ確實トナルノ益アリ、

〔第三〕又或ハ、國家事アルニ迫テ、之ヲ救防スルニ、非常ノ斷決ヲ要スル時ニ於テモ、亦議政官ノ議ヲ聽クコトアリ、蓋シ此時ニ在リテ、其處分甚急忙ナルノ害ハ、亦其甚、緩慢ナルノ害ト、至ク相殊ナラス、實ニ此ノ如キ際ニ臨ミ、能ク機ヲ視テ之ニ應スルノ處分ヲ爲シ得ル者ハ、獨リ實際ニ練磨セシ英傑ノミナリ、去レハ非常ヲ救フカ爲メニ非常權ヲ以、一特常法常制ヲ廢棄シ、以國家ノ難ヲ救フント欲スルニハ、必ッ首トシテ議政官ノ議ヲ聽クヲ以テ、尋常ノ法則ト爲サ、ル可ラス、○但シ若シ此ノ如クスルキハ、或ハ極機、他ニ漏ル、ノ恐ナキ能ハス、且又一二ノ議政官、或ハ不當ノ論ヲ執

リ、却テ政府ノ緊要ナル處分ヲ、障礙スルノ恐ナキニラスト雖モ、是等ノコトハ、細ニ意ヲ用フレハ、防キ難キコトアラズ、但シ君主老練セル議政官ノ議ヲ聽クヲ要スルハ、唯丁寧綿密ニ思慮シテ、敢テ粗忽ノ命ヲ下サ、ランテ欲スルカ爲メナルノミ、故ニ君主必ッ議政官ノ許可ヲ得サレハ、敢テ其處分ヲ爲ス能ハスト云フノ理ハ、決シテアルコトナシ、蓋シ若シ必ッ議政官ノ許可ヲ得サル可ラサルノ法アルキハ、政府ノ權、遂ニ之カ爲メニ束縛セラル、至ルハ、必然ナルヲ以テナリ、

〔第四〕又所謂ヘルワルツングストライナグカイト〔按〕政務ノ一ニ就テ、下民ト爭論ノ起ル、ノ判定ニ就テ、決テ議政官ニ取ル、屢之アリ、例ハハ、エキスプロリアチオン〔按〕公衆利益ノ爲メニ、私人ノ有セル土地價金ヲ與ヘテ、政府ニ取ルヲ云、ノコトアルニ方リテ、私人其有テ政府ニ附與スルコト、實ニ緊要ナリヤ否ノ論定マラサルキニ於テ、其決テ議政官ニ取ルカ如シ、又租稅ノ議ニ就テモ、決テ議政官ニ取ルコトアリ、例ハハ、某種類ニ租稅ヲ附加スヘキヤ、將某物ニ租稅ヲ附加スヘキヤ、其論定マラサルキニ、〔按〕某種類ト云フハ、例ハハ、金屬ナレハ、金銀銅鐵ノ

ヲナリ、本文ノ意、蓋シ金銀銅鐵ノ種類ニ租稅ヲ附加シテ、其金銀銅鐵ヲ以テ製シタル物ニハ、租稅ヲ取ラスシテ可ナルヘキヤ、將種類ニハ、租稅ヲ取ラスシテ、其レヲ以テ製シタル物ニ、租稅ヲ取ルヘキヤノ論、定マラサ

ルキト云フコトナル歟、復決テ議政官ニ取ルカ如シ、其他縱令ヒ私人ニ屬セルコト雖モ、政府之ヲ監督シテ、其准許ト否トヲ定決スルコト、緊要ナルカ如キハ、議政官ヲシテ之ヲ商議定決セシムルナリ例ハハ、證書會社、アクテイングセルシヤット〔按〕工商等ノ業ヲ爲スカ爲メニ、會社ヲ結フ

ノ事ニ係レル會社、公衆ノ事ニ係レル會社ナリ、教會大學校等ノ如シ、ノ創立廢止、并ニ特准權利アリヒレギ、〔按〕一般ニ准許セサルコト、故アリテ唯一私人、或ハ一會社ニノミ准許スルコトアリ、ヲ授與スル等ノ類、及ヒ其他猶之レアリ、

エツヘントリ、〔按〕私事ニ關セス、ノ創立廢止、并ニ特准權利アリヒレギ、〔按〕一般ニ准許セサルコト、故アリテ唯一私人、或ハ一會社ニノミ准許スルコトアリ、ヲ授與スル等ノ類、及ヒ其他猶之レアリ、



四下七

〔第五〕又議政官ヲシテ、ミニステルノ處分ニ就キ、監察セシムルヲ善トナス、凡ソミニステルヲ監察シテ、其處分ノ非違ヲ責問シ、以テミニステルヲシテ、之ヲ辨解セシムル權ヲ有スル高官〔按〕議政官ヲ云、一アルキハ、一ハ君權ヲ保護シテ、其盛大ヲ傷フコトナク、一ハ臣民ヲ保護シテ、其權利及利益ヲ全ウスルノ功アルコト、實ニ甚ナカラスミニステルヲ監察スル高官アラサルキハ、ミニステル或、其罪惡ヲ隱蔽シ得ヘシト雖モ、若シ此官アルキハ、罪惡アリト雖モ、速ニ發露スヘキカ故ニ、國家ノ災害ヲ未萌ニ銷滅スルヲ得ヘク、且之レカ爲メ、自ラ後來ノ罪惡ヲ戒戒スルヲ得ルニ至ルヘシ、

〔第六〕歐羅巴各國ニ於テ始テ議政官ヲ設置セシハ、其來ル甚ク尙シ、但シ其職掌及編制ノ方法等ニ至リテハ、各國亦異同アリ、○議政諸員ハ、優大ナル識見ノ相合シテ、君主ノ知囊トナル者ナリ、是故ニ或ハ此官ヲ以テ數年間國事ニ勤勞セム報酬ニ充ツル者ト爲シ、或ハ老衰セル官吏ニ與フル、虛職ト爲スカ如キハ、甚ク不可ナリ、〔按〕ミニステル、及ヒ其他高官ニ在リテ、數年間勤勞セシ故ニ、唯其勤勞ヲ謝スルカ爲メ、之ヲ議政官ニ轉任スルコトアルカ如キハ、甚ク不可ナリト云フノ意、凡ソ議政官タル者ハ、實ニ經世ノ才識ヲ備ヘ、兼テ法學ニ博通シ、及ヒ深ク實際ニ練磨スルコト甚ク緊要ニシテ、此三件ヲ兼備スル者、獨リ能ク其任ニ堪ユルヲ得ルノミ、○ミニステル議政官ニ對シ、自己ノ權ヲ違ウシテ、議政官ヲ壓制ス可ラス、元來ミニステルノ直ニ事務ヲ掌ルト議政官ノ實ニ監察ヲ掌ルトハ、其職掌全ク相殊ナリ、若シ事務ヲ掌ル官、其權ヲ弄シ、監察ヲ掌レル官ヲ制スルニ至ラハ、監察ヲ掌レル官ハ全ク其用ヲ爲サ、ルニ至ル可シ、故ニミニステルハ、必シ議政官ニ列シ、共ニ商議スルヲ要ス、去レテ只事ノ可否ヲ論スルノミニシテ其決議ニ加ハラサルヲ良法ト爲ス、

第七款 兵權、ミリタール、○常備軍、ステール、及ヒ護國軍、ランド

〔第一〕國家ノ兵權ハ、全ク國家外面ノ權勢ヲ發耀スル所以ノ者ニシテ、且此權〔按〕即兵權ヲ云、ハ必シ此目的ニ應ジテ、統治スルカ故ニ、國家諸權柄中ニ於テ、最モ猛烈ナル者ナリ、是故ニ軍隊ハ、必シ嚴肅ナル軍法ヲ以テ、之ヲ緊束シ、及ヒ十分無限ノ恭順ヲ以テ、其義務トナス、一甚ク緊要ニシテ、是等ノコトハ、他ノ諸權柄ニ於テ絶、テアラサル所ナリ、蓋シ外面ノ權勢ハ、多クハ形體法ヒシトセス、ゲセツ、〔按〕形體ニ備ハル自然及ヒ運動法、カコーセス、ゲセツ、〔按〕堅硬物「流動」ノ法ヲ云フ、即格物學ニ於テ講スル法ナリ、及ヒ運動法、物ト相反ス、運動ノ自然法ヲ云フ、即器械學ニ於テ講スル法ナリ、而シテ此二法、ヨリ生スル者ニシテ、此法ヲ施用スルノ權力〔按〕即兵權ヲ精神活動ノ自然法ト相反對ス、

五下七

云、ハ、其目的ヲ達スルニ至ル迄ハ、決シテ弛マサルヲ要ス、〔按〕戰爭ハ、即外而權ノ發スル者ナリ、去レテ又必シ此二法ヲ施用スル所ノ權柄アラサル可ラス、是即兵權ナリ、然ルニ若シ將卒ヲテ自由ニ其意見ヲ述フルヲ許スキハ、軍隊ノ一致、及其能力兵ニ墜弛シテ、遂ニ全ク其用ヲ爲サ、ルニ至ルヤ、必然ナリ、○國家ノ兵備ハ、即國家ノ威力ナリ、兵士ノ務ハ、殊ニ國家ニ奉スル所ノ務ナリ、故ニ甚ク貴シ、且多シ、而シテ此兵備ハ、攻撃ト防守トノ爲ニ設置スル者ナリ、然ルニ或ハ「防守戰」ノミ獨リ、能ク立憲國ノ意ニ適ス、ト云フ說アルハ、殊ニ怪シム可シ、縱令國家ノ權利ヲ保守スルカ爲メ、戰ト雖モ、景況ニ隨テハ、必シ攻撃ヲ施スヲ要スルノ理アル、猶私人ノ私權利ヲ保守センカ爲メ、自ラ法院ニ告訴スルヲ要スルノ理アルカ如シ、加之、掠奪戰ト雖モ、又必シ爲ス可ラサルトスルハ不可ナリ、但シ近今ハ、列國法（ヘルケルレフト、即萬國公法ナリ、）大ニ開明シ、且開化モ亦増進シタルカ故ニ、掠奪戰ハ、甚罕ナルノミ、

〔第二〕中古ノ世コハ、常備軍ヲ設置スルコトナカシカ、爾後君權無限ノ政（アブソルチスムス）盛



六下七

ナルニ至リテ、始テ常備軍ヲ設置セリ、然ルニ方今ノ世ハ、君權無限ノ政興ヒタルニ、獨、常備軍ハ國家ノ爲ニ必要ナルヲ以テ、必ズ之ヲ置クコトナレリ、凡ソ常備軍ヲ創立セシ以來、道理ニ合セサル戰爭ハ、漸次ニ跡ヲ絶シ、且、兵事ノ學術大ニ開明シ、其他武人モ、眞ニ武人タルノ德行ヲ備フルニ至レリ、

常備軍ヲ員數ハ、國ノ位置、及、隣邦ト相關セル景況ニ隨テ、其多寡ヲ生ス可シ、故ニ殊ニ國內ノ法ニ關シテ、其多寡ヲ生スルニ由ラズ、但、又此事モ、必ズアラストハ云フ可ラス、何者、常備軍ノ兵數甚ク多キハ、之ニ由リテ己ムヲ得ス、厚ク收斂セサル可ラサルニ至ルハ、固ヨリ論ナク、其他動モナレハ、君主其國憲ニ背イテ、兵權ヲ弄シ、私政ヲ恣ニスルリ如キ弊害ノ生スルヲ以テ、立憲國ニ於テハ、務メテ兵數ノ增多スルコトヲ禁スルハ、固ヨリ當然ナレハナリ、(按、國內ノ法ニ關シテ、兵數ノ多寡ヲ定ムルナリ)去レ共結局兵數ノ多寡ヲ定ムルハ、決シテ國內ノ法ニ由ルコトアラズ、特ニ國家保護ノ難易ニ由ルニ、若シ政府ノ眼力權勢、ニナカラ缺クシル所ナクシテハ、國內ノ安寧ヲ保護スルカ爲メニハ、僅ニ少數ノ常備兵ヲ設置スレハ足レリ、然ルニ若シ國界ノ形勢自ラ外寇ノ侵襲ヲ受ケ易ク、且、鄰邦ノ交誼既ニ破ル、ニ至リ、而シテ鄰邦甚ク巨大ノ常備軍ヲ備フルニ方リテ、其侵襲ヲ防遏シテ、國家ノ安寧ヲ保タンニハ、實ニ之ニ對峙スヘキ兵備ナカル可ラス、是時ニ於テ、僅ニ護國軍ヲ備フルノミニテハ、決シテ國家ノ危難ヲ濟フコト足ラス、

〔第三〕方今ノ世ニ於テハ、臣民タル者、國家ノ兵役ニ從事スルヲ以テ、當然ノ義務トナスコト、殆ト通則トナルニ至レリ、而シテ止其護國軍ニ入ルヲ以テ、當然ノ義務トナスノコトナラス、亦常備軍ニ入ルヲモ、必ズ當然ノ義務トナス、但、實事ニ於テハ、獨、兵卒ノ職ノミ、臣民當然ノ義務ニシテ、將校ノ職ハ、必ズ其志願ニ依テ、之ヲ備役スルナリ、○獨乙太古ノ法ニテハ、臣民當然ノ義務ト云フハ、唯國內ノ防禦、及、國中ノ戰爭ニ從役スヘキ國兵(ホルクスヘール)トナルコトノミニナリ、但、非常ノ變亂アル時、若シハ、敵國ヲ侵襲スル時ニ當テ、兵士トナリ、元帥ニ從行スル者ハ、皆自ラ請願セ

ル者ノミニナリ、又中古ノ世ニ於テハ、眞ノ兵役ハ、封地(レーヘンズベシツ)ノ受有コト由リテ生シタリキ、新世ニ至リ、常備兵始テ立チシ時ニ於テハ、皆自ラ請願スル者ヲ備役スルノ法ナリキ、○是故ニ太古ノ法ニヨレハ、常備軍ニ入ルハ、心、自ラ請願スル者ニ止マルヘク、又護國軍ニ入ルハ、臣民當然ノ義務ニシテ、凡ソ臣民タル者ハ、悉皆免ル可ラサル者ト爲ス可シ、蓋、此太古ノ法ハ、大ニ常備軍ノ性ニ適スト云フ可シ、何者、常備軍ノ職務ハ、即チ一種ノ職業ナルヲ以テ、此軍ニ入ル所ノ兵卒ハ、固ヨリ武事ヲ好ミ、且、能ク武技ニ長スルノ性質ヲ備ヘ、進シテ兵士トナルヲ欲スル者ニアラサレハ、決シテ用フルニ足ラサレハナリ、○然ルニ已ムヲ得サルノ事理アラサルニ、各人チシテ其學習ヲ廢シ、其職業、及、今日諸般ノ務ヲ圖イテ、専ラ兵事ヲ練習セシメントスルハ、即チ私人ノ自由權ヲ侵スル所業ト云フヘキノミ、故ニ時勢實ニ已ムヲ得サルニアラサレハ、此ノ如キ所業ヲ以テ正理ニ合スル者ト爲ス可ラス、○之ニ反シテ、自ラ請願スル者ヲ備役シテ、常備兵トナスノ法ハ、國法ニ於テ、間然スヘキ所ナキノミナラス、此法ヲ用フルハ、實ニ武事ニ練熟セル精銳ノ軍兵ヲ得ルニ足ル可シ、但、若シ兵役ヲ欲スルモノ甚ク多カラサメカ爲メニ、請願者ノミニテハ、常備軍ノ兵數甚ク僅少ナルニ方リテ、若シ一旦事アルハ、已ムヲ得テ、兵役ヲ以テ、臣民當然ノ義務トナシ、以テ許多ノ兵士ヲ募ルヲ要ス、○但、此ノ如キ勢態ハ、實ニ驕奢淫逸ニ流レテ、衰弊極リナキ國ニナラサレハ、殆トアラサルコトナリ、而シテ此ノ如キ國民ハ、國費ヲ以テ、外國ノ兵ヲ備役スルニ至リテモ、敢テ慨歎スル能ハス、總テ此ノ如キ國ニテハ、本國ノ民人ヲ以テ、強大ノ軍隊ヲ編制スル能ハサルカ故ニ、國土ヲ防禦スルニ方リテハ、自己ノ金、及、自己ノ自由ノ一分ヲ割テ、最モ高價ナル平和安寧ヲ買ハサルヲ得サルナリ、

七下七

英國荷蘭、及、北亞米利加ニテハ、常備軍設置ノ方法、至當ヲ得ルト雖、他各國ニ於テハ、方今ノ軍制ニ於テ、臣民ノ常備兵トナシ、其當然ノ義務ト爲ス、但、其法二種アリ、即チ一法ハ、兵士ヲ取ルニ、拈鬮子ヲ以テ之ヲ定ムルヲ常則トナス、去レ他國子ヲ得タル者、若シ自ラ兵士トナルヲ欲セ